

茨城県教育財団文化財調査報告第448集

行方市  
潮来市

# 熊ノ平古墳群 一本権遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和3年3月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



茨城県教育財団文化財調査報告第448集

行方市  
潮来市

くま の だいら  
熊ノ平古墳群  
いっ ほん しい  
一本権遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和3年3月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所  
公益財団法人茨城県教育財団





## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）建設事業に伴って実施した、行方市熊ノ平古墳群、潮来市一本椎遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、熊ノ平古墳群では旧石器時代の石器集中地点、縄文・古墳・奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡など、一本椎遺跡では近世の塚などが確認でき、当地域における土地利用の一端が明らかになりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、行方市教育委員会、潮来市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人茨城県教育財団  
理事長 柴原 宏 一



## 例 言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度、令和元年度に発掘調査を実施した、茨城県行方市両宿字籬平517番地ほかに所在する熊ノ平古墳群、及び平成31年・令和元年度に発掘調査を実施した、茨城県潮来市一本椎地先に所在する一本椎遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

熊ノ平古墳群	調査	平成30年6月1日～11月30日 令和元年6月1日～7月31日
	整理	令和2年5月1日～令和3年2月28日
一本椎遺跡	調査	平成31年4月1日～令和元年5月31日
	整理	令和2年5月1日～令和3年2月28日

3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成30年度

首席調査員兼班長	本橋弘巳
調査員	皆川貴之
嘱託調査員	茂木悦男

平成31年・令和元年度

首席調査員兼班長	本橋弘巳
調査員	皆川貴之
調査員	根本 佑

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。

調査員	根本 佑
-----	------

5 本書の作成にあたり、石材鑑定については、茨城大学名誉教授田切美智雄氏にご指導いただいた。

6 熊ノ平古墳群・一本椎遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、一括して茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。一本椎遺跡の石造物については、潮来市三熊神社に移設されている。

# 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、熊ノ平古墳群については、 $X = +11,200$  m、 $Y = +58,960$  mの交点を基準点 (A 1a1)、一本推遺跡については $X = -1,320$  m、 $Y = +62,680$  mの交点を基準点 (B 6a1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表等で使用した記号は次のとおりである。







遺構 F - 炉跡 HG - 遺物包含層 P - ビット PG - ビット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡  
SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 SS - 石器集中地点 TM - 塚 TP - 陥し穴  
土層 ローム-ロームブロック 粘土-粘土ブロック K - 攪乱 粘-粘性 締-締まり  
含有量 A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 ○' - 極めて  
粘性・締まり A - 強い B - 普通 C - 弱い  
サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は熊ノ平古墳群が 500 分の 1、一本推遺跡が 200 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・施釉・施釉土器断面		炉・火床面・黒色処理・横植土器断面		被熱範囲				
	竪部材・竪掘方・粘土		煤・柱痕跡・柱あたり		須恵器断面				
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品	△	金属製品	- - -	硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竪を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸 (径) 方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した (例 N - 10° - E)。

- 7 熊ノ平古墳群について、報告する遺構の調査年次は以下の通りである。また、整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

平成 30 (2018) 年度調査 SI 1 ~ 41 SD 1 ~ 16 SE 1 SK 1 ~ 120 PG 1 F 1 ~ 4・8・10 ~ 14  
HG 1

令和元 (2019) 年度調査 SI11・12・20・35 ~ 37・42 SB 1・2 SD 3・4・17 ~ 21 SK121 ~ 140  
SS 1 F 9・15 PG 2

変更 SI17 → F 6・7、PG 3 SI18 → F17、PG 3 SI19 → F18、PG 3 SI42 → F 5・PG 2

F 8 → SK68 F10 → SK69 F11 → SK72 F12 → SK57 F13 → SK73 SK128 → F16

欠番 SD 6・17 ~ 21 SK34・35・67・75・81・115

# 目 次

序	4 奈良時代の遺構と遺物	85
例 言	(1) 竪穴建物跡	85
凡 例	(2) 掘立柱建物跡	103
目 次	5 平安時代の遺構と遺物	106
遺跡の概要	(1) 竪穴建物跡	106
第1章 調査経緯	(2) 土 坑	127
第1節 調査に至る経緯	6 時期不明の遺構と遺物	129
第2節 調査経過	(1) 溝 跡	129
第2章 位置と環境	(2) 井戸跡	131
第1節 位置と地形	(3) 土 坑	132
第2節 歴史的環境	(4) ビット群	145
第3章 熊ノ平古墳群	(5) 遺構外出土遺物	148
第1節 調査の概要	第4節 総 括	151
第2節 基本層序	第4章 一本推遺跡	163
第3節 遺構と遺物	第1節 調査の概要	163
1 旧石器時代の遺構と遺物	第2節 基本層序	163
石器集中地点	第3節 遺構と遺物	166
2 縄文時代の遺構と遺物	1 近世・近代の遺構と遺物	166
(1) 竪穴建物跡	塚	166
(2) 伊 跡	2 遺構外出土遺物	174
(3) 陥し穴	第4節 総 括	175
(4) 土 坑	写真図版	PL 1～PL30
(5) 遺物包含層	抄 録	
3 古墳時代の遺構と遺物	付 図	
竪穴建物跡		42

# 挿 図 目 次

第1図 熊ノ平古墳群周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1「鉦田」「武井」「西連寺」「常陸玉造」)	8	第25図 第43号土坑実測図	28
第2図 一本推遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1「潮来」「武井」)	10	第26図 第84号土坑実測図	29
第3図 熊ノ平古墳群基本土層図	13	第27図 第11号土坑・出土遺物実測図	30
第4図 熊ノ平古墳群調査区設定図(行方市都市計画図2,500分の1)	14	第28図 第57号土坑実測図	30
第5図 第1号石器集中地点実測図	15	第29図 第68号土坑実測図	31
第6図 第1号石器集中地点・出土遺物実測図	16	第30図 第69号土坑実測図	31
第7図 第15号竪穴建物跡実測図	17	第31図 第72号土坑実測図	31
第8図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図	18	第32図 第73号土坑実測図	31
第9図 第16号竪穴建物跡・出土遺物実測図	19	第33図 縄文時代土坑実測図(1)	32
第10図 第20号竪穴建物跡実測図	20	第34図 縄文時代土坑実測図(2)	33
第11図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図	21	第35図 縄文時代土坑実測図(3)	34
第12図 第37号竪穴建物跡・出土遺物実測図	22	第36図 縄文時代土坑・出土遺物実測図	35
第13図 第1号伊跡実測図	23	第37図 縄文時代土坑・出土遺物実測図	36
第14図 第2号伊跡実測図	23	第38図 縄文時代土坑出土遺物実測図	37
第15図 第3号伊跡実測図	23	第39図 第1号遺物包含層実測図	40
第16図 第4号伊跡実測図	24	第40図 第1号遺物包含層出土遺物実測図	41
第17図 第5号伊跡実測図	24	第41図 第2号竪穴建物跡実測図	42
第18図 第6・7号伊跡・出土遺物実測図	24	第42図 第2号竪穴建物跡・出土遺物実測図	43
第19図 第9号伊跡実測図	25	第43図 第5号竪穴建物跡実測図(1)	44
第20図 第14号伊跡・出土遺物実測図	26	第44図 第5号竪穴建物跡実測図(2)	45
第21図 第15号伊跡・出土遺物実測図	26	第45図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	46
第22図 第16号伊跡実測図	27	第46図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	47
第23図 第17号伊跡実測図	27	第47図 第6号竪穴建物跡実測図	49
第24図 第18号伊跡実測図	28	第48図 第6号竪穴建物跡・出土遺物実測図	50
		第49図 第8号竪穴建物跡実測図(1)	51
		第50図 第8号竪穴建物跡実測図(2)	52
		第51図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	53

第52図	第8号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)……………54	第115図	第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)……………115
第53図	第9号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………55	第116図	第31号竪穴建物跡実測図……………115
第54図	第11号竪穴建物跡出土遺物実測図……………56	第117図	第31号竪穴建物跡出土遺物実測図……………116
第55図	第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………57	第118図	第32号竪穴建物跡実測図……………118
第56図	第12号竪穴建物跡実測図(1)……………59	第119図	第32号竪穴建物跡出土遺物実測図……………119
第57図	第12号竪穴建物跡実測図(2)……………60	第120図	第33号竪穴建物跡実測図……………120
第58図	第12号竪穴建物跡出土遺物実測図……………61	第121図	第33号竪穴建物跡出土遺物実測図……………121
第59図	第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………62	第122図	第36号竪穴建物跡実測図……………122
第60図	第14号竪穴建物跡実測図……………63	第123図	第39号竪穴建物跡実測図……………123
第61図	第14号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………64	第124図	第39号竪穴建物跡出土遺物実測図……………124
第62図	第21号竪穴建物跡実測図……………65	第125図	第40号竪穴建物跡実測図……………125
第63図	第21号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)……………66	第126図	第40号竪穴建物跡出土遺物実測図……………126
第64図	第21号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)……………67	第127図	第119号土坑実測図……………127
第65図	第25号竪穴建物跡実測図(1)……………68	第128図	第119号土坑出土遺物実測図……………128
第66図	第25号竪穴建物跡実測図(2)……………69	第129図	平安時代土坑実測図……………128
第67図	第27号竪穴建物跡実測図……………70	第130図	時期不明溝跡実測図……………129
第68図	第27号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………71	第131図	時期不明溝跡・出土遺物実測図……………130
第69図	第27号竪穴建物跡出土遺物実測図……………72	第132図	第1号片戸跡実測図……………131
第70図	第30号竪穴建物跡実測図(1)……………73	第133図	時期不明土坑実測図(1)……………132
第71図	第30号竪穴建物跡実測図(2)……………74	第134図	時期不明土坑実測図(2)……………133
第72図	第30号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)……………75	第135図	時期不明土坑実測図(3)……………134
第73図	第30号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)……………76	第136図	時期不明土坑実測図(4)……………135
第74図	第34号竪穴建物跡実測図(1)……………77	第137図	時期不明土坑実測図(5)……………136
第75図	第34号竪穴建物跡実測図(2)……………78	第138図	時期不明土坑実測図(6)……………137
第76図	第34号竪穴建物跡出土遺物実測図……………78	第139図	時期不明土坑実測図(7)……………138
第77図	第35号竪穴建物跡実測図(1)……………79	第140図	時期不明土坑実測図(8)……………139
第78図	第35号竪穴建物跡実測図(2)……………80	第141図	時期不明土坑実測図(9)……………140
第79図	第35号竪穴建物跡出土遺物実測図……………81	第142図	時期不明土坑実測図(10)……………141
第80図	第38号竪穴建物跡実測図……………82	第143図	時期不明土坑実測図(11)……………142
第81図	第38号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)……………83	第144図	第1号ビット群実測図……………145
第82図	第38号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)……………84	第145図	第2号ビット群実測図……………146
第83図	第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………86	第146図	第2号ビット群出土遺物実測図……………147
第84図	第4号竪穴建物跡実測図……………87	第147図	第3号ビット群実測図……………147
第85図	第4号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………88	第148図	遺構外出土遺物実測図(1)……………148
第86図	第7号竪穴建物跡実測図(1)……………89	第149図	遺構外出土遺物実測図(2)……………149
第87図	第7号竪穴建物跡実測図(2)……………90	第150図	第2期の土器……………151
第88図	第7号竪穴建物跡出土遺物実測図……………91	第151図	第3期の土器……………152
第89図	第10号竪穴建物跡実測図(1)……………92	第152図	第4期の土器……………153
第90図	第10号竪穴建物跡実測図(2)……………93	第153図	第5期の土器……………153
第91図	第10号竪穴建物跡出土遺物実測図……………94	第154図	第6期の土器……………153
第92図	第22号竪穴建物跡実測図……………95	第155図	第7期の土器……………154
第93図	第22号竪穴建物跡出土遺物実測図……………96	第156図	第8期の土器……………154
第94図	第24号竪穴建物跡実測図……………96	第157図	第9期の土器……………155
第95図	第24号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………97	第158図	第10期の土器……………155
第96図	第26号竪穴建物跡実測図……………98	第159図	第11期の土器……………155
第97図	第26号竪穴建物跡出土遺物実測図……………99	第160図	古墳時代から平安時代の竪穴建物跡……………157
第98図	第28号竪穴建物跡実測図……………100	第161図	縄文時代遺構配置図……………159
第99図	第28号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………101	第162図	古墳時代遺構配置図……………160
第100図	第28号竪穴建物跡出土遺物実測図……………102	第163図	奈良時代遺構配置図……………161
第101図	第41号竪穴建物跡実測図……………102	第164図	平安時代遺構配置図……………162
第102図	第41号竪穴建物跡出土遺物実測図……………103	第165図	一本推遺跡基本土層図……………163
第103図	第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図……………104	第166図	一本推遺跡調査区設定図……………164
第104図	第2号掘立柱建物跡実測図……………105	第167図	一本推遺跡遺構全体図・等高線図……………165
第105図	第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図……………106	第168図	第1～3号塚実測図(1)……………166
第106図	第1号竪穴建物跡実測図(1)……………107	第169図	第1～3号塚実測図(2)……………167
第107図	第1号竪穴建物跡実測図(2)……………108	第170図	第1号塚出土遺物実測図……………168
第108図	第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)……………108	第171図	第1号塚出土石造物実測図……………169
第109図	第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)……………109	第172図	第2号塚出土遺物実測図……………170
第110図	第23号竪穴建物跡実測図……………110	第173図	第2号塚出土石造物実測図……………171
第111図	第23号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………111	第174図	第3号塚出土石造物実測図……………172
第112図	第29号竪穴建物跡実測図(1)……………112	第175図	第3号塚出土遺物実測図……………173
第113図	第29号竪穴建物跡実測図(2)……………113	第176図	遺構外出土遺物実測図……………174
第114図	第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)……………114	第177図	一本推遺跡周辺地図……………175

## 挿 表 目 次

第1表	熊ノ平古墳群周辺遺跡一覧表……………9	第37表	第10号竪穴建物跡出土遺物一覧……………94
第2表	一本推進跡周辺遺跡一覧表……………11	第38表	第22号竪穴建物跡出土遺物一覧……………96
第3表	第1号石器集中地点出土遺物一覧……………16	第39表	第24号竪穴建物跡出土遺物一覧……………97
第4表	第15号竪穴建物跡出土遺物一覧……………18	第40表	第26号竪穴建物跡出土遺物一覧……………99
第5表	第16号竪穴建物跡出土遺物一覧……………19	第41表	第28号竪穴建物跡出土遺物一覧……………102
第6表	第20号竪穴建物跡出土遺物一覧……………21	第42表	第41号竪穴建物跡出土遺物一覧……………103
第7表	第37号竪穴建物跡出土遺物一覧……………22	第43表	奈良時代竪穴建物跡一覧……………103
第8表	縄文時代竪穴建物跡一覧……………22	第44表	第1号竪立柱建物跡出土遺物一覧……………105
第9表	第6・7号竪跡出土遺物一覧……………25	第45表	第2号竪立柱建物跡出土遺物一覧……………106
第10表	第14号竪跡出土遺物一覧……………26	第46表	奈良時代竪立柱建物跡一覧……………106
第11表	第15号竪跡出土遺物一覧……………27	第47表	第1号竪穴建物跡出土遺物一覧……………109
第12表	縄文時代如跡一覧……………28	第48表	第23号竪穴建物跡出土遺物一覧……………111
第13表	縄文時代陥し穴一覧……………29	第49表	第29号竪穴建物跡出土遺物一覧……………113
第14表	第11号土坑出土遺物一覧……………30	第50表	第31号竪穴建物跡出土遺物一覧……………117
第15表	縄文時代土坑出土遺物一覧……………38	第51表	第32号竪穴建物跡出土遺物一覧……………119
第16表	縄文時代土坑一覧……………39	第52表	第33号竪穴建物跡出土遺物一覧……………122
第17表	第1号遺物包含層出土遺物一覧……………41	第53表	第39号竪穴建物跡出土遺物一覧……………124
第18表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧……………43	第54表	第40号竪穴建物跡出土遺物一覧……………126
第19表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧……………48	第55表	平安時代竪穴建物跡一覧……………127
第20表	第6号竪穴建物跡出土遺物一覧……………51	第56表	第119号土坑出土遺物一覧……………128
第21表	第8号竪穴建物跡出土遺物一覧……………54	第57表	平安時代土坑一覧……………129
第22表	第9号竪穴建物跡出土遺物一覧……………55	第58表	時期不明溝跡出土遺物一覧……………131
第23表	第11号竪穴建物跡出土遺物一覧……………58	第59表	時期不明溝跡一覧……………131
第24表	第12号竪穴建物跡出土遺物一覧……………60	第60表	時期不明土坑一覧……………143
第25表	第13号竪穴建物跡出土遺物一覧……………62	第61表	第1号ピット群一覧……………145
第26表	第14号竪穴建物跡出土遺物一覧……………64	第62表	第2号ピット群一覧……………147
第27表	第21号竪穴建物跡出土遺物一覧……………68	第63表	第2号ピット群出土遺物一覧……………147
第28表	第27号竪穴建物跡出土遺物一覧……………72	第64表	第3号ピット群一覧……………147
第29表	第30号竪穴建物跡出土遺物一覧……………76	第65表	時期不明ピット群一覧……………147
第30表	第34号竪穴建物跡出土遺物一覧……………78	第66表	遺構外出土遺物一覧……………150
第31表	第35号竪穴建物跡出土遺物一覧……………81	第67表	第1号塚出土遺物一覧……………168
第32表	第38号竪穴建物跡出土遺物一覧……………84	第68表	第2号塚出土遺物一覧……………170
第33表	古墳時代竪穴建物跡一覧……………85	第69表	第3号塚出土遺物一覧……………173
第34表	第3号竪穴建物跡出土遺物一覧……………87	第70表	第1～3号塚出土石造物一覧……………173
第35表	第4号竪穴建物跡出土遺物一覧……………88	第71表	近世・近代の塚一覧……………173
第36表	第7号竪穴建物跡出土遺物一覧……………91	第72表	遺構外出土遺物一覧……………174

## 写真図版目次

PL1	1区全景	PL10	第23号竪穴建物跡
PL2	2区全景	PL10	第29号竪穴建物跡
PL2	道跡全景	PL10	第31号竪穴建物跡
PL3	第1号石器集中地点遺物出土状況	PL10	第32号竪穴建物跡
PL3	第1号石器集中地点	PL11	第32号竪穴建物跡
PL3	第15号竪穴建物跡	PL11	第33号竪穴建物跡
PL3	第16号竪穴建物跡	PL11	第36号竪穴建物跡
PL3	第20号竪穴建物跡	PL11	第39号竪穴建物跡
PL3	第11号土坑遺物出土状況	PL11	第40号竪穴建物跡遺物出土状況(鎌)
PL3	第11号土坑	PL11	第40号竪穴建物跡
PL3	第57号土坑	PL11	第1号掘立柱建物跡
PL4	第68号土坑	PL11	第2号掘立柱建物跡
PL4	第69号土坑	PL12	第4号溝跡
PL4	第72号土坑	PL12	第12号溝跡
PL4	第73号土坑	PL12	第13号溝跡①
PL4	第1号伊跡	PL12	第13号溝跡②
PL4	第2号伊跡	PL12	第14号溝跡
PL4	第3号伊跡	PL12	第15号溝跡
PL4	第4号伊跡	PL12	第1号井戸跡
PL5	第5号伊跡	PL12	第1号ピット群
PL5	第14号伊跡	PL13	第5号竪穴建物跡、第11号土坑出土土器
PL5	第15号伊跡	PL14	第5・8号竪穴建物跡出土土器
PL5	第43号土坑(隔七穴)	PL15	第11・12・21号竪穴建物跡出土土器
PL5	第84号土坑(隔七穴)	PL16	第27・30・34・35・38号竪穴建物跡出土土器
PL5	第2号竪穴建物跡	PL17	第4・7・10・22・38号竪穴建物跡出土土器
PL5	第5号竪穴建物跡遺物出土状況①	PL18	第1・24・26・28・29・32号竪穴建物跡、第1号掘立柱建物跡出土土器
PL5	第5号竪穴建物跡遺物出土状況②	PL19	第31・33・39・40号竪穴建物跡、第119号土坑、第13号溝跡出土土器
PL6	第5号竪穴建物跡	PL20	第15・16・20・37号竪穴建物跡、第8・13・15・16・29・32号土坑出土土器
PL6	第6号竪穴建物跡遺物出土状況①	PL21	第32・36・44・48・54・56・60・71・83・85・86・96・97・105・110・117号土坑出土土器
PL6	第6号竪穴建物跡遺物出土状況②	PL22	第1・6・27・30・31・33号竪穴建物跡、第103・127・133・135・136号土坑、第6・7・14・15号伊跡、第1号遺物包含層出土土器
PL6	第8号竪穴建物跡竈遺物出土状況	PL23	第4・7・8・10・21・27・29・30・35・38号竪穴建物跡、遺構外出土土器
PL6	第8号竪穴建物跡	PL24	第5・12・33号竪穴建物跡、第97号土坑、遺構外出土土器、第26・30～33・38号竪穴建物跡、第4・103号土坑、第4号溝跡、遺構外出土土器
PL6	第11号竪穴建物跡	PL25	第1号石器集中地点、第33・62号土坑、第1号遺物包含層、遺構外出土土器
PL6	第12号竪穴建物跡遺物出土状況	PL26	第7・26・32・40号竪穴建物跡、遺構外出土土器
PL7	第12号竪穴建物跡	PL27	道跡全景
PL7	第14号竪穴建物跡	PL27	第1～3号塚確認状況
PL7	第21号竪穴建物跡遺物出土状況	PL27	第1号塚確認状況
PL7	第21号竪穴建物跡遺物出土状況(鉢)	PL27	第2号塚確認状況
PL7	第21号竪穴建物跡	PL27	第3号塚確認状況
PL7	第25号竪穴建物跡	PL28	第1～3号塚断面状況
PL7	第27号竪穴建物跡	PL28	第1号塚断面状況(南から)
PL7	第30号竪穴建物跡	PL28	第1号塚断面状況(南西から)
PL8	第35号竪穴建物跡	PL28	第2号塚断面状況
PL8	第38号竪穴建物跡遺物出土状況	PL29	第3号塚断面状況
PL8	第38号竪穴建物跡	PL29	第1～3号塚石造物移設状況
PL8	第3号竪穴建物跡竈	PL29	第1号塚石造物
PL8	第3号竪穴建物跡	PL29	第1号塚石造物紀年銘
PL8	第4号竪穴建物跡	PL29	第2号塚石造物
PL8	第7号竪穴建物跡遺物出土状況	PL29	第2号塚石造物造立者銘
PL8	第7号竪穴建物跡遺物出土状況(刀子)	PL30	第2号塚石造物紀年銘
PL9	第7号竪穴建物跡竈	PL30	第3号塚石造物
PL9	第7号竪穴建物跡	PL30	第1・3号塚、遺構外出土遺物
PL9	第10号竪穴建物跡遺物出土状況		
PL9	第10号竪穴建物跡		
PL9	第22号竪穴建物跡		
PL9	第22・23号竪穴建物跡		
PL9	第24号竪穴建物跡		
PL9	第26号竪穴建物跡		
PL10	第28号竪穴建物跡遺物出土状況(坏)		
PL10	第28号竪穴建物跡		
PL10	第41号竪穴建物跡		
PL10	第1号竪穴建物跡		

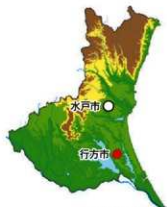


## 遺 跡 の 概 要

くまの だいら ころんぐん

### 熊ノ平古墳群の位置と調査の目的

熊ノ平古墳群は、行方市の北部、武田川右岸の標高約34mの台地上に位置しています。東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度、令和元年度に17,535㎡の発掘調査を行いました。



### 調査の内容

今回の調査では、旧石器時代の石器集中地点1か所、縄文時代の竪穴建物跡4棟、炉跡13基、陥し穴2基、土坑38基、遺物包含層1か所、古墳時代の竪穴建物跡16棟、奈良時代の竪穴建物跡9棟、掘立柱建物跡2棟、平安時代の竪穴建物跡9棟、土坑4基などを確認しました。

### 調査の成果

調査の結果、縄文時代の集落と、古墳時代から平安時代の集落が確認できました。古墳時代の竪穴建物跡からは、土師器や須恵器などのほか、祭祀に用いられる手捏土器が出土しています。また、平安時代の竪穴建物跡からは、「真山」  
「石」と書かれた墨書土器や、「佛」と刻書された紡錘車が出土しました。



竪に掛かったままの状態出土した土師器（第8号竪穴建物跡）

いっぽんしい

## 一本椎遺跡の位置と調査の目的

一本椎遺跡は、潮来市の中央部、東西を夜越川と田中川によって開析された、標高約 38 m の台地縁辺部に位置しています。東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成 31 年・令和元年度に 136 m<sup>2</sup> の発掘調査を行いました。



## 調査の内容

今回の調査では、近世・近代の塚 3 基を確認しました。

## 調査の成果

調査の結果、江戸時代から大正時代の塚 3 基が確認できました。塚の上には石造物がそれぞれ 1 基ずつ設置されており、青面金剛や「庚申供養塔」の文字が刻まれていました。また石造物には、古いものから順に、寛政十二年（1800 年）、安政七年（1860 年）、大正九年（1920 年）の紀年銘が刻まれていました。いずれも干支が庚申の年にあたり、今回調査した塚は庚申講によって築かれた、庚申塚であったと考えられます。当地域に江戸時代から連綿と続いてきた風習・信仰を伺うことができる、貴重な資料だといえます。



隣り合って築かれた 3 基の庚申塚（奥から第 1 号塚・第 2 号塚・第 3 号塚）

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成25年5月24日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに東関東自動車道水戸線（潮来～鉦田）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成26年4月28日、4月30日及び5月21日に現地踏査を実施した。平成27年5月29日、平成28年3月10日、平成29年7月18日、7月25日及び7月28日に熊ノ平古墳群、平成28年2月17日、平成30年4月20日及び9月18日に一本椎遺跡の試掘調査を実施し、両遺跡の所在を確認した。平成30年10月1日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに事業地内に熊ノ平古墳群並びに一本椎遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成30年2月28日に熊ノ平古墳群、平成31年2月15日に一本椎遺跡に関して、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成30年3月9日に熊ノ平古墳群、平成31年2月21日に一本椎遺跡について、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成30年3月20日及び平成31年2月26日に熊ノ平古墳群、平成31年2月26日に一本椎遺跡に関して、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、東関東自動車道水戸線（潮来～鉦田）建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成30年3月28日及び平成31年2月27日に熊ノ平古墳群、平成31年2月27日に一本椎遺跡に関して、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成30年6月1日から11月30日まで及び令和元年6月1日から7月31日まで熊ノ平古墳群、平成31年4月1日から令和元年5月31日まで一本椎遺跡の発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

熊ノ平古墳群の調査は、平成30年6月1日から11月30日までと、令和元年6月1日から7月31日までの8か月間、一本椎遺跡の調査は、平成31年4月1日から令和元年5月31日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成30年度

工程 \ 期間	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査準備 表土除去 遺構確認	■					
遺構調査		■				
遺物洗浄 注記 写真整理		■				
撤収						■

平成31年・令和元年度

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月
調査準備 表土除去 遺構確認	■		■	
遺構調査	■		■	
遺物洗浄 注記 写真整理	■		■	
撤収		■		■

■ 熊ノ平古墳群 ■ 一本椎遺跡

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

熊ノ平古墳群は、茨城県行方市両宿字鑑平517番地ほかに所在している。

行方市は、茨城県の南東部に位置し、西を霞ヶ浦、東を北浦に挟まれるように立地し、市域の大半を行方台地が占めている。行方台地は標高34～39mの平坦地であり、低地に沿って複数の河岸段丘を形成している。台地の開析度合いは高く、樹枝状に支谷が発達し、台地面は幅狭く入り組んだ形になっている<sup>1)</sup>。

熊ノ平古墳群は、北を武田川、南を山田川に開析された台地上に立地している。この台地はさらに小支谷に開析され、東西約200m、南北約640mの狭隘な舌状台地を形成しており、今回の調査区は標高32～35mの台地北端から中央部に位置している。調査前の現況は山林である。

また、一本椎遺跡は、茨城県潮来市一本椎地先に所在している。

潮来市は、茨城県の南東部に位置し、東を北浦と鰐川、西を霞ヶ浦、南を常陸利根川と外浪速浦に囲まれ、市域の北部は行方台地、南部は利根川低地及び霞ヶ浦・北浦湖岸低地が占めている。行方台地は南に向かって標高が高くなり、潮来市大生付近では標高40mに達する地点もある<sup>2)</sup>。行方台地から南進し利根川低地に向かうと標高は下がり、潮来市街地では標高20mまで低下する。

一本椎遺跡は、東西を夜越川と田中川に開析された台地上に立地している。この台地は行方台地の南端に位置しており、北側以外の三方は低地に向かって開けている。今回の調査区は標高38mの台地東無縁辺部に位置している。調査前の現況は宅地、畑地である。

### 第2節 歴史的環境

ここでは、まず熊ノ平古墳群の周辺遺跡の概要について記述する。遺跡の立地する行方台地には、霞ヶ浦東岸から北浦沿岸の台地縁辺部や台地に入り込んだ支谷を望む台地上に、多くの遺跡が分布している。

旧石器時代は、三和貝塚<sup>3)</sup>で武蔵野編年Ⅸ層段階の台形様石器、木工台遺跡<sup>4)</sup>、内宿井戸作遺跡<sup>5)</sup>でⅨ層段階の彫刻刀形石器、有髄尖頭器やナイフ形石器がいずれも少数出土している。

縄文時代になると県内各地に貝塚が形成されるようになり、北浦湖岸の台地上や武田川、山田川の兩岸の台地上にも多くの地点貝塚や集落跡が確認されている。武田川左岸の台地上にある三和貝塚は、早期から前期の遺跡であり、早期の炉穴、前期の貝塚や集落跡が調査されている。同じ台地上の成田早川貝塚<sup>6)</sup>(9)は、後期中葉を中心とした貝塚であることが確認されている。武田川右岸の台地上では、鶴ヶ居貝塚<sup>7)</sup>(12)で中期から後期の貝塚と集落跡が調査されている。今山遺跡<sup>8)</sup>(16)、六台遺跡<sup>9)</sup>(18)では、主に中期の集落跡が調査され、中期の堅穴建物跡やフラスコ状土坑のほか、早期の炉穴が確認されている。また、今山遺跡に隣接する緩斜面には、中期の貝塚である今山貝塚があり、ハマグリを主体とする高鹹性の貝塚と報告されている。山田川右岸では、鬼越貝塚<sup>10)</sup>で後期の貝塚が確認されている。この他に出土遺物等により時期の判明している遺跡として、中期から後期にかけての遺跡として長野江貝塚、両宿貝塚(36)、後期の遺跡として、並松遺跡(33)、後期から晩期にかけての遺跡として戸呂井戸遺跡(20)、晩期の遺跡として、穴瀬貝塚、大塚遺跡等がある。

弥生時代の遺跡としては、包蔵地が確認されており、武田川流域と山田川流域に分布している。武田川流域

には南宿神明遺跡(50)、内宿館跡(11)、内宿館跡(2)等が所在し、山田川流域には、御門山古墳群(32)、南高岡平遺跡、関戸遺跡(43)、古屋平遺跡(40)、中山遺跡等が所在している。

古墳時代の遺跡は、古墳群の札場古墳群、成田古墳群(6)、大塚古墳群(45)、新堀古墳群(46)、ドンピン塚古墳群(38)、堂目木古墳群(39)等が知られている。成田古墳群<sup>10)</sup>からは、壺蓋、杏葉、轡等多数の馬具が出土している。集落跡は、武田川右岸の台地上に、炭焼遺跡、木工台遺跡、内宿井戸作遺跡が位置する。木工台遺跡は、隣接する内宿井戸作遺跡と合わせて後期の集落を形成しており、先述の古墳群との関連が注目される。山田川下流の右岸に広がる台地上には、山田地区遺跡群(今山遺跡、六台遺跡、古屋敷遺跡<sup>11)</sup>(17)、平遺跡<sup>12)</sup>(23)、古館遺跡<sup>13)</sup>(22)、風早遺跡<sup>14)</sup>(24)が位置しており、前期から後期にかけての集落が確認されている。古屋敷遺跡からは円窓土器が出土している。

奈良・平安時代には、常陸国府から鹿島神宮へ勅使参拝のための駅路が通じており、国府から曾尼駅、行方郡衙、板米駅を経由して潮来に通じ、潮来からは、海路鹿島郡の大船津に向った<sup>15)</sup>。本跡から西に約5kmの位置に蛇ヶ谷長者館遺跡、南西に約4kmの位置に井上長者館遺跡が所在し、それぞれ行方郡衙の候補地に挙げられている。集落遺跡は、古墳時代後期から継続して営まれる。木工台遺跡では、堅穴建物跡、掘立柱建物跡のほか、製鉄関連遺構が確認されている。また、円面硯や銅鏡、青銅製の丸鞘や鉄具が出土しており注目される。山田地区遺跡群でも集落が継続し、六台遺跡からは青銅製の丸鞘が出土している。

鎌倉・室町時代になると城館が築かれるようになり、武田川流域には、武田氏が築いた神明城跡(49)、木崎城跡(10)、小貫館跡、西館跡(48)及び内宿館跡等が知られている。山田川流域左岸台地上には、山田氏が築いた山田城跡(26)、前館跡(28)、古館遺跡、古屋敷遺跡及び平遺跡等が所在している。同流域右岸台地上には、小幡氏が築いた小幡城跡(41)、古屋台館跡、前原館跡等が所在している。このうち、昭和62年に神明城跡<sup>16)</sup>、昭和63年から平成元年にかけて古館遺跡、古屋敷遺跡及び平遺跡、平成6年に木崎城跡<sup>17)</sup>が調査されている。

次に、一本推遺跡周辺の主な遺跡について概観する。

縄文時代には、霞ヶ浦や北浦は鹿島灘から入る内海であり、遠浅の静かな入江がつくられていた。行方台地南部に、霞ヶ浦に面して、大門貝塚(57)、道場平貝塚、大宮台貝塚、中山C遺跡(66)などがある。大門貝塚は当遺跡から西へ1.5km、夜越川右岸の台地上に位置し、4か所の地点貝塚から成っている。地点貝塚に囲まれた範囲は径80mほどの円形で、環状集落を形成すると思われる。貝類は、ハマグリ、サルボウ、アカニシ、アサリ、オオノガイ、シオフキなど鹹水産のものが主体である<sup>18)</sup>。魚類では、クロダイ、スズキ、フグ、コチ等が確認され、また、鳥類、哺乳類、ヒトの骨なども確認されている。出土している土器は阿玉台I b式から加曾利E 2式のもので、阿玉台III・IV式頃が貝塚の盛行期である。北浦に面しては、熊野神社貝塚(83)、塙貝塚(31)がある。塙貝塚の貝種は、ハマグリ、アカニシ、シオフキなど鹹水産のものが主体である。貝層の中心地から40mほど離れた地点で調査がされており、阿玉台式から加曾利E 2式の土坑が確認されている。

当地域でも縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて遺跡数は減少するが、弥生時代中期後半になると増え始める。当遺跡周辺では、小屋ノ内館跡<sup>19)</sup>、上ノ久保遺跡、シタキ遺跡(6)、長貫遺跡(3)などで弥生時代の資料が確認されている。これらの遺跡はやや内陸にあり、霞ヶ浦や北浦へ注ぎ込む小河川を望む台地上に位置している。小屋ノ内館跡や長貫遺跡<sup>20)</sup>では中期後半の足洗式土器が出土しており、この時期から低地の開発が行われ、谷津田の経営が開始されたと思われる。谷津田の奥には、数多くの用水地が構築され、『常陸国風土記』には古老の伝説として、椎井池のことや箭括氏麻多知・壬生連齋らの谷津田開発の物語が記されている。

古墳時代になると、行方台地には、数多くの古墳が築造される。本跡周辺では、雁通川左岸の台地上に根小

屋古墳群〈2〉、夜越川左岸の台地上に日天月天塚古墳〈54〉、北浦を望む台地縁辺部に、大生東部古墳群、大生西部古墳群〈35〉、浅間塚古墳群〈23〉、棒山古墳群〈30〉が形成される。大生東部古墳群と大生西部古墳群の一带は、大小200基に及ぶ古墳が残されている。この中の主墳と考えられる子ノ舞塚古墳<sup>1)</sup>の墳丘からは埴輪、土師器、須恵器が、石棺からは玉類、耳環、直刀、刀装具、鉄鎌などが出土し、6世紀末葉に比定されている。大生西部古墳群から西に300m離れた台地上では、大賀立野遺跡〈33〉、今林遺跡〈46〉が調査されている。共に後期の集落であり、大生古墳群との関係が目される。棒山古墳群<sup>2)</sup>は先述した大賀立野遺跡の北方500mの台地上に位置する前方後円墳2基、円墳9基からなる、後期の古墳群である。3基が調査され、そのうち第7号墳の箱式石棺からは、耳環、刀子、鉄鎌、直刀のほか、5体の人骨が出土している。

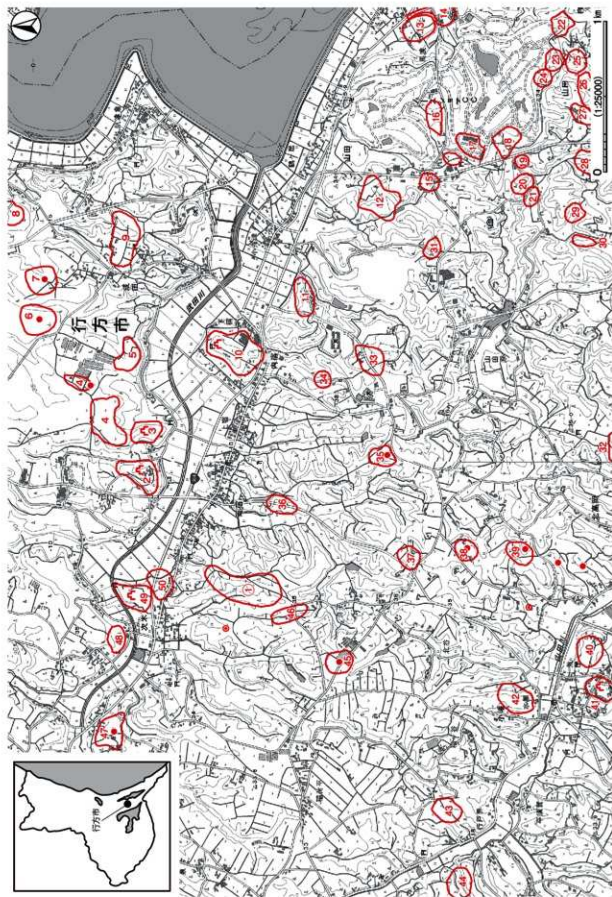
奈良・平安時代には、当地域は行方郡大生郷に属している。大賀立野遺跡<sup>3)</sup>では、奈良・平安時代の竪穴建物跡のほか、平安時代の製鉄関連遺跡が確認されている。ほかに、近隣の当時代の遺跡として、貝塚A貝塚、古高見堂遺跡、梶内遺跡、田ノ森遺跡等<sup>4)</sup>があげられる。

中世に入ると、行方郡は、1139年(保延5)に鹿島社に寄進されて鹿島社領となる。そして当地域は、常陸平氏とその一族である大塚氏の支配下に置かれるようになり、地頭職の島崎氏、行方氏(後の小高氏)、麻生氏、玉造氏の各氏が拠点を持つようになり、鳥崎城<sup>5)</sup>、鶴山城〈36〉、相賀城〈9〉などが築かれた。鳥崎城は、島崎氏の居城で土塁や堀跡、井戸や馬出しの跡などが現存しており、当時の栄華をうかがうことができる。その後、当地域にも佐竹氏の支配の手が伸びるが、長くは続かず、徳川氏の所領となる。江戸時代には、地方と江戸を結ぶ水運の要所となり、水郷潮来の名を今に伝えている。

※本章は、既刊の茨城県教育財団文化財調査報告第152集、第428集ほかを参照し、加筆した。文中の〈 〉内の番号は、第1・2図及び第1・2表の該当番号と同じである。

#### 註

- 1) 茨城県農地部農地計画課「土地分類基本調査 磯浜・鉾田」1991年
- 2) 茨城県農地部農地計画課「土地分類基本調査 玉造」1984年
- 3) 茨城県歴史館「県内貝塚における動物遺存体の研究(3)」1981年3月
- 4) a) 茂木悦男「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 木工台遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第140集 1998年9月
- b) 荒井保雄 高野節夫「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 木工台遺跡2」茨城県教育財団文化財調査報告第152集 1999年7月
- c) 高野節夫「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 内宿井戸作城跡 木工台遺跡3」茨城県教育財団文化財調査報告第153集 1999年7月
- d) 窪田恵一「茨城県南東部・行方台地の旧石器」茨城県考古学協会誌第18号 茨城県考古学協会 2006年5月
- 5) 註3に同じ
- 6) 註3に同じ
- 7) 山田地区道跡発掘調査会「今山道跡調査報告書」1990年3月
- 8) 山田地区道跡発掘調査会「六台道跡調査報告書」1990年3月
- 9) 註3に同じ
- 10) 黒澤秀雄「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 炭焼道跡 礼場古墳群 三和貝塚 成田古墳群」茨城県教育財団文化財調査報告第130集 1998年3月
- 11) 山田地区道跡発掘調査会「古屋敷道跡調査報告書」1990年3月
- 12) 山田地区道跡発掘調査会「平道跡調査報告書」1990年3月
- 13) 山田地区道跡発掘調査会「古館道跡調査報告書」1990年3月
- 14) 山田地区道跡発掘調査会「風早道跡調査報告書」1990年3月
- 15) 志田諒一「潮来町史」潮来町史編さん委員会 1996年3月
- 16) 篠森義明「主要地方道土舗・大洋線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 神明城跡」茨城県教育財団文化財調査報告第48集 1988年9月
- 17) 荒井保雄「国道354号国補道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 木崎城跡」茨城県教育財団文化財調査報告第109集 1996年3月
- 18) 汀安衛編「大門貝塚C地点発掘調査報告書」茨城県行方郡麻生町教育委員会 2002年6月
- 19) 汀安衛編「小原ノ内館跡 大塚古墳群(3・4号墳)調査報告書」麻生町道跡発掘調査会 1997年12月
- 20) 櫻井二郎編「根小屋古墳群-4号墳・13号墳発掘調査報告書-」茨城県行方郡麻生町教育委員会 1985年10月
- 21) 大塚啓雄「孫舞塚古墳」茨城県史料 考古資料編 古墳時代「所収 茨城県 1974年2月
- 22) a) 海老原幸福「棒山古墳群発掘調査報告書」潮来町教育委員会 1981年3月
- b) 汀安衛「棒山古墳群(庚申塚古墳)調査報告書」潮来町道跡調査会 1991年12月
- 23) 註15に同じ
- 24) 志村敏夫・西ヶ谷恭弘「鳥崎城 第一次・第二次発掘調査報告書」茨城県牛嶋町教育委員会 1997年4月

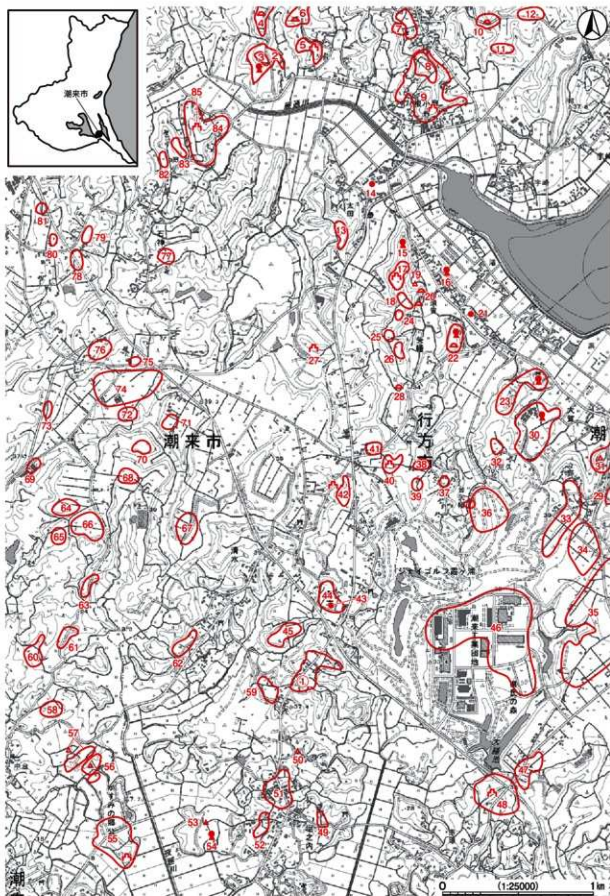


第1図 熊ノ平古墳群周辺遺跡分布図(国土地理院 25,000分の1「鉾田」「武井」「西連寺」「常陸玉造」)



第1表 熊ノ平古墳群周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	熊ノ平古墳群	○	○		○	○		26	山田城跡						○	
2	内宿館跡			○			○	27	妙義台貝塚	○						
3	内宿井戸作遺跡	○			○	○	○	28	前館跡				○		○	
4	木工台遺跡	○	○		○	○		29	京田古墳群				○			
5	手配台遺跡		○					30	堂入古墳群				○			
6	成田古墳群				○			31	千両山古墳群				○			
7	塚原古墳群				○			32	御門山古墳群	○	○	○				
8	道祖神遺跡		○					33	並松遺跡	○						
9	成田早川貝塚		○					34	並松古墳群				○			
10	木崎城跡						○	35	鰻谷古墳群				○			
11	下山遺跡		○	○				36	両宿貝塚	○						
12	鶴ヶ居貝塚		○					37	殿山古墳群				○			
13	諏訪前遺跡				○			38	ドンビン塚古墳群				○			
14	諏訪後古墳群				○			39	堂目木古墳群				○			
15	大塚古墳				○			40	古屋平遺跡	○	○	○				
16	今山遺跡		○	○	○	○		41	小幡城跡						○	
17	古屋敷遺跡			○	○	○	○	42	寄井遺跡	○						
18	六台遺跡		○	○	○	○		43	関戸遺跡	○	○	○				
19	城見塚跡						○	44	行戸諏訪山遺跡	○		○				
20	戸呂井戸遺跡		○					45	大塚古墳群	○		○				
21	中山古墳群				○			46	新堀古墳群	○	○	○				
22	古館遺跡	○			○	○	○	47	新橋古墳群				○			
23	平遺跡				○	○	○	48	西館跡						○	
24	風早遺跡				○			49	神明城跡						○	
25	天王宿貝塚		○					50	両宿神明遺跡	○	○	○				



第2図 一本樵道跡周辺道跡分布図(国土地理院 25,000分の1「潮来」〔武井〕)

第2表 一本椎遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	一本椎遺跡							○	44	浜井場遺跡	○						
2	根小屋古墳群				○				45	藤井場遺跡	○						
3	長貫遺跡	○	○	○					46	今林遺跡	○		○				
4	入定台遺跡	○	○	○					47	赤須山遺跡				○		○	
5	榎の台城跡						○		48	柁山遺跡						○	
6	シタキ遺跡	○	○	○	○				49	台遺跡	○						
7	堂後遺跡	○	○	○					50	申越貝塚	○						
8	塚原遺跡	○		○					51	畑中遺跡	○		○	○			
9	相賀城跡						○		52	御安台遺跡				○			
10	岡塚群							○	53	吹上貝塚	○						
11	原山遺跡	○							54	日月天塚古墳			○				
12	南新林遺跡	○	○	○					55	水山城跡						○	
13	多々良遺跡	○	○	○					56	向叶屋遺跡	○			○			
14	太田小学校校庭古墳				○				57	大門貝塚	○						
15	瓢箪山古墳				○				59	牛井戸遺跡	○			○	○		
16	矢幡瓢箪塚古墳				○				59	赤羽根遺跡	○						
17	要害城跡						○		60	興村遺跡	○			○			
18	上ノ台遺跡	○	○	○	○				61	山ノ神南遺跡	○	○		○			
19	矢幡貝塚	○							62	表遺跡							
20	前塚古墳				○				63	山ノ神北遺跡	○		○				
21	西ノ下塚群							○	64	中山A遺跡	○						
22	赤坂山古墳群					○		○	65	中山B遺跡	○		○	○			
23	浅間塚古墳群				○				66	中山C遺跡	○						
24	草餅遺跡	○		○					67	ト山遺跡							
25	草餅南遺跡				○	○			68	原山遺跡	○						
26	猿田遺跡	○		○	○				69	原南遺跡	○						
27	出し山館跡						○		70	グミノ木平遺跡	○						
28	平塚							○	71	茂内遺跡	○						
29	藤島遺跡				○				72	原山北遺跡	○						
30	棒山古墳群				○				73	原北遺跡	○			○	○		
31	塙貝塚	○	○	○					74	清水原山遺跡	○			○			
32	大賀荒久遺跡					○			75	水噴台遺跡	○						
33	大賀立野遺跡				○	○			76	俵久保遺跡	○						
34	前倉遺跡				○	○			77	中山遺跡	○			○	○		
35	大生西部古墳群				○				78	栗山A遺跡	○						
36	鴨山城跡				○	○			79	栗山B遺跡	○						
37	中妻遺跡	○		○	○				80	栗山C遺跡	○	○	○				
38	矢幡東A遺跡	○							81	栗山D遺跡	○						
39	矢幡東B遺跡				○	○			82	成狭間遺跡	○						
40	矢幡館跡						○		83	熊野神社貝塚	○						
41	原畑遺跡					○			84	上ノ久保遺跡	○	○	○	○			
42	裏山遺跡						○		85	石神城跡							○
43	桶荷塚古墳						○										

## 第3章 熊ノ平古墳群

### 第1節 調査の概要

熊ノ平古墳群は、行方市の北部に位置し、武田川右岸の尾根上に延びる標高約34mの台地上に立地している。調査面積は17,535㎡で、調査前の現況は畑地、山林である。

調査の結果、竪穴建物跡38棟（縄文時代4・古墳時代16・奈良時代9・平安時代9）、掘立柱建物跡2棟（奈良時代）、溝跡15条（時期不明）、土坑131基（縄文時代38・平安時代4・時期不明89）、遺物包含層1か所（縄文時代）井戸跡1基（時期不明）、炉跡13基（縄文時代）、陥し穴2基（縄文時代）、ピット群3か所（時期不明）、石器集中地点1か所（旧石器時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に55箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏、高台付坏、碗、高台付皿、高坏、鉢、壺、甕、瓶、手捏土器）、須恵器（坏、高台付坏、蓋、高台付盤、高坏、鉢、短頸壺、瓶、甕、瓶）、土師質土器（小皿）、灰輪陶器（碗、瓶）、土製品（土玉、管状土錘、土器片錘、紡錘車、勾玉、支脚）、石器（搔器、石鏃、磨製石斧、打製石斧、石匙、磨石、砥石、凹石、剥片）、金属製品（刀子、鎌、釘、銭貨）などである。

### 第2節 基本層序

調査区南部（L8d6区）の台地上平坦面に1区テストピットを、調査区北部（C8a8区）の台地縁辺平坦面に2区テストピットを設定し、基本土層（第3図）の堆積状況の観察を行った。

1区テストピットの第1層は、ロームブロック・粒子を少量含む黒褐色を呈する表土で、腐食土である。粘性・締まりともに弱く、層厚は36～42cmである。

第2層は、にぶい黄褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を少量含む、粘性・締まりともに普通で、層厚は24～30cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含む、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は26～52cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子をごく微量含む、粘性・締まりともに普通で、層厚は28～40cmである。第2黒色帯に比定される。

第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含む、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は22～34cmである。

第6層は、灰黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。層厚は24～38cmである。

第7層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。第7層の下層は未掘のため、層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。

次に、2区テストピットの土層を詳述する。

第1層は、ロームブロック・粒子を少量含む黒褐色を呈する腐食土である。粘性・締まりともに弱く、層厚は60～80cmである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を少量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は36～42cmである。

第3層は、暗褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は12～22cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子をごく微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は10～30cmである。

第5層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子、白色粒子をともに微量含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は62～78cmである。

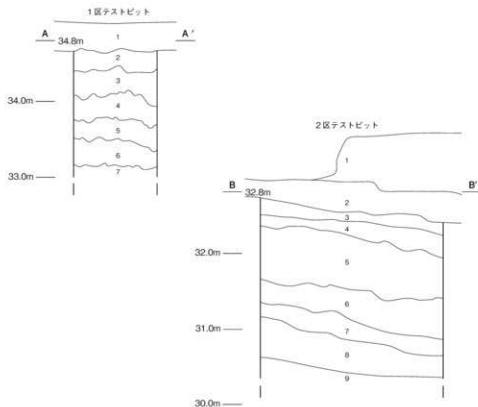
第6層は、暗褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子を微量含む。粘性は普通で、締まりは強い。層厚は26～56cmである。第2黒色帯に比定される。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強い。層厚は20～34cmである。

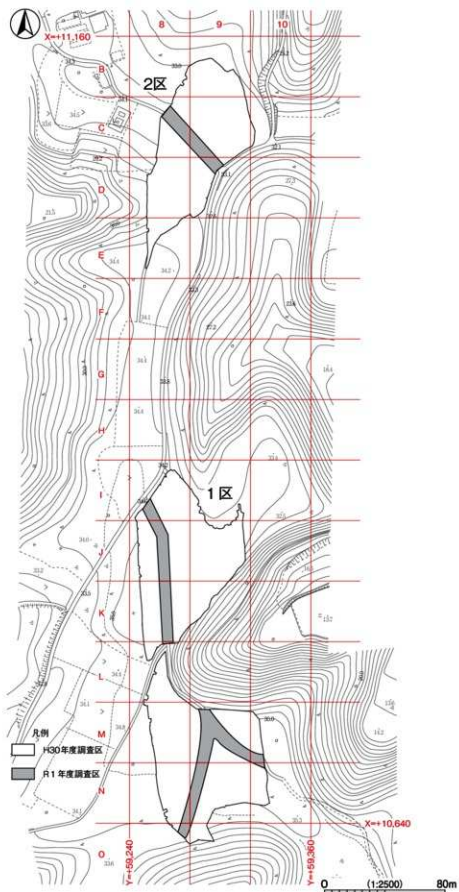
第8層は、灰褐色を呈する常総粘土層である。白色粒子を少量含み、粘性・締まりともに強い。層厚は20～54cmである。

第9層は、黒褐色を呈する常総粘土層である。白色粒子を少量含み、粘性・締まりともに強い。第9層の下層は未掘のため、層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。



第3図 熊ノ平古墳群基本土層図

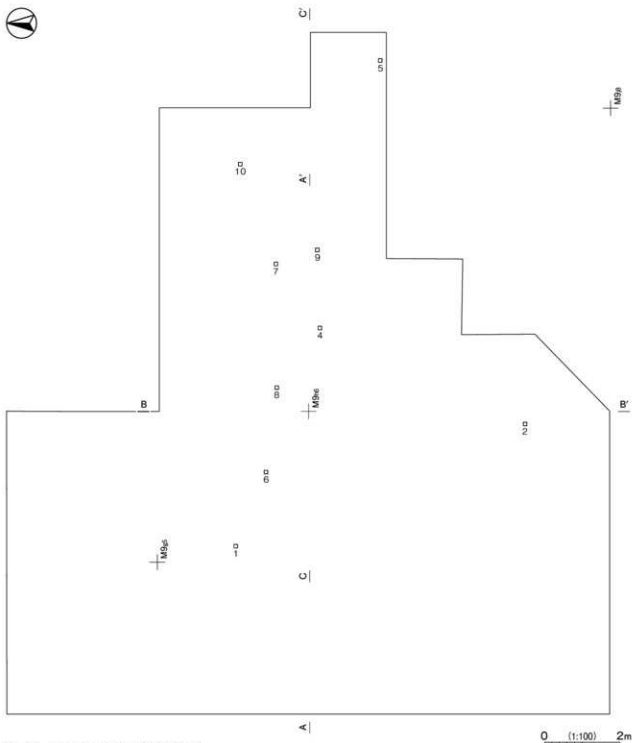


第4図 熊ノ平古墳群調査区設定図(行方市都市計画図2,500分の1)

## 第3節 遺構と遺物

## 1 旧石器時代の遺構と遺物

調査1区南東部、M 9g5区付近の表土から旧石器と考えられる石器が出土したため、周辺をグリッド法で調査したところ、石器集中地点を1か所確認した。出土総点数は11点で、うち3点を図示し、ほか8点は一覧表に記した。



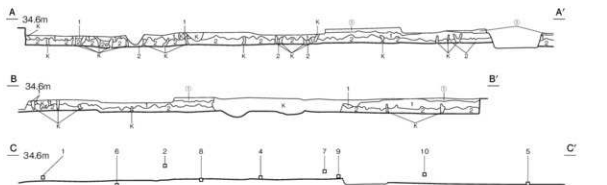
第5図 第1号石器集中地点実測図

石器集中地点

第1号石器集中地点 (第5・6図 PL3)

M 9g5区で2点, M 9g6区で2点, M 9g7区で2点, M 9h6区で1点, M 9h7区で1点, M 9h8区で1点, M 9i5区で1点の石器がローム中から出土している。

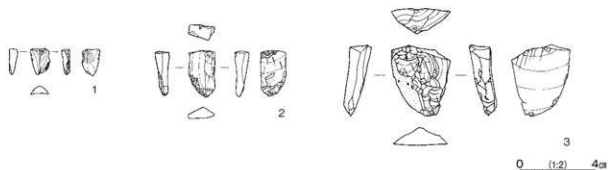
出土石器は, 1が掻器(黒曜石), 2・3が頁岩, 4・9が黒曜石, 5・10が安山岩の剥片, 7がチャート, 8が頁岩, 6・11が黒曜石の破片である。2・7は基本層序の第1層, 1・3~6・8~10は基本層序の第2層から出土している。使用された石材がある程度共通すること, 破片の出土, 遺物の出土層位や比高差から, 同一機会に形成された石器集中地点であり, 臨機的な石器製作が行われたものと考えられる。



土層解説 (第1・2層は基本層序の第2・3層に対応)

- ① 7.0YR3/3 粘岩 ローム粘土 風化程度・粘土 線B  
 1 10YR4/3 粘土塊 粘土 線B  
 2 10YR4/4 塊 粘土 線A

0 (1:100) 2m



第6図 第1号石器集中地点・出土遺物実測図

第3表 第1号石器集中地点出土遺物一覧 (第6図)

番号	部 類	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	掻器	1.42	1.04	0.38	0.70	黒曜石	刃部微細溝彫 黒色強く不透明で気泡を多量に含む 一部ダブ	第2層中	PL25
2	剥片	2.41	1.43	0.79	2.30	頁岩	微細溝彫を有する 破片	第1層中	PL25
3	剥片	3.74	3.08	1.21	13.14	頁岩	原表面に張り付いた痕が残る 破片	M 9g5 第2層中	PL25
4	剥片	3.33	1.82	1.73	4.50	黒曜石	透明感強いが夾雑物多い	第2層中	計測のみ
5	剥片	3.98	3.08	1.96	16.36	安山岩	原表面に残る 夾雑物多い 風化激しい	第2層中	計測のみ
6	破片	0.64	0.40	0.20	0.05	黒曜石	破片 1・11と同一母岩	第2層中	計測のみ
7	破片	0.79	0.53	0.13	0.03	チャート	破片	第1層中	計測のみ
8	破片	1.15	0.54	0.14	0.08	頁岩	破片 破片	第2層中	計測のみ
9	剥片	1.77	1.16	0.33	0.37	黒曜石	透明感強い	第2層中	計測のみ
10	剥片	2.16	2.97	0.51	2.66	安山岩	風化激しい	第2層中	計測のみ
11	破片	0.78	1.00	0.38	0.34	黒曜石	破片 1・6と同一母岩	第1層中	計測のみ 出土グッズ不明



## 2 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡4棟、炉跡13基、隔し穴2基、土坑38基、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

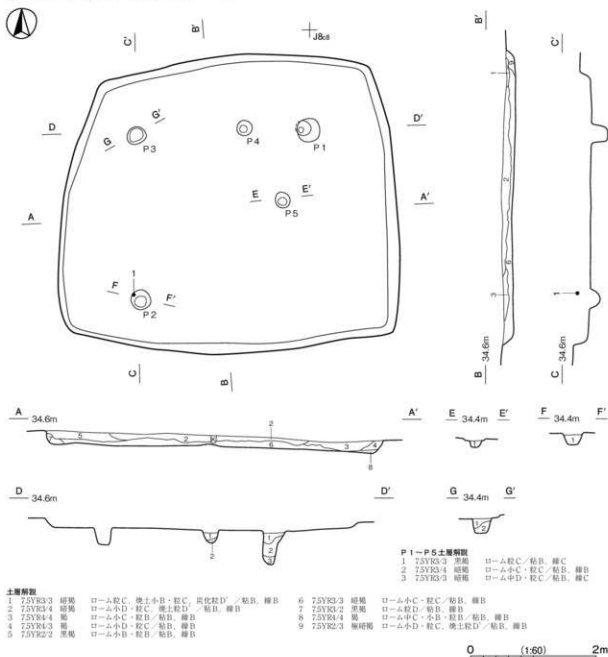
## (1) 竪穴建物跡

## 第15号竪穴建物跡 (第7・8図 PL.3)

位置 調査1区北部のJ8c7区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.30m、短軸4.76mの長方形で、主軸方向はN-3'-Eである。壁は高さ20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。



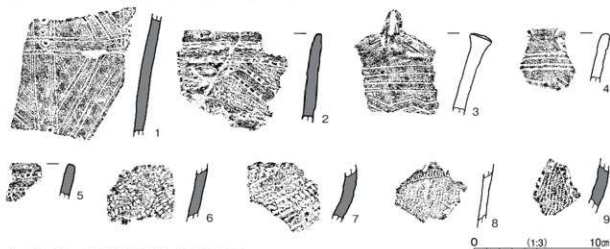
第7図 第15号竪穴建物跡実測図

ピット 5か所。P1～P5は深さ12～56cmで、性格は不明である。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片47点（深鉢）が、遺構の西半部に偏って出土している。2・5・9は同一個体と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から前期後葉と考えられる。



第8図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4表 第15号竪穴建物跡出土遺物一覧（第8図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴は全 文を差上	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰褐色	普通	半載竹管による米字文 縦方向の平行沈線による区画内に円形刺突文を差上	覆土中層	黒沢式 PL20
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	凹、縄文後、半載竹管による押引文 外面保付着	覆土上層	黒沢式 PL20
3	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	液状貝殻文後、半載竹管による平行沈線、山形文	遺構上面	浮島式 PL20
4	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文後、半載竹管による平行沈線	覆土上層	浮島式 PL20
5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	凹、縄文後、半載竹管による押引文 外面保付着	覆土中	黒沢式 PL20
6	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐色	普通	凹状縄文	覆土上層	黒沢式 PL20
7	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	紫	普通	凹状縄文	覆土上層	黒沢式 PL20
8	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文後、半載竹管による平行沈線	遺構上面	浮島式 PL20
9	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	凹、縄文後、半載竹管による押引文 外面保付着	覆土上層	黒沢式 PL20

#### 第16号竪穴建物跡（第9図 PL3）

位置 調査1区中央部のJ89区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が撓乱等を受けているが、長軸5.01m、短軸4.05mの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

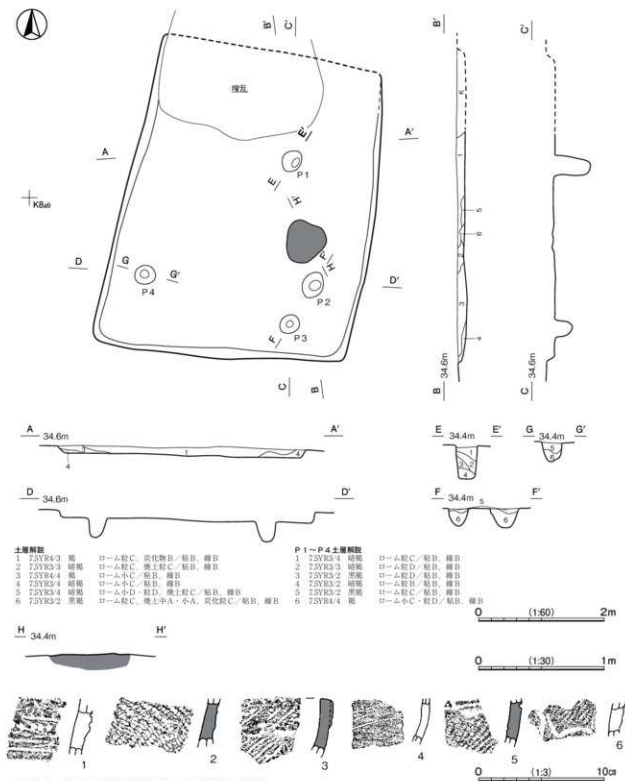
炉 中央部東寄りに付設されている。長径69cm、短径65cmの円形で、床面と同じ高さを使用した地床炉である。炉床面は赤変硬化している。炉床面の下は、深さ12cmまで地山が被熱し赤変硬化している。

ピット 4か所。P1～P4は深さ26～51cmで、配置が不規則であるため性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。第5・6層に含まれる焼土は、炉の焼土が混じったものと考えられる。レンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片41点（深鉢）が、覆土中からまばらに出土している。

所見 時期は、出土遺物から前期前葉と考えられる。



第9図 第16号堅穴建物跡・出土遺物実測図

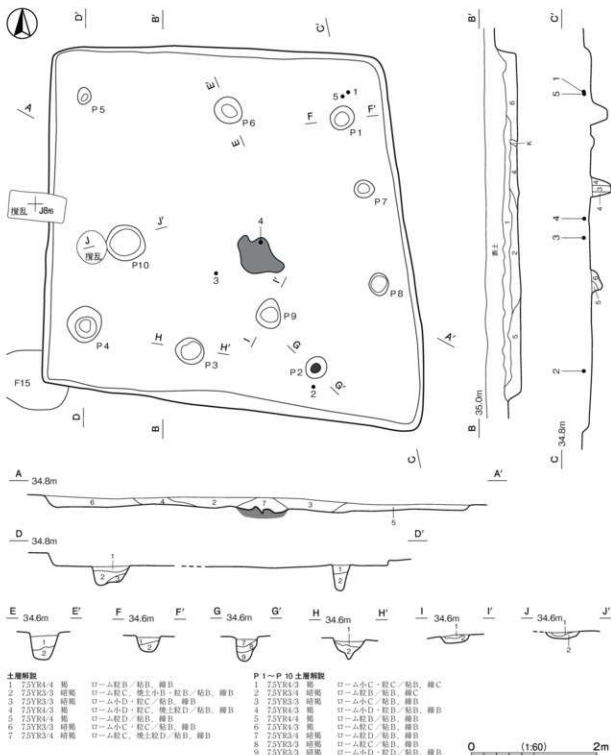
第5表 第16号堅穴建物跡出土遺物一覧(第9図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	手織竹管による押引文、連続爪型文	覆土中	浮島式 PL.20
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	1.5B+黄緑	普通	羽状縄文	覆土中	黒浜式 PL.20
3	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	L形縄文様、U形部に粘土粒粘付体、U形部に割部とは異なるL形縄文	遺構棟梁部	黒浜式 PL.20
4	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	暗	普通	木葉文	覆土中	浮島式 PL.20

番号	種別	部材	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	灰石・石英・燧石	灰褐色	普通	羽状織文後、手載竹管による深い押引文	覆土中	測式 PL29
6	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐色	普通	L.R.織文後、短冊本葉文	覆土中	測式 a 式 PL30

### 第 20 号竪穴建物跡 (第 10・11 図 PL 3)

位置 調査 1 区北西部の J 8 e6 区、標高 35 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 10 図 第 20 号竪穴建物跡実測図

**重複関係** 第15号炉跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸6.04 m、短軸5.72 mの方形で、主軸方向はN-2'-Wである。壁は高さ20 cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、硬化面は確認できなかった。

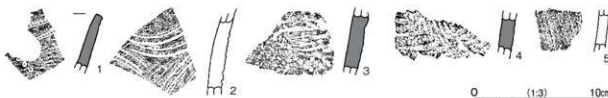
**炉** 中央部南東寄りに付設されている。長径84 cmの不定形で、地山を掘り込んで構築した地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

**ピット** 10か所。P1～P6は深さ28～42 cmで、配置から主柱穴である。P2の底面は一部硬化しており、柱のあたりである。P7・P8は深さ32 cm・16 cmで、配置から補助柱穴と考えられる。P9・P10は深さ14 cm・12 cmで、性格は不明である。

**覆土** 7層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから、自然堆積である。

**遺物出土状況** 縄文土器片10点（深鉢）が、覆土中層からまばらに出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から前期後葉と考えられる。



第11図 第20号堅穴建物跡出土遺物実測図

第6表 第20号堅穴建物跡出土遺物一覧（第11図）

番号	種別	形種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	引縄文様、口縁直下に手組竹管による押引文（2条）、内凹刺突文を垂下	覆土中層	黒浜式 PL20
2	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄	普通	煎糸文様、木葉文	覆土中層	浮島式 PL20
3	縄文土器	深鉢	長石・石英・礫	にぶい黄橙	普通	引縄文	覆土中層	黒浜式 PL20
4	縄文土器	深鉢	長石・石英・礫	にぶい黄	普通	引縄文	覆土中層	黒浜式 PL20
5	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄帯	普通	波状引縄文	覆土中層	浮島式 PL20

### 第37号堅穴建物跡（第12図）

**位置** 調査1区南東部のN10c3区、標高34 mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第87号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北半部が傾斜を受けており、東半部が調査区外へ延びているため、南北軸5.21 m、東西軸4.56 mしか確認できなかった。主軸方向はN-21'-Wである。壁は高さ9 cmで、緩やかに立ち上がっている。

**床** 平坦で、硬化面は確認できなかった。

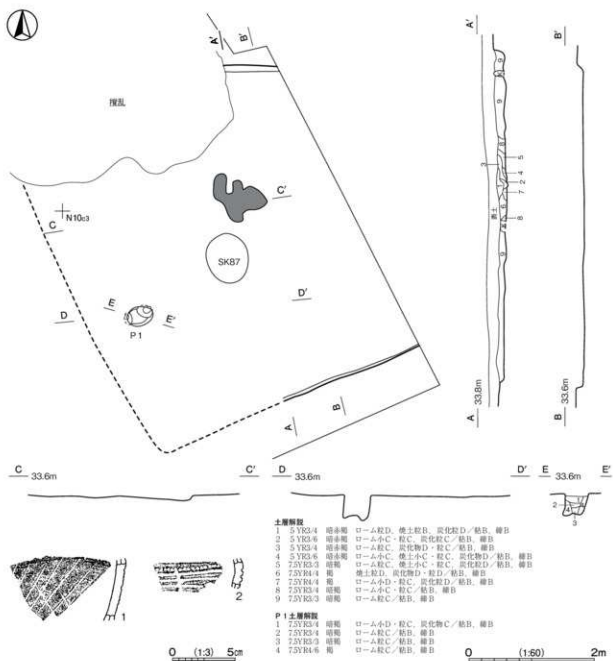
**炉** 長径89 cmの不定形で、ほぼ床面の高さを使用した地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

**ピット** P1は深さ40 cmで、性格は不明である。

**覆土** 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示しているため、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片14点（深鉢）が、覆土上層からまばらに出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から前期後葉と考えられる。



第12図 第37号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第7表 第37号竪穴建物跡出土遺物一覧(第12図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐色	普通	赤赤文様、平織竹管による平行沈線	覆土上層	浮高式 PL20
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粘粒子	(L)赤・黄褐色	普通	平織竹管による平行沈線、連続斜交文	覆土上層	浮高式 PL20

第8表 縄文時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	築高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				主な出土遺物	時期	備考		
								柱穴	出入口	竈	石礎穴					
15	J8c7	N-3°-E	長方形	5.30 × 4.76	20	平担	-	-	5	-	-	人為	縄文土器	前期後葉		
16	J8d9	N-10°-E	長方形	5.01 × 4.05	10	平担	-	-	4	1	-	自然	縄文土器	前期前葉		
20	J8e6	N-2°-W	方形	6.04 × 5.72	20	平担	-	6	-	4	1	-	自然	縄文土器	前期後葉	F15→本跡
37	N10c3	N-23°-W	[長方形]	5.21 × [4.56]	9	平担	-	-	1	1	-	人為	縄文土器	前期後葉	本跡→SK7	

## (2) 炉跡

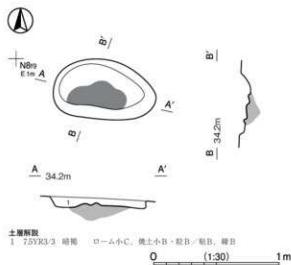
## 第1号炉跡 (第13図 PL.4)

**位置** 調査1区南西部のN89区, 標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径80cm, 短径48cmの楕円形で, 長径方向はN-71°-Wである。地山を8cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は凹凸があり, 被熱により赤変硬化している。

**覆土** 単一層である。層厚が薄く, 堆積状況は不明である。

**所見** 時期は, 形状から縄文時代と考えられる。



土層解説  
1 75YR3/3 暗褐色 ローム小C, 焼土小B・粒B/粘B, 雜土

第13図 第1号炉跡実測図

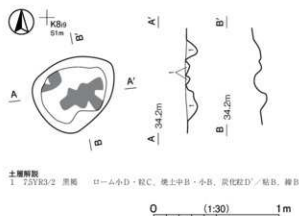
## 第2号炉跡 (第14図 PL.4)

**位置** 調査1区中央部のK89区, 標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径68cm, 短径54cmの楕円形で, 長径方向はN-54°-Eである。地山を8cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は凹凸があり, 被熱により赤変硬化している。

**覆土** 単一層である。確認面で既に炉床面の一部が露出していた。層厚が薄く, 堆積状況は不明である。

**所見** 時期は, 形状から縄文時代と考えられる。



土層解説  
1 75YR3/2 黒褐色 ローム小D・粒C, 焼土中B・小B, 炭化粒D'/粘B, 雜土

第14図 第2号炉跡実測図

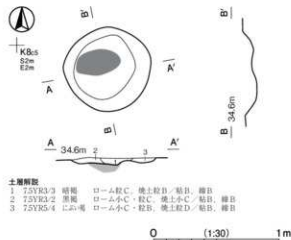
## 第3号炉跡 (第15図 PL.4)

**位置** 調査1区西部のK85区, 標高35mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径70cm, 短径66cmの円形である。地山を6cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は皿状にくぼみ, 被熱により弱く赤変している。明確な硬化は認められなかった。

**覆土** 3層に分層できる。層厚が薄く, 堆積状況は不明である。

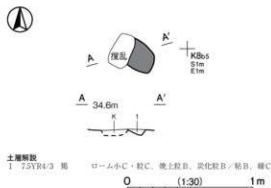
**所見** 時期は, 形状から縄文時代と考えられる。



土層解説  
1 75YR3/3 暗褐色 ローム粒C, 焼土粒B/粘B, 雜土  
2 75YR3/2 黒褐色 ローム小C・粒C, 焼土小C/粘B, 雜土  
3 75YR5/4 灰褐色 ローム小C・粒B, 焼土粒D/粘B, 雜土

第15図 第3号炉跡実測図

#### 第4号炉跡 (第16図 PL 4)



第16図 第4号炉跡実測図

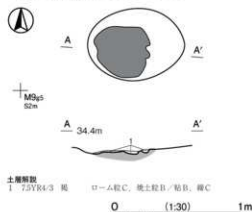
**位置** 調査1区西部のK8b5区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 攪乱を受けているため、北東・南西径21cm、北西・南東径19cmしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-62°-Wである。地山を4cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は凹凸があり、被熱により赤変硬化している。

**覆土** 単一層である。確認面で既に炉床面の一部が露出していた。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**所見** 時期は、形状から縄文時代と考えられる。

#### 第5号炉跡 (第17図 PL 5)



第17図 第5号炉跡実測図

**位置** 調査1区南部のM9g5区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

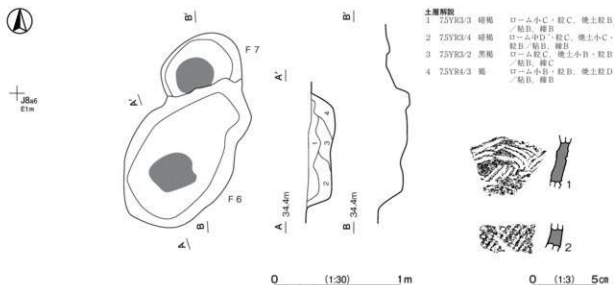
**規模と形状** 長径79cm、短径57cmの楕円形で、長径方向はN-86°-Eである。炉床面は凹凸があり、被熱により赤変硬化している。

**覆土** 単一層である。確認面で既に炉床面の一部が露出していた。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**所見** 周辺に第2号ピット群のP6・P7があることから、竪穴建物跡に伴う炉跡の可能性がある。時期は、形状から縄文時代と考えられる。

#### 第6・7号炉跡 (第18図)

**位置** 調査1区北部のJ8a6区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第18図 第6・7号炉跡・出土遺物実測図



**重複関係** 第6号炉が第7号炉跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 第6号炉跡は長径141cm、短径90cmの楕円形で、長径方向はN-42°-Eである。地山を21cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面はほぼ平坦であり、被熱により赤変硬化している。第7号炉跡は、重複により東西径は62cmで、南北径は48cmしか確認できなかった。地山を6cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は皿状にくぼみ、被熱により赤変硬化している。

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片5点（深鉢）が出土しているが、どちらの遺構に帰属する遺物かは不明である。

**所見** 周辺に第3号ピット群のP3・P5があることから、堅穴建物跡に伴う炉跡の可能性はある。時期は、出土遺物から前期前葉と考えられる。

第9表 第6・7号炉跡出土遺物一覧（第18図）

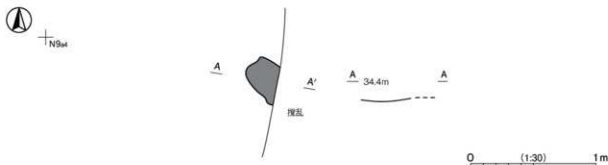
番号	種別	容積	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰褐色	普通	手載竹管による平行曲線	覆土中	黒浜式 PL22
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐色	普通	羽状縄文	覆土中	黒浜式 PL22

#### 第9号炉跡（第19図）

**位置** 調査1区南部のN9a4区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 東部が攪乱を受けており、南北径は40cmで、東西径は28cmしか確認できなかった。地表面と同じ高さで構築された地床炉である。炉床面は平坦で、被熱により赤変硬化している。

**所見** 時期は、形状から縄文時代と考えられる。



第19図 第9号炉跡実測図

#### 第14号炉跡（第20図 PL5）

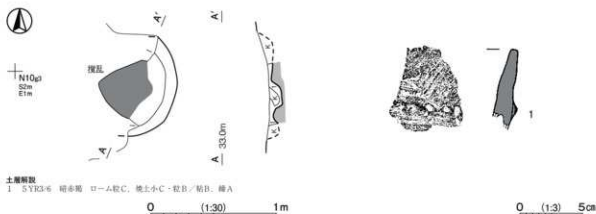
**位置** 調査1区南東部のN10g3区、標高33mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 西部は攪乱を受けており、南北径82cm、東西径58cmしか確認できなかった。地山を9cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は皿状にくぼみ、被熱により赤変硬化している。

**覆土** 単一層である。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**遺物出土状況** 縄文土器片1点（深鉢）が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から早期と考えられる。



第20図 第14号炉跡・出土遺物実測図

第10表 第14号炉跡出土遺物一覧(第20図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	胎土上に貝殻骨圧痕文 縦方向から斜方向に、貝殻骨痕文を施文	覆土中	手山下層 PL.22

### 第15号炉跡(第21図 PL.5)

**位置** 調査1区北西部のJ 86区、標高35mほどの台地平坦部に位置している。

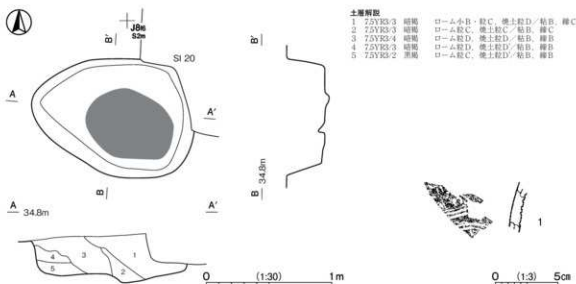
**重複関係** 第20号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径133cm、短径94cmの楕円形で、長径方向はN-77°-Wである。地山を37cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は凹凸があり、被熱により赤変硬化している。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片5点(深鉢)が、覆土中からまばらに出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から前期と考えられる。



第21図 第15号炉跡・出土遺物実測図

第11表 第15号炉跡出土遺物一覧(第21図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	木葉文 平截竹管による刺突文	覆土中	浮島式 PL22

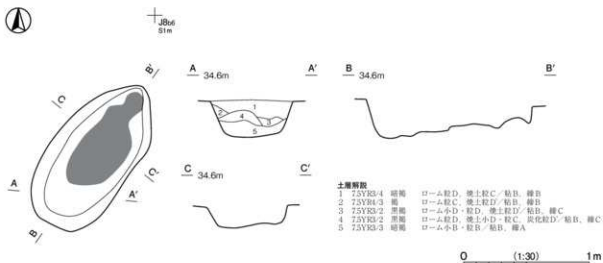
## 第16号炉跡(第22図)

**位置** 調査1区北西部のJ8b5区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径132cm、短径65cmの楕円形で、長径方向はN-35°-Eである。地山を28cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は凹凸があり、被熱により赤変硬化している。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**所見** 時期は、形状から縄文時代と考えられる。



第22図 第16号炉跡実測図

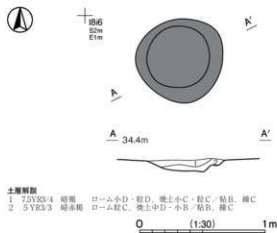
## 第17号炉跡(第23図)

**位置** 調査1区北西部のI8i6区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径70cm、短径68cmの円形である。地山を10cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は凹凸があり、被熱により赤変硬化している。

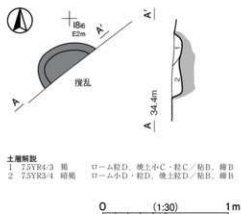
**覆土** 2層に分層できる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**所見** 周辺に第3号ピット群のP6~P8があることから、堅穴建物跡に伴う炉跡の可能性はある。時期は、形状から縄文時代と考えられる。



第23図 第17号炉跡実測図

第18号炉跡 (第24図)



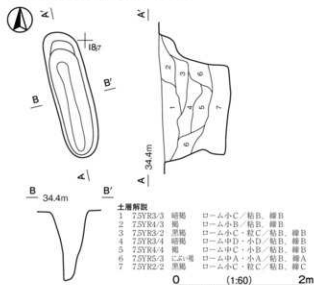
第24図 第18号炉跡実測図

第12表 縄文時代炉跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	風 箱		炉床面	覆土	時 期	備 考
				長径×短径 (cm)	深さ (cm)				
1	N 8 9	N - 71° - W	楕円形	80 × 48	8	凹凸	不明	縄文時代	
2	K 8 9	N - 54° - E	楕円形	68 × 54	8	凹凸	不明	縄文時代	
3	K 8 c5	-	円形	70 × 66	6	凹状	不明	縄文時代	
4	K 8 b5	N - 62° - W	[楕円形]	119 × 21	4	凹凸	不明	縄文時代	
5	M 9 a5	N - 66° - E	楕円形	79 × 57	1	凹凸	不明	縄文時代	
6	J 8 a6	N - 42° - E	楕円形	141 × 90	23	平坦	人為	前期商業	F7→本跡
7	I 8 9	-	[円形・楕円形]	62 × 48	6	凹状	-	前期商業	本跡→F6
9	N 9 a3	-	不定形	40 × 28	0	平坦	-	縄文時代	
14	N 10 g3	-	[円形・楕円形]	92 × 58	9	凹状	不明	早期	
15	J 8 9	N - 77° - W	楕円形	133 × 94	37	凹凸	人為	前期	本跡→S20
16	J 8 b5	N - 35° - E	楕円形	132 × 65	26	凹凸	人為	縄文時代	
17	I 8 9	-	円形	70 × 68	10	凹凸	不明	縄文時代	
18	I 8 9	-	[円形・楕円形]	50 × 21	8	凹凸	不明	縄文時代	

(3) 陥し穴

第43号土坑 (第25図 PL 5)



第25図 第43号土坑実測図

**位置** 調査1区北西部のI 8j6区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南東部が攪乱を受けており、北東・南西径50cm、北西・南東径21cmしか確認できなかった。地山を8cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面はやや凹凸があり、被熱により赤変硬化している。

**覆土** 2層に分層できる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**所見** 周辺に第3号ピット群のP 1・P 2・P 4があることから、堅穴建物跡に伴う炉跡の可能性はある。時期は、形状から縄文時代と考えられる。

**位置** 調査1区北西部のI 8j6区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径2.08m、短径0.60mの楕円形で、長径方向はN - 16° - Wである。深さは108cmで、短径側の底面は幅16cmで、断面はV字状である。壁はほぼ直立しており、長径側の壁は上部で外傾している。

**覆土** 7層に分層できる。壁面の崩落によってロームブロックが多く含まれる第2・5・6層と、ロームブロックが含まれる黒褐・暗褐色土からなる1・3・4・7層が堆積している。自然堆積と考えられる。

**所見** 時期は、形状と位置から縄文時代と考えられる。

## 第84号土坑 (第26図 PL 5)

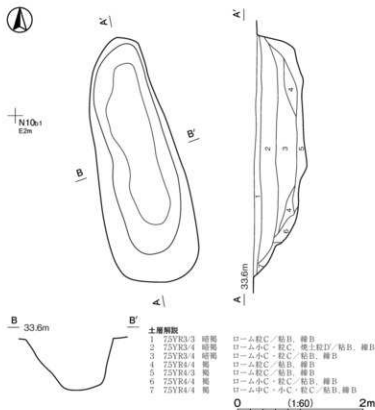
**位置** 調査1区南東部N10b1, 標高33mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長径3.94m, 短径1.42mの楕円形で, 長径方向はN-11°-Wである。深さは80cmで, 底面は幅44cmで断面はU字状である。北東側の壁面はほぼ直立し, 南西側の壁面は外傾している。

**覆土** 7層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

**遺物出土状況** 縄文土器片6点(深鉢)が覆土中からまばらに出土している。遺物は小片で図示できなかつた。

**所見** 時期は, 出土遺物から前期前葉と考えられる。



第26図 第84号土坑実測図

第13表 縄文時代陥し穴一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
43	I 8j6	N-16°-W	楕円形	2.08 × 0.60	108	V字状	直立・外傾	自然		縄文時代	
84	N 10b1	N-11°-W	楕円形	3.94 × 1.42	80	U字状	直立・外傾	自然	黒土式2, 浮島式4	前期前葉	

## (4) 土坑

当期の土坑は38基を確認した。以下で特筆すべき土坑について説明し, 他は実測図と一覧表を掲載する。

## 第11号土坑 (第27図 PL 3)

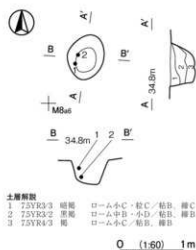
**位置** 調査1区中央部のL 8j6区, 標高35mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.71m, 短径0.57mの楕円形で, 長径方向はN-16°-Eである。深さは40cmで壁は外傾しており, 底面はほぼ平坦で, 東側に傾斜している。

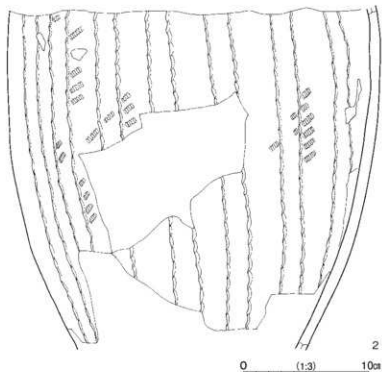
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。1はほぼ完形の状態で, 2は口縁部と底部が打ち欠かれた胴部のみ状態で出土している。覆土中層から出土しているため, 土坑を埋め戻す際に廃棄したと考えられる。

**所見** 時期は, 出土遺物から中期初頭と考えられる。



土層解説  
 1 75YR3-3 暗褐色 砂 砂  
 2 75YR3-2 黄褐色 砂 砂  
 3 75YR4-3 暗褐色 砂 砂

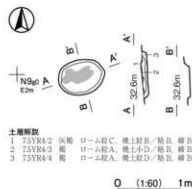


第27図 第11号土坑・出土遺物実測図

第14表 第11号土坑出土遺物一覧(第27図)

番号	種別	型種	口径	器高	取柄	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	9.2	11.8	7.8	長石・石英	灰黄褐色	普通	施文にR.L.縄文 口縁部外面に半截竹管による平行波線、連続刺状文	覆土中層	五箇+台式 PL.13
2	縄文土器	深鉢	-	(22.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	結節縄文を縦方向に施文	覆土中層	五箇+台式 PL.13

第57号土坑(第28図 PL.3)



土層解説  
 1 75YR4/2 灰褐色 砂 砂  
 2 75YR4/3 暗褐色 砂 砂  
 3 75YR4/4 暗褐色 砂 砂

**位置** 調査1区南東部のN9g0区、標高33mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長径0.73m、短径0.56mの楕円形で、長径方向はN-72°-Eである。底面は平坦で、深さは9cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層できる。第1層は被熱しており、火を焚いた可能性がある。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**所見** 時期は、形状から縄文時代と考えられる。

第28図 第57号土坑実測図

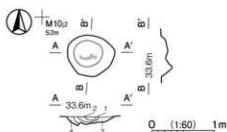
## 第68号土坑 (第29図 PL 4)

**位置** 調査1区南東部のM10j2区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.76 m、短径0.65 mの楕円形で、長径方向はN-84°-Eである。底面は凹凸があり、深さは17 cmである。壁は外傾して立ち上がっている。底面の一部に焼土を確認した。

**覆土** 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**所見** 時期は、位置と覆土から縄文時代と考えられる。



**土層解説**

1	7.5YR3/3	暗褐色	ローム小D・粒C・粘B、礫B
2	7.5YR3/2	黒褐色	ローム小C・粒C、焼土小D、粘B、礫B
3	7.5YR3/4	暗褐色	ローム中D・小C・粒C、焼土粒C/粘B、礫B
4	7.5YR4/3	褐色	ローム小D・粒C、焼土粒D/粘B、礫B

第29図 第68号土坑実測図

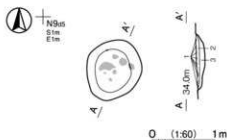
## 第69号土坑 (第30図 PL 4)

**位置** 調査1区南東部のN9d5区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.02 m、短径0.86 mの楕円形で、長径方向はN-22°-Eである。底面は皿状にくぼみ、深さは15 cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層できる。第1層は被熱しており、火を焚いた可能性がある。レンズ状の堆積状況を示すことから、自然堆積である。

**所見** 時期は、形状から縄文時代と考えられる。



**土層解説**

1	7.5YR3/3	暗褐色	ローム小C・粒C、焼土粒B/粘B、礫B
2	7.5YR3/4	暗褐色	ローム粒C、焼土小C・粒B/粘B、礫B
3	7.5YR2/2	黒褐色	ローム粒C、焼土小粒C・粒B、礫B

第30図 第69号土坑実測図

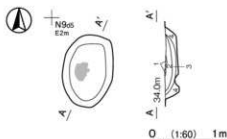
## 第72号土坑 (第31図 PL 4)

**位置** 調査1区南東部のN9d5区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.14 m、短径0.81 mの楕円形で、長径方向はN-11°-Eである。底面は平坦で、深さは23 cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 4層に分層できる。第1層は被熱しており、火を焚いた可能性がある。レンズ状の堆積状況を示すことから、自然堆積である。

**所見** 時期は、形状から縄文時代と考えられる。



**土層解説**

1	2.5YR3/3	暗赤褐色	ローム小C・粒C、焼土小C・粒C、炭化粒C/粘B、礫B
2	7.5YR3/3	暗褐色	ローム粒C、炭化粒D・粘B、礫B
3	7.5YR4/4	暗褐色	ローム粒C、炭化粒D・粘B、礫B
4	7.5YR4/4	暗褐色	ローム粒C・粘B、礫B

第31図 第72号土坑実測図

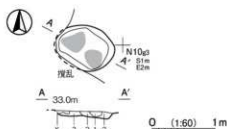
## 第73号土坑 (第32図 PL 4)

**位置** 調査1区西部のN10g3区、標高33mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 西部に攪乱を受けているが、長径0.93 m、短径0.70 mの楕円形と推定できる。長径方向はN-63°-Wである。底面は凹凸があり、深さは11 cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層できる。底面の一部に焼土が確認できた。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

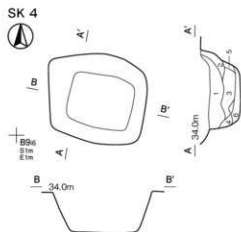
**所見** 時期は、形状から縄文時代と考えられる。



**土層解説**

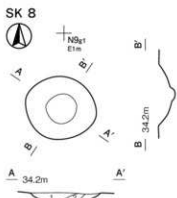
1	5YR3/4	暗赤褐色	ローム粒C、焼土小C・粒A、炭化粒D/粘B、礫B
2	5YR3/6	暗赤褐色	ローム粒C、炭化粒D・粘B、礫B
3	5YR3/4	暗赤褐色	ローム粒D、焼土小B・粒A・粘B、礫B

第32図 第73号土坑実測図



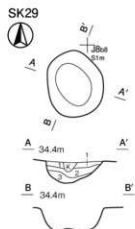
**土層解説**

- 1 75YR3-3 暗褐色 ローム粒D / 粘土、礫C
- 2 75YR4-3 暗褐色 ローム小D-粒C / 粘土、礫B
- 3 75YR2-3 黄褐色 ローム粒C / 粘土、礫C
- 4 75YR2-2 赤褐色 ローム小D-粒D / 粘土、礫C
- 5 75YR4-4 暗褐色 ローム粒B、硬上中B-小B / 粘土、礫B
- 6 75YR2-1 黄褐色 ローム粒D、炭化物A-粒A / 粘土、礫C



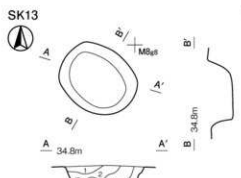
**土層解説**

- 1 75YR3-4 暗褐色 ローム小C / 粘土、礫B
- 2 75YR4-3 暗褐色 ローム粒C / 粘土、礫A
- 3 75YR4-4 暗褐色 ローム小B / 粘土、礫A



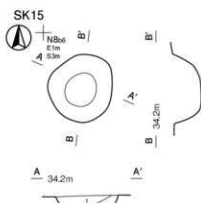
**土層解説**

- 1 75YR3-2 赤褐色 ローム粒D / 粘土、礫C
- 2 75YR3-4 暗褐色 ローム小C-粒D / 粘土、礫C
- 3 75YR3-3 暗褐色 ローム小D-粒C / 粘土、礫B



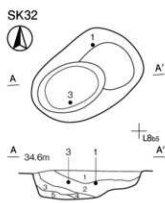
**土層解説**

- 1 75YR3-3 暗褐色 ローム小C-粒C / 粘土、礫B
- 2 75YR3-3 暗褐色 ローム小B / 粘土、礫B
- 3 75YR2-3 黄褐色 ローム中D-小B-粒D / 粘土、礫C
- 4 75YR2-3 暗褐色 ローム中D-小B / 粘土、礫B



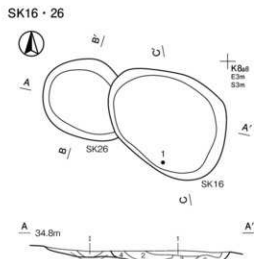
**土層解説**

- 1 75YR3-4 暗褐色 ローム小C / 粘土、礫B
- 2 75YR3-3 暗褐色 ローム小C-粒B / 粘土、礫B
- 3 75YR4-4 暗褐色 ローム小B / 粘土、礫B



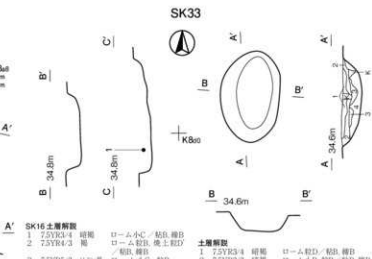
**土層解説**

- 1 75YR4-3 暗褐色 ローム中B-小C / 粘土、礫B
- 2 75YR2-2 赤褐色 ローム中C-小B / 粘土、礫B
- 3 75YR3-3 暗褐色 ローム中B-小B / 粘土、礫B
- 4 75YR2-2 黄褐色 ローム小C-粒C / 粘土、礫C
- 5 75YR3-3 暗褐色 ローム小D-粒C / 粘土、礫B



**SK26 土層解説**

- 1 75YR3-3 暗褐色 ローム小B / 粘土、礫B
- 2 75YR4-4 暗褐色 ローム小C / 粘土、礫B



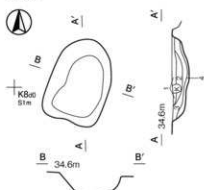
**土層解説**

- 1 75YR3-4 暗褐色 ローム粒D / 粘土、礫B
- 2 75YR3-3 暗褐色 ローム小B-粒D / 粘土、礫B
- 3 75YR3-2 赤褐色 ローム小C、炭化物D / 粘土、礫B
- 4 75YR4-3 暗褐色 ローム小C / 粘土、礫B

第33図 縄文時代土坑実測図(1)



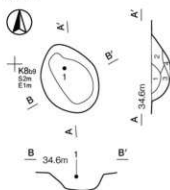
SK36



## 土層解説

- 1 75YR4-3 堀 Ⅰ→Ⅱ中B-小C / 粘土、雜土
- 2 75YR2-2 溝堀 Ⅰ→Ⅱ中C-小B / 粘土、雜土
- 3 75YR3-2 二重堀 Ⅰ→Ⅱ中B-小B / 粘土、雜土
- 4 75YR3-2 溝堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒C / 粘土、雜土

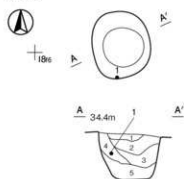
SK44



## 土層解説

- 1 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ粒C、黄土粒D / 粘土、雜土
- 2 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒B / 粘土、雜土
- 3 75YR4-4 堀 Ⅰ→Ⅱ中D-粒B / 粘土、雜土
- 4 75YR4-3 堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小B / 粘土、雜土

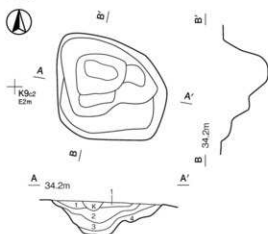
SK55



## 土層解説

- 1 5YR3-6 堀赤堀 Ⅰ→Ⅱ粒C、炭化粒D / 粘土、雜土
- 2 5YR3-4 堀赤堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒C / 粘土、雜土
- 3 5YR3-3 堀赤堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒C / 粘土、雜土
- 4 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-粒C / 粘土、雜土
- 5 75YR4-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小C-粒C / 粘土、雜土

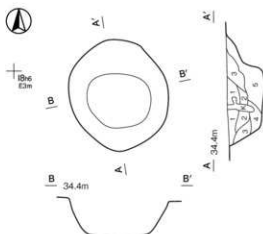
SK48



## 土層解説

- 1 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中B / 粘土、雜土
- 2 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中B-粒B / 粘土、雜土
- 3 75YR3-2 溝堀 Ⅰ→Ⅱ中B-小B-粒B / 粘土、雜土
- 4 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中B-小B-粒B / 粘土、雜土

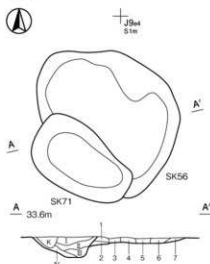
SK54



## 土層解説

- 1 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ粒C、炭化粒D / 粘土、雜土
- 2 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-粒C、炭化物D / 粘土、雜土
- 3 75YR4-3 堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小C-粒C / 粘土、雜土
- 4 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小C-粒C / 粘土、雜土
- 5 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中C-小C-粒C / 粘土、雜土

SK56・71



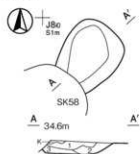
## SK56土層解説

- 1 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小D-粒D / 粘土、雜土
- 2 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ粒D / 粘土、雜土
- 3 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-粒D / 粘土、雜土
- 4 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒C、黄土粒D、炭化粒D / 粘土、雜土
- 5 75YR4-4 堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒C / 粘土、雜土
- 6 75YR4-4 堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小C-粒C / 粘土、雜土
- 7 75YR3-4 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小C-粒C、炭化粒D / 粘土、雜土

## SK71土層解説

- 1 75YR3-2 溝堀 Ⅰ→Ⅱ中C-小C-粒B / 粘土、雜土
- 2 75YR3-2 溝堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒B / 粘土、雜土
- 3 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中D-小C-粒C / 粘土、雜土
- 4 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ中C-粒C / 粘土、雜土

SK59

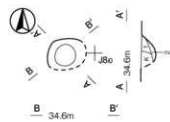


## 土層解説

- 1 75YR3-3 堀堀 Ⅰ→Ⅱ粒C / 粘土、雜土
- 2 75YR3-2 溝堀 Ⅰ→Ⅱ中C / 粘土、雜土
- 3 75YR4-3 堀 Ⅰ→Ⅱ中C / 粘土、雜土

第34図 縄文時代土坑実測図(2)

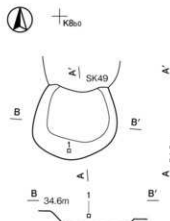
SK60



土層解説

- 1 75YR23-3 埴輪  
ローム粒D  
粘土、粘B
- 2 75YR23-2 赤褐色  
ローム小C-粒C  
粘土、粘B

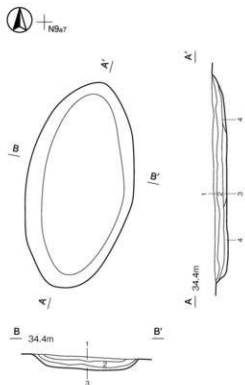
SK62



土層解説

- 1 75YR3-2 赤褐色  
ローム粒C  
粘土、粘B
- 2 75YR23-4 赤褐色  
ローム小C-粒C  
粘土、粘B

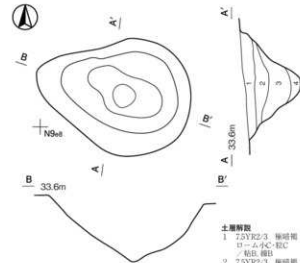
SK85



土層解説

- 1 75YR4-3 黒  
ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘土、粘A
- 2 75YR4-4 黒  
焼土粒D、炭化粒D/粘土、粘B
- 3 75YR4-6 黒  
ローム粒C/粘土、粘B
- 4 75YR3-4 赤褐色  
ローム小C-粒C/粘土、粘B

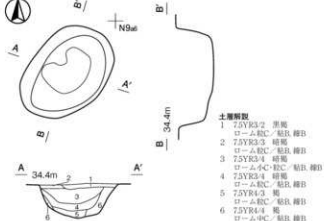
SK83



土層解説

- 1 75YR23-3 赤褐色  
ローム小C-粒C  
粘土、粘B
- 2 75YR23-3 赤褐色  
ローム小C-粒C  
粘土、粘B
- 3 75YR4-3 黒  
炭化粒C/粘土、粘B
- 4 75YR4-4 黒  
ローム小C-粒C  
粘土、粘B

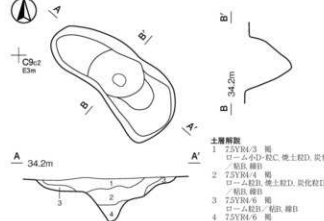
SK86



土層解説

- 1 75YR23-2 赤褐色  
ローム粒C  
粘土、粘B
- 2 75YR23-3 赤褐色  
ローム粒C  
粘土、粘B
- 3 75YR23-4 赤褐色  
ローム小C-粒C  
粘土、粘B
- 4 75YR23-4 赤褐色  
ローム粒C  
粘土、粘B
- 5 75YR4-3 黒  
ローム粒C/粘土、粘B
- 6 75YR4-4 黒  
ローム小C-粒C  
粘土、粘B

SK96



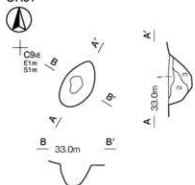
土層解説

- 1 75YR4-3 黒  
ローム小C-粒C、焼土粒D、炭化粒D  
粘土、粘B
- 2 75YR4-4 黒  
ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D  
粘土、粘B
- 3 75YR4-6 黒  
ローム粒C/粘土、粘B
- 4 75YR4-6 黒  
ローム中D-小C-粒C/粘土、粘B

0 (1:60) 2m

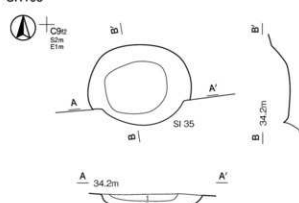
第35図 縄文時代土坑実測図(3)

SK97



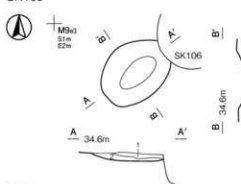
土層解説  
 1 75YR3-3 埴層 ローム小-C-粒C、炭化粒D / 粘B、礫B  
 2 75YR3-3 埴層 ローム中D-小C-粒C、粘B、礫B  
 3 75YR3-4 埴層 ローム中B-小C-粒C / 粘B、礫B

SK103



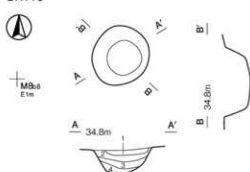
土層解説  
 1 75YR3-3 埴層 ローム粒C / 粘B、礫B  
 2 75YR3-2 埴層 ローム小-C-粒B / 粘B、礫B

SK105



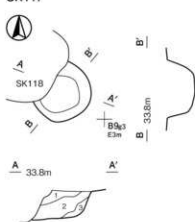
土層解説  
 1 75YR4-4 埴層 ローム粒B / 粘B、礫B  
 2 75YR4-6 埴層 ローム粒C / 粘B、礫B

SK110



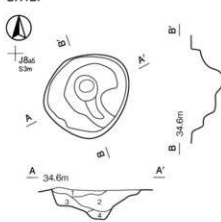
土層解説  
 1 75YR4-3 埴層 ローム粒C / 粘B、礫B  
 2 75YR4-3 埴層 ローム粒C / 粘B、礫A  
 3 75YR4-4 埴層 ローム粒C / 粘B、礫B  
 4 75YR4-4 埴層 ローム中-C-小C-粒C / 粘B、礫B

SK117



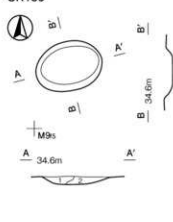
土層解説  
 1 75YR3-3 埴層 ローム小-C-粒C / 粘B、礫B  
 2 75YR4-3 埴層 ローム中B-小C / 粘B、礫B  
 3 75YR4-6 埴層 ローム小B / 粘B、礫B

SK127



土層解説  
 1 75YR3-2 埴層 ローム粒C、焼土粒D / 粘B、礫B  
 2 75YR3-3 埴層 ローム小D-粒C、炭化粒D / 粘B、礫B  
 3 75YR4-3 埴層 ローム粒B / 粘B、礫B  
 4 75YR3-4 埴層 ローム中-C-粒D / 粘B、礫B

SK136



土層解説  
 1 10YR4-3 C土層 ローム小-C-粒C、炭化粒D / 粘B、礫B  
 2 10YR4-4 埴層 ローム小D-粒C、炭化粒D / 粘B、礫B

0 (1:60) 2m

第36図 縄文時代土坑実測図(4)

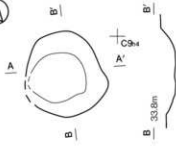
SK133



土層解説

- 1 10YR4/3 土中層 ①—A-段C、堆土段D、粘B、雜B  
2 10YR2/3 粘質 ①—A-段D、粘B、雜B  
3 10YR4/4 粘 ①—A-中D'-④D'-段C、粘B、雜B

SK135

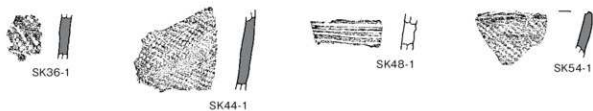


土層解説

- 1 7.5YR3/2 蒸氣 ①—A-中C-段C、堆土段D  
粘B、雜B  
2 7.5YR3/3 粘質 ①—A-段C、炭化段D  
粘B、雜B  
3 7.5YR4/3 粘 ①—A-中D'-段D  
粘B、雜B

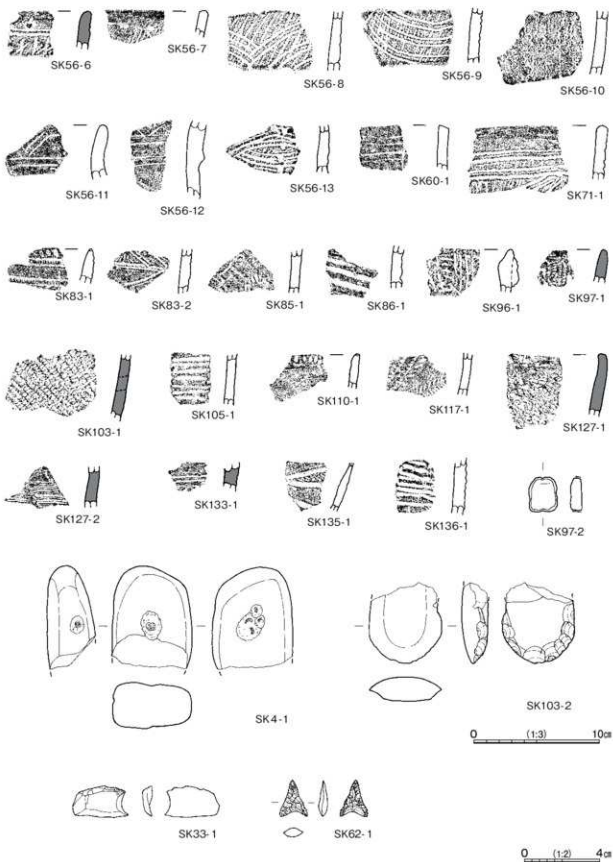


0 (1:60) 2m



0 (1:3) 10cm

第 37 図 縄文時代土坑・出土遺物実測図



第38図 縄文時代土坑出土遺物実測図

第15表 縄文時代土坑出土遺物一覧(第37・38図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の形態ほか	出土位置	備考
SK 8-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	半載竹管による連続刺突文	甕土中	浮島式 P120
SK13-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒焼	普通	燃余文後、半載竹管による平行沈線後、刺突文を垂下	甕土上層	浮島式 P120
SK15-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤焼	普通	半載竹管による平行沈線 具段腹縁による押引文	甕土上層	浮島式 P120
SK16-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤焼	普通	燃余文	甕土中層	浮島式 P120
SK29-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄焼	普通	引状縄文	甕土上層	黒式式 P120
SK32-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄焼	普通	燃余文後、半載竹管による押引き文	甕土中層	浮島式 P120
SK32-2	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	燃余文後、口縁部下に半載竹管による平行沈線 木葉文	甕土上層	浮島式 P120
SK32-3	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒	普通	引状縄文	甕土中層	黒式式 P121
SK32-4	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	燃余文	甕土上層	浮島式 P121
SK36-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤焼	普通	引状縄文	甕土下層	黒式式 P121
SK44-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰黒焼	普通	丸、縄文	甕土中層	黒式式 P121
SK48-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	灰黒焼	普通	口縁部下に半載竹管による平行沈線	甕土中層	浮島式 P121
SK54-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい焼	普通	丸、縄文	甕土中層	黒式式 P121
SK54-2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい焼	普通	肋管文	甕土上層	黒式式 P121
SK54-3	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒	普通	引状縄文	甕土下層	黒式式 P121
SK58-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい焼	普通	引状縄文	甕土上層	黒式式 P121
SK58-2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい焼	普通	LR 縄文	甕土中層	黒式式 P121
SK56-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	燃余文後、隆帯の貼付後、隆帯の上下に半載竹管による平行沈線 肋管文	甕土上層	浮島式 P121
SK56-2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰黒	普通	LR 縄文 口縁部直下に棒状工具による連続刺突	甕土中層	黒式式 P121
SK56-3	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	液状貝殻文後、半載竹管による押引文	甕土中層	浮島式 P121
SK56-4	縄文土器	深鉢	長石・石英	明焼	普通	燃余文後、半載竹管による押引文	甕土上層	浮島式 P121
SK56-5	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	半載竹管による2条の押引文後、合間に狭く横広の刺突文を充填	甕土中層	浮島式 P121
SK56-6	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒	普通	LR 縄文 口縁部直下に半載竹管による平行沈線	甕土上層	黒式式 P121
SK56-7	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明焼	普通	燃余文	甕土上層	黒式式 P121
SK56-8	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤焼	普通	燃余文後、肋管文	甕土中層	浮島式 P121
SK56-9	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤焼	普通	燃余文後、肋管文	甕土上層	浮島式 P121
SK56-10	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	液状貝殻文	甕土上層	浮島式 P121
SK56-11	縄文土器	深鉢	長石・石英	明焼	普通	貝殻文後、半載竹管による山形文	甕土上層	浮島式 P121
SK56-12	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	燃余文後、隆帯の貼付後、隆帯の上下に半載竹管による平行沈線 肋管文	甕土上層	浮島式 P121
SK56-13	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄焼	普通	燃余文後、半載竹管による木葉文後、液状口縁の頂点から刺突文を垂下	甕土中層	浮島式 P121
SK60-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	半載竹管による平行沈線	甕土中層	浮島式 P121
SK71-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤焼	普通	燃余文後、口縁部直下に半載竹管による2条の押引文後、肋管文	甕土中層	浮島式 P121
SK83-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	口唇部にキザミ目 燃余文後、半載竹管による押引文	甕土中層	浮島式 P121
SK83-2	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤焼	普通	燃余文後、肋管文	甕土中層	浮島式 P121
SK85-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	無紋 口、結節縄文	甕土中層	浮島式 P121
SK86-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	縦方向の条痕文	甕土中層	黒式式 P121
SK86-2	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい焼	普通	口唇部、口縁部直下、隆帯上に結節体圧痕	甕土中層	黒式式 P121
SK97-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	黒	普通	丸、縄文	甕土中層	黒式式 P121
SK103-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細繊維	にぶい焼	普通	丸、縄文	甕土中層	黒式式 P122
SK105-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	縦方向の条痕文	甕土中層	黒式式 P121
SK110-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい焼	普通	口唇部にキザミ目	甕土中層	浮島式 P121
SK117-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄焼	普通	半載竹管による押引文	甕土上層	浮島式 P121
SK127-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	LR 縄文	甕土中層	黒式式 P122
SK127-2	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・繊維	にぶい焼	普通	縦方向工具による沈線	甕土中層	黒式式 P122
SK133-1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒	普通	口縁部直下に半載竹管による平行沈線	甕土中層	黒式式 P122
SK135-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい焼	普通	丸、縄文後、磨削 三文文	甕土中層	後期、P122
SK136-1	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	縦方向の条痕文	甕土中層	黒式式 P122

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
SK97-2	土器片断	28	2.3	0.9	8.24	長石・石英	彫	周縁部研磨 両面に刻み目	覆土中	浮島式 PL24
番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質		特 徴	出土位置	備 考
SK 4-1	凹石	(8.2)	6.3	(3.8)	(276.3)	凝灰岩		表・裏・側面に磨行による浅い凹み 全面磨り調整	覆土中	PL24
SK33-1	銅片	17	29	0.5	3.07	ナット	フェザー		覆土中	PL25
SK62-1	石鏝	19	1.4	0.5	0.90	ナット	凹基無茶藨		覆土中層	PL25
SK103-2	磨製石芥	(6.4)	5.8	2.0	(95.56)	凝灰岩		分銅型。片面は全面研磨 反対は片側から研ぎ出し	覆土上層	PL24

第16表 縄文時代土坑一覧

番号	位置	長短方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4	B 9 丁	N - 79° - W	方形	1.57 × 1.42	65	平坦	外傾	自然	浮島式1	
8	N 9 6 丁	N - 70° - W	楕円形	1.16 × 1.00	28	U字状	縦斜	自然	浮島式1	
11	L 8 6 丁	N - 16° - E	楕円形	0.71 × 0.57	40	ほぼ平坦	外傾	人為	五輪×台式2	
13	M 8 6 丁	N - 57° - W	楕円形	1.24 × 1.02	40	平坦	外傾	自然	黒須式1、浮島式1	
15	N 8 16 丁	-	円形	1.09 × 1.02	45	U字状	外傾	自然	浮島式2	
16	K 8 a 8 丁	N - 45° - W	楕円形	2.12 × 1.55	28	平坦	外傾	自然	黒須式1、浮島式1	SK26 → 本跡
26	K 8 a 8 丁	N - 38° - W	楕円形	1.49 × 1.29	10	平坦	外傾	自然		本跡 → SK16
29	J 8 b 7 丁	N - 30° - W	楕円形	1.03 × 0.91	37	平坦	外傾	自然	黒須式5	
32	L 8 a 1 丁	N - 56° - E	楕円形	1.80 × 1.20	47	平坦	外傾	人為	黒須式1、溝堀 a 式4、浮島式7	
33	K 8 e 0 丁	N - 6° - E	楕円形	1.45 × 0.94	30	平坦	外傾	自然		
36	K 8 4 0 丁	N - 20° - E	楕円形	1.30 × 0.97	32	平坦	外傾	自然	黒須式1、浮島式1	
41	K 8 b 9 丁	N - 21° - W	楕円形	1.14 × 0.87	25	平坦	外傾	自然	黒須式3	
48	K 9 b 2 丁	N - 43° - W	楕円形	2.10 × 1.66	74	U字状	外傾	自然	黒須式2、浮島式1	
54	I 8 b 7 丁	N - 4° - W	楕円形	1.88 × 1.57	61	平坦	ほぼ直立	自然	黒須式25	
55	I 8 e 6 丁	N - 17° - W	楕円形	1.04 × 0.93	72	平坦	直立	自然	黒須式40	
56	J 9 e 3 丁	N - 46° - W	楕円形	2.50 × (1.32)	14	平坦	縦斜	自然	黒須式38、溝堀 a 式8、浮島式25	本跡 → SK71
57	N 9 a 0 丁	N - 72° - E	楕円形	0.73 × 0.56	9	平坦	外傾	不明		
59	J 8 4 0 丁	N - 35° - E	[楕円形]	(0.94) × 0.92	22	平坦	外傾	不明		本跡 → SK28
60	J 8 1 9 丁	N - 59° - E	[楕円形]	0.66 × (0.52)	20	U字状	外傾	自然	浮島式2	
62	K 8 1 0 丁	-	[円形・楕円形]	(1.10) × 1.30	22	平坦	縦斜	自然		本跡 → SK49
68	M 1 0 2 丁	N - 84° - E	楕円形	0.76 × 0.65	17	円凸	外傾	人為		
69	N 9 4 5 丁	N - 22° - E	楕円形	1.02 × 0.86	15	U字状	縦斜	自然		
71	J 9 e 3 丁	N - 61° - W	楕円形	1.68 × 1.00	34	U字状	外傾	自然	黒須式1、溝堀 a 式2、浮島式1	SK56 → 本跡
72	N 9 4 5 丁	N - 11° - E	楕円形	1.14 × 0.81	23	平坦	外傾	自然		
73	N 1 0 6 丁	N - 63° - W	楕円形	0.93 × 0.70	11	円凸	外傾	不明		
83	N 9 4 8 丁	N - 77° - W	不整形楕円形	2.50 × 1.87	105	U字状	外傾	自然	黒須式4、浮島式2	
85	N 9 a 7 丁	N - 9° - E	楕円形	3.27 × 1.69	25	平坦	外傾	自然	型式不明 (中層。) 1	
86	N 9 a 5 丁	N - 47° - E	楕円形	1.68 × 1.20	60	平坦	外傾	自然	糸敷文系1、黒須式3	
90	C 9 c 3 丁	N - 52° - W	楕円形	2.27 × 1.00	74	U字状	外傾	自然	型式不明 (中層。) 1	
97	C 9 a 8 丁	N - 31° - E	楕円形	0.78 × 0.47	35	U字状	外傾	自然	黒須式3	
103	C 9 e 2 丁	-	[円形]	1.62 × (1.20)	26	平坦	外傾	自然	黒須式5、型式不明2、磨製石芥1	本跡 → SK26
105	M 9 e 3 丁	N - 53° - E	楕円形	(1.14) × 0.90	12	平坦	縦斜	自然	糸敷文系1、浮島式1	本跡 → SK106
110	M 8 a 8 丁	-	円形	0.98 × 0.98	41	平坦	外傾	自然	浮島式3	
117	B 9 丁	-	[円形・楕円形]	0.93 × (0.65)	45	平坦	外傾	自然	浮島式1	本跡 → SK118
127	J 8 a 5 丁	N - 46° - E	楕円形	1.40 × 1.23	70	円凸	外傾	自然	黒須式3、浮島式1	
133	I 8 5 丁	-	円形	0.47 × 0.45	24	平坦	ほぼ直立	自然	黒須式1	
135	C 9 b 3 丁	-	[円形]	1.34 × (1.25)	18	平坦	外傾	自然	型式不明 (後層。)	
136	M 9 e 5 丁	N - 76° - E	楕円形	1.06 × 0.77	15	平坦	縦斜	自然	糸敷文系1、黒須式3	

(5) 遺物包含層

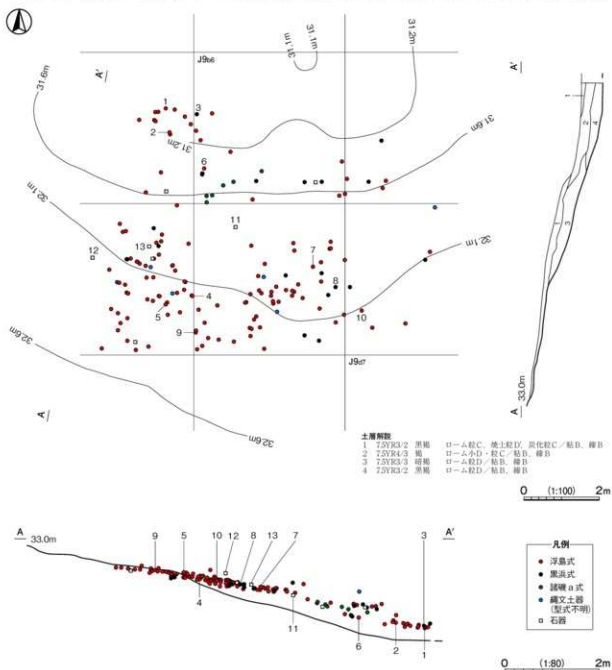
第1号遺物包含層 (第39・40図)

位置 調査1区J9b5からJ9c7区、標高32.9mの台地斜面部に位置している。

確認状況 包含層南部の緩斜面から北部にかけて、等高線に直交するようにA-A'ラインの土層ベルトを設定し、遺物包含層の範囲を確認するとともに、堆積状況の調査を行った。斜面上方で約0.4m、下方で約0.9m掘り下げたところ、遺物を多く含む層を確認した。

調査方法 J9b5区を北西隅の起点として、確認範囲に4mのグリッドを設定した。時期決定が可能であると判断できた出土遺物は座標値を記録し、その他の遺物はグリッドごとに15cmずつ深さを記録して取り上げた。

包含層の広がりや堆積状況 東西の幅は9.1m、南北の幅は6.2m確認され、北側はエリア外へ続く。高低差は1.8mで、確認面での傾斜角は5°である。3層に分層でき、全体の層厚は0.6mである。第1層は黒褐色



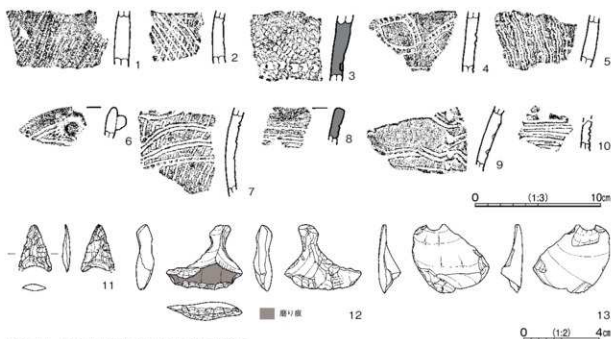
第39図 第1号遺物包含層実測図



土を主体とする自然堆積層で、第2・3層を覆うように堆積している。第2層は褐色土を主体とする自然堆積層で、標高31.9m付近から堆積がはじまり、エリア外まで広がる。第3層は暗褐色土を主体とする自然堆積層で、標高32.4m付近から堆積がはじまり、標高31.4m付近までで収束する。遺物は主に第2・3層から出土している。第4層は無遺物層である。

**遺物出土状況** 縄文土器片161点(深鉢)、石器6点(石鏃1、石匙1、磨石2、剥片2)が出土している。これらの遺物の内、遺物の位置記録を行ったものを第39図に図示した。黒浜式土器の垂直分布をみると、第2層下部と第3層下部に集中して確認できる。諸磯a式土器は、第2層上部に分布し、平面的にも一地点にまとまっている。浮島式土器は遺物包含層全体から均等に出土している。

**所見** 集落が形成された台地上からの土砂の流入と共に形成された遺物包含層と考えられる。各層の時期は、出土遺物から、第1層は前期後葉以降、第2層は前期後葉、第3層は前期前葉と考えられる。



第40図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第17表 第1号遺物包含層出土遺物一覧(第40図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はさか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐色	普通	黒糸文	J955	浮島式 PL.22	
2	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	黒糸文後、半載竹管による平行沈線	J955	浮島式 PL.22	
3	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	暗	普通	羽状縄文、紐部部に半載竹管による連続刺突文	J955	黒浜式 PL.22	
4	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい暗	普通	波状貝殻文後、木葉文	J955	浮島式 PL.22	
5	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	櫛歯状工具による沈線	J955	浮島式 PL.22	
6	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	黒糸文後、口縁部直下に押引文、波状口縁直下に瘤状突起彫文	J956	浮島式 PL.22	
7	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	黒糸文後、半載竹管による押引文・沈線	J956	浮島式 PL.22	
8	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	半載竹管による平行沈線間に連続刺突文	J956	黒浜式 PL.22	
9	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	黒糸文後、半載竹管による平行沈線	J956	浮島式 PL.22	
10	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	半載竹管による平行沈線 焼成後穿孔	J957	浮島式 PL.22	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	石鏃	2.5	(1.7)	0.4	(1.0)	安山岩	羽基無葉縁 脚部欠損	J956	PL.25
12	石匙	3.4	4.0	1.0	8.0	チャート	刃部表裏から交互に押圧潤滑 表面磨り肌	J955	PL.25
13	剥片	3.6	4.0	1.1	11.0	チャート	打点欠損	J955	PL.25

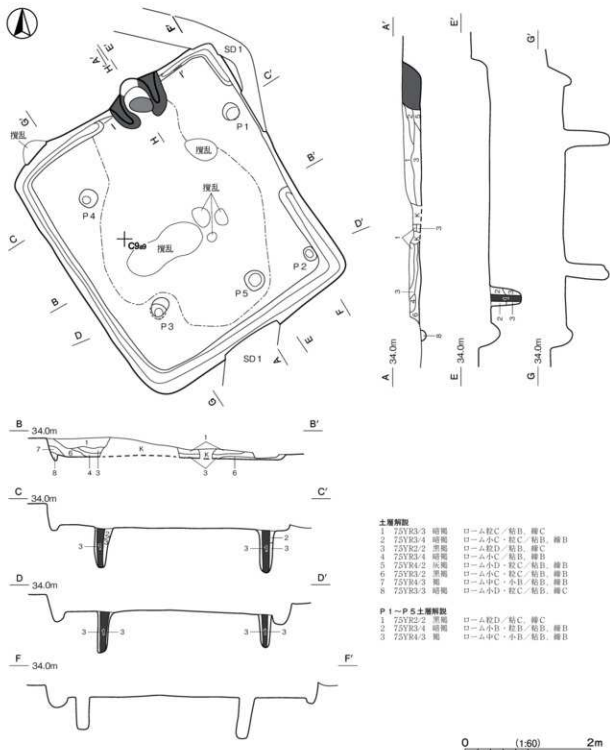
### 3 古墳時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、堅穴建物跡 16 棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### 堅穴建物跡

#### 第2号堅穴建物跡（第41～42図 PL 5）

位置 調査2区北東部のB99区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第41図 第2号堅穴建物跡実測図

**重複関係** 第1号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.26 m、短軸3.82 mの長方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁は高さ19～32 cmで、外傾して立ち上がっている。中央部は攪乱を受けている。

**床** 平坦で、竈前から中央部が踏み固められている。北東壁下の一部を除いて壁溝が巡っている。

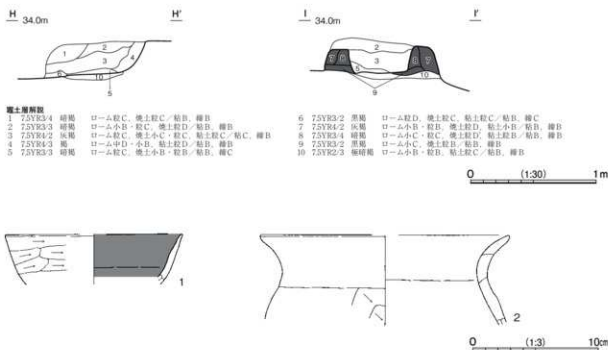
**竈** 北西壁北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで76 cmで、燃焼部幅は42 cmである。竈は床面から5 cmほど掘り込まれ、第10層を埋土して整地されている。左袖部は地山の上に、右袖部は整地面の上面に、第7～9層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に20 cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ54～68 cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ50 cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。全ての柱穴に柱痕跡を確認した。

**覆土** 8層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから、自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片90点(坏5、甕84、不明1)、須恵器片1点(甕)、土製品1点(支脚)、焼成粘土塊3点(34 g)、鉄洋1点(7 g)が出土している。2は西部の覆土下層、1は北部の覆土上層から出土している。北部上層と西部下層から土師器甕がまとめて出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、7世紀前半以前と考えられる。



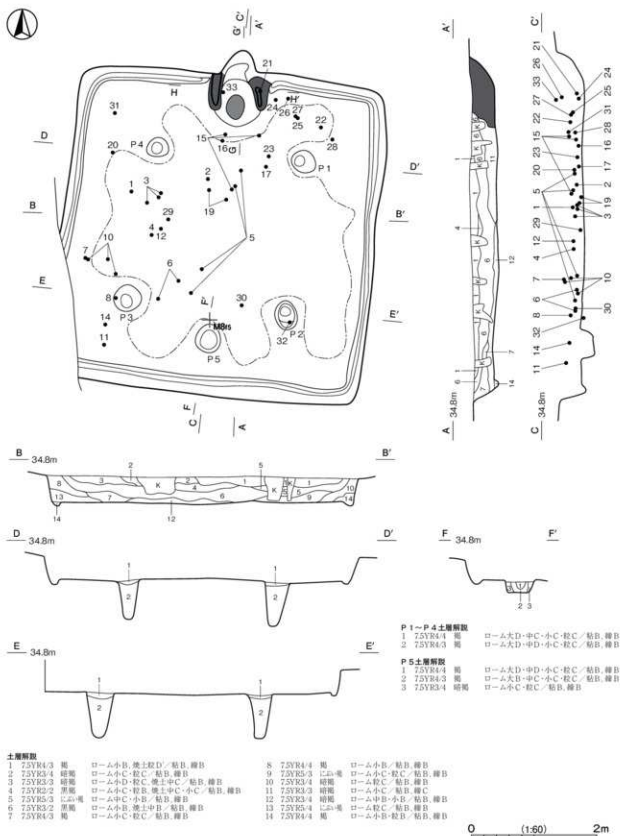
第42図 第2号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第18表 第2号堅穴建物跡出土遺物一覧(第42図)

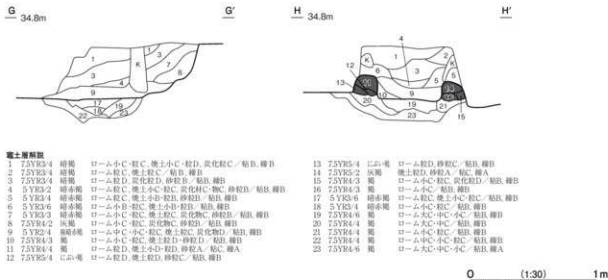
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	(4.0)	-	長石・石英・ 黑色粒子	にふい煙	普通	体部外面へラ削り肌、口縁部横ナデ、内面横ナデ 内面黑色塗	覆土上層	5%
2	土師器	甕	[19.6]	(7.1)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り肌、口縁・器部外面横ナデ、内面 横ナデ	覆土下層	10%

第5号竖穴建物跡 (第43～46図 PL 5・6)

位置 調査1区南西部のM 8e5区、標高35mほどの台地平坦部に位置している。



第43図 第5号竖穴建物跡実測図(1)



第44図 第5号竈穴建物跡実測図(2)

**規模と形状** 南西コーナー部が調査区外に延びているが、長軸5.14m、短軸4.95mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ36~40cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は全周していると思われる。

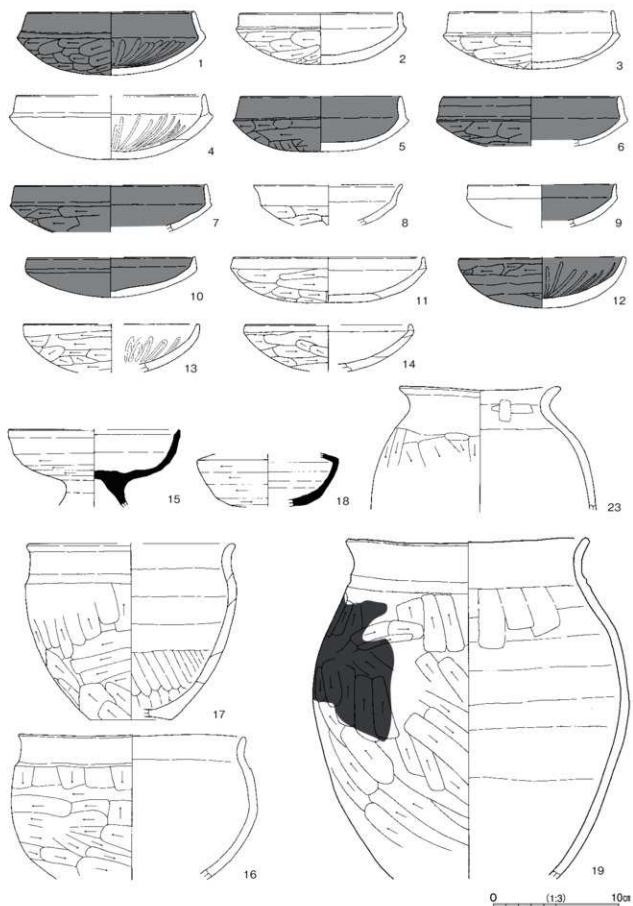
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで121cmで、燃焼部幅は46cmである。竈は床面から18cmほど掘り込まれ、第17~23層を埋土して整地されている。袖部は整地面の土に、第11~16層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 5か所。P1~P4は深さ60~70cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。

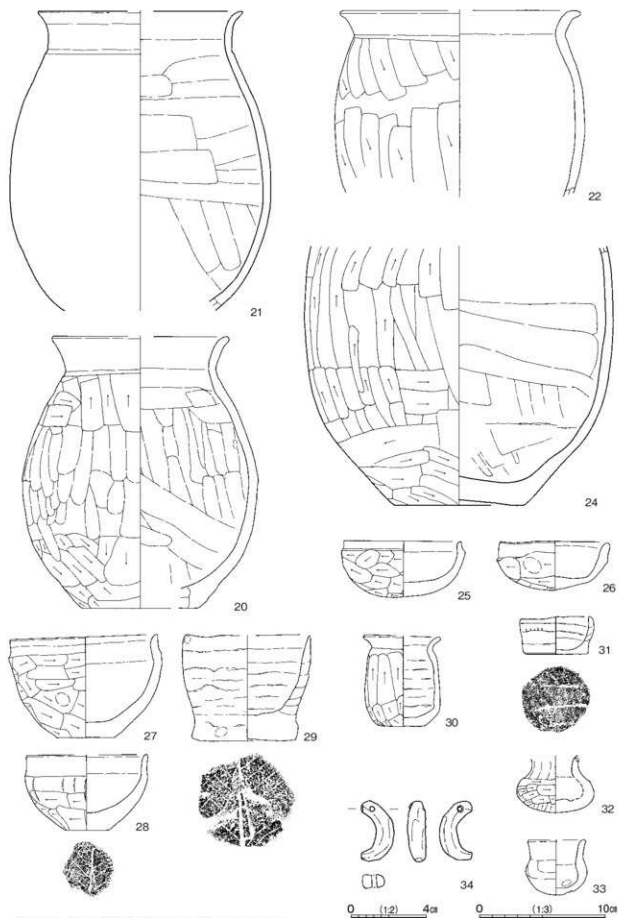
**覆土** 14層に分層できる。各層にロームブロックや粒子を含み、不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片647点(坏176、鉢8、甕454、手捏土器9)、須恵器片4点(坏2、高坏1、短頸壺1)、土製品1点(勾玉)が出土している。遺構の北西半部に多く出土しており、ほとんどが第6層中からの出土であり、竈穴建物の廃絶に伴い一括廃棄したものと思われる。また、手捏土器や土製勾玉が出土しており、建物の廃絶に伴う祭祀の可能性がある。竈周辺の遺物は正位で出土しているものが多く、まとめて出土している。25・27は重なった状態で出土している。また、33は竈上部から正位で出土している。21は竈の右袖を壊し、逆位で廃棄されている。32は、床面と同じ高さで、P2の直上から出土しており、P2の柱を抜いた後に廃棄されたと考えられる。34はP5の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第45图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第46図 第5号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

第19表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(第45・46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[128]	4.9	-	長石・石英	灰褐色	普通	体部外面へう割り 内面放射状へう割き 外・内面黒色処理	覆土中層	50% PL13
2	土師器	坏	126	4.1	-	長石・石英	明褐色	普通	体部外面へう割り 内面ナデ	覆土中層	60% PL13
3	土師器	坏	[130]	4.6	-	長石・石英・細礫	にぶい褐色	普通	体部外面多方向へう割り 内面ナデ	覆土中層	40% PL13
4	土師器	坏	[150]	5.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面滑らかに調整不明 内面放射状へう割き	覆土中層	40% PL13
5	土師器	坏	[127]	4.5	-	長石・石英	暗褐色	普通	体部外面多方向へう割り 外・内面黒色処理	覆土中層	50% PL13
6	土師器	坏	[140]	4.0	-	長石・石英	灰褐色	普通	体部外面へう割り 外・内面黒色処理	覆土中層	30%
7	土師器	坏	[151]	3.7	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部外面へう割り 外・内面黒色処理	覆土上層	30%
8	土師器	坏	[116]	3.2	-	長石・石英	黄褐色	普通	体部外面へう割り 内面ナデ	覆土中層	10%
9	土師器	坏	[118]	3.4	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部外面滑らかに調整不明 内面黒色処理	覆土中層	30%
10	土師器	坏	[133]	3.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面多方向ナデ 外・内面黒色処理	覆土上・下層	40%
11	土師器	坏	151	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面一方向へう割り	覆土上層	80% PL13
12	土師器	坏	[132]	4.0	-	長石・石英・細礫	にぶい褐色	普通	体部外面へう割り・ナデ 内面放射状へう割き(時どど回り)	覆土中層	60% PL13
13	土師器	坏	[140]	3.8	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部外面へう割り・ナデ 内面放射状へう割き(時どど回り)	覆土中	40%
14	土師器	坏	[130]	3.7	-	長石・石英	明褐色	普通	体部外面多方向へう割り 内面丁寧ナデ	覆土中層	10%
15	須恵器	高坏	[136]	6.2	-	長石・石英	赤褐色	普通	坏底下凹陥へう割り 外面隆起	覆土上・中層	50% PL13
16	土師器	鉢	177	(116)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ 外・内面黒熱による変色	覆土下層	80% PL13
17	土師器	鉢	[162]	14.0	[6.4]	長石・石英・細礫	橙	普通	体部外面へう割り 内面ナデ 底部外面一方向へう割り	覆土下層	70% PL13
18	須恵器	短頸土	-	(4.1)	-	長石・石英	暗褐色	普通	頸部外面にわずかに隆起 体部下凹陥へう割り	南部覆土下層	20% PL13
19	土師器	変	188	(27.0)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面へう割り 体部外面隆起付着 内面ナデ	覆土下層	80% PL13
20	土師器	変	[136]	(21.6)	[9.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面へう割り・ナデ 内面ナデ	覆土中層	40% PL13
21	土師器	変	[160]	(23.7)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面滑らかに調整不明 内面横ナデ	覆土下層	30%
22	土師器	変	[185]	(14.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	覆土中層	30%
23	土師器	変	126	(9.8)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面丁寧ナデ 内面横ナデ	覆土下層	30% PL13
24	土師器	変	-	(20.5)	10.4	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面へう割り 底部外面多方向へう割り	覆土下層	30%
25	土師器	手捏土器	9.2	4.5	-	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へう割り 内面ナデ	覆土中層	95% PL13
26	土師器	手捏土器	8.5	3.9	-	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へう割り 体部外面隆起 内面横ナデ	覆土上層	80% PL14
27	土師器	手捏土器	11.5	8.2	4.6	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へう割り 底部外面多方向へう割り 内面横ナデ	覆土中層	100% PL14
28	土師器	手捏土器	[9.6]	6.0	3.6	長石・石英・細礫	明赤褐色	普通	体部外面へう割り 内面ナデ 底部木葉痕	覆土中層	70% PL14
29	土師器	手捏土器	[9.8]	8.4	7.5	長石・石英・細礫	橙	普通	外面には彫形を行わない 成形時の統合使用に際する底部外面木葉痕 内面上半丁寧ナデ 下半横ナデ	覆土下層	50% PL14
30	土師器	手捏土器	[5.8]	7.3	3.7	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ 内面縦合痕	覆土中層	90% PL14
31	土師器	手捏土器	5.4	3.0	4.8	長石・石英	橙	普通	外・内面滑らかな 底部外面に直線状の圧痕複数	覆土中層	95% PL14
32	土師器	手捏土器	-	(4.5)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面へう割り 内面ナデ	P2直上	95% PL14
33	土師器	手捏土器	[4.6]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面横ナデ 内面に指痕 底部外面に工具痕	覆土上層	90% PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
34	勾玉	3.2	1.8	1.0	0.2	466	長石・石英	赤褐色	片側から穿孔	P3覆土上層	PL24

## 第6号竪穴建物跡(第47・48図 PL 6)

位置 調査1区南西部のM8h7区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

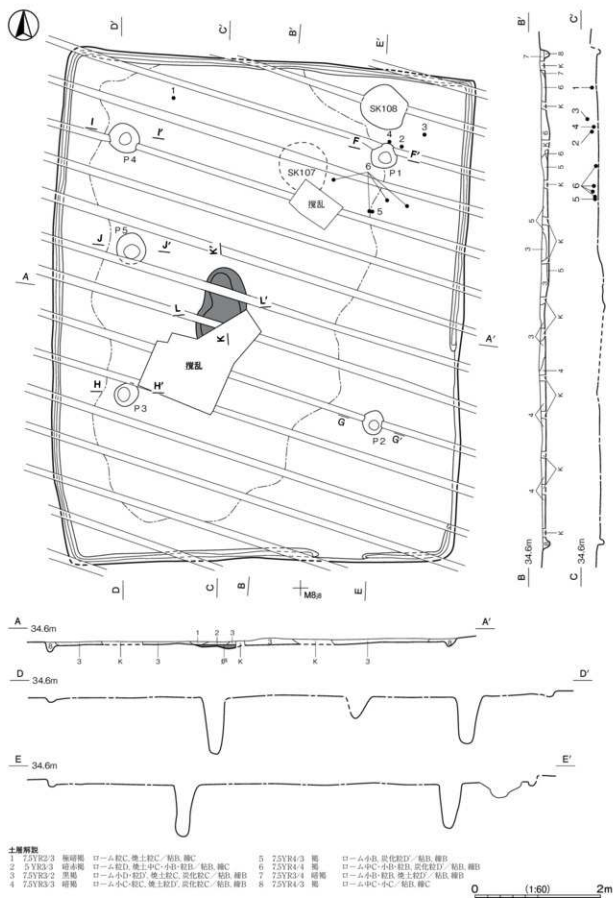
重複関係 第107号土坑を掘り込み、第108号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.18m、短軸6.53mの長方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ7~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、北壁際から中央部が踏み固められている。南壁と東壁下の一部を除いて壁溝が巡っている。

炉 中央部西寄りに付設されている。地山を浅く掘りくぼめた地床炉である。南東部に攪乱を受けており、南北径90cm、東西径79cmしか確認できなかった。炉床面はわずかに凹凸があり、赤変硬化している。





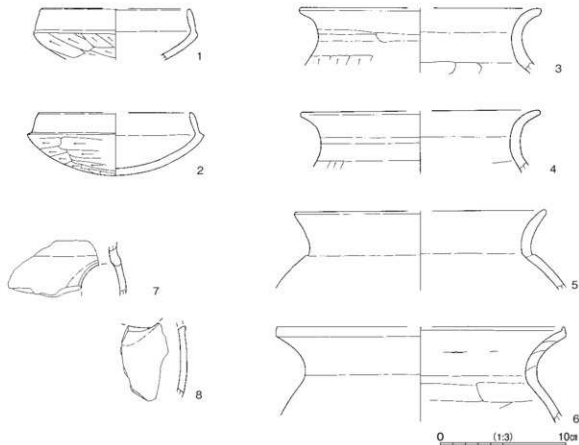
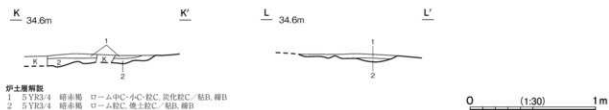
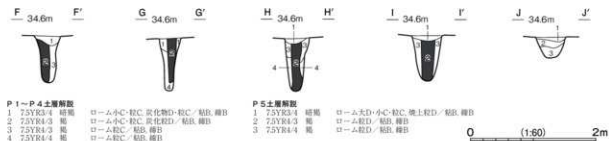
第17図 第6号竪穴建物跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ72～90cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ38cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。支柱穴の第2層は柱痕跡である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片567点(坏34, 蓋1, 鉢48, 甕480, 瓶1, 円窓土器, 2, 不明1), 須恵器片4点(坏)が出土している。北壁, 東壁に沿って遺物が出土し, 特に北東コーナー部付近に遺物が集中して出土している。

所見 時期は出土遺物から7世紀前葉と考えられる。性格は不明であるが, 竈がないことから特殊な遺構と考えられる。



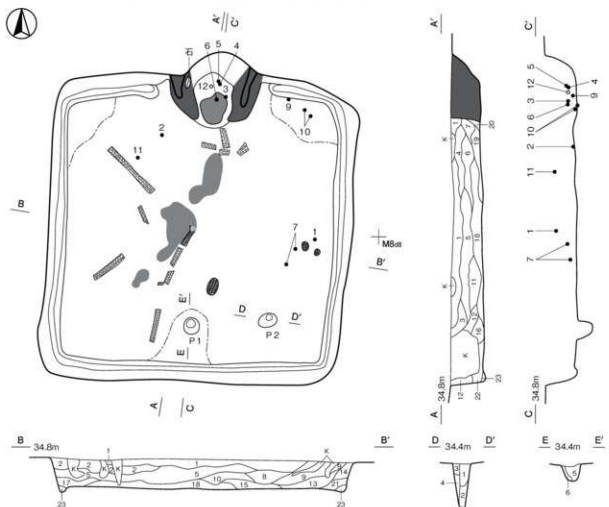
第48図 第6号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第20表 第6号竪穴建物跡出土遺物一覧(第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土師器	坏	116	41	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面へう張り 内面ナデ		甕土層	20%
2	土師器	坏	120	50	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へう張り		甕土層	10%
3	土師器	甕	186	52	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面へう張り 内面ナデ		甕土層	10%
4	土師器	甕	186	50	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面へう張り 内面ナデ		甕土層	10%
5	土師器	甕	197	63	-	長石・石英・赤色粒子・磁粒	明赤褐色	普通	外・内面着減により調整不明 体部内面横ナデ		甕土層	10%
6	土師器	甕	226	76	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面着減により調整不明		甕土層	10%
7	土師器	円形土器	-	45	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	体部外・内面ナデ		甕土中	5% PL22
8	土師器	円形土器	-	61	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	体部外・内面ナデ		甕土中	5% PL22

第8号竪穴建物跡(第49～52図 PL.6)

位置 調査1区南西部のM 8c7区、標高35mほどの台地平坦部に位置している。



土層解説			P1・P2土層解説				
1	75YK3-3	埴輪	ロ-A-粒C・焼土粒D/粘丸・磁C	13	75YK2-3	埴輪	ロ-M-小丸・焼土粒D/粘丸・磁B
2	75YK3-4	埴輪	ロ-A-粒D・炭化粒D/粘丸・磁B	14	75YK2-2	埴輪	ロ-M-小丸/粘丸・磁C
3	75YK4-3	埴輪	ロ-A-中D・小丸/粘丸・磁B	15	75YK3-3	埴輪	ロ-A-大D・中D・小丸・炭化物D/粘丸・磁B
4	75YK4-4	埴輪	ロ-A-中C・小丸/粘丸・磁B	16	75YK4-4	埴輪	ロ-A-中C・焼土粒D/粘丸・磁B
5	75YK2-3	埴輪	ロ-A-中D・小丸/粘丸・磁B	17	75YK2-2	埴輪	ロ-A-粒D・炭化粒D/粘丸・磁B
6	75YK3-4	埴輪	ロ-A-中C・焼土粒D/炭化粒D/粘丸・磁B	18	75YK3-3	埴輪	ロ-A-中C・粒C/粘丸・磁B
7	75YK3-2	埴輪	ロ-A-小D・粘丸・磁B	19	75YK2-3	埴輪	ロ-A-大D・中C・小丸・焼土粒C/粘丸・磁B
8	75YK3-3	埴輪	ロ-A-中C・小丸/粘丸・磁B	20	75YK3-2	埴輪	ロ-A-粒C/粘丸・磁B
9	75YK4-4	埴輪	ロ-A-中D・小丸/粘丸・磁B	21	75YK3-3	埴輪	ロ-A-中C・焼土粒D/炭化粒D/粘丸・磁B
10	75YK4-3	埴輪	ロ-A-中B/粘丸・磁B	22	75YK4-4	埴輪	ロ-A-粒D・焼土粒D/炭化粒D/粘丸・磁C
11	75YK3-2	埴輪	ロ-A-中C・小丸・焼土粒D・炭化粒D/粘丸・磁B	23	75YK4-4	埴輪	ロ-A-中C・小C/粘丸・磁B
12	75YK3-3	埴輪	ロ-A-中C・小C・粒C/粘丸・磁B				

第49図 第8号竪穴建物跡実測図(1)

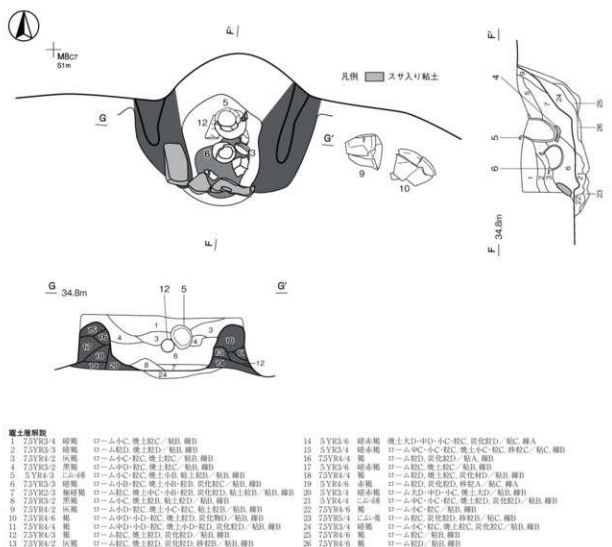
**規模と形状** 長軸 4.94 m、短軸 4.90 m の方形で、主軸方向は N-6°-E である。壁は高さ 44~58 cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 121 cm で、燃焼部幅は 56 cm である。竈は床面から 10 cm ほど掘り込まれ、第 21~26 層を埋土して整地されている。左軸は地山の上に、右軸は整地地面の上に、砂粒を含む第 10~20 層をブロック状に積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に 42 cm ほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 2 か所。P 1 は深さが 26 cm で、配置から出入口施設に伴うピットである。P 2 は深さが 70 cm で、性格は不明である。

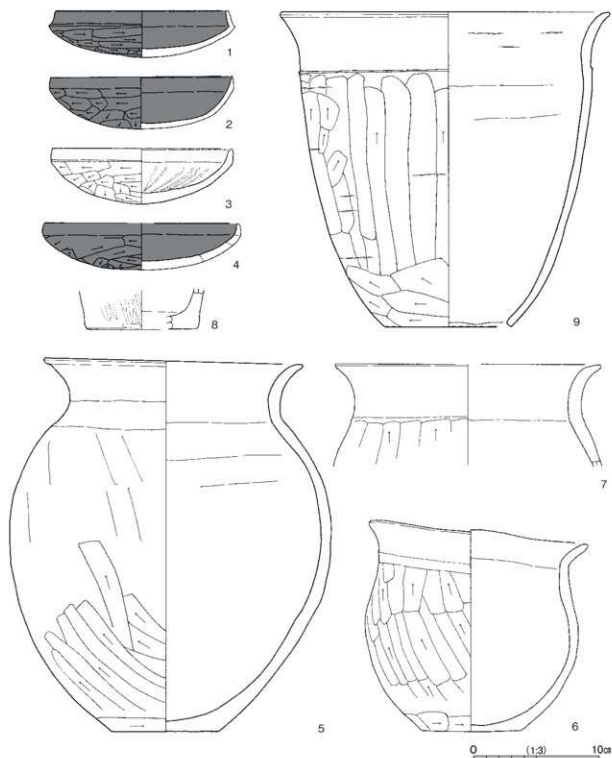
**覆土** 23 層に分层できる。覆土にロームブロックの含有が多いことから焼失後に埋め戻されている。



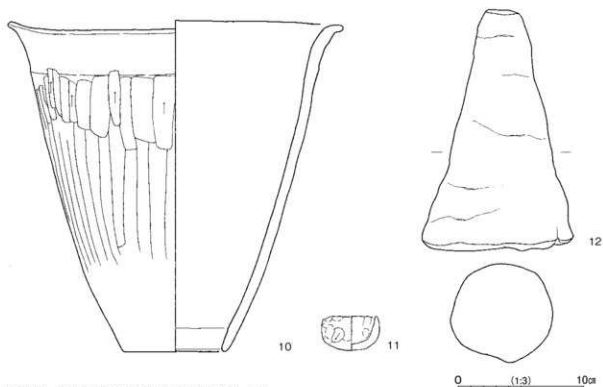
第 50 図 第 8 号竈穴建物跡実測図 (2)

**遺物出土状況** 土師器片 86 点 (坏 28, 高坏 2, 甕 53, 瓶 2, 手握土器 1), 土製品 1 点 (支脚), スサ入り粘土 (天井部材) が出土している。3～6・12 は竈内から出土している。9・10 は, 竈の東脇壁際に並んで出土しており, 廃絶時に遺棄されたと考えられる。11 は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は出土遺物から 7 世紀初頭と考えられる。床面が焼けていることや, 炭化材が床面で出土しており, 焼失建物である。



第 51 図 第 8 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第52図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第21表 第8号竪穴建物跡出土遺物一覧(第51・52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	136	3.7	-	長石・石英	加焼	普通	外面多方向へう祭り 内面ナテ 外・内面塗処理	覆土中層	95% PL14
2	土師器	杯	144	4.2	-	長石・石英	にぶい黄焼	普通	外面多方向へう祭り 内面ナテ 外・内面塗処理	床面	70% PL14
3	土師器	杯	142	4.4	-	長石・石英	にぶい赤焼	普通	外面多方向へう祭り 内面放射状へう磨き	覆土下層	80% PL14
4	土師器	杯	[161]	3.7	-	長石・石英	加焼	普通	外面多方向へう祭り 外・内面黒色処理	覆土下層	50%
5	土師器	甕	202	296	85	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	体部外面下平へう祭り 底部外面一方向へう祭り 体部内面下半截しく磨滅	覆土下層	70% PL14
6	土師器	甕	170	168	7.8	長石・石英	明焼	普通	体部外面へう祭り 底部外面一方向へう祭り 内面磨ナテ	覆土下層	70% PL14
7	土師器	甕	[308]	(8.1)	-	長石・石英・黒塵	橙	普通	体部外面縦方向のへう祭り後、口縁磨ナテ 内面磨ナテ	覆土下層	10%
8	土師器	甕	-	(3.1)	(8.6)	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	体部外面へう磨き 底部外面一方向へう磨き	覆土下層	10%
9	土師器	甕	25.9	24.9	100	長石・石英	橙	普通	体部外面へう祭り 内面下黒く変色	覆土下層	95% PL14
10	土師器	甕	25.8	26.3	(8.0)	長石・石英	にぶい焼	普通	体部外面へう祭り 内面全面黒く変色	床面	70% PL14
11	土師器	手置土器	4.1	2.7	-	長石・石英・赤色粒子	赤焼	普通	体部外面一部へう祭り 磨滅痕残る	覆土中層	100% PL14

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
12	支脚	2.8	120	191	1342	長石・石英・黒色粒子	橙	粘土練積成形	覆土下層	PL23

### 第9号竪穴建物跡(第53図)

**位置** 調査1区南西部のM8b4区、標高35mほどの台地平坦部に位置している。

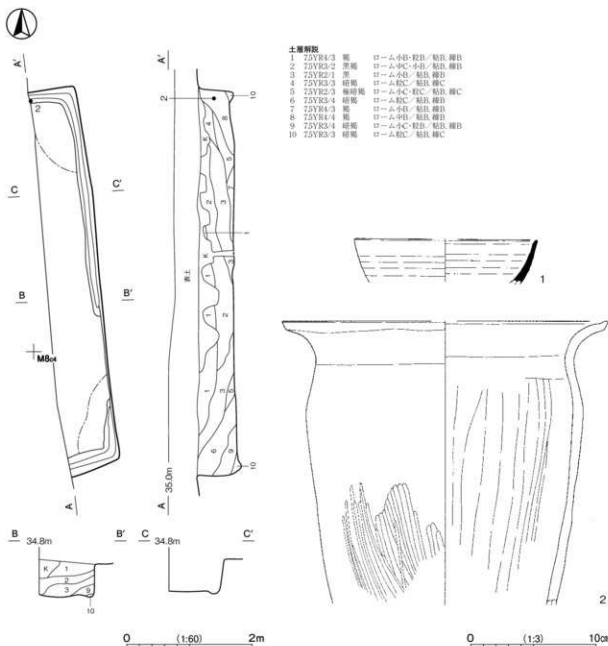
**規模と形状** 西部の大半が調査区外に延びていることから、南北軸は6.06m、東西軸は0.83mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、南北軸方向はN-5°-Wと推定できる。壁は高さ52cmで、直立している。

**床** 確認できた範囲では平坦で、コーナー部を除いて踏み固められている。東壁下の一部を除いて壁溝が通っている。

覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片33点(坏4, 甕28, 瓶1), 須恵器片2点(坏, 甕)が出土している。2の甕は北壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から、7世紀代と考えられる。



第53図 第9号堅穴建物跡・出土遺物実測図

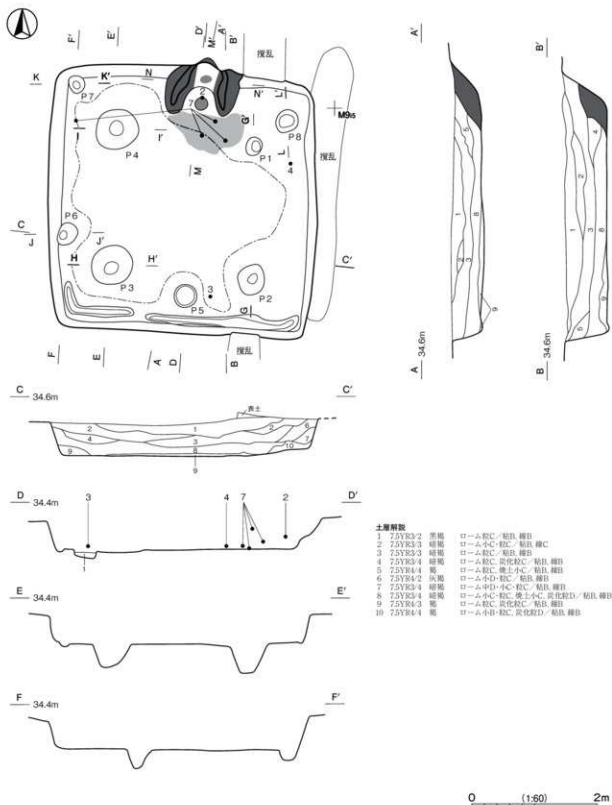
第22表 第9号堅穴建物跡出土遺物一覧(第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[144]	(35)	-	長石・石英・白色粒子	褐色	普通	外・内面クロナデ		覆土中	10%
2	土師器	甕	[256]	(225)	-	長石・石英・赤褐色粒子	にぶい	普通	口縁部外面横ナデ 底部下手へう磨き 内面ナデ		覆土中層	30%

第11号堅穴建物跡 (第54・55図 PL 6)

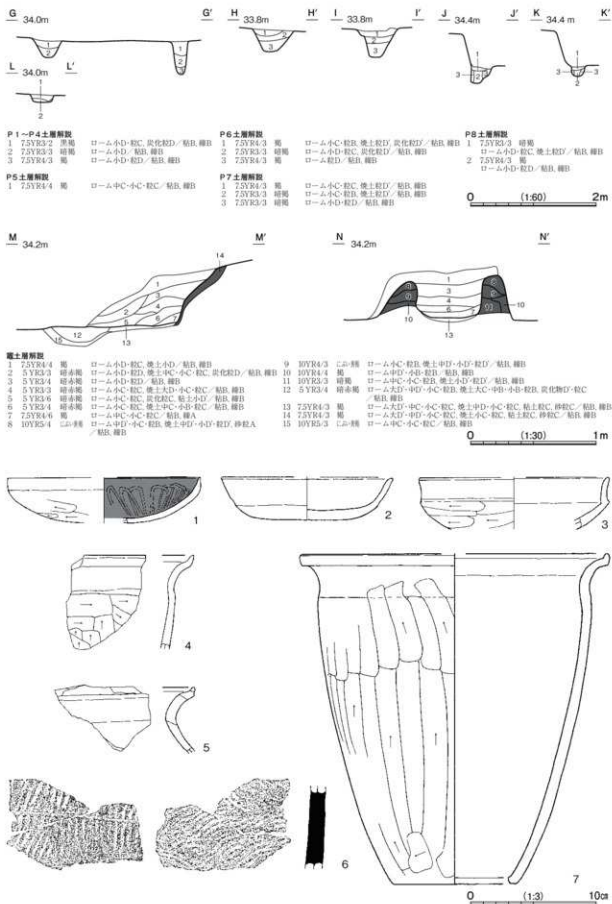
位置 調査1区南部のM94区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺4.26mの方形で、主軸方向はN-3'-Eである。壁は高さ40~44cmで、ほぼ直立している。



第54図 第11号堅穴建物跡実測図





第55図 第11号竈穴建物跡・出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南西コーナー部と南壁下の一部に壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は、地山の掘り残しを基部として、第8～11層を積み上げて構築されている。焚口部から煙道部にかけては、5～15cmほど掘り込まれ、ローム主体の第12～15層を埋土して整地されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に28cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。両袖の内側の一部が赤変硬化している。また、竈前には南北81cm、東西147cmの範囲で焼土の広がりが見られた。

ピット 8か所。P1～P4は深さ28～54cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ14cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P6～P8は深さ12～30cmで、配置から補助柱穴の可能性がある。

覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片331点(坏28,高坏2,甕276,甕23,手捏土器2)、須恵器片9点(坏4,蓋3,甕2)、焼成粘土塊1点(44g)、鉄滓2点(56g)が出土している。3・4は床面付近から、7は壁際と床面付近から、2は竈内から出土している。

所見 時期は、出土遺物から7世紀後葉と考えられる。

第23表 第11号竪穴建物跡出土遺物一覧(第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[152]	(3.6)	-	長石・石英	にぶい赤黄	普通	外面ヘラ削り 内面不規則な波打状ヘラ削り 内面黒色処理	覆土中	50% PL15
2	土師器	坏	[136]	3.4	7.8	長石・石英・磁礫	黄	普通	外・内面磨滅 底部外面ヘラ削り	覆土中層	40%
3	土師器	坏	[150]	(4.2)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	体部外面ヘラ削り後、口縁部外・内面ナデ 内面ナデ	覆土下層	30%
4	土師器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英・赤色磁子	にぶい赤黄	普通	体部外面ヘラ削り後、口縁部ナデ 内面ナデ	覆土下層	10%
5	土師器	甕	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい黄	普通	外・内面ナデ	覆土中	10%
6	須恵器	甕	-	(6.6)	-	長石・石英	灰黄緑	良好	外面平行叩き 内面同心円状叩き	覆土中	10%
7	土師器	甕	[240]	26.2	[97]	長石・石英	明赤黄	普通	体部外面ヘラ削り 内面丁寧ナデ	覆土中～下層	30%

#### 第12号竪穴建物跡(第56～58図 PL6・7)

位置 調査1区南東部のM9g9区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

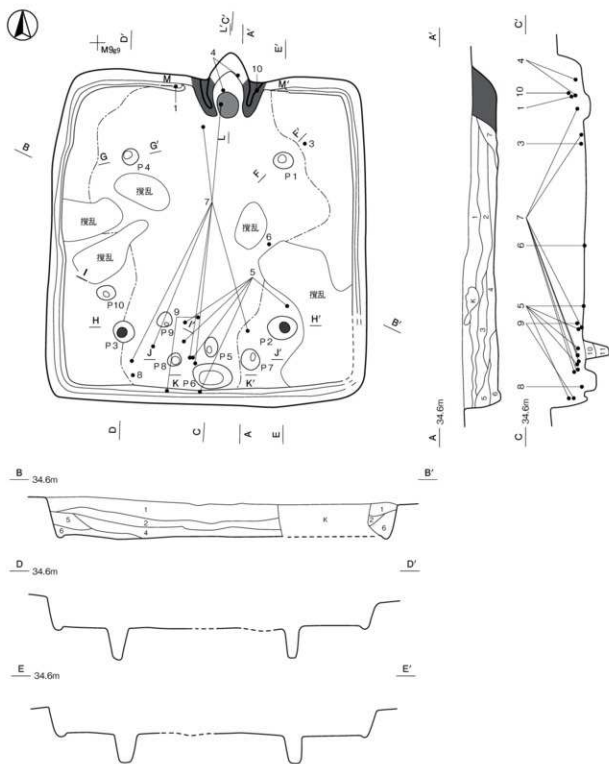
規模と形状 長軸5.28m、短軸5.02mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁は高さ36～48cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、出入口部と中央部が踏み固められている。壁溝は全周していると思われる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cmで、燃焼部幅は49cmである。袖部は、地山の上に第10～12層を積み上げて構築されている。火床部から煙道部にかけては、5～10cmほど掘り込まれ、ロームを主体とする第13～15層を埋土して整地されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に62cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

ピット 10か所。P1～P4は深さ46～52cmで、配置から主柱穴である。P2・P3の底面に柱のあたりを確認した。P5～P8は深さ18～46cmで、配置から出入口施設に伴うピットであるが、新旧関係は不明である。P9・P10は深さ40cm・26cmで、配置が不規則であり、性格は不明である。また、P1・P4の第2層は柱痕跡である。

覆土 7層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから、自然堆積である。



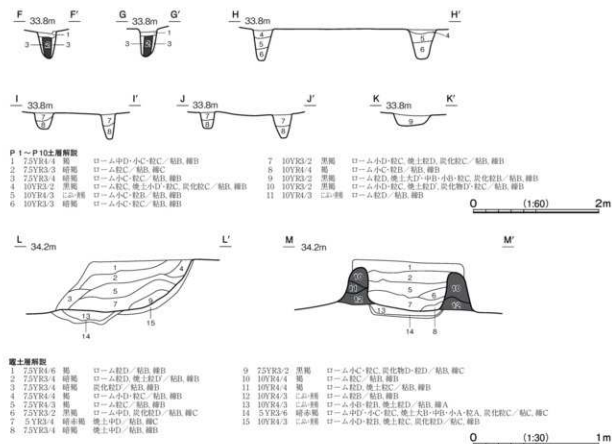
## 土層解説

- |   |         |       |  |
|---|---------|-------|--|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色   | ロ-ム小C-粘B / 粘B、礫B                       |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色   | ロ-ム中C-小C-粘B / 粘B、礫B                    |
| 3 | 10YR4/3 | 二ム赤褐色 | ロ-ム中D'-小B-粘B / 粘B、礫B                   |
| 4 | 10YR2/3 | 暗褐色   | ロ-ム中D'-小C-粘C、焼土小D'-粘C、炭化物D / 粘B、礫B     |
| 5 | 10YR4/4 | 黄褐色   | ロ-ム、灰D'-中C-粘B / 粘B、礫B                  |
| 6 | 10YR2/2 | 赤褐色   | ロ-ム中D'-小C-粘B、焼土小D'-粘C、炭化物D'-粘C / 粘B、礫B |
| 7 | 10YR4/3 | 二ム赤褐色 | ロ-ム小C-粘B、焼土小D / 粘B、礫B                  |

0 (1:60) 2m

第56図 第12号堅穴建物跡実測図(1)

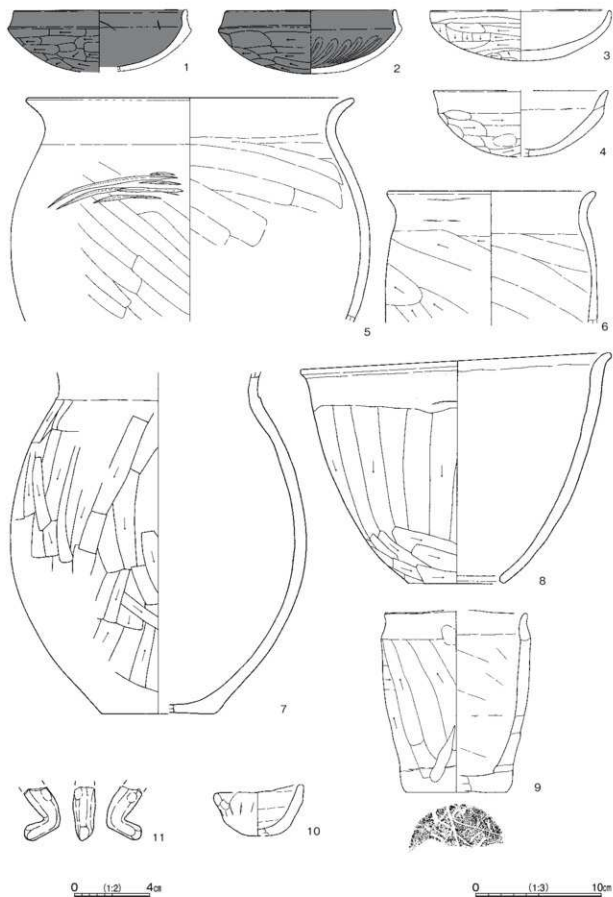
**遺物出土状況** 土師器片201点(坏40, 高坏1, 甕155, 瓶1, 手捏土器4), 須恵器片24点(坏13, 釜11), 土製品1点(勾玉), 石器1点(砥石), 焼成粘土塊1点(3g)が出土している。4は竈内から出土している。5・7・9は南壁中央部付近の覆土下層に集中している。8は南壁下の床面に逆位で出土している。所見 時期は出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第57図 第12号竈穴建物跡実測図(2)

第24表 第12号竈穴建物跡出土遺物一覧(第58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.5	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	体部外面多方向へラ削り後、口縁部外・内面ナデ内面ナデ 外・内面磨整理	覆土中層	80% PL15
2	土師器	坏	13.3	5.0	-	長石・石英	明	普通	体部外面多方向へラ削り後、口縁部外・内面ナデ後、外縁部底面ナデナデ 内面致状へラ削り 外・内面磨整理	覆土中	60% PL15
3	土師器	坏	(14.2)	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	体一部外面不定方向へラ削り後、口縁部外面ナデ 内面ナデ	覆土下層	60% PL15
4	土師器	坏	(13.6)	(5.2)	-	長石・石英	にぶい粉	普通	体一部外面へラ削り後、口縁部外・内面ナデ後、体外面ナデ 内面ナデ 磨整理残	覆土下層	30%
5	土師器	甕	25.6	(17.7)	-	長石・石英	にぶい粉	普通	口縁部ナデ 体部外面斜方向のへラ削り 体部内面斜方向のへラナデ後、口縁部内面磨ナデ	覆土下層	20% PL15 灰右転用
6	土師器	甕	16.4	(10.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい粉	普通	体部外面斜方向のへラ削り後、口縁部ナデ 体部内面斜方向のへラナデ後、口縁部内面磨ナデ	床面	15%
7	土師器	甕	-	(27.1)	(9.2)	長石・石英・赤色粒子	明	普通	体部外面下半部方向のへラ削り後、体部外面上半部方向のへラ削り後、口縁部ナデ 内面磨減により磨整不明	覆土下層	40% PL15
8	土師器	瓶	24.4	18.4	7.6	長石・石英・赤色	粉	普通	体部外面斜方向のへラ削り後、口縁部ナデ 体部下層斜方向のへラ削り 内面へラナデ	床面	100% PL15
9	土師器	手捏土器	(11.2)	14.4	(8.0)	長石・石英	明	普通	体部下面横ナデ 体部外面斜方向のへラ削り後、口縁部ナデ 内面磨ナデ 体部外面斜方向のへラ削り後、口縁部ナデ 体部内面磨ナデ 体部外面無調整 成形時の接合痕が残る 内面横ナデ	覆土下層	80% PL15
10	土師器	手捏土器	6.5	4.1	3.0	長石・石英	明赤	普通	体部外面無調整 成形時の接合痕が残る 内面横ナデ	覆土中層	90% PL15
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	勾玉	(2.8)	(1.9)	1.2	-	(4.7)	長石・石英	赤	指環痕残る	覆土中	PL24



第 58 图 第 12 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第13号竪穴建物跡 (第59図)

位置 調査1区西部のK 8 区, 標高34 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区外に延びるため, 南北軸4.98 m, 東西軸は1.28 mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形で, 南北軸方向はN-6°-Wと推定できる。壁は高さ32 cmで直立している。

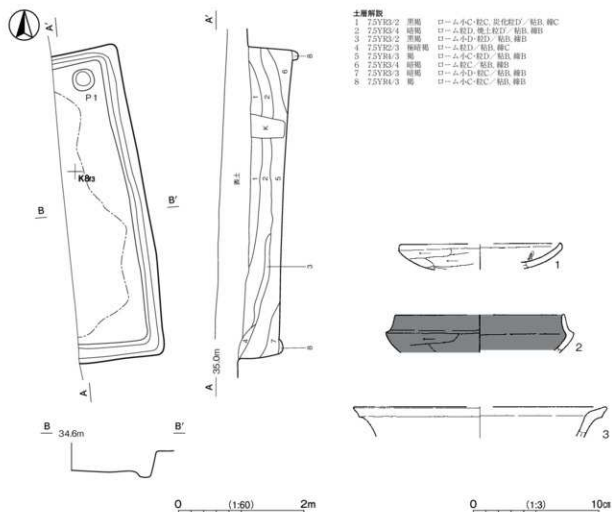
床 平坦で, 壁際を除く中央部が踏み固められている。壁溝は全周していると思われる。

ピット P 1は深さが23 cmで, 性格は不明である。P 1の北側壁面にごく少量の焼土を確認した。

覆土 8層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片66点(坏9, 鉢2, 甕55), 剥片2点が出土している。

所見 時期は出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第59図 第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第25表 第13号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第59図)

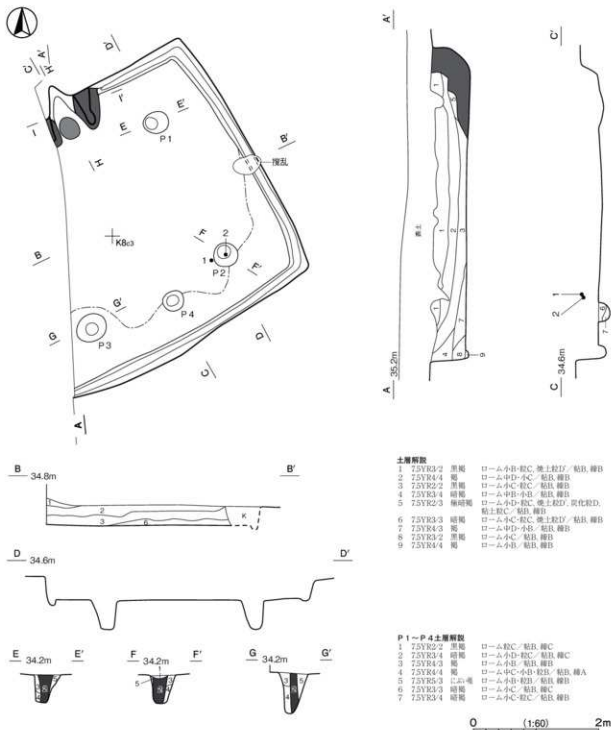
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[127]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	体部外部へう削り 内面口縁部に向ってのへう削き	覆土中層	10%
2	土師器	坏	[132]	(3.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外部へう削り 外・内面黒色処理	覆土下層	5%
3	土師器	甕	[197]	(2.5)	-	長石・石英	濃い赤褐色	普通	口縁部外・内面黒ナデ	覆土中層	5%

## 第14号竪穴建物跡 (第60・61図 PL7)

位置 調査1区西部のK 8b3区、標高35mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区外に延びており、北東・南西軸は430mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定され、北西・南東軸は4.36mで、主軸方向はN-27°-Wである。壁は高さ30~36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈前から南東壁際を除く範囲が踏み固められている。壁溝は全周していると思われる。



第60図 第14号竪穴建物跡実測図

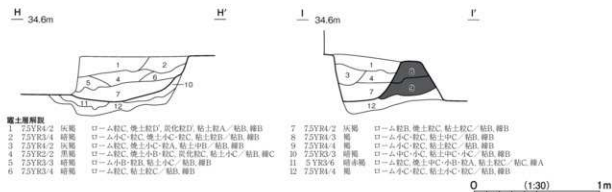
**竈** 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで81cmで、燃焼部幅は42cmである。竈は床面から10cmほど掘り込まれ、第10～12層を埋土して整地されている。袖部は、整地面の上に第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面よりややくぼんでおり、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 4か所。P1～P3は深さ48～64cmで、配置から支柱穴である。P4は深さ12cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。覆土の第2層は柱痕跡である。

**覆土** 9層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片82点(坏6, 甕76), 須恵器片1点(坏), 焼成粘土塊2点(14g)が出土している。1・2は、いずれも覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から7世紀前半と考えられる。



第61図 第14号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第26表 第14号堅穴建物跡出土遺物一覧(第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考
1	土師器	坏	〔13〕	〔3.4〕	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部外面へう削り後、口縁部外・内面ナゲ	覆土上層 20%
2	土師器	甕	-	〔5.1〕	〔8.6〕	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部内面下笠削り方向のへう削き	覆土上層 20%

### 第21号堅穴建物跡(第62～64図 PL7)

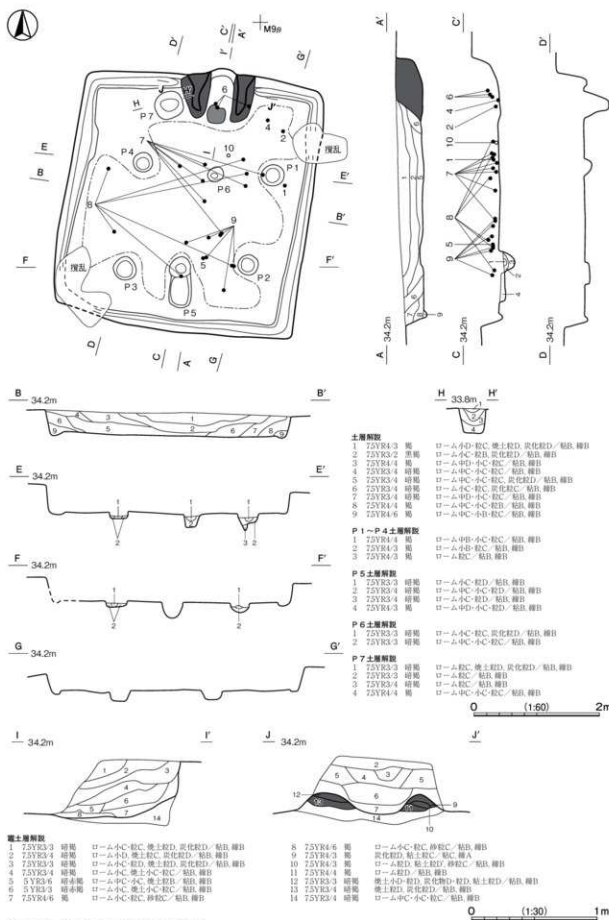
**位置** 調査1区南東部のM9j8区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.13m、短軸3.89mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ27～42cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、竈前から壁際を除く中央部が踏み固められている。壁際は全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cmで、燃焼部幅は41cmである。竈は床面から15cmほど掘り込まれ、第14層を埋土して整地されている。袖部は、整地面の上に第9～13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に12cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がり、奥壁で直立している。





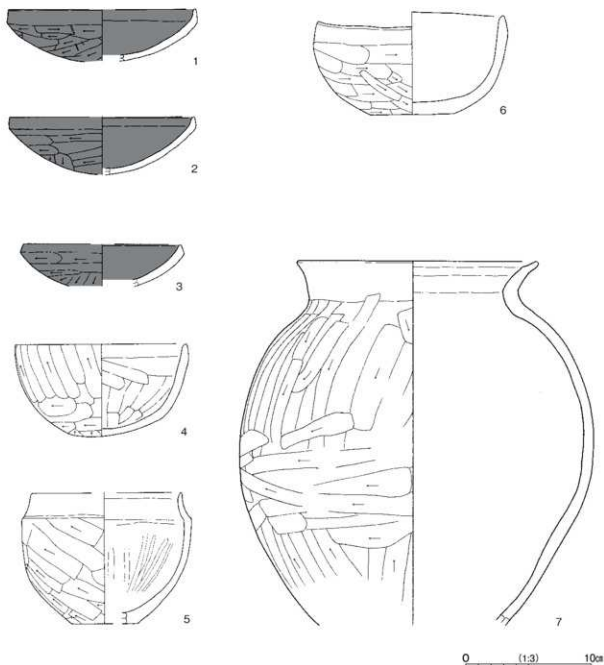
第62図 第21号堅穴建物跡実測図

ピット 7か所。P 1～P 4は深さが10～14cmで、配置から支柱穴である。P 5は深さ26cmで、南側に長さ46cm、深さ6cmのテラス状の張り出しを持っている。配置から出入口施設に伴うピットである。P 6は深さ20cmで、性格は不明である。P 7は深さ40cmで、貯蔵穴の可能性がある。

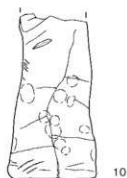
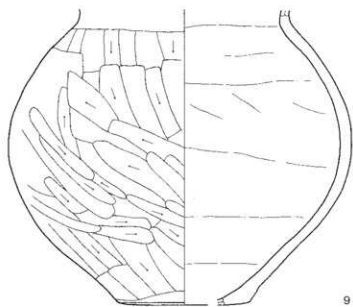
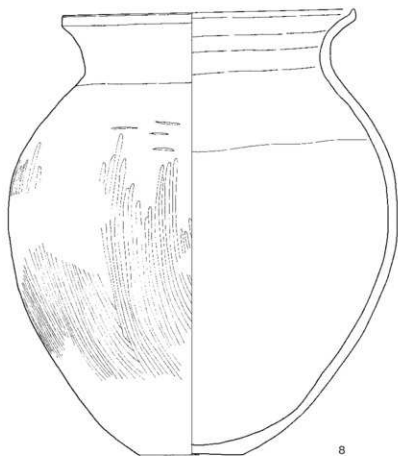
覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土器器片138点(坏5, 碗1, 鉢3, 甕125, 瓶4), 土製品1点(支脚)が出土している。6は、竈内外から出土している。1・2・4・5・7～10は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第63図 第21号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



0 (1.3) 10cm

第64図 第21号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

第27表 第21号竪穴建物跡出土遺物一覧(第63・64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[146]	(4.1)	-	長石・石英	黒褐色	普通	体部外面へう割り 内面ナデ 外・内面漆地埋	覆土下層	30%
2	土師器	坏	[146]	(4.6)	-	長石・石英	黒褐色	普通	体部外面へう割り 内面ナデ 外・内面黒色地埋	覆土下層	30%
3	土師器	坏	[124]	(3.3)	-	長石・石英	黒褐色	普通	体部外面へう割り後、ナデ 内面ナデ 外・内面漆地埋	覆土中層	10%
4	土師器	椀	134	7.4	-	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	覆土下層	100% PL.15
5	土師器	鉢	[118]	10.4	[5.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面へう割り 内面放射状へう磨き	覆土下層	30% PL.15
6	土師器	鉢	146	8.2	6.8	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へう割り 底部外面一方向へう割り	覆土中層	80% PL.15
7	土師器	甕	188	(28.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へう割り 体部内面下半調直立つ	覆土下層	70% PL.15
8	土師器	甕	230	35.3	8.0	長石・石英	浅黄褐色	普通	口唇部外・内面横ナデ 唇へう外面重なりへう磨き 体部内面下半調直立つ 底部外面一方向へう割り	覆土下層	70% PL.15
9	土師器	甕	-	(23.4)	[10.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう割り 底部外面へう割り	覆土下層	50% PL.15

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	支脚	(5.4)	7.1	(13.1)	(597)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	粘土板二つを合わせた成形 前面に残る	覆土下層	PL.23

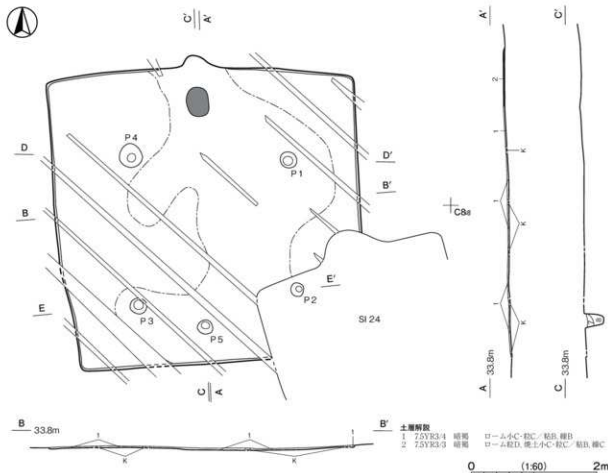
第25号竪穴建物跡(第65・66図 PL.7)

位置 調査2区西部のC 8h7区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

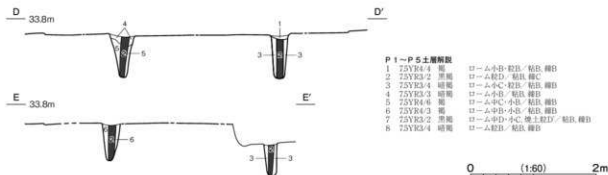
重複関係 第24号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 覆土がほぼ残っていない状態で確認した。長軸481m、短軸4.68mの方形で、主軸方向はN-5°-Wで、壁は高さ3cmである。

床 平坦で、竈前から出入口までが踏み固められている。



第65図 第25号竪穴建物跡実測図(1)



第66図 第25号竪穴建物跡実測図(2)

**竈** 北壁中央部に付設されている。竈の遺存状況は悪く、確認できた規模は焚口部から煙道部まで98cm、燃焼部幅は不明である。火床部は床面と同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれている。

**ピット** 5か所。P1~P4は深さが58~90cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ30cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。覆土の第2層は柱痕跡である。

**覆土** 2層に分層できる。第2層は竈の覆土である。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**遺物出土状況** 土師器片2点(甕)、焼成粘土塊1点(3g)が出土している。いずれも小片のため図示できなかった。

**所見** 8世紀後葉の第24号竪穴建物に掘り込まれていることや、遺構の主軸方向から古墳時代後期と考えられる。

#### 第27号竪穴建物跡(第67~69図 PL7)

**位置** 調査2区中央部のC9d2区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第16号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸7.22m、短軸7.15mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁は高さ17~47cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、竈前から東西の壁際を除く中央部が踏み固められている。東西壁下の南部と南東壁下に壁溝が巡っている。貼床は、全体を10~25cmほど掘り下げ、ロームを主体とする第13・14層を埋土して構築されている。

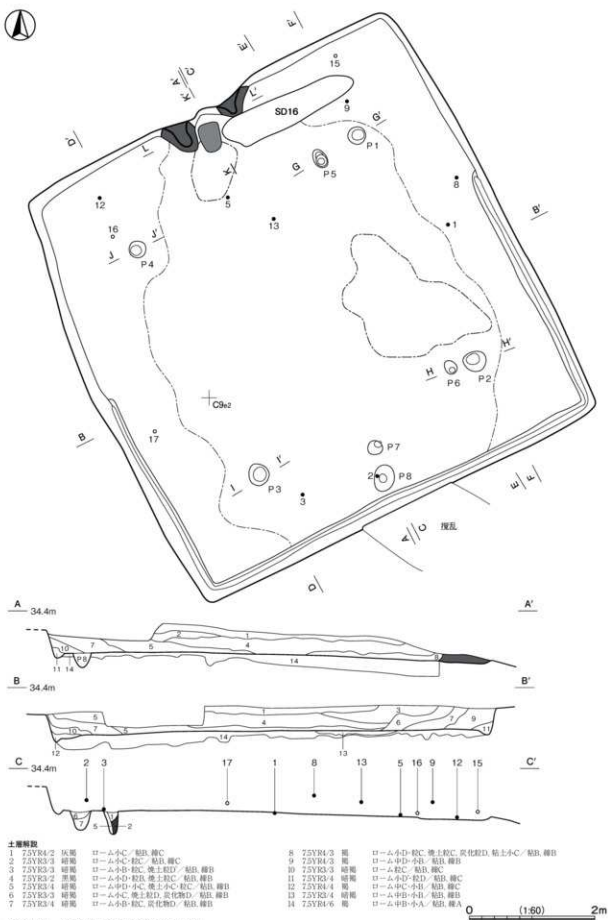
**竈** 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで72cmで、燃焼部幅は66cmである。竈は床面から10~20cmほど掘り込まれ、第9~11層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、第6~8層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部の遺存状況は悪く、壁外への掘り込みは確認できない。

**ピット** 8か所。P1~P4は深さが58~84cmで、配置から主柱穴である。P5・P6は深さ34cm・44cmで、配置から柱穴の可能性がある。P7・P8は深さ36cm・28cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。覆土の第2層は柱痕跡である。

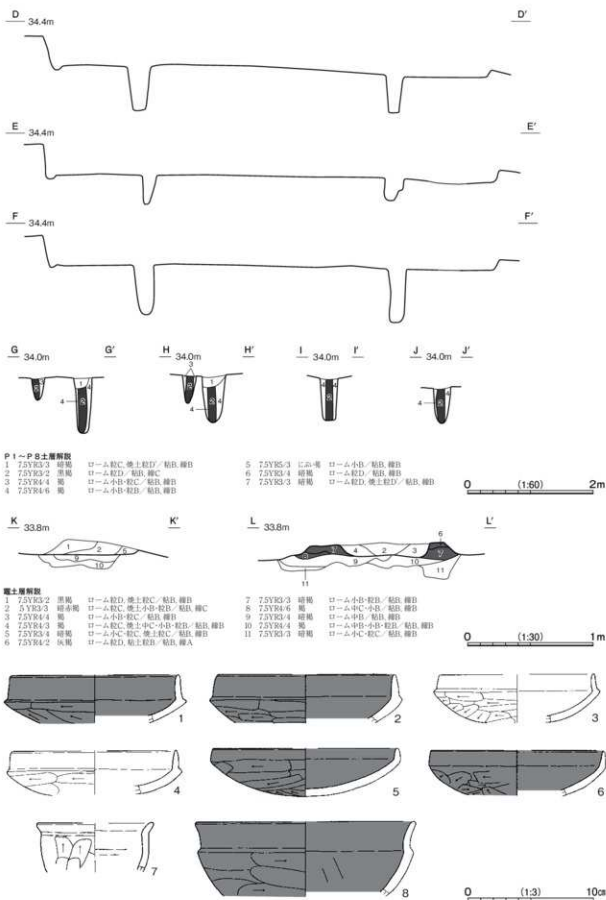
**覆土** 12層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片1349点(坏279, 高坏4, 椀1, 鉢12, 甕1048, 瓶5), 須恵器片7点(坏2, 短頸壺3, 瓶類1, 甕1), 土製品5点(土玉2, 支脚3), 鉄滓1点(21g)が出土している。1・3・5・12は床面から、15・16は覆土下層から、2・8・9・13・17は覆土中層から出土している。

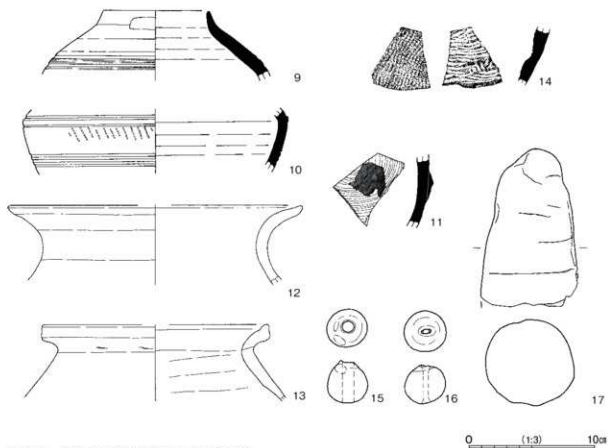
**所見** 時期は出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第 67 图 第 27 号竖穴建物跡実測図



第68図 第27号堅穴建物跡・出土遺物実測図



第 69 図 第 27 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 28 表 第 27 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 68 - 69 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	[13.2]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	体部外面へう張り 外・内面漆処理	床面	20%
2	土師器	杯	[14.0]	(3.8)	-	長石・石英	灰黒	普通	体部外面へう張り 外・内面漆処理	覆土中層	30%
3	土師器	杯	[12.2]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい緑	良好	体部外面へう張り	床面	10%
4	土師器	杯	[13.0]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面へう張り	覆土中	20%
5	土師器	杯	[14.5]	3.8	-	長石・石英	にぶい緑	普通	体部外面へう張り 外・内面漆処理	床面	20%
6	土師器	杯	[13.6]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面へう張り 外・内面漆処理	覆土中	10%
7	土師器	碗	[9.2]	(3.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦方向のへう張り 内面横ナデ	覆土中	10%
8	土師器	鉢	[17.4]	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	体部外面へう張り 内面へうナデ 外・内面黒色沈澱	覆土中層	5%
9	黒塗器	短頸壺	8.2	(5.6)	-	長石・石英・黒色粒子	明赤灰	普通	口クロナデ 口縁部ナデ 肩部2本の沈澱 沈澱下迄木目	覆土中層	5% PL16 S55 出土位置不明
10	黒塗器	短頸壺	-	(5.1)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄緑	普通	口クロナデ 肩部2本の沈澱 肩部沈澱下迄木目 肩部より上自然釉かかる	覆土中	5% PL22
11	黒塗器	瓶型	-	(5.8)	-	長石	明赤灰	普通	外面カキ目 壺体の付着	覆土中	5%
12	土師器	甕	[23.2]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・黒塵	にぶい黄緑	普通	口縁・肩部外面横ナデ 内面横ナデ	床面	5%
13	土師器	甕	[17.6]	(6.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒塵	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面磨滅により調整不明	覆土中層	5%
14	黒塗器	甕	-	(4.7)	-	長石・石英	黒灰	良好	外面格子目印さ 内面同心状凹み	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
15	土玉	3.2	3.4	0.9	26.85	長石・石英	明	片側から穿孔 表面軽くナデ 胎面微残る	覆土下層	PL23
16	土玉	3.3	3.1	0.4 - 0.7	30.55	長石・石英	明緑	片側から穿孔 表面軽くナデ	覆土下層	PL23

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
17	支脚	4.5	(7.4)	(12.5)	(46.1)	長石・石英・雲母	明緑	粘土塊を履いて糊んで成形 胎面微残る	覆土中層	PL23

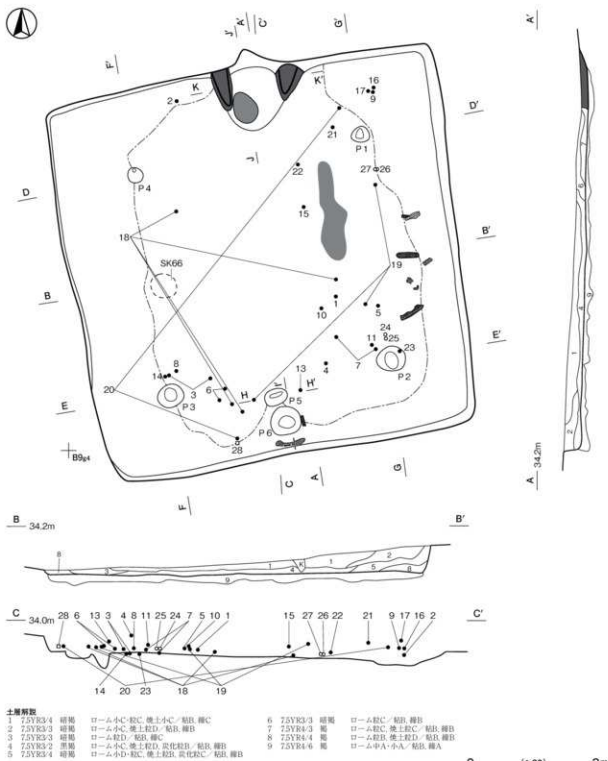


## 第30号竪穴建物跡 (第70~73図 PL 7)

位置 調査2区北部のB94区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第66号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.24m、短軸6.20mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁は高さ4~30cmで、ほぼ直立している。



第70図 第30号竪穴建物跡実測図(1)

**床** 平坦で、竈前から中央部が踏み固められている。貼床は全体を9～22cmほど掘り下げ、ロームを主体とする第9層を埋土して構築されている。

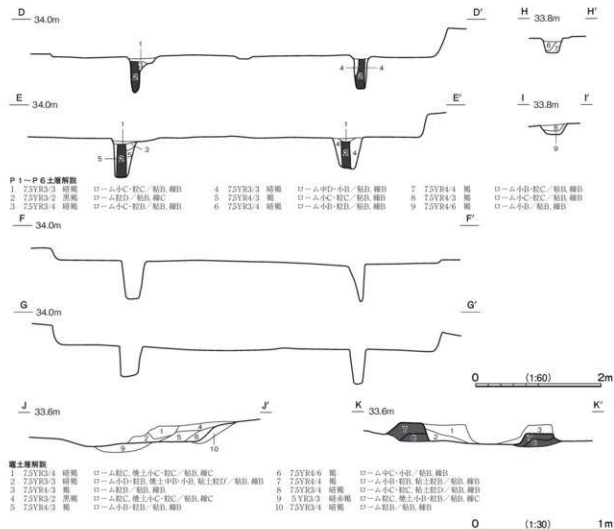
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は68cmである。竈は第9・10層で部分的に整地をした後に、袖部は第7・8層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの整地面上に構築され、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に32cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 6か所。P1～P4は深さが48～62cmで、配置から主柱穴である。P5・P6は深さ24cm・14cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。全ての主柱穴に柱痕跡を確認した。

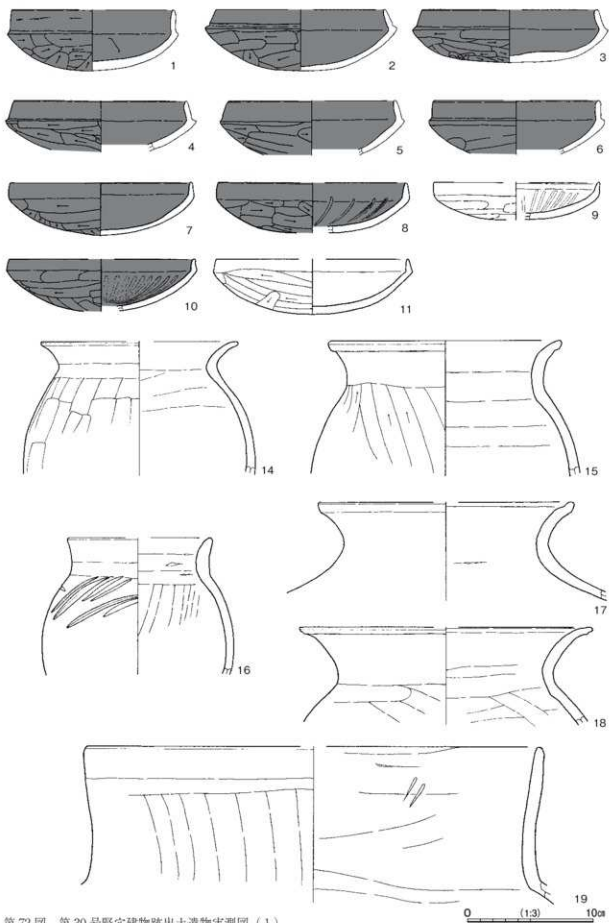
**覆土** 8層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片528点(坏195, 甕328, 瓶3, 手捏土器2), 須恵器片11点(坏4, 瓶類3, 甕1, 瓶3), 土製品5点(紡錘車4, 支脚1), 石器1点(砥石)が出土している。床面付近から出土する遺物と、覆土・上層から出土する遺物に分かれる。2・16・23など、床面付近の遺物の内、完形に近いものは正位で出土している。26・27は同一個体であり同一地点から出土しているが、27の断面が磨られているため接合しない。

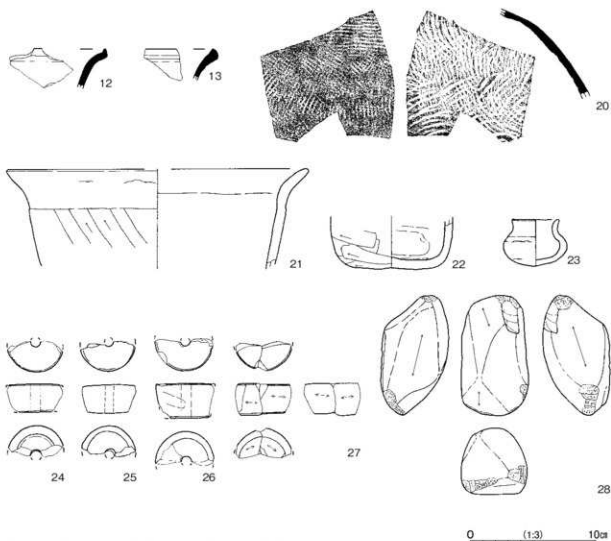
**所見** 時期は出土遺物から7世紀前葉と考えられる。床面が焼けていることや、炭化材が床面から出土していることから焼失建物である。



第71図 第30号竈穴建物跡実測図(2)



第72図 第30号堅穴建物跡出土遺物実測図(1)



第73図 第30号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第29表 第30号竪穴建物跡出土遺物一覧(第72・73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[126]	4.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 外・内面漆処理	覆土下層	80% PL16
2	土師器	坏	[132]	4.8	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 外・内面漆処理	床面	30% PL16
3	土師器	坏	[136]	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面へラ削り 外・内面漆処理	床面	30% PL16
4	土師器	坏	[136]	4.0	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 外・内面漆処理	覆土上層	30%
5	土師器	坏	[133]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 外・内面漆処理	覆土下層	20%
6	土師器	坏	[130]	4.3	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 外・内面漆処理	覆土下層	20%
7	土師器	坏	144	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 外・内面漆処理	覆土下層	90% PL16
8	土師器	坏	[148]	4.0	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面放射状へラ磨き 外・内面黒色処理	覆土下層	20%
9	土師器	坏	[132]	2.9	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面へラナデ 内面放射状へラ磨き	覆土下層	10%
10	土師器	坏	[145]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面放射状へラ磨き 外・内面漆処理	覆土下層	30%
11	土師器	坏	[152]	4.4	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	80% PL16
12	須恵器	瓶頸	-	3.1	-	長石・石英・磁礫	褐色	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中層	5% PL22
13	須恵器	瓶頸	-	2.5	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中層	5%
14	土師器	甕	[154]	10.6	-	長石・石英・赤色粒子・磁礫	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 体部内面へラナデ	床面	30% PL16

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
15	土師部	甕	17.9	(10.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面縦方向のへら削り残、口縁部横ナデ 内面横方向のへらナデ	甕土中層	30% PL16
16	土師部	甕	[11.3]	(10.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面磨滅により調整不明 体部内面へらナデ	甕土下層	40% PL16 紅石転写
17	土師部	甕	[20.0]	(7.8)	-	長石・石英・黒耀	にぶい褐色	普通	口縁部横ナデ 外・内面磨滅により調整不明	甕土上層	5%
18	土師部	甕	[23.2]	(7.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面へらナデ	甕土下層	10% PL16
19	土師部	甕	[36.6]	(12.3)	-	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外面ナデ 内面縦方向のへらナデ	甕土中層	15% PL16
20	須恵部	甕	-	(7.1)	-	長石・石英	靑灰	普通	体部外面縦方向の平行削り 内面同心状削り	甕土中層	5%
21	土師部	瓶	[23.7]	(7.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面斜方向のへら削り残、口縁部横ナデ 内面ナデ	甕土上層	10%
22	土師部	手捏土器	-	(4.3)	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面斜一横方向へら削り 底部外面ナデ 内面ナデ	甕土下層	60% PL16
23	土師部	手捏土器	3.6	3.7	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面接合痕現る 内面ナデ	床面	90% PL16

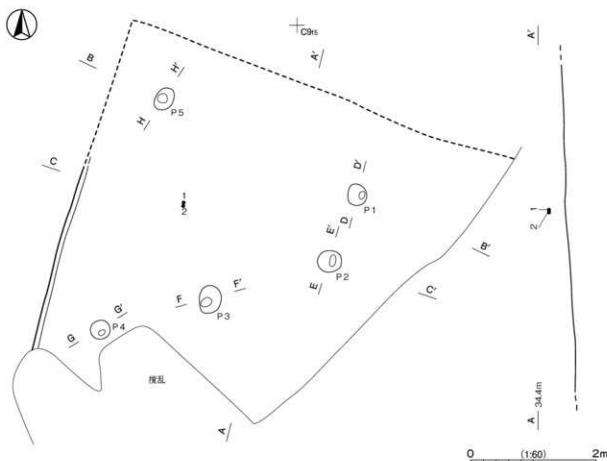
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
24	紡錘車	[4.5]	2.3	0.8	(23.59)	長石・石英	靑	上・下・側面・孔内ナデ	甕土下層	PL23
25	紡錘車	[4.4]	2.3	[0.7]	(23.70)	長石・石英	明赤褐色	上・下・側面・孔内ナデ 赤帯。	甕土下層	PL23
26	紡錘車	4.6	2.7	0.8	(32.98)	長石・石英	にぶい赤褐色	上・下・側面・孔内ナデ	甕土下層	27と同一 PL23
27	紡錘車	[4.6]	2.4	-	(24.03)	長石・石英	にぶい赤褐色	別れ面が壊れ、平滑になっている。2つの破片に割れており、それぞれ異なる方向が異なる。	甕土下層	26と同一 PL23

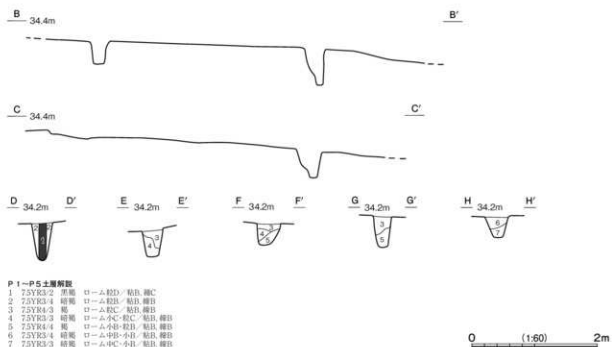
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
28	碇石	9.6	5.3	5.3	362	凝灰岩	碇石2面 両端部敲打痕	甕土中層	PL24

## 第34号竪穴建物跡 (第74～76図)

位置 調査2区中央部のC9f4区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第74図 第34号竪穴建物跡実測図(1)



第75図 第34号竪穴建物跡実測図(2)

**規模と形状** 南東部と北部に攪乱を受けているが、西部に壁の立ち上がりが確認できたことから、竪穴建物跡と考えられる。確認できた壁は高さ4cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 硬化面は認められなかった。

**ピット** 5か所。P1～P5は深さが34～56cmで、性格は不明である。P1には柱痕跡を確認した。

**遺物出土状況** 土師器片87点(杯36, 甕50, 手捏土器1)が出土している。1・2は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



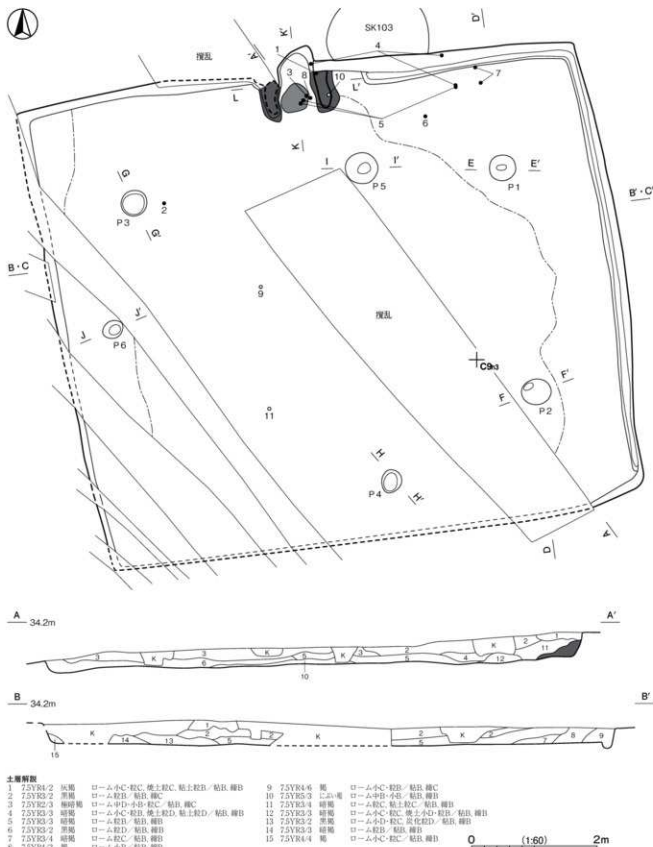
第76図 第34号竪穴建物跡出土遺物実測図

第30表 第34号竪穴建物跡出土遺物一覧(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	[15.4]	(4.8)	-	長石・石英	褐	普通	底-体部多方向へつ開り後、口縁磁子テ 内面 横テテ 外・内面塗装	覆土上層	60% PL16
2	土師器	杯	[10.0]	5.0	-	長石・石英	灰褐色	普通	底-体部へつ開り後、口縁磁子テ 内面横子テ 外・内面黒色塗装	覆土上層	30% PL16

## 第35号竪穴建物跡 (第77~79図 PL 8)

位置 調査2区中央部のC9g2区, 標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第77図 第35号竪穴建物跡実測図(1)

**重複関係** 第103号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸9.00 m, 短軸8.16 mの長方形で, 主軸方向はN-11'-Wと推定できる。壁は高さ42 cmで, ほぼ直立している。

**床** 平坦で, 中央部が踏み固められている。竈東側から南東コーナー部にかけて壁溝が巡っている。

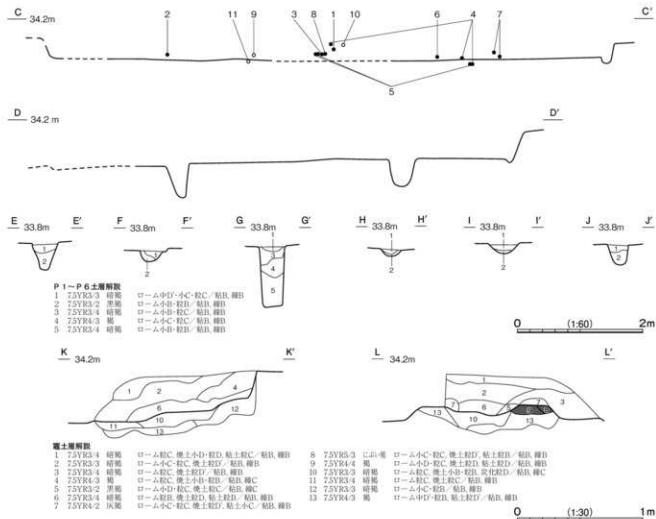
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで110 cmで, 燃焼部幅は60 cmである。竈は床面から20 cmほど掘り込まれ, 第10～13層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に34 cmほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がり, 奥壁で直立している。

**ピット** 6か所。P1～P3は深さ34～94 cmで, 配置から主柱穴である。P4は深さ12 cmで, 配置から出入口施設に伴うピットである。P5・P6は深さ14 cm・30 cmで, 性格は不明である。

**覆土** 15層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

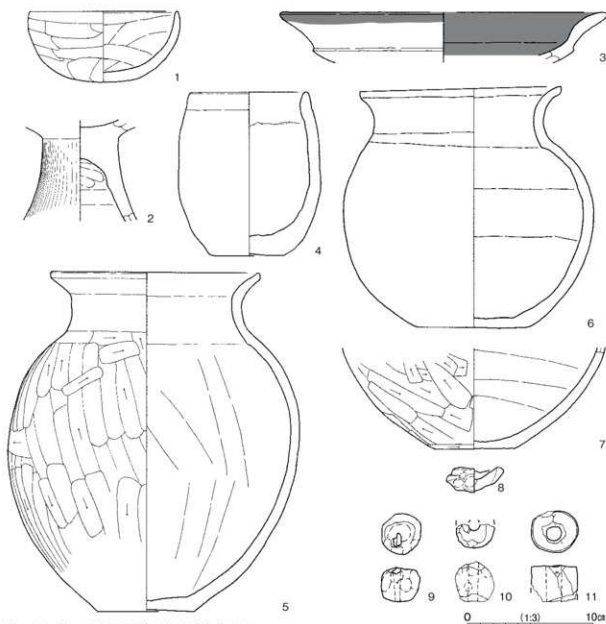
**遺物出土状況** 土師器片432点(坏99, 高坏2, 鉢2, 甕328, 手捏土器1), 須恵器片94点(坏69, 高台付坏1, 蓋7, 長頸瓶1, 甕13, 瓶3), 土製品3点(土玉2, 管状土錘1), 鉄洋4点(65g)が出土している。

**所見** 時期は, 出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第78図 第35号竈穴建物跡実測図(2)





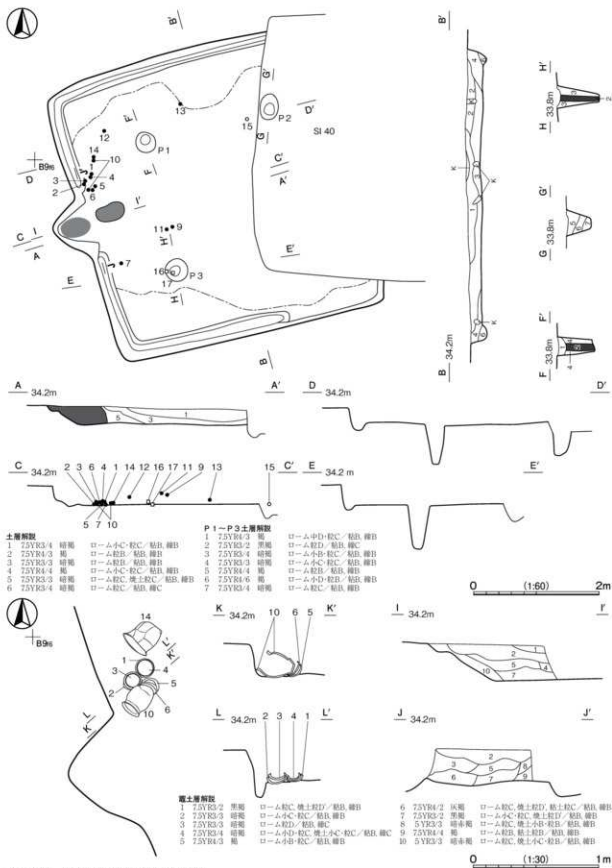
第79図 第35号堅穴建物跡出土遺物実測図

第31表 第35号堅穴建物跡出土遺物一覧(第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土鉢器	坏	118	56	-	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	外部外面へう割り 外面磨減激しい 内面へう割り	覆土中層	90% PL16
2	土鉢器	高坏	-	(80)	-	長石・石英・麻痺	にぶい橙	普通	外部外面ナテ 外部外面密なへう磨き 内部内面磨減	床面～覆土中層	30%
3	土鉢器	高坏	[253]	(40)	-	長石・石英	明赤陶	普通	口縁部ナテ 外面縁部直下鋭い横方向へう割り 内面黒色処理	床面	5%
4	土鉢器	鉢	90	129	54	長石・石英・赤色砂子	にぶい赤褐	普通	口縁部ナテ 体部外・内面磨減激しく磨整不明 底部多方向へう割り	床面	70% PL16
5	土鉢器	甕	164	270	75	長石・石英	橙	普通	外部外面へう割り 外部外面粗熟により赤変 底部一方向へう割り	床面	70% PL16
6	土鉢器	甕	158	192	90	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面ナテ 外部外面磨減激しく磨整不明 底部多方向へう割り	覆土下層	50% PL16
7	土鉢器	甕	-	(80)	64	長石・石英	明赤陶	普通	外部外面へう割り 体部外・内面一部磨減・磨減する 底部不安方向へう割り	覆土下層	30% PL16
8	土鉢器	手付土器	35	20	-	長石・石英・麻痺	にぶい橙	普通	外面指押さえによる成形 内面ナテ	覆土下層	100% PL16
番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
9	土玉	3.1	0.3～0.7		30.30	長石・石英	にぶい黄褐	片割から穿孔 表面軽クナテ 指割痕残る	覆土下層	PL23	
10	土玉	[31]	32	[08]	[1543]	長石・石英	にぶい黄褐	片割から穿孔 表面軽クナテ 指割痕残る	覆土中層	PL23	
11	管状土鉢	3.7	(29)	1.2	(30.7)	長石・石英	にぶい黄褐	片割から穿孔 表面軽クナテ	床面	PL23	

第38号竪穴建物跡 (第80~82図 PL.8)

位置 調査2区北部のB96区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第80図 第38号竪穴建物跡実測図

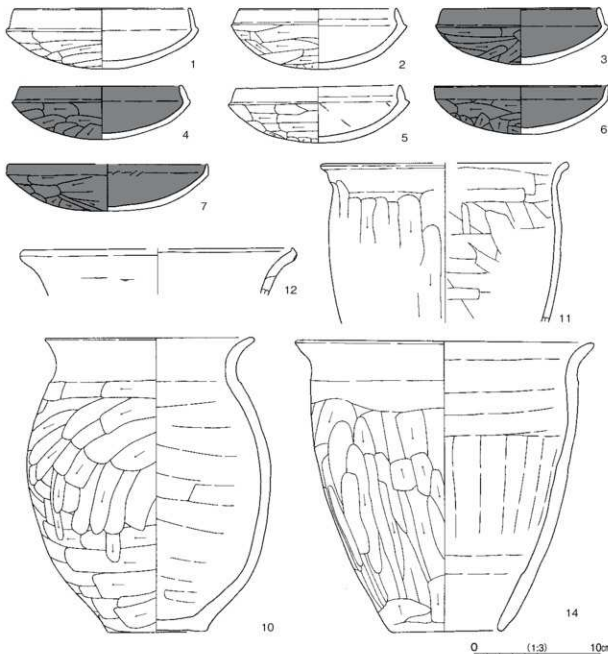
**重複関係** 第40号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 東側を第40号竪穴建物に掘り込まれている。規模は長軸4.65m、短軸4.33mの方形である。主軸方向はN-106°-Wである。壁は高さ20~32cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲では、南壁下東側から南東コーナー部を除いて壁溝が巡っている。

**竈** 西壁中央部に付設されている。竈の遺存状況は悪いが、火床面と壁面の張り出しの幅から、規模は焚口部から煙道部まで121cmで、燃焼部幅は69cmと推定できる。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に46cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。煙道部の一部が赤変硬化している。

**ピット** 3か所。P1~P3は深さが37~66cmで、配置から主柱穴である。覆土の第2層は、柱痕跡である。

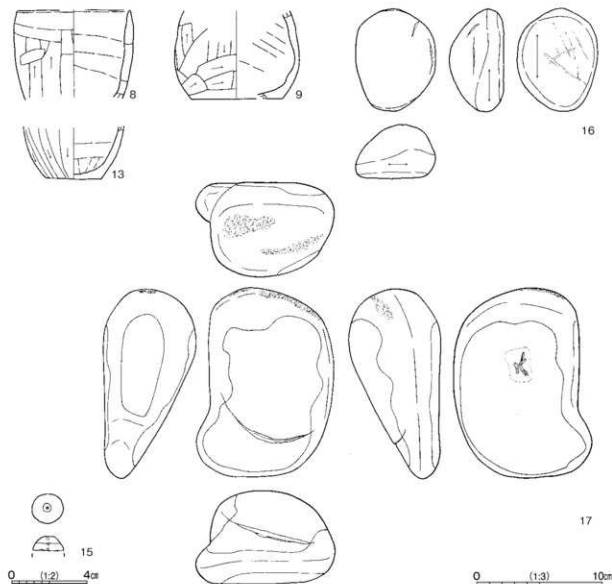


第81図 第38号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片104点(坏35,高坏8,鉢1,壺1,甕58,瓶1),土製品1点(不明),石器2点(砥石),鉄滓1点(14g)が出土している。1~6・10・14は、甕を片づけた後、甕右袖北側の床面に遺棄されていた。

所見 時期は、出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第82図 第38号竪穴建物跡実測図(2)

第32表 第38号竪穴建物跡出土遺物一覧(第81・82図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	138	4.8	-	長石・石英	にぶい艶	普通	体部外面へう張り 口縁部積ナテ 内面ナテ	床面	100% PL16
2	土師器	坏	124	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい艶	普通	体部外面へう張り 口縁部積ナテ 内面積縁直上 縁クナテ 内面ナテ	床面	100% PL16
3	土師器	坏	124	4.5	-	長石・石英	艶沢	普通	体部外面へう張り 口縁部積ナテ 内面ナテ 外内面縁直上	床面	100% PL17
4	土師器	坏	126	4.2	-	長石・石英	にぶい赤艶	良好	体部外面へう張り 口縁部積ナテ 内面ナテ 外内面縁直上	床面	96% PL17
5	土師器	坏	130	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤艶	普通	体部外面へう張り 口縁部積ナテ 内面積縁直上 縁クナテ 内面ナテ	床面	100% PL17
6	土師器	坏	138	3.9	-	長石・石英	にぶい艶	普通	体部外面へう張り 口縁部積ナテ 内面ナテ 外内面縁直上	床面	90% PL17
7	土師器	坏	[157]	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤艶	普通	体部外面へう張り 口縁部積ナテ 内面ナテ 外内面縁直上	床面	50% PL17

番号	種別	型種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
8	土師器	鉢	Φ30	7.0	-	長石・石英	にぶい焼	普通	体部外面縦方向のヘラ削り後、口縁部横ナデ、内面縦方向のヘラナデ	甕土中層	29%
9	土師器	壺	-	7.0	7.2	長石・石英・赤色粒子	赤焼	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部ヘラ削り	甕土中層	29%
10	土師器	甕	16.3	23.3	7.9	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り、体部内面ヘラナデ、底部一方ヘラ削り	床面	95% PL17
11	土師器	甕	19.2	12.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	口縁部横ナデ、体部縦方向ヘラ削り、体部内面ヘラ削り	甕土中層	19%
12	土師器	甕	21.4	3.7	-	長石・石英・黄母・緑母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ、外面縦角直線	甕土中層	5%
13	土師器	甕	-	12.1	4.4	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	体部外面縦方向のヘラ削り、内面下部同一縦方向のヘラナデ後、横方向のヘラナデ、底部多方向ヘラ削り	甕土下層	29% PL17
14	土師器	甕	23.2	23.2	8.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	体部外面ヘラ削り、外面下部調整、内面ヘラナデ	床面	90% PL17
番号	器種	径	厚さ	口径	重量	胎土	色調	特 徴		出土位置	備考
15	不明土製品	16	0.8	0.1	(1.75)	長石・石英	赤焼	外面ナデ		床面	PL23
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴		出土位置	備考	
16	砥石	8.2	6.3	4.3	289	凝灰岩	縦面1面 縦割状の砥ぎ痕		P 3直上	PL24	
17	砥石	15.1	11.0	7.4	1,580	砂岩カレンフェルス	縦面2面 縦打痕 裏面に縦割状の砥ぎ痕		P 3直上	無土砥 PL24	

第33表 古墳時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	塀溝	内 部 地 設			覆土	土心出土遺物	時期	備考		
				長軸×短軸 (cm)	厚高 (cm)			土階	出入口	ピット					貯蔵	竪穴
2	B 9 丹	N-33°-W	長方形	4.36 × 3.82	19 ~ 32	平坦	なし 全周	4	1	-	北西隅	-	自然	土師器、須恵器、土製品	7世紀前半	本跡→SD 1
5	M 8 e5	N-5°-E	方形	5.14 × 4.95	36 ~ 40	平坦	[全周]	4	1	-	北東	-	人為	土師器、須恵器	7世紀前半	
6	M 8 h7	N-5°-E	長方形	8.18 × 6.53	7 ~ 12	平坦	なし 全周	4	1	-	南	-	人為	土師器、須恵器	7世紀前半	SK107→本跡 →SK108
8	M 8 c7	N-6°-E	方形	4.94 × 4.90	44 ~ 58	平坦	全周	-	1	1	北東	-	人為	土師器、土製品	7世紀後半	
9	M 8 b4	N-5°-W	[方形・長方形]	6.06 × (0.82)	52	平坦	なし 全周	-	-	-	-	-	自然	土師器、須恵器	7世紀代	
11	M 9 i4	N-3°-E	方形	4.26 × 4.36	40 ~ 44	平坦	一部	4	1	3	北東	-	自然	土師器、須恵器	7世紀後半	
12	M 9 g9	N-2°-E	方形	5.28 × 5.02	36 ~ 48	平坦	[全周]	4	4	2	北東	-	自然	土師器、須恵器、土製品	7世紀前半	
13	K 8 b3	N-6°-W	[方形・長方形]	4.98 × (1.28)	32	平坦	[全周]	-	-	1	-	-	自然	土師器	7世紀後半	
14	K 8 b3	N-27°-W	[方形・直方形]	4.36 × (4.30)	30 ~ 36	平坦	[全周]	3	1	-	-	-	自然	土師器、須恵器	7世紀後半	
21	M 9 i4	N-10°-E	方形	4.13 × 3.89	27 ~ 42	平坦	全周	4	1	2	北東	-	人為	土師器、土製品	6世紀後半	
25	C 8 h7	N-5°-W	方形	4.81 × 4.68	3	平坦	-	4	1	-	北東	-	不明	土師器	後期	本跡→S124
27	C 9 d2	N-27°-W	方形	7.22 × 7.15	17 ~ 47	平坦	一部	4	2	2	北西隅	-	人為	土師器、須恵器、土製品	7世紀前半	本跡→SD16
30	B 9 i4	N-10°-W	方形	6.24 × 6.20	4 ~ 30	平坦	-	4	2	-	北東	-	人為	土師器、須恵器、土製品	7世紀後半	SK96→本跡
34	C 9 i4	N-27°-W	[長方形]	-	4	平坦	-	-	-	5	-	-	土師器	6世紀後半		
35	C 9 g2	N-11°-W	長方形	9.00 × 8.16	82	平坦	一部	3	1	2	北東	-	人為	土師器、須恵器、土製品	6世紀後半	SK103→本跡
38	B 9 i6	N-10°-W	[方形]	4.65 × 4.33	20 ~ 32	平坦	なし 全周	3	-	-	西東	-	自然	土師器、土製品	7世紀前半	本跡→S140

## 4 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡9棟、掘立柱建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

## (1) 竪穴建物跡

## 第3号竪穴建物跡 (第83図 PL 8)

位置 調査1区南西部のN 8 c5区、標高34 mほどの台地縁部に位置している。

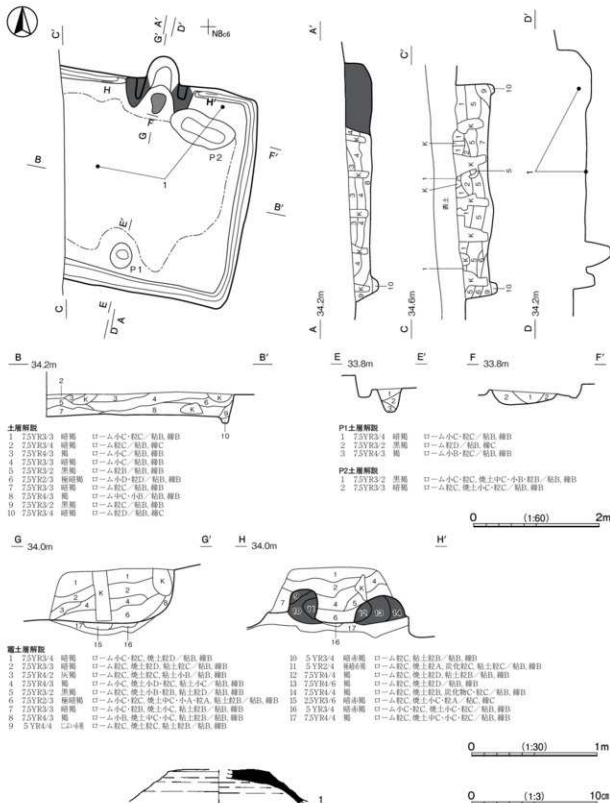
規模と形状 西部が調査区外に延びているため、南北軸3.38 m、東西軸3.12 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁は高さ40 ~ 54 cmで、直立している。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は全周していると思われる。

竪 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93 cmで、燃焼部幅は53 cmである。竪は床面から10 cmほど掘り込まれ、第15 ~ 17層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に第9 ~ 14層を不規則に

積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は第15層上面で、被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に42cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がり、奥壁で直立している。

**ピット** 2か所。P1は深さ38cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P2は深さ20cmで、性格は不明であるが、竈行袖を掘り込んでいるため、建物廃絶時に掘られている。



第83図 第3号竈穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片44点(坏9, 甕33, 鉢1, 手捏土器1), 須恵器片2点(蓋)が出土している。1は床面と北壁下の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は出土遺物から、8世紀後葉と考えられる。

第34表 第3号竪穴建物跡出土遺物一覧(第83図)

番号	種類	容積	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	-	(27)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	灰黄	良好	天井部回転ヘラ削り 天井部中央につまみの溝痕あり	床面・覆土下層	20% 新出泉

#### 第4号竪穴建物跡(第84・85図 PL 8)

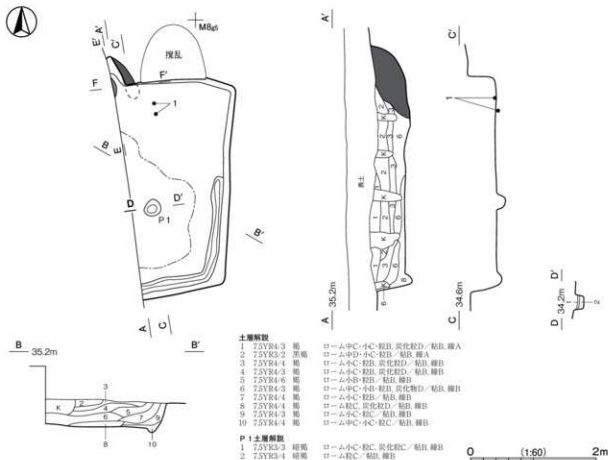
位置 調査1区南西部のM8g4区, 標高35mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区外に延びているため, 南北軸3.37m, 東西軸1.90mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形で, 主軸方向はN-4°-Wと推定できる。壁は高さ40cmで, ほぼ直立している。

床 確認できた範囲では, 平坦で, 中央部が踏み固められている。南壁際から東壁下半に壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。西部が調査区外に延びていることと, 竈の遺存状況が悪いことから, 規模は焚口部から煙道部まで73cm, 燃焼部幅は18cmしか確認できなかった。袖部は地山の上に, 第5・6層を積み上げて構築されている。火床部は床面より8cm低い高さで, 被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

ピット P1は深さ16cmで, 性格は不明である。

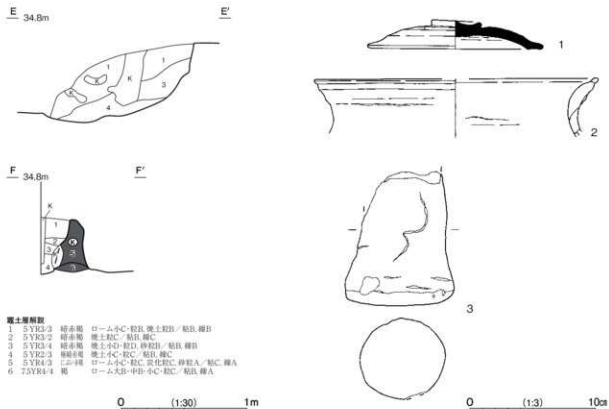


第84図 第4号竪穴建物跡実測図

**覆土** 10層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから、自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片78点(坏6, 甕71, 瓶1), 須恵器片4点(坏3, 蓋1), 土製品3点(支脚)が出土している。1は床面から出土している。3は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、8世紀前葉と考えられる。



- 覆土層解説**
- 1 5YR3-2 砂赤褐色 ローム小C-粒状/焼土粒出/粘土、細砂
  - 2 5YR3-2 砂赤褐色 焼土粒C/粘土、細C
  - 3 5YR3-4 暗赤褐色 焼土小D-粒D、砂粒出/粘土、細砂
  - 4 5YR2-3 暗赤褐色 焼土小C-粒C/粘土、細C
  - 5 5YR4-3 暗赤褐色 ローム小C-粒C、炭化粒C、砂粒A/粘土、細A
  - 6 7.5YR4-4 暗 ローム大出/中出小C-粒C/粘土、細A

第85図 第4号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第35表 第4号竪穴建物跡出土遺物一覧(第85図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	134	23	-	長石・石英	黄灰	普通	天弁部縁軸へう張り		床面	80% PL17
2	土師器	甕	[222]	(47)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面横ナデ		覆土中	5%
番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考		
3	支脚	(4.8)	8.5	(106)	(589)	長石・石英	にぶい黄緑	接合痕残る		覆土上層	PL23	

### 第7号竪穴建物跡(第86～88図 PL 8・9)

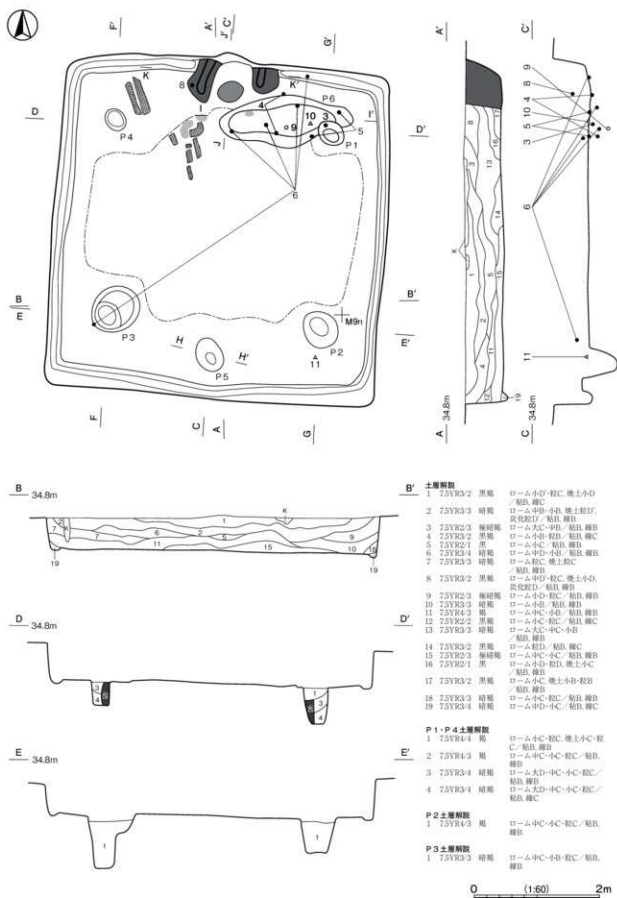
**位置** 調査1区南部のM8e0区、標高35mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.38m, 短軸5.28mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ44～52cmで、直立している。

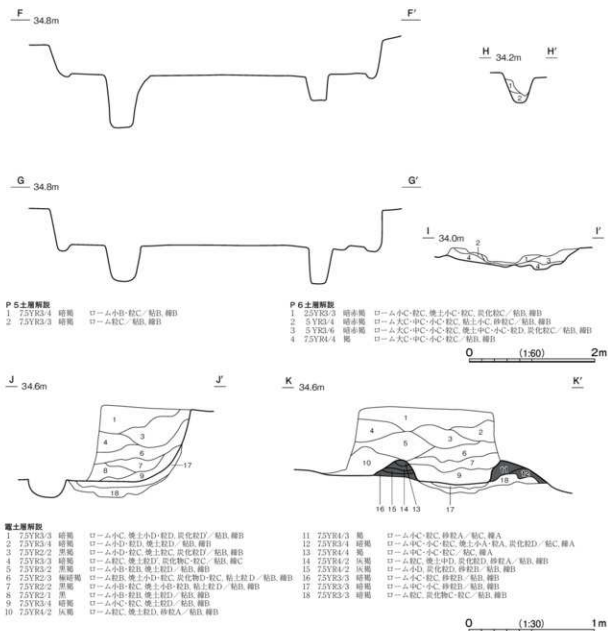
**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cmで、燃焼部幅は68cmである。竈は床面から15cmほど掘り込まれ、第17・18層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、第11～16層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は第17層上面で、被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に12cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がり奥壁で直立している。





第86図 第7号堅穴建物跡実測図(1)



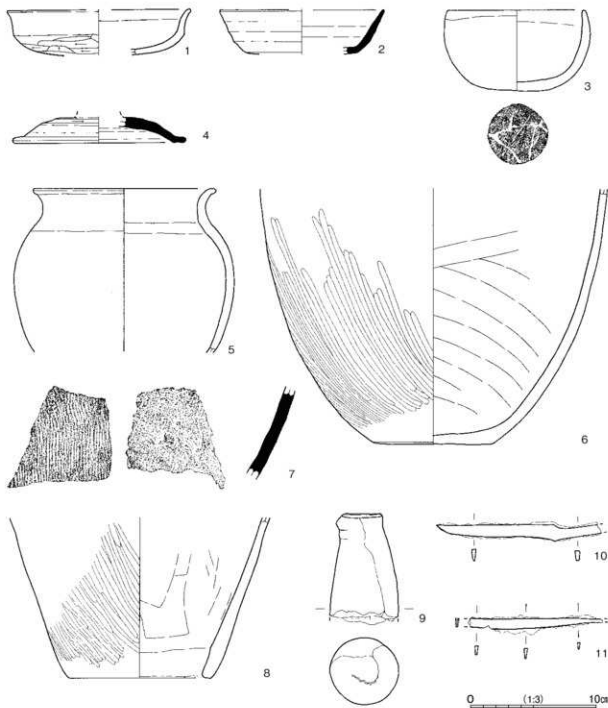
第87図 第7号竈穴建物跡実測図(2)

ピット 6か所。P1～P4は深さ40～84cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ48cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P6は深さ30cmで覆土中に焼土、炭化物を含んでいるため、竈から掻き出した土を溜めた穴の可能性がある。P1・P4の覆土第2層は、柱痕跡である。

**覆土** 19層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片319点(坏55, 椀1, 鉢16, 甕246, 瓶1), 須恵器片18点(坏15, 蓋2, 甕1), 土製品1点(支脚), 金属製品2点(刀子), 焼成粘土塊2点(10g), 鉄滓1点(20g)が出土している。3～6・9・10がP6から出土している。6は南西部付近覆土下層と、P6とその周辺から出土した破片が接合したものである。8は竈左袖の外側から出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、8世紀前葉と考えられる。炭化材と焼土が床面から出土していることから焼失建物と考えられる。



第 88 図 第 7 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 36 表 第 7 号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第 88 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.3]	[3.6]	-	長石・石英	明褐色	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面ヘウ張り 内面ナデ	甕塚土中	30%
2	須恵器	坏	[12.8]	[3.5]	[9.6]	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ	甕土中	10% 新治産
3	土師器	碗	10.8	6.4	4.8	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外・内面横ナデ 底部木葉痕	F 1・F 6	60% PL17
4	須恵器	蓋	13.2	[2.1]	-	長石・石英	赤灰	普通	天舟部回転ヘウ張り	F 6	40% PL17
5	土師器	甕	14.0	[13.0]	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面縦筋により磨滅 内面横ナデ	F 6	35% PL17
6	土師器	甕	-	[20.2]	9.5	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘウ磨き 内面ヘウナデ 底部外面ヘウ張り	F 6・甕土下層	30% PL17
7	須恵器	甕	-	[7.3]	-	長石	網灰	普通	体部外面平行叩き 内面同心円状の浅て具痕	甕土中	5%
8	土師器	甕	-	[12.7]	[11.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘウ磨き 内面ヘウナデ	甕土中層	10%

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	支脚	3.6	(5.4)	(8.8)	(252)	長石・石英	明赤褐色	粘土板を丸めて成形	P 6	PL.23
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質		特徴	出土位置	備考
10	刀子	(13.1)	1.5	0.3 ~ 0.4	(12.37)	鉄		刀身部研ぎ減り 茎先端部欠損	P 6	PL.26
11	刀子	(10.4)	0.7	0.2 ~ 0.3	(7.68)	鉄		刀身部・茎部の一部欠損	床面	PL.26

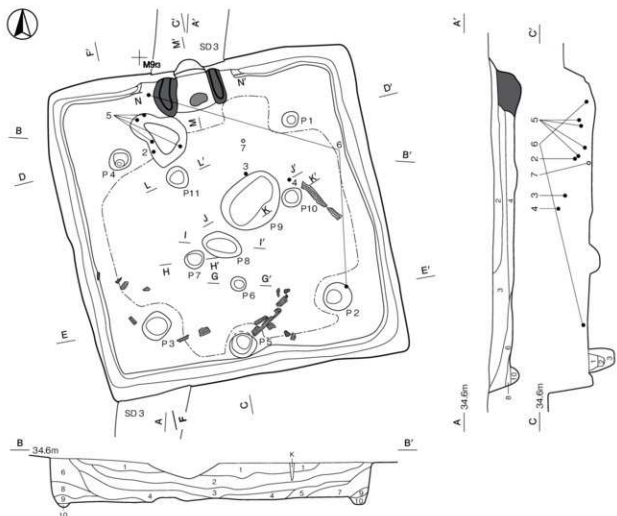
### 第10号竪穴建物跡 (第89～91図 PL.9)

**位置** 調査1区南部のM9B区、標高35mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.09m、短軸5.05mの方形で、主軸方向はN-13'-Wである。壁は高さ54～75cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。竈左袖南側に、南北104cm、東西72cmの範囲で高さ6～9cmの高まりがあり、上面は硬化している。壁溝は全周している。



#### 土層解説

- |               |                          |               |                        |
|---------------|--------------------------|---------------|------------------------|
| 1 75YR3/3 暗褐色 | ロ-ム小D-粒C、炭化粒D/粘B、礫B      | 6 75YR4/4 褐色  | ロ-ム中D-小D-粒C/粘B、礫B      |
| 2 75YR3/4 暗褐色 | ロ-ム小C-粒C、炭化粒D/粘B、礫B      | 7 75YR4/6 褐色  | ロ-ム中D-小D-粒C、炭化物D/粘B、礫B |
| 3 75YR2/2 黄褐色 | ロ-ム小C-粒B、炭土粒C、炭化物C/粘B、礫B | 8 75YR4/6 褐色  | ロ-ム中D-小D-粒C/粘B、礫B      |
| 4 75YR2/2 黄褐色 | ロ-ム中D-小C-粒C、炭化物C/粘B、礫B   | 9 75YR4/6 褐色  | ロ-ム中C-粒B/粘B、礫B         |
| 5 75YR4/4 褐色  | ロ-ム中D-小C-粒C、炭化物C/粘B、礫B   | 10 75YR4/4 褐色 | ロ-ム粒C、粘B、礫B            |

0 (1:60) 2m

第89図 第10号竪穴建物跡実測図(1)

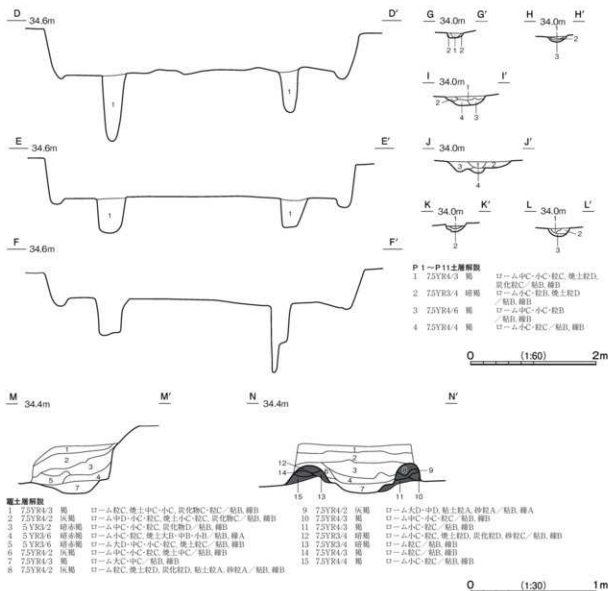
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cmで、燃焼部幅は59cmである。袖部はロームの掘り残しを基部として、第8～15層を積み上げて構築されている。火床部は床面より10cm掘り下げられ、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に15cmほど掘り込まれ、火床部に段を有し、外傾して立ち上がっている。

**ピット** 11か所。P1～P4は深さ44～106cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ44cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P6～P11は深さ6～16cmで、覆土に焼土や炭化物が含まれている。

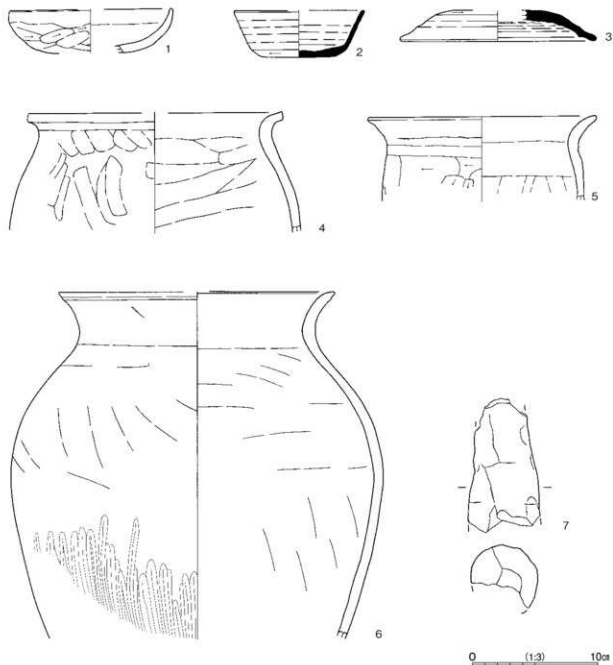
**覆土** 10層に分層できる。覆土にロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片119点(坏2, 鉢20, 甕96, 瓶1), 須恵器片13点(坏9, 蓋3, 長頸瓶1), 土製品1点(支脚), 鉄滓4点(37g)が出土している。6・7は覆土下層, 2・5は覆土中層, 3・4は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、8世紀前葉と考えられる。炭化材と焼土が床面から出土していることから、焼失建物である。



第90図 第10号堅穴建物跡実測図(2)



第91図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図

第37表 第10号竪穴建物跡出土遺物一覧(第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[128]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黄	普通	体部外面へう張り肌、一部ナデ	覆土中	20%
2	須恵器	坏	[10.1]	3.7	5.8	長石・石英・雲母、繊維	灰赤	普通	体部外面下端部転へう張り 底部同転へう張り	覆土中層	50% 裏面 PL.17
3	須恵器	蓋	[15.0]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	天弁部同転へう張り	覆土上層	50% 裏面 PL.17
4	土師器	甕	[19.8]	(9.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 口縁部直下深いナデ 体部外面へうナデ 内面へうナデ	覆土上層	10%
5	土師器	甕	17.8	(6.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう張り 体部内面へうナデ	覆土中層	20% PL.17
6	土師器	甕	[21.7]	(27.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部下半へう張り 体部内面へうナデ	覆土下層	30% PL.17
番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
7	支脚	(4.2)	(5.7)	(10.6)	(232)	長石・石英	赤褐	粘土版を丸めて成形 指頭状残る	覆土下層	PL.23	

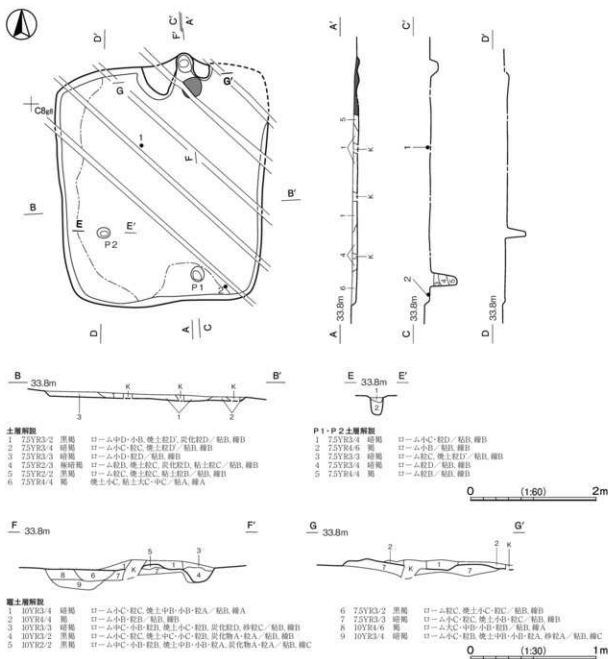
## 第22号竪穴建物跡 (第92・93図 PL 9)

位置 調査2区西部のC8g8区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.76m、短軸3.32mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁は高さ4~6cmで、外傾して立ち上がっている。北東コーナー部の壁面は残存していない。

床 平坦で、中央部から東壁際まで踏み固められている。

竈 北壁東寄りに付設されている。竈の遺存状況は悪いが、確認できた規模は焚口部から煙道部まで54cmで、燃焼幅は25cmである。竈は床面から20cmほど掘り込まれ、第5~9層を埋土して整地されている。袖部は基部のみが残存し、掘方と一体で第7層によって構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は第5層上面で、被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に19cmほど掘り込まれている。奥壁は削平されており、立ち上がりは確認できなかった。



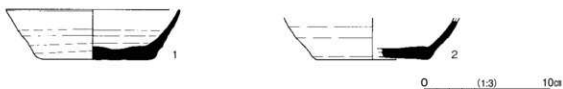
第92図 第22号竪穴建物跡実測図

ピット 2か所。P1は深さ42cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P2は深さ30cmで、性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片84点(甕),須恵器片3点(坏2,甕1),焼成粘土塊1点(23g)が出土している。1・2は床面から出土している。

所見 時期は、出土遺物から8世紀中葉と考えられる。



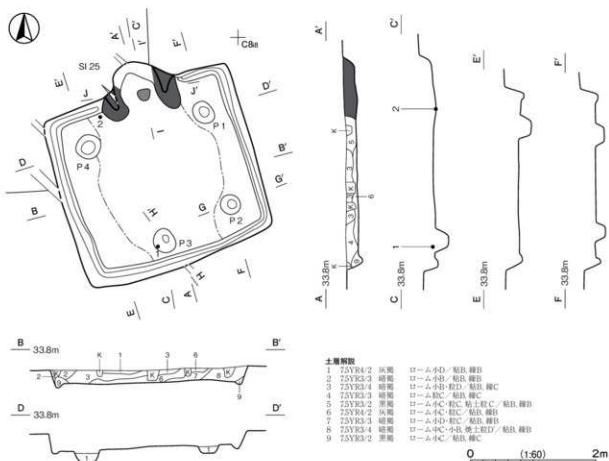
第93図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図

第38表 第22号竪穴建物跡出土遺物一覧(第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.7	4.0	8.7	長石・石英・雲母	赤灰	普通	外・内面ロラロナア 底部回転ヘラ刮り残。全面 子持ちヘラ刮り調整	床面	80% 新富遺 PL17
2	須恵器	坏	-	(3.3)	(8.7)	長石・石英・雲母	粉灰	不良	底部手持ちヘラ刮り	床面	10% 新富遺

第24号竪穴建物跡(第94・95図 PL9)

位置 調査2区西部のC817区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第94図 第24号竪穴建物跡実測図



**重複関係** 第25号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.16m、短軸2.92mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁は高さ17~27cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

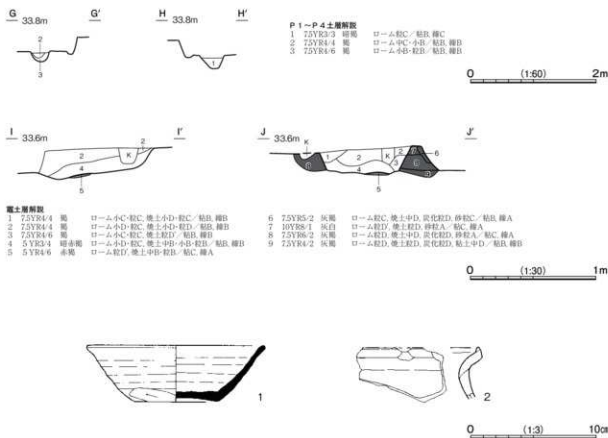
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は、地山の上に第6~9層を積み上げて構築されている。火床部は床面よりややくぼんでおり、火床面は第5層上面で、弱く赤変している。明確な硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 4か所。P1~P4は深さ14~20cmで、配置から主柱穴である。P3は出入口施設にともなうピットの可能性もある。

**覆土** 9層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片7点(甕)、須恵器片3点(坏2、甕1)、焼成粘土塊1点(23g)が出土している。2は床面から、1はP3上面から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第95図 第24号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第39表 第24号竪穴建物跡出土遺物一覧(第95図)

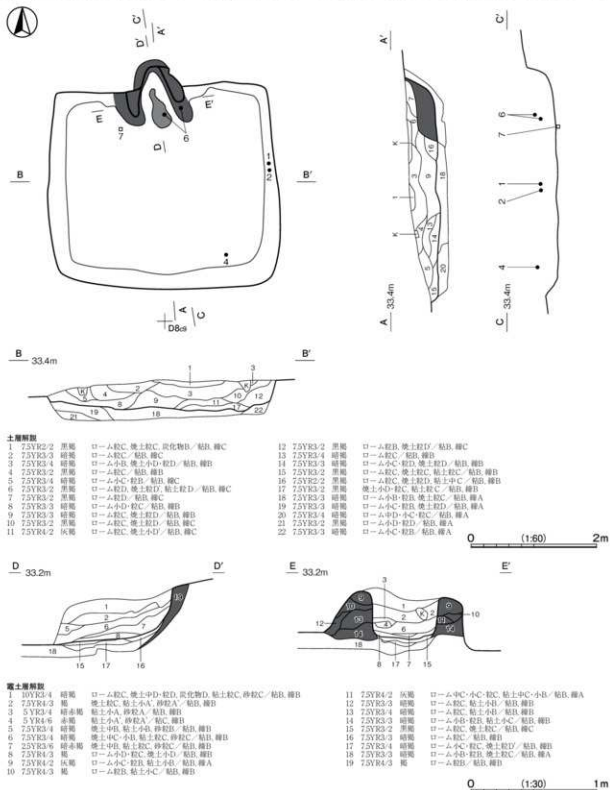
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	140	4.5	6.6	長石・石英・雲母・繊維・赤色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外・内面クワノナデ 体部下端手持ちへウ張り 裏面一方向の手持ちへウ張り	P.3	20% 表清潔度 PL18
2	土師器	甕	-	(4.3)	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外・内面クワナデ	床面	5%

第26号竪穴建物跡 (第96・97図 PL 9)

位置 調査2区南西部のD 8 b8区、標高33 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.64 m、短軸3.23 mの長方形で、主軸方向はN-2'-Wである。壁は高さ56 cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、全面が弱く硬化している。掘方は床面を7~25 cm掘り下げ、第18~22層を埋土して整地している。



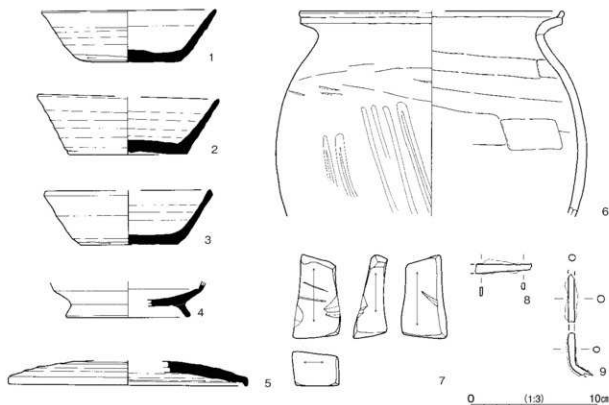
第96図 第26号竪穴建物跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は47cmである。竈は床面から12cmほど掘り込まれ、第15～19層を埋土して整地されている。袖部は整地地面の上に、第9～14層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により第15層上面で赤変硬化している。煙道部は壁外に36cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

覆土 17層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片156点(坏15, 蓋1, 鉢1, 甕138, 瓶1), 須恵器片56点(坏52, 高台付坏3, 蓋1), 石器1点(砥石), 金属製品2点(刀子, 不明), 鉄滓1点(13g)が出土している。6は竈覆土中層から、1・2は東壁際の覆土中層から出土している。7は掘方埋土から出土している。

所見 時期は出土遺物から、8世紀中葉と考えられる。



第97図 第26号竈穴建物跡出土遺物実測図

第40表 第26号竈穴建物跡出土遺物一覧(第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	137	4.1	7.9	長石・石英・雲母	褐色	普通	外・内面クロナデ 体部下層手持ちヘラ削り 底縁多方向手持ちヘラ削り	覆土中層	80% PL18
2	須恵器	坏	[140]	4.8	9.2	長石・石英・ 黑色粒子	灰白	普通	外・内面クロナデ 底縁回転ヘラ削り	覆土中層	70% 新清原 PL18
3	須恵器	坏	[130]	4.3	7.8	長石・石英・ 黑色粒子	褐色	普通	外・内面クロナデ 体部下層手持ちヘラ削り 底縁多方向手持ちヘラ削り	竈覆土中	30% PL18
4	須恵器	高台付坏	-	(28)	(9.5)	長石・石英	褐色	良好	外・内面クロナデ 底縁クロナデ	竈土中層	5%
5	須恵器	蓋	[190]	(1.9)	-	長石・石英・緑礫・ 白色粘土物質	赤灰	良好	天岸部回転ヘラ削り	竈覆土中	5%
6	土師器	甕	[206]	(16.3)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面クロナデ 体部中央縦方向のヘラ削り 内面ヘナデ	竈壁土中層	20% PL18
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
7	砥石	6.7	3.8	2.7	76.23	凝灰岩	紙面4面 表裏に線刷状の砥き痕			掘方埋土	PL24
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
8	刀子	(4.5)	(0.7)	0.2- 0.3	(4.30)	鉄	茎部のみ			覆土中	PL26
9	不明鉄製品	(7.2)	0.5	0.1- 0.5	(8.93)	鉄	先端部折曲 断面円形。			覆土中	PL26

第28号竪穴建物跡 (第98～100図 PL10)

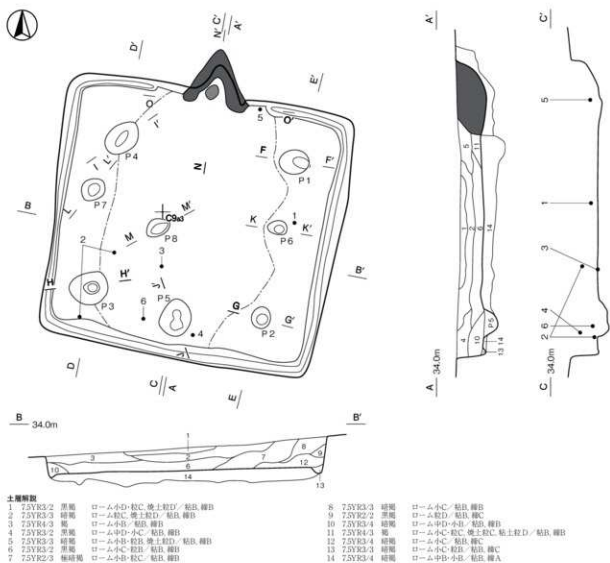
位置 調査2区西部のC9a3区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.54m、短軸4.20mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ34～58cmで、直立している。

床 平坦で、出入口部から竈前部が踏み固められている。壁溝は全周している。貼床は全体を10～23cm掘り下げ、第14層を埋土して整地している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅は68cmである。竈は全体を15cmほど掘り込み、第19～24層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、第16～18層を積み上げて構築されている。火床部は床面よりわずかにくぼんでおり、火床面は第19層上面で、被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

ピット 8か所。P1～P4は深さ38～78cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ18cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P6・P7は深さ26・15cmで、配置から補助柱穴の可能性がある。P8は深さ16cmで、性格は不明である。覆土の第3層は柱痕跡である。

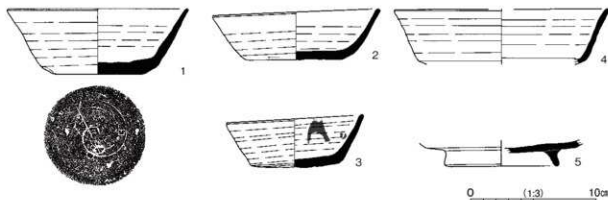
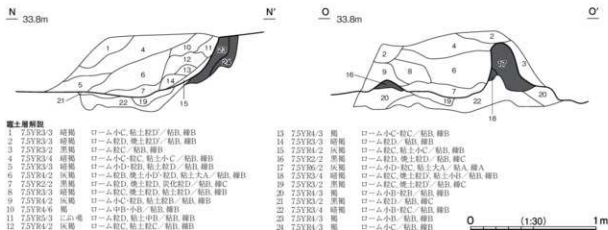
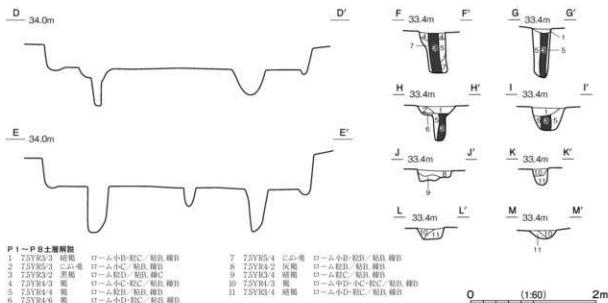


第98図 第28号竪穴建物跡実測図

覆土 13層に分層できる。流れ込みによる堆積状況を示していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片84点(坏15, 甕68, 鉢1), 須恵器片22点(坏18, 高台付坏2, 高台付盤1, 壺類1), 石器1点(砥石), 鉄滓4点(78g)が出土している。また、甕材と思われる粘土が甕前と出入口付近の覆土下層から確認された。2は覆土下層と中層出土の破片が接合したものである。

所見 時期は出土遺物から、8世紀中葉と考えられる。



第99図 第28号堅穴建物跡・出土遺物実測図



第100図 第28号竪穴建物跡出土遺物実測図

第41表 第28号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第99-100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.2	5.2	7.0	長石・石英・絹織・白色針状物質	褐色	普通	外・内面ロクロナデ 底部回転ヘウ張り 磨印。		覆土下層	90% 木葉下層 残片
2	須恵器	坏	13.2	4.0	7.5	長石・石英・白色粒子	赤灰	普通	外・内面ロクロナデ 底部下端回転ヘウ張り 底部回転ヘウ張り		覆土中・下層	90% 粘散土 PL15
3	須恵器	坏	10.8	4.2	7.0	長石・石英	褐色	普通	外・内面ロクロナデ 外・内面に障灰 底部一方の手持ちヘウ張り 底部外面まね焼き肌 側面に掻付着 土急勾玉打込穴		床面	90% 打明用転用 PL15
4	須恵器	高台付坏	[16.8]	(4.4)	-	長石・石英	褐色	良好	外・内面ロクロナデ		覆土中層	20% 土上同一。
5	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	[8.7]	長石・石英	褐色	良好	外・内面ロクロナデ 底部外面ロクロナデ 高台部接合面に漆塗		覆土下層	20% 土上同一。
6	須恵器	高台付盤	[21.7]	(2.6)	-	長石・石英・雲母	赤灰	良好	外・内面ロクロナデ 器表面に鉄分の滲出 高台部接合面に漆塗		覆土下層	10% 新治産
7	土師器	甕	[23.7]	(2.7)	-	長石・石英	褐色	普通	外・内面横ナデ		覆土中	5%

第41号竪穴建物跡 (第101-102図 PL10)

位置 調査2区南西部のD8b5区、標高32mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸2.98m、短軸2.74mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。残存する壁は高さ2cmである。

床 平坦で、明確な硬化は認められない。南壁、西壁下の一部を除いて壁溝が巡っている。

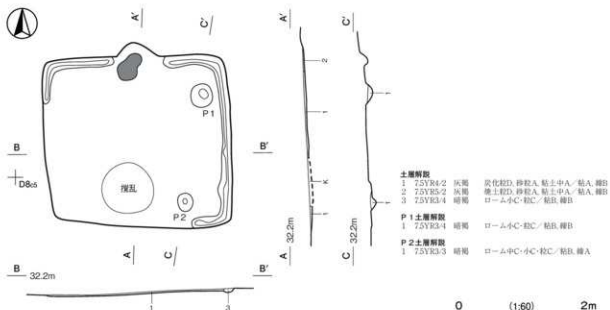
竈 北壁中央部に付設されている。竈の遺存状態は悪く、規模は焚口から煙道部まで61cmで、燃焼部幅は65cmである。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は黒く変色していたが、明確な硬化は認められなかった。煙道部は壁外に22cmほど掘り込まれている。両袖部は遺存せず、廃絶時に竈が片付けられた可能性がある。

ピット 2か所。P1・P2は深さ10cm・8cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。第2層は竈の覆土である。層厚が薄く、体積状況は不明である。

遺物出土状況 須恵器片1点(蓋)が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から、8世紀前葉と考えられる。



第101図 第41号竪穴建物跡実測図



O (1:3) 10m

第102図 第41号竪穴建物跡出土遺物実測図

第42表 第41号竪穴建物跡出土遺物一覧(第102図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	(173)	(27)	-	灰石・石英・雲母に多い黄砂	不良	焼成	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10% 統治痕

第43表 奈良時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
								土柱	出入口	土+1	土+2					
3	N 8c5	N-9°-E	[方形・長方形]	3.38 × (3.12)	40~54	平坦	[全周]	-	1	1	北壁	-	自然	土師器、須恵器	8世紀前半	
4	M 8g4	N-4°-W	[方形・長方形]	3.37 × (1.90)	40	平坦	一部	-	-	1	北壁	-	自然	土師器、須恵器、土製品	8世紀前半	
7	M 8e0	N-5°-E	方形	5.38 × 5.28	44~52	平坦	全周	4	1	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品、金属製品	8世紀前半	
10	M 9G3	N-13°-W	方形	5.09 × 5.05	54~75	平坦	全周	4	1	6	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品	8世紀前半	本跡→SD 3
22	C 8g8	N-2°-W	長方形	3.76 × 3.32	4~6	平坦	-	-	1	1	北壁	-	不明	土師器、須恵器	8世紀中葉	
34	C 8I7	N-17°-W	方形	3.16 × 2.92	17~27	平坦	全周	4	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後半	SD2→本跡
36	D 8b8	N-2°-W	長方形	3.64 × 3.23	56	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品、金属製品	8世紀中葉	
28	C 9a3	N-10°-E	方形	4.54 × 4.20	34~38	平坦	全周	4	1	3	北壁	-	自然	土師器、須恵器、土製品	8世紀中葉	
41	D 8b5	N-2°-W	方形	2.98 × 2.74	2	平坦	一部	-	-	2	北壁	-	不明	須恵器	8世紀前半	

## (2) 掘立柱建物跡

## 第1号掘立柱建物跡(第103図 PL11)

位置 調査1区南東部のM9f5区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

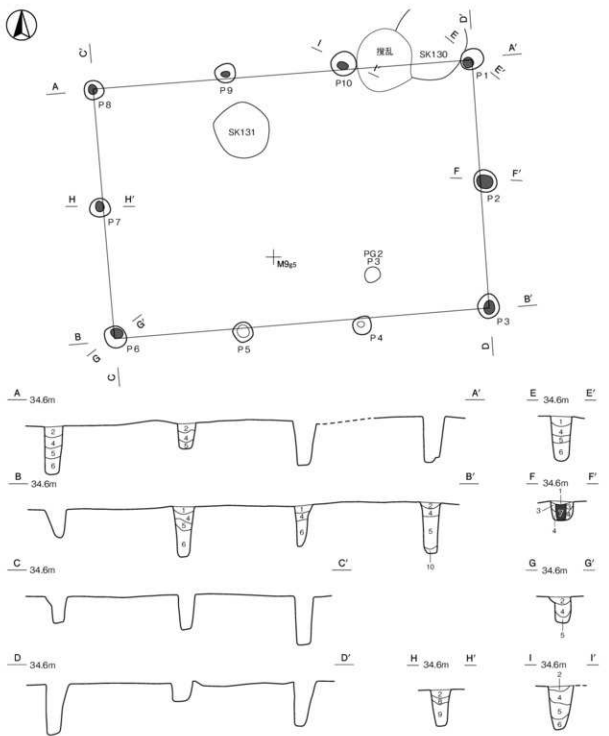
重複関係 第130・131号土坑、第2号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-84°-Eの東西棟である。規模は桁行5.94m、梁行3.96mで、面積は2352㎡である。柱間寸法は梁行でP1-P2間が1.98m(7尺)、P2-P3間が1.98m(7尺)、P6-P7間が2.00m(7尺)、P7-P8間が1.92m(7尺)、桁行でP3-P4間が2.04m(7尺)、P4-P5間が1.86m(6尺)、P5-P6間が1.98m(7尺)、P8-P9間が2.10m(7尺)、P9-P10間が1.86m(6尺)、P1-P10間が1.98m(7尺)で、ほぼ等間である。柱筋は桁行、梁行ともにわずかに外側に膨らむが、ほぼ揃っている。

柱穴 10か所。径31~41cm、深さ32~79cmであり、ややばらつきがある。P4・P5以外の底面に柱のあたりを確認した。覆土の第7層は柱痕跡である。

遺物出土状況 土師器片13点(坏1、甕12)、須恵器片2点(蓋、甕)が出土した。1・3はP2の覆土中、2はP1の覆土中、4はP10の覆土中から出土した。

所見 時期は出土遺物から、8世紀前半と考えられる。



土層解説

- |           |       |                              |            |       |                              |
|-----------|-------|------------------------------|------------|-------|------------------------------|
| 1 10YR4/3 | ①-②-③ | ロ-ム小C-粒C、焼土粒D、炭化粒D、粘B、礫B     | 6 10YR3/2  | 赤褐色   | ロ-ム中D'-小D'-粒C、粘B、礫C          |
| 2 10YR3/3 | 礫層    | ロ-ム中D'-小C-粒C、焼土粒D、炭化粒D、粘B、礫B | 7 10YR3/4  | 暗褐色   | ロ-ム小C-粒C、炭化粒D、粘B、礫B          |
| 3 10YR4/4 | 粘     | ロ-ム中C'-小C'-粒B、粘B、礫B          | 8 10YR3/3  | ①-②-③ | ロ-ム大D'-中D'-小C'-粒B、粘B、礫B      |
| 4 10YR3/3 | 礫層    | ロ-ム粒C、炭化粒D、粘B、礫B             | 9 10YR3/2  | 赤褐色   | ロ-ム大D'-中C'-小C'-粒C、炭化粒C、粘B、礫A |
| 5 10YR3/3 | 礫層    | ロ-ム粒D、粘B、礫B                  | 10 10YR4/3 | ①-②-③ | ロ-ム小C-粒C、粘B、礫A               |

0 (1:50) 2m



第103図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

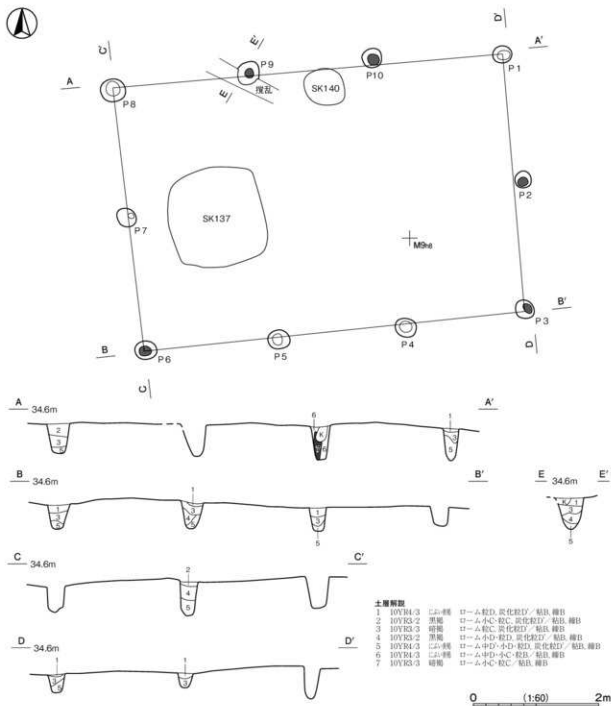


第44表 第1号掘立柱建物跡出土遺物一覧 (第103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手取の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	-	(22)	-	長石・石英・雲母	灰赤	普通	外・内面クワロナデ	F 2 覆土中	5% 新治宮 PL18
2	土師器	甕	-	(26)	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外・内面横ナデ	F 1 覆土中	5%
3	土師器	甕	-	(23)	-	長石・石英	灰黒	普通	外・内面横ナデ	F 2 覆土中	5%
4	須恵器	甕	-	(22)	-	長石・石英	黒灰	普通	外・内面クワロナデ	F 10 覆土中	5%

## 第2号掘立柱建物跡 (第104・105図 PL11)

位置 調査1区南東部のM9g7区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第104図 第2号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第137号土坑と重複しており、本跡の方が古い。第140号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 桁行3間、梁行2間の棚柱建物跡で、桁行方向がN-86°-Eの東西棟である。規模は桁行6.20m、梁行4.20mで、面積は26.04㎡である。柱間寸法は梁行でP1-P2間が2.05m(7尺)、P2-P3間が2.05m(7尺)、P6-P7間が2.10m(7尺)、P7-P8間が2.10m(7尺)、桁行でP3-P4間が2.00m(7尺)、P4-P5間が2.04m(7尺)、P5-P6間が2.10m(7尺)、P8-P9間が2.10m(7尺)、P9-P10間が2.05m(7尺)、P1-P10間が2.05m(7尺)で、ほぼ等間である。柱筋は桁行、梁行ともにわずかに外側に影らむが、ほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。径28～40cm、深さ24～54cmであり、ややばらつきがある。P2・P3・P6・P9・P10の底面に柱のあたりを確認した。覆土の第7層は柱痕跡である。

**遺物出土状況** 土師器片1点(甕)、須恵器片3点(坏)が出土している。IはP10の覆土上層から出土した。

**所見** 時期は第1号掘立柱建物跡と桁行や主軸がほぼ同一であり、8世紀前半と考えられる。



第105図 第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第45表 第2号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
I	土師器	甕	[166]	(37)	-	長石・石英	赤褐色	普通	外・内面横ナデ	P10覆土上層	5%

第46表 奈良時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数		面積(㎡)	柱間寸法		柱穴			時期	備考	
			桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形			深さ(cm)
1	M9区	N-86°-E	3×2	5.94×3.06	23.52	1.86～2.10	1.92～2.00	棚柱	10	円形	32～79	8世紀前半	SK130-131, PG2 P3土層
2	M9区	N-86°-E	3×2	6.20×4.20	26.04	2.00～2.10	2.05～2.10	棚柱	10	円形	28～54	8世紀前半	本跡→SK137, SK140と重複

## 5 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡9棟、土坑4基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 竪穴建物跡

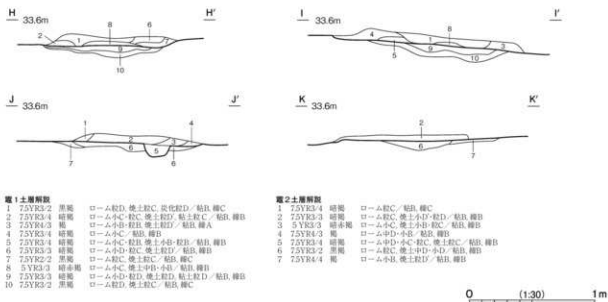
#### 第1号竪穴建物跡(第106～109図 PL10)

**位置** 調査2区北東部のB9区0区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.85m、短軸4.66mの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁は高さ4～30cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 東に向かってやや下がっている。出入口部と窓前部が踏み固められている。壁溝は全周している。





第107図 第1号竪穴建物跡実測図(2)

**竪穴 2** 2か所。竪穴1は北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで72cmで、燃焼部幅は86cmである。竪穴は床面から10cmほど掘り込まれ、第9・10層を埋土して整地されている。袖部は残っていないが、火床部両脇に袖の基部がわずかに確認できた。火床部から焚口の範囲と考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。また、竪穴前の南北55cm、東西105cmの範囲で床面が黒色化していた。煙道部は壁外に36cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。竪穴2は東壁中央部に付設されている。竪穴は床面から8cmほど掘り込まれ、第6・7層を埋土して整地されている。袖部は残っていない。また、竪穴前の南北110cm、東西99cmの範囲で床面が黒色化していた。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれている。第1～4層は竪穴建物廃絶後に堆積した建物の覆土である。新旧関係は、竪穴2の整地土を壁溝が掘り込んでいることから、竪穴2から竪穴1への作り替えが行われている。

**ピット 5** 5か所。P1～P4は深さ6～86cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ18cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P1・P4の覆土第1層は柱痕跡である。

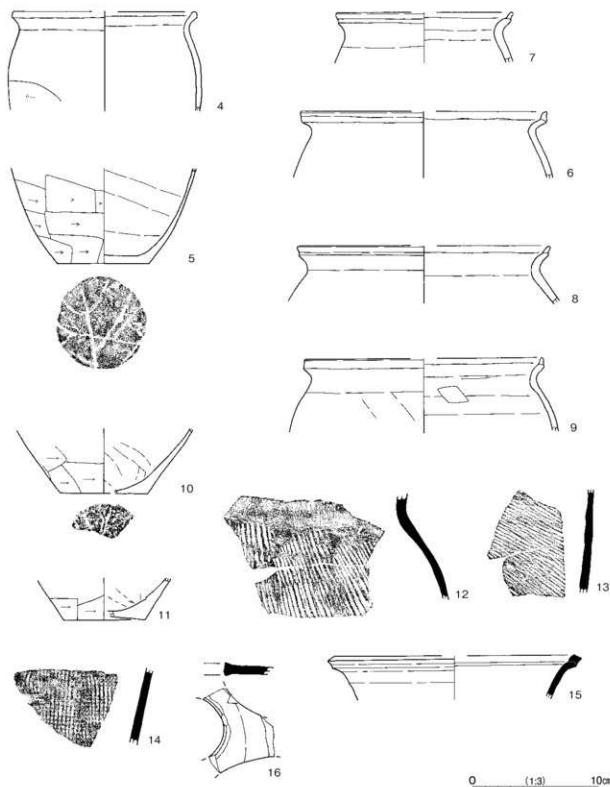
**覆土 6** 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片123点(坏14, 甕108, 瓶1)、須恵器片12点(坏6, 蓋1, 甕4, 瓶1)、焼成粘土塊3点(17g)、鉄滓6点(61g)が出土している。10は竪穴1火床面から、1・4・5は竪穴1の焚口付近から、7は床面から出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、9世紀前葉と考えられる。



第108図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第109図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

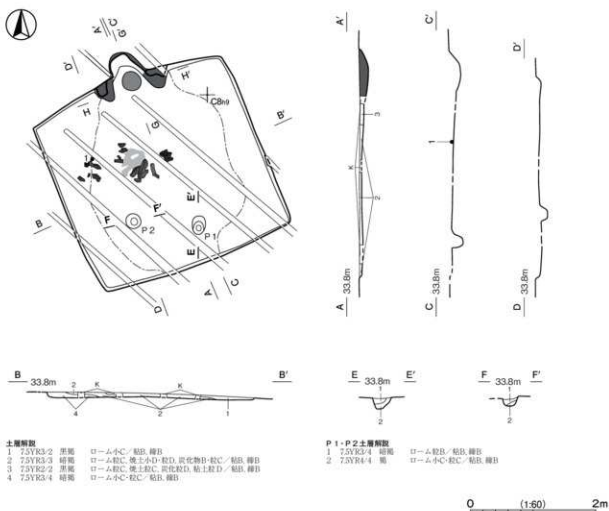
第47表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧(第108・109図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	12.5	4.1	7.3	長石・石英	橙	普通	外・内面磨面滑らか 底部凹へり切り状 周縁凹へり切り 内面黒色地味 外面黒化	竪1壁口	95% PL18
2	土師器	杯	-	(0.9)	(7.0)	長石・石英・雲母	1:赤・黒	普通	底部下縁手持ちへり切り 内面へり切り(底部一方凹) 内面黒色地味	竪土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	須恵器	杯	[140]	(40)	-	長石・石英	灰黄緑	不良	外・内面ロクロナデ 底部下縁回転ヘウ張り	覆土中	5%
4	土師器	甕	[144]	(79)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面ヘウ張り 内面ナデ	竈1契口	30% PL22
5	土師器	甕	-	(76)	7.3	長石・石英・雲母	褐	普通	外面ヘウ張り 内面ヘラナデ 底部本業痕	竈1契口	30%
6	土師器	甕	[194]	(53)	-	長石・石英・細礫	明赤褐	普通	外・内面横ナデ	竈2覆土中・ 竈1覆方埋土	10%
7	土師器	甕	[138]	(40)	-	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	普通	外・内面横ナデ	竈1覆土中・ 床面	10%
8	土師器	甕	[197]	(46)	-	長石・石英	にぶい赤	普通	外・内面横ナデ	覆土中	10%
9	土師器	甕	[188]	(59)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 内面横ナデ	竈2覆土中	5%
10	土師器	甕	-	(52)	[6.8]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面ヘウ張り 内面ヘラナデ 底部本業痕	竈1火床面	5%
11	土師器	甕	-	(34)	[6.4]	長石・石英・雲母・ 細礫	赤	普通	外面ヘウ張り 内面ヘラナデ 底部ナデ	竈1覆方埋土	10%
12	須恵器	甕	-	(84)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面斜位の平行叩き 内面押さえ	覆土中	5%
13	須恵器	甕	-	(81)	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面斜位の平行叩き 内面横ナデ	覆土中	5%
14	須恵器	甕	-	(52)	-	長石・石英	にぶい黄褐	不良	外面椅子目焼き	竈2覆方埋土	5%
15	須恵器	甕	[190]	(35)	-	長石・石英	にぶい赤	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
16	須恵器	瓶	-	(30)	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外・内面ロクロナデ S孔式	覆土中	5%

### 第23号竪穴建物跡 (第110・111 図 PL 9・10)

位置 調査2区西部のC8h8区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。



第110 図 第23号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 一辺3.26 mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁は高さ2~7 cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、出入口部から中央部まで踏み固められている。

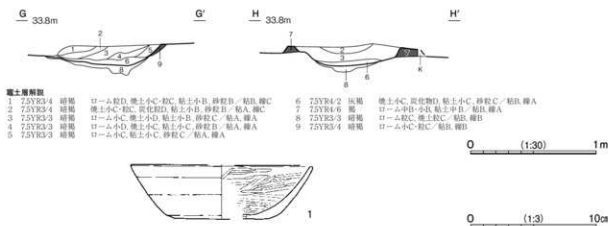
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで74 cmで、燃焼部幅は50 cmである。竈は床面から9 cmほど掘り込まれ、第8・9層を埋土して整地されている。軸部は、地山の上に第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面からやややくぼんでおり、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に48 cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 2か所。P1は深さ18 cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P2は深さ15 cmで、性格は不明である。

**覆土** 4層に分層できる。第2~4層には焼土や炭化物・炭化粒子が含まれているが、層厚が薄く堆積状況は不明である。

**遺物出土状況** 土師器片21点(坏11, 甕10)、須恵器片3点(坏)が出土している。また、床面から炭化材・炭化物が出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、9世紀前葉と考えられる。覆土に焼土や炭化物・炭化粒子が含まれ、床面から炭化材・炭化物が出土していることから、焼失建物の可能性がある。



第111図 第23号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第48表 第23号竈穴建物跡出土遺物一覧(第111図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[142]	4.3	[70]	長石・石英	明赤色	普通	外・内面ロクロナデ 底面回転ヘラ削り 内面ヘラ削り	床面	10%

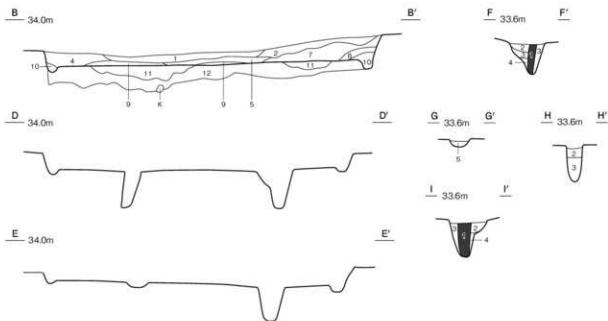
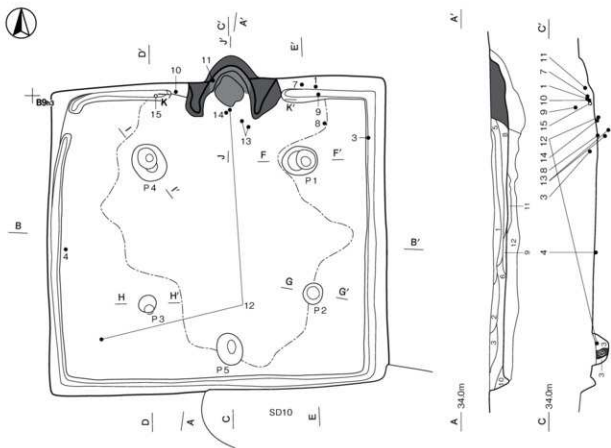
#### 第29号竈穴建物跡(第112~115図 PL10)

**位置** 調査2区北部のB9h3区、標高34 mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第10号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.38 m、短軸4.90 mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁は高さ12~28 cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、竈前から中央部が踏み固められている。北西コーナー部を除き壁溝は全周している。貼床は全体を16~40 cm掘り下げ、第11・12層を埋土して整地している。



**土層解説**

- |    |         |    |                             |
|----|---------|----|-----------------------------|
| 1  | 75YR3-3 | 砂礫 | ロ-ム粒D、焼土粒D、粘B、礫C            |
| 2  | 75YR3-3 | 砂礫 | ロ-ム小D-粒C、粘B、礫B              |
| 3  | 75YR3-2 | 赤礫 | ロ-ム粒C、粘B、礫B                 |
| 4  | 75YR3-4 | 砂礫 | ロ-ム小D-粒C、焼土粒D、粘B、礫B         |
| 5  | 75YR3-3 | 砂礫 | ロ-ム小D-粒B、焼土中D-小D-粒B、粘B、礫B   |
| 6  | 75YR3-2 | 赤礫 | ロ-ム小D-粒B、粘B、礫B              |
| 7  | 75YR3-4 | 砂礫 | ロ-ム中D-粒C、炭化物D、粘B、礫B         |
| 8  | 75YR3-3 | 砂礫 | ロ-ム小C、焼土小C-粒C、粘B、礫B         |
| 9  | 75YR2-1 | 赤  | ロ-ム小D-粒C、焼土粒D、炭化物B-粒B、粘B、礫C |
| 10 | 75YR3-2 | 砂礫 | ロ-ム粒D、粘B、礫B                 |
| 11 | 75YR3-3 | 砂礫 | ロ-ム小D-粒B、粘B、礫B              |
| 12 | 75YR4-6 | 粘  | ロ-ム中D-小D、粘B、礫B              |

**P1~P5土層解説**

- |   |         |    |                              |
|---|---------|----|------------------------------|
| 1 | 75YR3-4 | 砂礫 | ロ-ム小C-粒B、粘B、礫B               |
| 2 | 75YR4-3 | 粘  | ロ-ム小C-粒C、焼土小D、炭化物D、砂粒D、粘B、礫B |
| 3 | 75YR4-3 | 粘  | ロ-ム小C-粒C、粘B、礫B               |
| 4 | 75YR4-4 | 粘  | ロ-ム粒B、粘B、礫B                  |
| 5 | 75YR4-6 | 粘  | ロ-ム小C-粒C、炭化物D、砂粒D、粘B、礫B      |
| 6 | 75YR3-4 | 砂礫 | ロ-ム小C-粒B、砂粒D、粘B、礫B           |

第112図 第29号竪穴建物跡実測図(1)



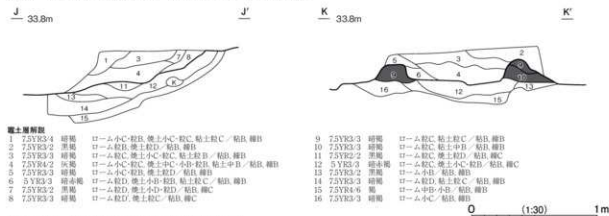
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口から煙道部まで100cmで、燃焼部幅は68cmである。竈は床面から25cmほど掘り込まれ、第11～16層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面より6cmほど高く、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ8～60cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ24cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P1・P4の覆土第1層、P5の覆土第6層は柱痕跡である。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片107点(坏17, 甕90), 須恵器片39点(坏14, 高台付盤1, 壺類2, 甕22), 土製品1点(不明), 焼成粘土塊5点(52g), 鉄滓4点(62g)が出土している。13は竈掘方埋土から、12・14は竈火床部から、11は竈覆土中層から、1・7～10・15は両袖脇からそれぞれ出土している。1・7は壁際の覆土下層から斜位で出土している。

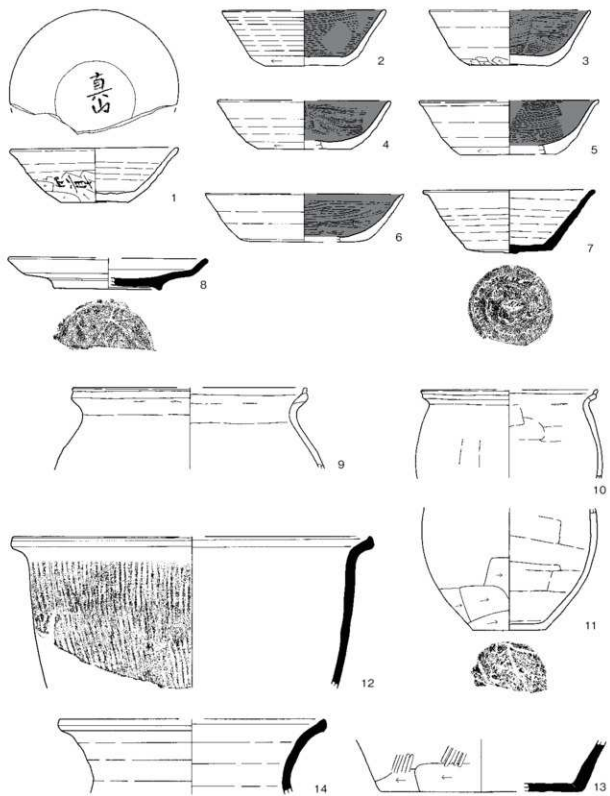
所見 時期は出土遺物から、9世紀中葉と考えられる。



第113図 第29号竈穴建物跡実測図(2)

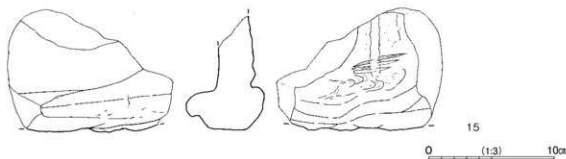
第49表 第29号竈穴建物跡出土遺物一覧(第114・115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.1	4.3	5.3	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちへつ割り 底部一方手持ちへつ割り 底部内面直状に溝落し一部に窪の付着 底部の溝落しによって器蓋がはがれ落ちる	覆土下層	60% 体蓋外面・底部内面器蓋「真山」PL18
2	土師器	坏	[128]	4.4	6.0	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちへつ割り 内面へつ割き 底部回転軸未切り後、一方手持ちへつ割り 内面黒色色落	覆土中層	60% PL18
3	土師器	坏	[126]	4.4	6.2	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちへつ割り 内面へつ割き 底部回転軸未切り後、一方手持ちへつ割り 内面黒色色落	覆土中層	50% PL18
4	土師器	坏	[134]	3.9	[7.2]	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちへつ割り 内面へつ割き 内面直状の溝落 底部回転軸へつ割り 内面黒色色落	床面	30%
5	土師器	坏	[140]	4.3	[7.4]	長石・石英・細砂	にぶい褐色	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちへつ割り 内面へつ割き 底部へつ割り 内面黒色色落	覆土中層	20%
6	土師器	坏	[156]	3.8	[10.4]	長石・石英・細砂	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちへつ割り 内面へつ割き 内面直状の溝落 底部回転軸へつ割り 内面黒色色落	覆土中層	20%
7	須恵器	坏	13.4	5.1	6.6	長石・石英	灰赤	普通	外・内面ロクロナデ 底部回転軸へつ割り 無陶質 焼ムツがあり、一部酸化炭化	覆土下層	60% PL18
8	須恵器	高台付盤	[15.6]	2.5	[8.4]	灰黄褐色	普通	普通	外・内面ロクロナデ 底部焼成後へつ割き「大」	床面	40% PL18
9	土師器	甕	[18.4]	(6.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面横ナデ 体部内面削成	覆土上層	10%
10	土師器	甕	[13.8]	(7.1)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面へつナデ 内面へつナデ	覆土下層	10%
11	土師器	甕	-	(9.7)	5.6	長石・石英・細砂	にぶい赤褐色	普通	外面へつ割り 内面へつナデ 底部木煮成	覆土中層	
12	須恵器	甕	[28.2]	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色 黄灰	普通	外面手持ち口 内面押き上げ 横ナデ	竈天床部・床面	20% PL18
13	須恵器	甕	-	(4.2)	[15.8]	長石・石英	にぶい褐色	不良	内面縦段の平行押しナデ 底部へつ割り 内面押し上げ	竈掘方埋土	10%
14	須恵器	甕	[21.0]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	外・内面ロクロナデ	竈火床部	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
15	不明土製品	(9.7)	(13.1)	(6.1)	(529)	長石・石英	明赤褐色	表面ナデ	覆土下層	PL23	



0 (1:3) 10cm

第 114 图 第 29 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)

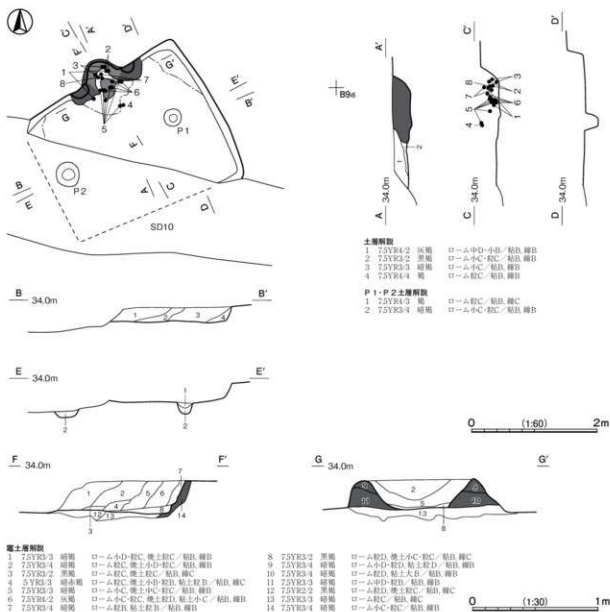


第115図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

## 第31号竪穴建物跡(第116・117図 PL10)

位置 調査2区北部のB9区5区, 標高34mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号溝に掘り込まれている。

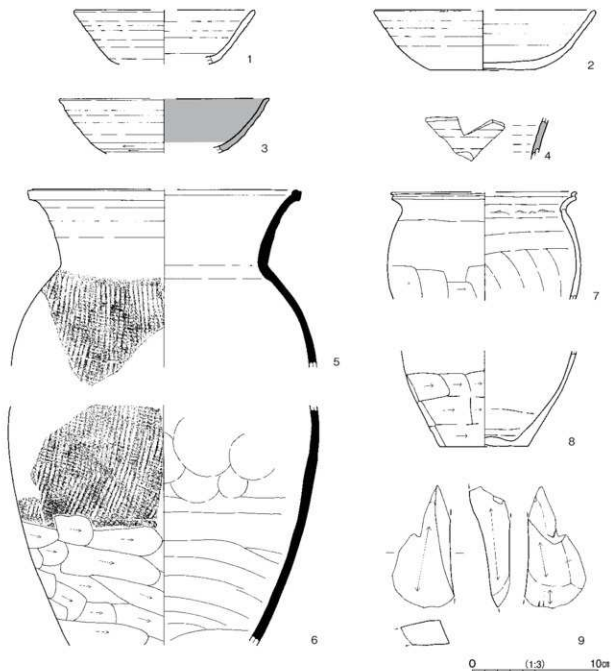


第116図 第31号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 南西部を第10号溝に掘り込まれているため、北西・南東軸2.48 m、北東・南西軸2.76 mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形で、主軸方向はN-29°-Wと推定できる。壁は高さ21～25 cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 確認できた範囲では平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。

**竈** 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで65 cmで、燃焼部幅は36 cmである。竈は全体に10 cmほど掘り込まれ、第12～14層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、第9～11層を積み上げて構築されている。火床部は床面よりわずかに高く、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に30 cmほど掘り込まれ、火床部からやや下がり、奥壁で直立している。両袖の内側は、被熱により強く赤変硬化している。



第117図 第31号竈穴建物跡出土物実測図

**ピット** 2か所。P1・P2は深さ20cm・25cmで、配置から主柱穴である。

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片12点(坏5, 甕7), 須恵器片3点(坏1, 広口壺2), 灰軸陶器片2点(碗, 瓶類), 石器1点(砥石)が出土している。1~3は覆覆土下層から中層にかけて, 4は覆覆土上層から出土している。7は覆覆土下層と上層の破片が接合したものである。

**所見** 時期は出土遺物から, 10世紀前葉と考えられる。

第50表 第31号竪穴建物跡出土遺物一覧(第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師部	坏	[14.1]	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面クロコナテ 内面染色処理。	覆覆土中・下層	10%
2	土師部	坏	[17.2]	4.8	8.2	長石・石英	明赤陶	普通	外・内面クロコナテ 底部外面磨減	覆覆土中・下層	30%
3	灰軸陶部	碗	[16.6]	(4.3)	-	長石・石英	灰白	普通	外・内面クロコナテ 掛け掛け	覆覆土中・下層	35% PL22
4	灰軸陶部	瓶類	-	(3.4)	-	長石・石英	灰黄陶	普通	外・内面クロコナテ	覆覆土上層	5% PL22
5	須恵部	広口壺	[20.8]	(14.1)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄陶	普通	外・内面クロコナテ 体部外面格子目印き 体部内面当て具痕無し	覆覆土中・下層	20% PL19
6	須恵部	広口壺	-	(19.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄陶	普通	体部外面格子目印き 体部内面当て具痕無し	覆覆土中・下層	20%
7	土師部	甕	[14.5]	(8.6)	-	長石・石英	明赤陶	普通	口縁部横ナテ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナテ	覆覆土中・下層	30%
8	土師部	甕	-	(7.6)	7.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 底部ヘラ削り 内面丁寧ナテ	覆覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	砥石	(9.7)	(5.0)	(3.8)	(96)	凝灰岩	砥石3面	覆土中	PL24

### 第32号竪穴建物跡(第118・119図 PL10・11)

**位置** 調査2区北部のB9h6区, 標高34mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第94号土坑を掘り込み, 第10号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.43m, 短軸4.28mの方形で, 主軸方向はN-0°である。壁は高さ7~18cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で, 竈前から出入口にかけて踏み固められている。壁溝は全周している。

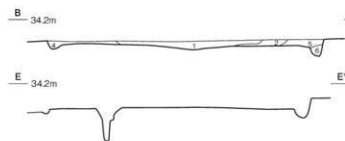
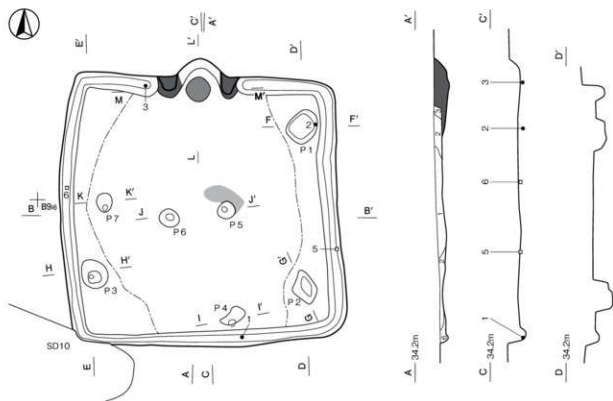
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで67cmで, 燃焼部幅は64cmである。竈は床面から14cmほど掘り込まれ, 第8層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に, 第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は被熱により赤変硬化している。火床面の奥壁よりには, 焼土塊が円錐状に確認された。土を積んで支脚にしていた, 縦並び二つ掛けの竈の可能性がある。煙道部は壁外に32cmほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がり, 奥壁で直立している。

**ピット** 7か所。P1~P3は深さ18~50cmで, 配置から主柱穴の可能性がある。P4は深さ48cmで, 配置から出入口施設に伴うピットである。P5~P7は深さ14~40cmで, 性格は不明である。

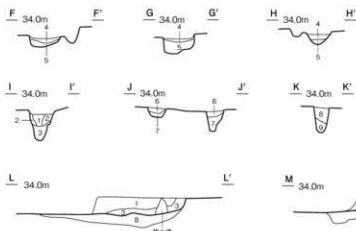
**覆土** 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片99点(坏21, 碗1, 鉢1, 甕75, 瓶1), 須恵器片22点(坏10, 皿1, 甕9, 瓶2), 土製品1点(支脚), 石器2点(砥石), 金属製品1点(釘)が出土している。

**所見** 時期は出土遺物から, 9世紀中葉と考えられる。



- B'** 土層解説
- |   |         |     |                    |
|---|---------|-----|--------------------|
| 1 | 75YK3-3 | 砂層  | 砂-△粒C / 粘B、雜B      |
| 2 | 75YK3-2 | 栗層  | 砂-△小D-粒C / 粘B、雜B   |
| 3 | 75YK3-2 | 細砂層 | 砂-△粒C、塵土小C / 粘B、雜B |
| 4 | 75YK3-4 | 砂層  | 砂-△小C-粒D / 粘B、雜C   |
| 5 | 75YK3-3 | 砂層  | 砂-△小D-粒D / 粘B、雜C   |
| 6 | 75YK3-3 | 砂層  | 砂-△粒D / 粘B、雜C      |
- P1 ~ P7土層解説**
- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YK3-2 | 栗層  | 砂-△粒D / 粘B、雜C    |
| 2 | 75YK4-4 | 栗層  | 砂-△小C-粒C / 粘B、雜B |
| 3 | 75YK4-6 | 栗層  | 砂-△小B-粒B / 粘B、雜B |
| 4 | 75YK3-3 | 砂層  | 砂-△小C / 粘B、雜C    |
| 5 | 75YK3-2 | 栗層  | 砂-△小C-粒C / 粘B、雜B |
| 6 | 75YK3-3 | 砂層  | 砂-△粒C / 粘B、雜B    |
| 7 | 75YK3-2 | 栗層  | 砂-△粒C / 粘B、雜B    |
| 8 | 75YK4-3 | 栗層  | 砂-△小C-粒B / 粘B、雜B |
| 9 | 75YK3-3 | 仁砂層 | 砂-△小C-小B / 粘B、雜B |



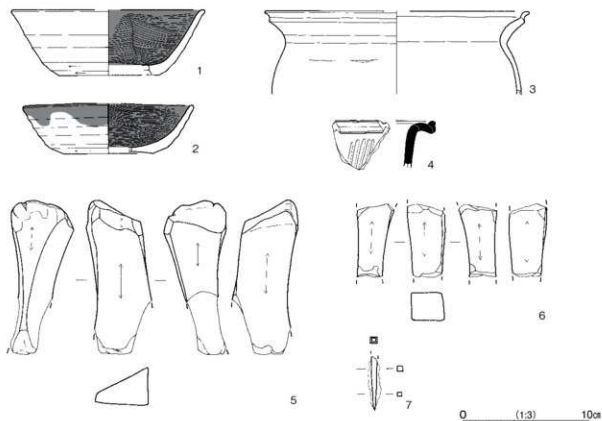
0 (1:50) 2m

- 敷土層解説**
- |   |         |    |                          |
|---|---------|----|--------------------------|
| 1 | 75YK3-4 | 砂層 | 砂-△粒B、塵土粒B / 粘B、雜B       |
| 2 | 75YK3-3 | 砂層 | 砂-△粒C、塵土粒D、炭化粒D / 粘B、雜B  |
| 3 | 75YK3-2 | 栗層 | 砂-△小D-粒C、塵土小C-粒C / 粘B、雜C |
| 4 | 75YK4-3 | 栗層 | 砂-△粒B、塵土粒D、粘土粒C / 粘B、雜B  |

- |   |         |    |                               |
|---|---------|----|-------------------------------|
| 5 | 75YK4-6 | 栗層 | 砂-△小B-粒B、塵土小C-粒C、粘土小B / 粘B、雜B |
| 6 | 75YK3-2 | 栗層 | 砂-△粒C、塵土粒C、粘土粒D / 粘B、雜C       |
| 7 | 75YK4-2 | 栗層 | 砂-△粒C、粘土粒B / 粘B、雜A            |
| 8 | 75YK4-3 | 栗層 | 砂-△小C-粒C、塵土粒D / 粘B、雜B         |

0 (1:30) 1m

第118図 第32号堅穴建物跡実測図



第119図 第32号竪穴建物跡出土遺物実測図

第51表 第32号竪穴建物跡出土遺物一覧(第119図)

番号	種類	容積	口径	容高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	杯	[15.0]	5.2	[8.0]	長石・石英	橙	普通	外・内面ロタロナナ 体部下端回転ヘラ磨り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ磨り 内面黒色処理	塚溝覆土中	30%
2	土師器	杯	[13.3]	4.0	[7.0]	長石・石英	紅褐色	普通	外・内面ロタロナナ 体部下端回転ヘラ磨り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ磨り 内面黒色処理	P1	40% PL18
3	土師器	羹	[20.8]	[6.6]	-	長石・石英	黒褐色	普通	外・内面横ナデ	塚溝覆土中	20%
4	須恵器	甕	-	[3.0]	-	長石・石英	灰赤	普通	外面斜位の平行叩き 内面横ナデ	覆土中	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	砥石	(12.2)	5.2	4.9	(2.40)	凝灰岩	紙面5面		塚溝覆土中	PL24	
6	砥石	(5.7)	(3.0)	(3.0)	(60)	凝灰岩	紙面4面		塚溝覆土中	PL24	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
7	釘	(4.3)	0.8	0.8	(2.74)	鉄	断面方形		覆土中	PL26	

## 第33号竪穴建物跡(第120・121図 PL11)

位置 調査2区北東部のC9a7区、標高34mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.60m、短軸3.10mの長方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁は高さ40cmほどで、ほぼ直立している。

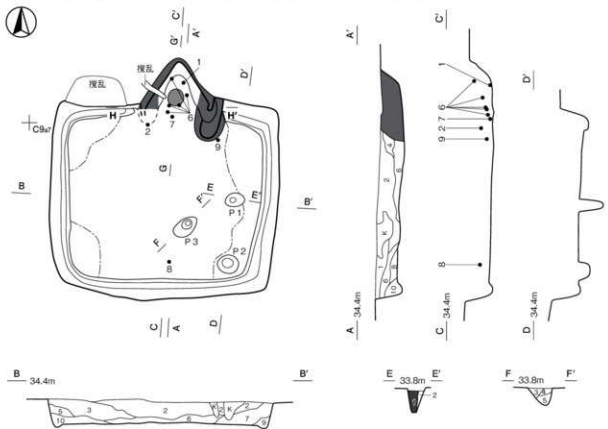
床 ほぼ平坦で、コーナー部を除くほぼ全面が踏み固められている。壁溝は全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで117cmで、燃烧部幅は50cmである。竈は全体に10cmほど掘り込まれ、第12～14層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、第9～11層を積

み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に68cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所。P1～P3は深さ18～38cmで、性格は不明である。P1は配置から出入口施設に伴うピットの可能性がある。P1の覆土第1層は柱痕跡である。

覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積である。



**土層解説**

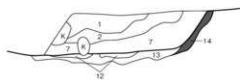
1	75YR3-2	赤褐色	ローム小C・粒C/粘土・礫目
2	75YR3-4	暗褐色	ローム小D・粒C・焼土小D/粘土・礫目
3	75YR4-3	褐色	ローム中B・小粒/粘土・礫目
4	75YR3-3	暗褐色	ローム小C・粒C/粘土・礫目
5	75YR3-4	暗褐色	ローム小D/粒C/粘土・礫目
6	75YR3-2	赤褐色	ローム小C・粒D/粘土・礫目
7	75YR3-2	暗褐色	ローム中D・小粒/粘土・礫目
8	75YR3-3	暗褐色	ローム小粒C/粘土・礫目
9	75YR4-3	褐色	ローム小C/粘土・礫目
10	75YR3-4	暗褐色	ローム小B・粒C/粘土・礫目

**P1・P3土層解説**

1	75YR3-4	暗褐色	ローム小D・粒B・焼土小D/粘土・礫目
2	75YR4-3	褐色	ローム小C・粒C/粘土・礫目
3	75YR3-4	暗褐色	ローム小C・粒C/粘土・礫目
4	75YR3-4	暗褐色	ローム小D・粒C・焼土粒D/炭化粒D/粘土・礫目
5	75YR4-4	褐色	ローム小粒C/粘土・礫目

0 (1:50) 2m

G 34.2m



G' 34.2m



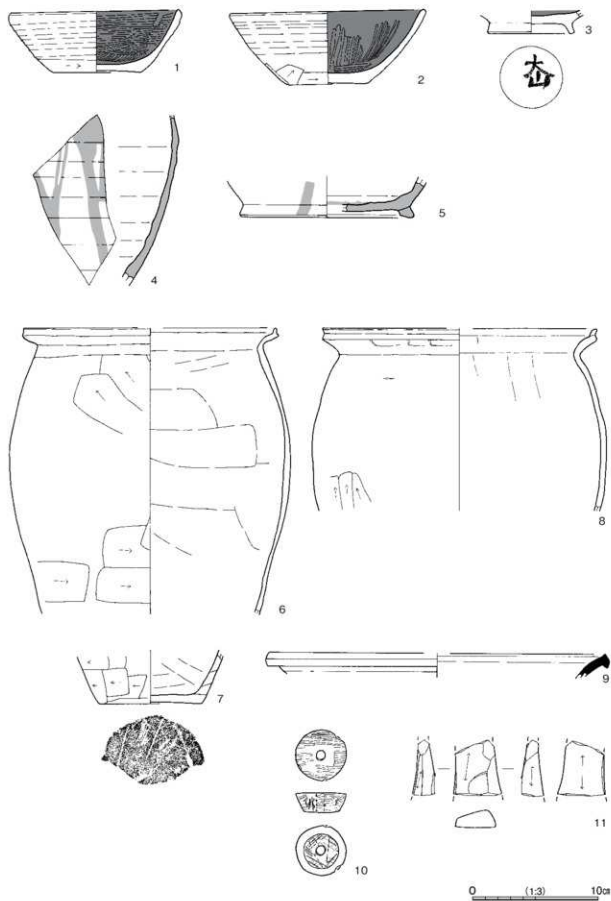
**覆土層解説**

1	75YR4-2	灰褐色	ローム小D・粒C・焼土小D・粒D・炭化粒D・砂粒C/粘土粒C/粘土・礫目	8	75YR4-3	褐色	ローム中D・粒C・焼土粒D・炭化粒D・砂粒C/粘土粒C/粘土・礫目
2	75YR4-4	暗褐色	ローム小粒C・粒D・炭化粒D・砂粒D・粘土粒D/粘土・礫目	9	75YR4-4	褐色	ローム小粒B・焼土粒D・砂粒D・粘土粒D/粘土・礫目
3	75YR3-4	暗褐色	ローム小D・粒C・焼土粒D・炭化粒D・砂粒D・粘土粒C/粘土・礫目	10	75YR6-2	灰褐色	ローム粒C・粘土中B・粒C/粘土・礫目
4	75YR3-4	暗褐色	ローム小C・粒C・焼土小C・炭化粒D・砂粒C/粘土粒C/粘土・礫目	11	75YR4-4	褐色	ローム粒D/粘土粒C/粘土・礫目
5	75YR3-3	暗褐色	ローム小D・粒C・焼土中D・小粒・炭化粒C・砂粒D・粘土粒D/粘土・礫目	12	75YR3-2	赤褐色	ローム粒D・焼土粒C/粘土・礫目
6	75YR4-1	暗褐色	焼土粒C・砂粒B・粘土粒B/粘土・礫目	13	75YR4-6	褐色	ローム小B・粒B/粘土・礫目
7	5YR4-6	赤褐色	ローム粒D・焼土小D・粒B・炭化粒D・砂粒D・粘土粒D/粘土・礫目	14	75YR4-4	褐色	ローム小C・粒B/粘土・礫目

0 (1:30) 1m

第120図 第33号竪穴建物跡実測図





第 121 図 第 33 号堅穴建物跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片 163 点 ( 坏 42, 高台付坏 1, 甕 120 ), 須恵器片 12 点 ( 坏 2, 甕 10 ), 灰釉陶器片 2 点 ( 瓶類 ), 土製品 4 点 ( 紡錘車 ), 石器 1 点 ( 砥石 ), 軽石 1 点が出土している。1 は竈奥壁から立位で出土している。6 は竈覆土中層から出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、9 世紀後半と考えられる。

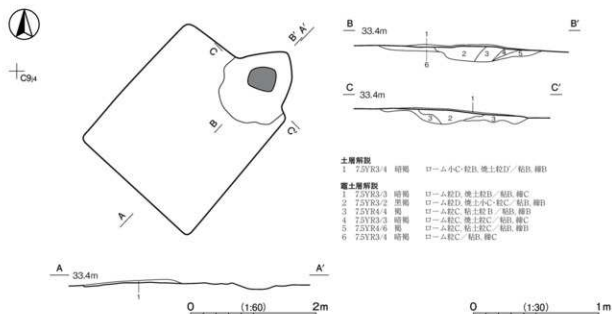
第 52 表 第 33 号竪穴建物跡出土遺物一覧 ( 第 121 図 )

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手止の特徴	はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.3	4.9	7.0	長石・石英・白色粘土物質	にぶい	良好	体部下腹回転へう削り 内面へう磨き 底部回転へう削り 内面黒色処理		竈壁土下層	60% PL19
2	土師器	坏	15.4	5.8	6.3	長石・石英	明確	普通	体部下腹手持ちへう削り 内面へう磨き 底部一方四手持ちへう削り 内面黒色処理		覆土中層	80% PL19
3	土師器	高台付坏	-	(1.8)	6.2	長石・石英	にぶい	普通	外・内面ロクロナデ 底部回転へう削り 内面黒色処理		確認面	20% 底部外面黒色 PL19
4	灰釉陶器	瓶	-	(13.5)	-	長石	明確	良好	外・内面ロクロナデ		覆土中	5% PL22
5	灰釉陶器	瓶	-	(3.2)	(13.4)	長石	明確	良好	外・内面ロクロナデ 底部内面中央に輪磨きあり 底部外面磨きに類似		覆土中	5% PL19
6	土師器	甕	[199]	(22.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部横ナデ 体部外面へう削り 内面へうナデ		竈壁土中～下層	40% PL19
7	土師器	甕	-	(4.2)	[8.2]	長石・石英	明確	普通	体部外面へう削り 内面へうナデ 底部本磨き		竈壁土中・下層	10%
8	土師器	甕	[21.6]	(14.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・黒塵	灰緑	普通	口縁部横ナデ 体部外面へう削り 内面へうナデ		覆土中層	10% PL19
9	須恵器	甕	[26.8]	(1.9)	-	長石・石英・白色粘土物質	赤灰	普通	外・内面ロクロナデ		覆土下層	5%
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
10	紡錘車	4.1	1.6	0.7	27	長石・石英・雲母	黒	全面黒色処理	全面へう磨き 側・下面に縁別	覆土中	PL21 別番 [ 他 ]	
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考		
11	砥石	(4.4)	(3.8)	(1.8)	(33)	凝灰岩	紙面 4 面		覆土中	PL24		

**第 36 号竪穴建物跡 ( 第 122 図 PL11 )**

**位置** 調査 2 区中央部の C 9j4 区、標高 33 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸 2.56 m, 短軸 2.26 m の長方形で、主軸方向は N - 45° - E である。床面と竈のみを検出した。床 平坦で、硬化面はほとんど確認できなかった。



第 122 図 第 36 号竪穴建物跡実測図

**竈** 北東壁東寄りに付設されている。竈は床面から11cmほど掘り込まれ、第2～6層を埋土して整地されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により赤変している。煙道部は壁外に65cmほど掘り込まれている。

**覆土** 単一層である。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

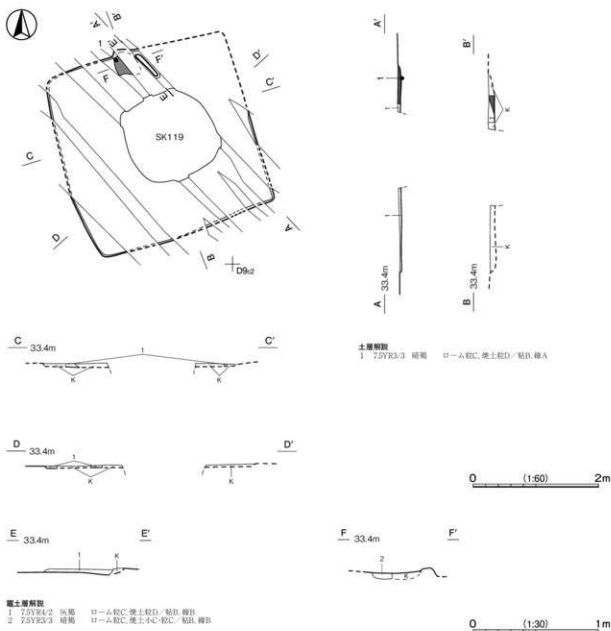
**遺物出土状況** 土師器片2点（坏、甕）が出土している。遺物は小片で図示できなかった。

**所見** 時期は出土遺物の特徴や遺構の形状から、平安時代と考えられる。

### 第39号竪穴建物跡（第123・124図 PL11）

**位置** 調査2区南部のD9bl区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第119号土坑に掘り込まれている。



第123図 第39号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 長軸3.08 m、短軸3.06 mの方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁は高さ2~8 cmで、外傾して立ち上がっている。

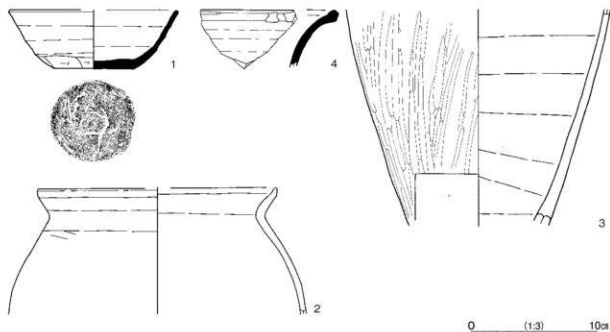
**床** 硬化面は確認できなかった。

**竈** 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、規模は焚口部から煙道部まで55 cm、燃焼部幅は40 cmしか確認できなかった。竈は床面から4 cmほど掘り込まれ、第2層を埋土して整地されている。火床部は床面とは同じ高さで、火床面は被熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に10 cmほど掘り込まれている。

**覆土** 単一層である。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**遺物出土状況** 土師器片42点(坯25、甕17)、須恵器片14点(坯9、高台付坯1、甕4)、灰軸陶器片1点(甕類)、土製品1点(支脚)が出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、9世紀前葉と考えられる。



第124図 第39号竪穴建物跡出土遺物実測図

第53表 第39号竪穴建物跡出土遺物一覧(第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	煎磁器	坯	[13.4]	4.7	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	不良	外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちへう張り 底面回転へう切り後、一方両手持ちへう張り	竈火床面	40% PL19
2	土師器	甕	[19.0]	(30.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部横ナデ 体部内面へうナデ	覆土中	20%
3	土師器	甕	-	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	体部へう磨き後、体部下端一部へう張り 内面へうナデ	覆土中	20%
4	煎磁器	甕	-	(4.6)	-	長石・石英	糊灰	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	5%

#### 第40号竪穴建物跡(第125・126図 PL11)

**位置** 調査2区北部のB9e7区、標高34 mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第38号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 北東部が攪乱を受けているため、確認できた規模は長軸4.44 m、短軸4.14 mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁は高さ6~34 cmで、ほぼ直立している。

**床** 確認できた範囲では平坦で、竈前から中央部が踏み固められている。南東コーナー部を除き、壁溝が巡っ

ている。

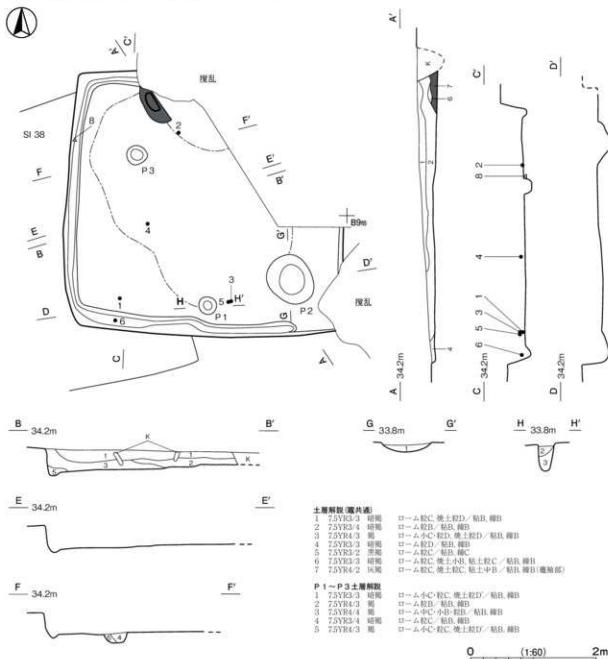
**竈** 北壁に付設されている。東側に攪乱を受けており、左袖部のみを確認した。左袖部は地山の上に、第7層を積み上げて構築されている。

**ピット** 3か所。P1は深さ43cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P2・P3は深さ15cm・16cmで、性格は不明である。

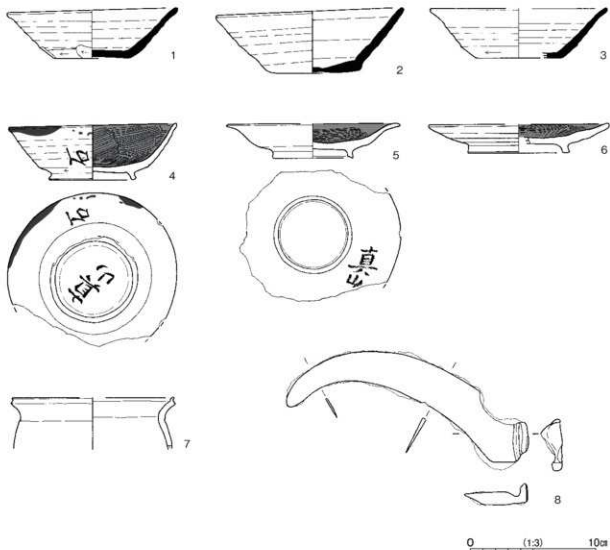
**覆土** 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片74点（坏11, 高台付坏1, 高台付皿3, 鉢1, 甕58）, 須恵器片47点（坏23, 皿1, 壺類3, 甕18, 瓶2）, 土製品1点（支脚）, 金属製品1点（鎌）が出土している。4は覆土下層から斜位, 5は正位で, 6は壁際から正位で, 8は壁際の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は出土遺物から、9世紀中葉と考えられる。



第125図 第40号竈穴建物跡実測図



第 126 図 第 40 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 54 表 第 40 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 126 図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	杯	13.3	4.0	6.0	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	外・内面ロクロナデ 底部下縁手持ちへう張り 底面一方の手持ちへう張り	覆土下層	90% PL.19
2	須恵器	杯	14.7	5.2	7.2	長石・石英	灰白	普通	外・内面ロクロナデ 底部直交方向の手持ちへう張り	床面	40% PL.19
3	須恵器	杯	[13.7]	3.9	[6.7]	長石・石英・雲母	褐色	不良	外・内面ロクロナデ 底部下縁回転へう張り 底面へう張り	覆土下層	20%
4	土師器	高台付杯	13.0	4.5	6.5	長石・石英・白色粉状物質	橙	普通	外・内面ロクロナデ 底部回転へう張り 内面へう張り 口縁部外面保存 内面黒色処理	覆土下層	20% 底部外面保存「石」底面外面黒色「真山」PL.19
5	土師器	高台付碗	[13.8]	2.7	6.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ 内面へう張り (底面一方) 内面黒色処理	覆土下層	20% 底部外面保存「真山」PL.19
6	土師器	高台付碗	[14.2]	2.3	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ 底部回転へう張り 内面へう張り (底面一方) 内面黒色処理	覆土下層	20%
7	土師器	羹	[12.6]	(4.1)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外・内面ロクロナデ 底面より器表面の一部が黒変・暗褐色	覆土中	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
8	鐵	(19.2)	3.2	0.2~0.5	(68.86)	鐵	一部欠損		覆土下層	PL.26	

第55表 平安時代堅穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面 構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考		
							土葬穴	出入口	土・石	石・土						
1	B 9 0	N-8°-E	方形	4.85 × 4.66	4-30	平坦	全面	4	1	-	北・東壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀前半	
23	C 8 18	N-21°-W	方形	3.36 × 3.36	2-7	平坦	-	-	1	1	北壁	-	不明	土師器、須恵器、土器	9世紀前半	
29	B 9 13	N-0°	方形	5.38 × 4.90	12-28	平坦	ほぼ全面	4	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土器	9世紀前半	本跡→SD10
31	B 9 5	N-29°-W	[方形・長方形]	(2.76 × 2.48)	21-25	平坦	-	2	-	-	北西壁	-	人為	土師器、須恵器、灰釉陶器、石器	10世紀前半	本跡→SD10
32	B 9 16	N-0°	方形	4.43 × 4.38	7-18	平坦	全面	3	1	3	北壁	-	自然	土師器、須恵器、土器、石器、金属器類	9世紀中葉	SK94→本跡→SD10
33	C 9 a7	N-1°-E	長方形	3.60 × 3.10	40	平坦	全面	-	-	3	北壁	-	自然	土師器、須恵器、土器、石器	9世紀後半	
36	C 9 11	N-45°-E	長方形	2.56 × 2.26	-	平坦	-	-	-	-	北東壁	-	不明	土師器	平安時代	
39	D 9 b1	N-18°-W	方形	3.08 × 3.06	2-8	平坦	-	-	-	-	北壁	-	不明	土師器、須恵器、土器	9世紀前半	本跡→SK119
40	B 9 e7	N-3°-E	方形	4.44 × 4.14	6-31	平坦	一部	-	1	2	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土器、金属器類	9世紀中葉	SK28→本跡

## (2) 土坑

当期の土坑1基について評述する。また、形状の類似などから当期と判断できる3基の土坑については、実測図と一覧表に記載する。

## 第119号土坑 (第127・128図)

位置 調査2区南部のD9b1区、標高33mほどの台地平坦部に位置している。

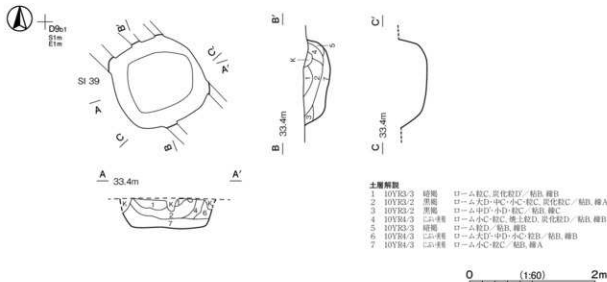
重複関係 第39号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 規模は、長軸146cm、短軸144cmの方形で、長軸方向はN-72°-Eと推定できる。深さは48cmで壁は外傾しており、底面は平坦である。

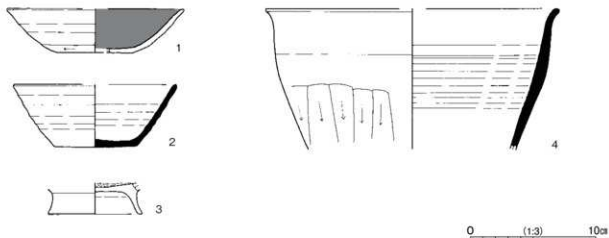
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片25点(坏18,高台付坏1,甕6)、須恵器片10点(坏8,鉢1,甕1)が出土している。1~4は覆土中から出土した。

所見 時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



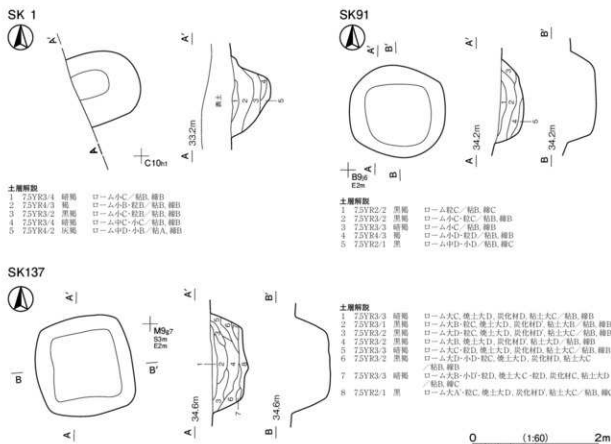
第127図 第119号土坑実測図



第128図 第119号土坑出土遺物実測図

第56表 第119号土坑出土遺物一覧(第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土甕器	坏	[139]	3.5	[60]	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外・内面クワロナア 体部下層手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土中	10%
2	須恵器	坏	[128]	5.0	6.6	長石・石英・雲母・ 赤鐵	にぶい黄褐色	普通	外・内面クワロナア 底部一方手持ちヘラ削り	覆土中	30% PL19
3	土甕器	高台付坏	-	(2.5)	7.3	長石・石英・黒色 粒子・白色針状物等	にぶい橙	普通	外・内面クワロナア 内面ヘラ磨き	覆土中	30%
4	須恵器	鉢	[294]	(11.2)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面クワロナア 体部下半ヘラ削り	覆土中	10%



第129図 平安時代の土坑実測図



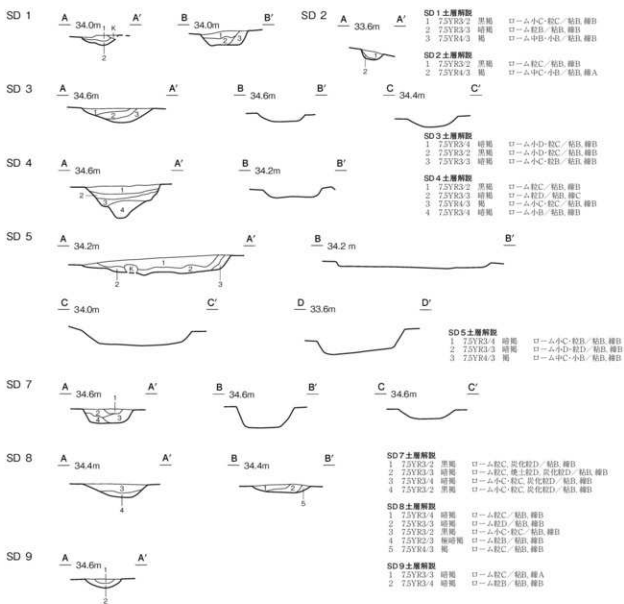
第57表 平安時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C 9 a6	N-75°-E	[楕円形]	(1.00) × 1.15	62	U字状	外傾	自然	土師器2 (甕)、鉄滓 (10g)	
91	B 9 a6	N-8°-W	隅丸方形	1.50 × 1.45	43	平坦	外傾	自然	土師器2 (杯、甕)、土師質土器1 (土器)、灰釉陶器1 (陶)	
119	D 9 b1	N-72°-W	方形	1.46 × 1.44	48	平坦	外傾	人工	土師器3 (杯、灰釉陶器1、甕6)、土師器10 (杯、鉢、鉢上、甕1)	SD9→本跡
137	M 9 a7	N-8°-W	方形	1.56 × 1.54	55	平坦	外傾	自然	土師器4 (甕)、須恵器4 (杯)	SD 2→本跡

## 6 時期不明の遺構と遺物

ここでは、時期や性格の不明な溝跡 15 条、井戸跡 1 基、土坑 89 基、ピット群 3 か所、遺構外出土遺物について記述する。溝跡の全体図は付図に記載した。

## (1) 溝跡 (第 130・131 図, 付図 PL12)

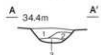


第 130 図 時期不明溝跡実測図

## SD10



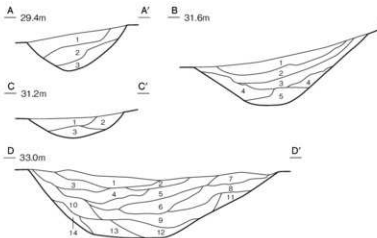
## SD11



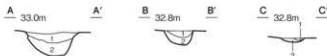
## SD12



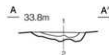
## SD13



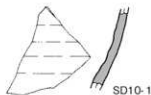
## SD14



## SD15



## SD16



## SD10土層解説

- |   |         |     |                     |
|---|---------|-----|---------------------|
| 1 | 75YR3-2 | 栗褐色 | ロ-ム小D-粒C/ 粘土, 礫石    |
| 2 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム中D-小中-粒C/ 粘土, 礫石 |
| 3 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム小C/ 粘土, 礫石       |
| 4 | 75YR3-2 | 栗褐色 | ロ-ム粒C/ 粘土, 礫石       |

## SD11土層解説

- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR4-2 | 灰褐色 | ロ-ム粒C/ 粘土, 礫石    |
| 2 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム粒D/ 粘土, 礫石    |
| 3 | 75YR4-3 | 褐色  | ロ-ム小D-粒C/ 粘土, 礫石 |

## SD13土層解説(A-A')

- |   |         |      |                           |
|---|---------|------|---------------------------|
| 1 | 10YR3-2 | 二色性  | 砂粒状, 粘土粒D/ 粘土, 礫石         |
| 2 | 10YR3-2 | 灰青褐色 | ロ-ム粒D, 粘土粒D, 粘土粒D/ 粘土, 礫石 |
| 3 | 10YR3-3 | 暗褐色  | ロ-ム粒C, 粘土粒D/ 粘土, 礫石       |

## SD13土層解説(B-B')

- |   |         |     |                           |
|---|---------|-----|---------------------------|
| 1 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム中C-小C, 砂粒C/ 粘土, 礫石     |
| 2 | 75YR3-2 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒状, 粘土粒D/ 粘土, 礫石    |
| 3 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒状, 粘土粒D/ 粘土, 礫石    |
| 4 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒C, 粘土粒D/ 粘土, 礫石    |
| 5 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム中D-小中-粒C, 粘土粒D/ 粘土, 礫石 |

## SD13土層解説(C-C')

- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒状, 粘土, 礫石 |
| 2 | 75YR3-2 | 暗褐色 | ロ-ム粒C/ 粘土, 礫石    |
| 3 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒C/ 粘土, 礫石 |

## SD13土層解説(D-D')

- |    |         |     |                           |
|----|---------|-----|---------------------------|
| 1  | 75YR3-2 | 栗褐色 | ロ-ム小C-粒C/ 粘土, 礫石          |
| 2  | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒C/ 粘土, 礫石          |
| 3  | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム粒D/ 粘土, 礫石             |
| 4  | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒D/ 粘土, 礫石          |
| 5  | 75YR2-3 | 暗褐色 | ロ-ム粒C/ 粘土, 礫石             |
| 6  | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒D/ 粘土, 礫石          |
| 7  | 75YR3-2 | 栗褐色 | ロ-ム粒D/ 粘土, 礫石             |
| 8  | 75YR4-3 | 褐色  | ロ-ム小C-粒D/ 粘土, 礫石          |
| 9  | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒D/ 粘土, 礫石          |
| 10 | 75YR2-2 | 栗褐色 | ロ-ム粒C/ 粘土, 礫石             |
| 11 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒C, 粘土粒D/ 粘土, 礫石    |
| 12 | 75YR3-2 | 栗褐色 | ロ-ム中D-小中-粒D, 粘土粒D/ 粘土, 礫石 |
| 13 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム中D-小中-粒C, 粘土粒D/ 粘土, 礫石 |
| 14 | 75YR4-4 | 褐色  | ロ-ム小D-粒D, 粘土粒C/ 粘土, 礫石    |

## SD14土層解説(A-A')

- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒C/ 粘土, 礫石 |
| 2 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム粒C/ 粘土, 礫石    |

## SD14土層解説(B-B')

- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒C/ 粘土, 礫石 |
| 2 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小D-粒C/ 粘土, 礫石 |

## SD14土層解説(C-C')

- |   |         |    |                  |
|---|---------|----|------------------|
| 1 | 75YR4-3 | 褐色 | ロ-ム小B-粒D/ 粘土, 礫石 |
| 2 | 75YR4-3 | 褐色 | ロ-ム小C-粒C/ 粘土, 礫石 |

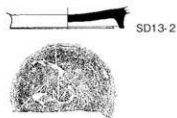
## SD15土層解説

- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒D/ 粘土, 礫石 |
| 2 | 75YR4-4 | 褐色  | ロ-ム小B/ 粘土, 礫石    |

## SD16土層解説

- |   |         |     |                        |
|---|---------|-----|------------------------|
| 1 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒C, 粘土粒D/ 粘土, 礫石 |
| 2 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ロ-ム小C-粒C/ 粘土, 礫石       |
| 3 | 75YR4-4 | 褐色  | ロ-ム中C-小C-粒C/ 粘土, 礫石    |

0 (1:50) 2m



0 (1:3) 10cm

第131図 時期不明溝跡・出土遺物実測図

第58表 時期不明溝跡出土遺物一覧(第131図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SD104	灰釉陶器	瓶類	-	(7.0)	-	緑褐色	灰白	良好	ロクロナデ 器表面に鉄分の滲出	覆土中	5%
SD134	土師器土器	小皿	5.7	1.6	4.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部同軸糸切り	覆土中	95% PL19
SD132	須恵器	高台付杯	-	(2.0)	10.5	長石・石英・白色斜状物質・面腐	黄灰	普通	ロクロナデ 底部へう記号	覆土中	20%
SD133	須恵器	高台付杯	-	(2.0)	[9.5]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	10%
SD134	須恵器	瓶類	-	(7.3)	[11.6]	長石・石英・面腐	黄橙	良好	器表面に鉄分の滲出	覆土中	20% PL19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
SD41	砥石	5.9	3.2	1.8	40.87	凝灰岩	紙面4面	覆土中	PL24

第59表 時期不明溝跡一覧

番号	位置	方	向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
					長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
1	B 91b - B 91c B 91d - C 91d B 91d	N-9°-E N-86°-W N-2°-W	E	直線状 複数回屈曲	30.7	26~75	14~65	15~22	混合形	外組	自然	SI 2→本跡	
2	B 91f - B 91g	N-68°-E N-20°-W	E	L字状	(5.0)	26~56	2~40	14	混合形	外組	自然		
3	M 9c3 - O 9a1	N-8°-W	W	直線状	(70.8)	68~137	32~90	10~23	浅いU字状	外組	自然	SI10 SK113・114→本跡	
4	K 819 K 817 - K 819	N-63°-E N-25°-E	E	くの字状	12.2	85~166	23~101	14~49	混合形	外組	自然	紙石	
5	I 818 - I 819 J 818 - J 819	N-70°-E N-19°-W	E	L字状	14.8	104~254	60~240	6~28	浅いU字状	外組	自然		
7	J 819 - J 819	N-27°-W	W	直線状	15.7	77~92	43~60	16~33	混合形	外組	自然		
8	I 815 - K 914	N-22°-W	W	直線状	(81.8)	46~145	28~57	12~29	浅いU字状	外組	自然		
9	M 944 - M 944	N-6°-W	W	直線状	(10.7)	32~70	8~42	12	浅いU字状	外組	自然	本跡→SK106	
10	B 913 - B 916	N-80°-W	W	直線状	11.0	82~192	52~116	16~24	混合形	外組	自然	灰釉陶器	SE29・31・32→本跡
11	C 947 - C 948	N-26°-W	W	直線状	40.8	23~70	5~46	23	浅いU字状	外組	自然		
12	C 944 - C 944	N-50°-W	W	直線状	135.6	33~56	15~27	13	浅いU字状	外組	自然		
13	D 814 - D 912	N-87°-E N-35°-W	E	くの字状	44.3	100~300	32~236	34~96	U字状	外組	自然	須恵器、土師器土器	SK104→本跡
14	D 911 - D 913	N-37°-W N-29°-E N-52°-W	W	直線状 複数回屈曲	(11.8)	33~67	15~38	7~27	U字状	外組	自然		
15	C 819 - C 818	N-39°-E	E	直線状	73.8	30~82	20~64	14	浅いU字状	外組	自然		
16	C 912 - C 913	N-72°-W	W	直線状	3.3	59~70	10~38	30	混合形	外組	自然	SE27→本跡	

## (2) 井戸跡

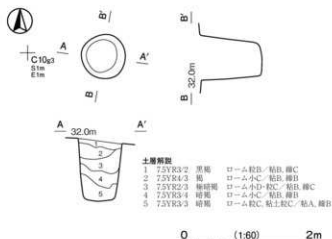
## 第1号井戸跡(第132図 PL12)

位置 調査2区東部のC10g3区、標高32mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長径71cm、短径70cmの円形で、深さ99cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積である。

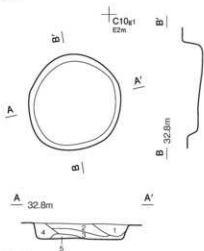
所見 遺物が出土しなかったため、時期は不明である。覆土に締まりがなく、最下層に粘性があることから溜め井戸と判断した。



第132図 第1号井戸跡実測図

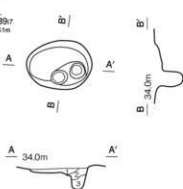
(3) 土坑 (第 133 ~ 143 図)

SK2



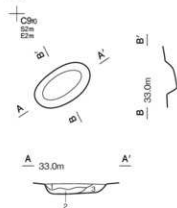
- 土層解説
- |   |         |     |                     |
|---|---------|-----|---------------------|
| 1 | 75YR3-2 | 赤褐色 | ローム小粒・粒D / 粘土・礫B    |
| 2 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ローム小粒・焼土粒D / 粘土・礫B  |
| 3 | 75YR2-2 | 赤褐色 | ローム小粒・粒B / 粘土・礫B    |
| 4 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ローム小粒・粘土・礫B         |
| 5 | 75YR4-2 | 灰褐色 | ローム小粒・粘土・粒B / 粘土・礫B |

SK3



- 土層解説
- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR4-3 | 暗褐色 | ローム小粒・粒B / 粘土・礫B |
| 2 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ローム小粒 / 粘土・礫A    |
| 3 | 75YR3-2 | 赤褐色 | ローム小粒 / 粘土・礫A    |

SK5



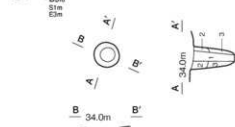
- 土層解説
- |   |         |     |                     |
|---|---------|-----|---------------------|
| 1 | 75YR4-3 | 暗褐色 | ローム小粒・粒C / 粘土・礫B    |
| 2 | 75YR4-2 | 赤褐色 | ローム小粒・粘土・粒C / 粘土・礫B |
| 3 | 75YR4-4 | 暗褐色 | ローム小粒・粘土・粒B / 粘土・礫B |

SK6



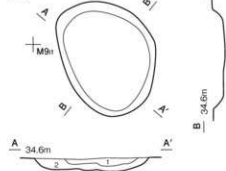
- 土層解説
- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR3-2 | 赤褐色 | ローム小粒 / 粘土・礫B    |
| 2 | 75YR3-3 | 暗褐色 | ローム小粒・粒C / 粘土・礫B |
| 3 | 75YR4-3 | 暗褐色 | ローム小粒 / 粘土・礫B    |

SK7



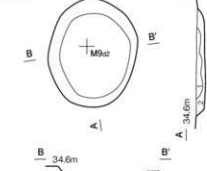
- 土層解説
- |   |         |     |                  |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YR4-3 | 暗褐色 | ローム小粒・粒B / 粘土・礫B |
| 2 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ローム小粒 / 粘土・礫A    |
| 3 | 75YR3-2 | 赤褐色 | ローム小粒 / 粘土・礫A    |

SK9



- 土層解説
- |   |         |     |                       |
|---|---------|-----|-----------------------|
| 1 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ローム小粒・粒D・焼土粒D / 粘土・礫B |
| 2 | 75YR4-4 | 暗褐色 | ローム小粒・粒C・焼土粒D / 粘土・礫B |

SK10

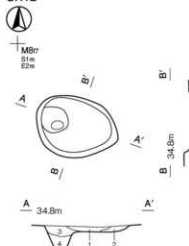


- 土層解説
- |   |         |     |                    |
|---|---------|-----|--------------------|
| 1 | 75YR3-4 | 暗褐色 | ローム小粒・粒C / 粘土・礫B   |
| 2 | 75YR4-4 | 暗褐色 | ローム小粒・焼土粒C / 粘土・礫A |



第 133 図 時期不明土坑実測図 (1)

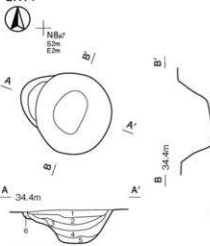
SK12



## 土層解説

- 1 75YR3/4 暗褐色 砂-ム小粒D、粘土、粘B、粘C
- 2 75YR4/4 黄 砂-ム小粒C、粘土、粘B
- 3 75YR3/3 暗褐色 砂-ム小粒C、粘土、粘D、粘B、粘C
- 4 75YR3/2 黄褐色 砂-ム小粒、粘土、粘C、粘B、粘C

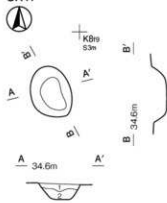
SK14



## 土層解説

- 1 75YR4/6 黄褐色 砂-ム中D-小D-粒D、灰化粒D、粘B、粘A
- 2 75YR4/4 黄 砂-ム大D-中C-小C-粒C、灰化粒D、粘B、粘B
- 3 75YR4/3 暗褐色 砂-ム小粒C、粘土、粘D、粘B、粘B
- 4 75YR4/3 暗褐色 砂-ム中B、粘土、粘A
- 5 75YR4/4 黄褐色 砂-ム大C-中C-小C-粒C、粘B、粘B
- 6 75YR4/4 黄褐色 砂-ム小粒C-粒C、粘B、粘B

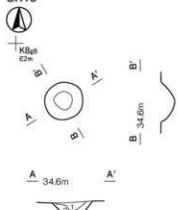
SK17



## 土層解説

- 1 75YR3/4 暗褐色 砂-ム粒C、粘土、粘D、粘B、粘B
- 2 75YR4/3 暗褐色 砂-ム小粒C-粒C、粘B、粘B

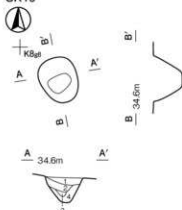
SK18



## 土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐色 砂-ム小C、粘土、粘B
- 2 75YR3/4 暗褐色 砂-ム小D-粒D、粘B、粘B

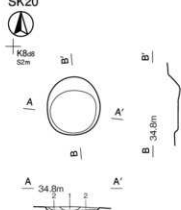
SK19



## 土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐色 砂-ム小粒D、粘土、粘D、粘B、粘C
- 2 75YR4/3 暗褐色 砂-ム小D-粒D、粘B、粘B
- 3 75YR4/4 黄 砂-ム中B、粘土、粘A
- 4 75YR3/3 暗褐色 砂-ム大A-中A、粘B、粘A

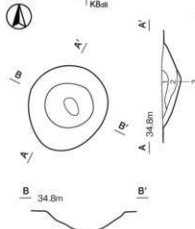
SK20



## 土層解説

- 1 75YR3/2 黄褐色 砂-ム粒C、粘土、粘C
- 2 75YR3/3 暗褐色 砂-ム小D-粒C、粘B、粘B
- 3 75YR4/3 暗褐色 砂-ム小B、粘土、粘B

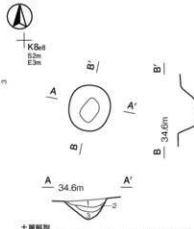
SK21



## 土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐色 砂-ム小D-粒D、粘土、粘B
- 2 75YR4/4 黄 砂-ム小粒C、粘土、粘B
- 3 75YR3/3 暗褐色 砂-ム小粒C、粘土、粘B

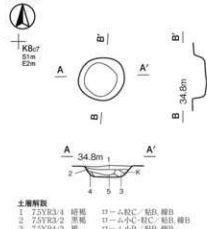
SK22



## 土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐色 砂-ム小B-粒C、粘土、粘B
- 2 75YR3/2 黄褐色 砂-ム小B、粘土、粘B
- 3 75YR4/4 黄 砂-ム小B、粘土、粘B

SK23

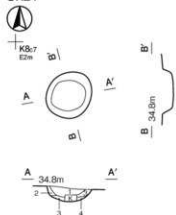


## 土層解説

- 1 75YR3/4 暗褐色 砂-ム粒C、粘土、粘B
- 2 75YR3/2 黄褐色 砂-ム小C-粒C、粘土、粘B
- 3 75YR4/3 暗褐色 砂-ム小B、粘土、粘B
- 4 75YR4/4 黄 砂-ム小B-粒C、粘土、粘B
- 5 75YR3/4 暗褐色 砂-ム小B-粘土、粘B

第134図 時期不明土坑突函図(2)

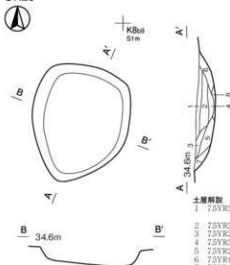
SK24



## 土層解説

- |   |         |     |                |
|---|---------|-----|----------------|
| 1 | 75YR4/3 | 黄   | ロ-ム中C-小石/粘丸、礫目 |
| 2 | 75YR3/2 | 赤褐色 | ロ-ム中C/粘丸、礫目    |
| 3 | 75YR3/4 | 暗褐色 | ロ-ム中C-粒石/粘丸、礫目 |
| 4 | 75YR4/4 | 黄   | ロ-ム中B-小C/粘丸、礫目 |

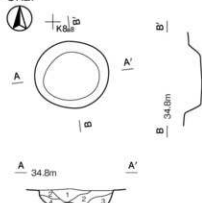
SK25



## 土層解説

- |   |         |     |                            |
|---|---------|-----|----------------------------|
| 1 | 75YR3/3 | 暗褐色 | ロ-ム中C-粒石、礫土粒IV、炭化粒IV/粘丸、礫目 |
| 2 | 75YR3/2 | 赤褐色 | ロ-ム中B、礫土粒IV/粘丸、礫目          |
| 3 | 75YR3/4 | 暗褐色 | ロ-ム中C-小石/粘丸、礫目             |
| 4 | 75YR3/3 | 暗褐色 | ロ-ム中C-炭化粒IV/粘丸、礫目          |
| 5 | 75YR2/3 | 暗褐色 | ロ-ム中B-小石/粘丸、礫目             |
| 6 | 75YR4/4 | 黄   | ロ-ム中A-小石/粘丸、礫目             |
| 7 | 75YR4/3 | 黄   | ロ-ム中C-小石/粘丸、礫目             |
| 8 | 75YR3/3 | 暗褐色 | ロ-ム中C-粒石/粘丸、礫目             |

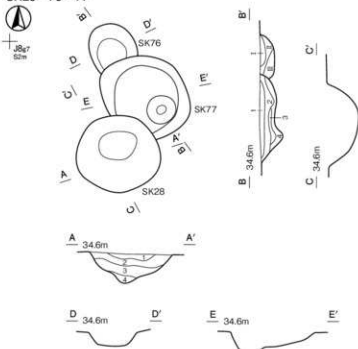
SK27



## 土層解説

- |   |         |     |                |
|---|---------|-----|----------------|
| 1 | 75YR4/3 | 黄   | ロ-ム中C-小石/粘丸、礫目 |
| 2 | 75YR3/2 | 赤褐色 | ロ-ム中C/粘丸、礫目    |
| 3 | 75YR3/4 | 暗褐色 | ロ-ム中C-粒石/粘丸、礫目 |
| 4 | 75YR4/4 | 黄   | ロ-ム中B-小C/粘丸、礫目 |

SK28・76・77



## SK28土層解説

- |   |         |     |                |
|---|---------|-----|----------------|
| 1 | 75YR3/3 | 暗褐色 | ロ-ム中B-粒石/粘丸、礫目 |
| 2 | 75YR3/4 | 暗褐色 | ロ-ム中B/粘丸、礫目    |
| 3 | 75YR3/2 | 暗褐色 | ロ-ム中C-小石/粘丸、礫目 |
| 4 | 75YR3/2 | 暗褐色 | ロ-ム中C-粒石/粘丸、礫目 |

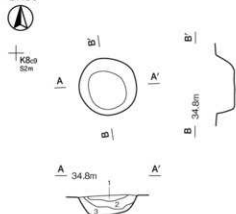
## SK76土層解説

- |     |         |     |              |
|-----|---------|-----|--------------|
| I   | 75YR4/4 | 暗褐色 | ロ-ム粒石/粘丸、礫目  |
| II  | 75YR4/3 | 黄   | ロ-ム中C/粘丸、礫目  |
| III | 75YR4/4 | 黄   | ロ-ム中粒石/粘丸、礫目 |

## SK77土層解説

- |   |         |     |                    |
|---|---------|-----|--------------------|
| 1 | 75YR4/3 | 黄   | ロ-ム中C-粒石/粘丸、礫目     |
| 2 | 75YR3/4 | 暗褐色 | ロ-ム中粒石、炭化粒IV/粘丸、礫目 |
| 3 | 75YR4/3 | 黄   | ロ-ム中B/粘丸、礫目        |
| 4 | 75YR3/3 | 暗褐色 | ロ-ム中C-粒石/粘丸、礫目     |

SK30

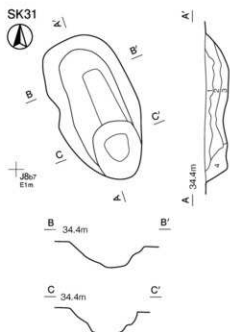


## 土層解説

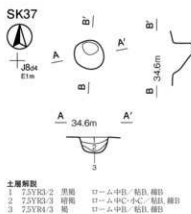
- |   |         |     |                |
|---|---------|-----|----------------|
| 1 | 75YR3/3 | 暗褐色 | ロ-ム中B-粒石/粘丸、礫目 |
| 2 | 75YR3/4 | 暗褐色 | ロ-ム中C-小石/粘丸、礫目 |
| 3 | 75YR4/3 | 黄   | ロ-ム中B/粘丸、礫目    |

0 (1:60) 2m

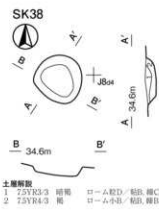
第135図 時期不明土坑裏面図(3)



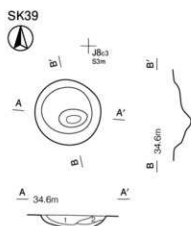
- 土層解説**
- 1 75YK3-4 暗褐色 砂-ム小D-粒D、炭化粒D、粘B、雜B
  - 2 75YK3-3 暗褐色 砂-ム小C-粒C、粘B、雜B
  - 3 75YK4-3 褐色 砂-ム小C-粒D、硬土粒D、粘B、雜B
  - 4 75YK5-3 土砂層 砂-ム中B-小B、粘B、雜B



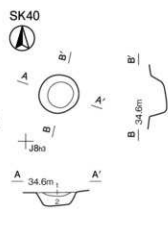
- 土層解説**
- 1 75YK3-2 赤褐色 砂-ム中B、粘B、雜B
  - 2 75YK3-3 暗褐色 砂-ム中C-小C、粘B、雜B
  - 3 75YK4-3 褐色 砂-ム中B、粘B、雜B



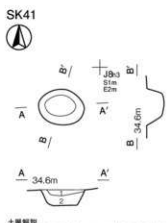
- 土層解説**
- 1 75YK3-3 暗褐色 砂-ム粒D、粘B、雜C
  - 2 75YK4-3 褐色 砂-ム小B、粘B、雜B



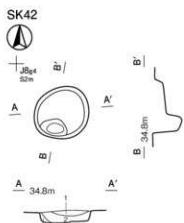
- 土層解説**
- 1 75YK4-3 褐色 砂-ム中C-小B、粘B、雜B
  - 2 75YK3-2 赤褐色 砂-ム粒C、粘B、雜C
  - 3 75YK3-4 暗褐色 砂-ム小C-粒C、粘B、雜B



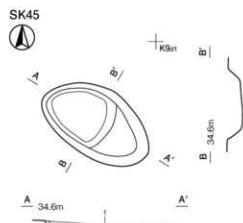
- 土層解説**
- 1 75YK4-3 褐色 砂-ム小C-粒C、粘B、雜B
  - 2 75YK3-3 暗褐色 砂-ム小D-粒D、粘B、雜C



- 土層解説**
- 1 75YK3-2 赤褐色 砂-ム粒C、粘B、雜C
  - 2 75YK3-3 暗褐色 砂-ム小B、粘B、雜B



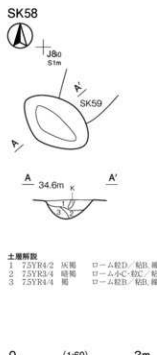
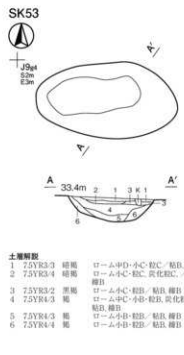
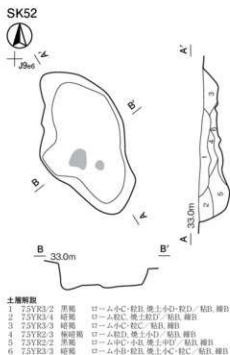
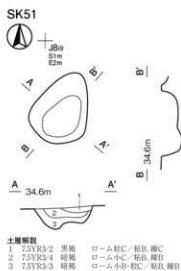
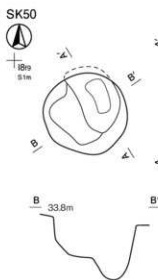
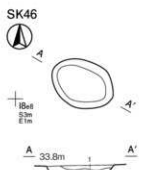
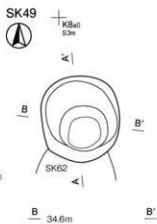
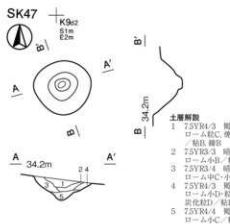
- 土層解説**
- 1 75YK3-4 暗褐色 砂-ム小C-粒C、粘B、雜C
  - 2 75YK3-2 赤褐色 砂-ム小D、粘B、雜B
  - 3 75YK4-3 褐色 砂-ム中D-小B、粘B、雜B



- 土層解説**
- 1 75YK3-3 暗褐色 砂-ム粒B、粘B、雜B
  - 2 75YK4-3 褐色 砂-ム小B-粒B、粘B、雜B
  - 3 75YK3-4 暗褐色 砂-ム中B、粘B、雜B
  - 4 75YK4-4 褐色 砂-ム中C-小B、粘B、雜B

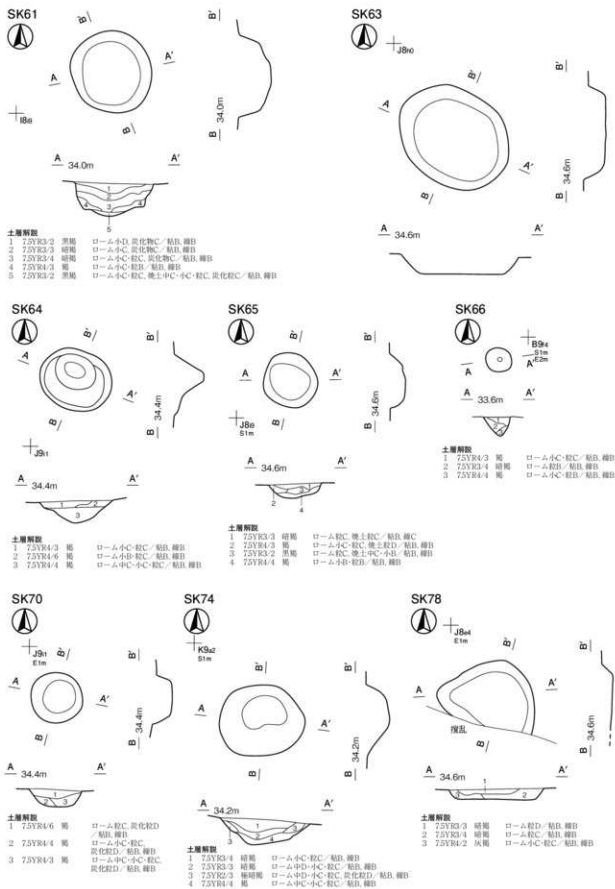
0 (1:60) 2m

第136図 時期不明土坑実測図(4)



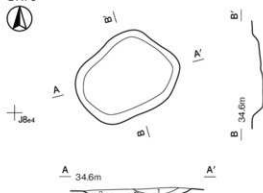
第 137 図 時期不明土坑実測図 (5)





第138図 時期不明土坑実測図(6)

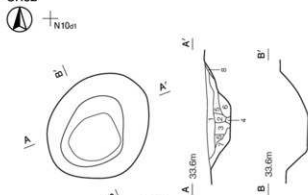
SK79



土層解説

1. 75YR3/4 砂層
2. 75YR3/2 赤層
3. 75YR4/3 粘

SK82



土層解説

1. 75YR3/2 赤層
2. 75YR3/3 砂層
3. 75YR3/3 砂層
4. 75YR3/4 粘
5. 75YR3/3 粘
6. 75YR4/4 粘
7. 75YR4/6 粘
8. 75YR4/6 粘

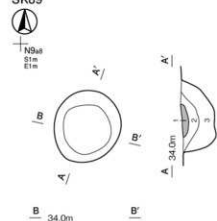
SK87



土層解説

1. 75YR3/3 砂層
2. 75YR4/4 粘
3. 75YR4/2 灰層
4. 75YR4/4 粘

SK89



土層解説

1. 75YR4/3 粘
2. 75YR4/3 粘
3. 75YR4/4 粘

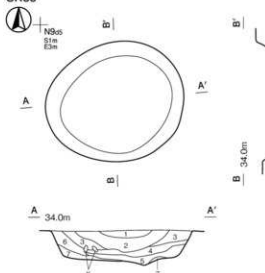
SK80



土層解説

1. 75YR3/2 赤層
2. 75YR3/3 砂層
3. 75YR4/2 灰層

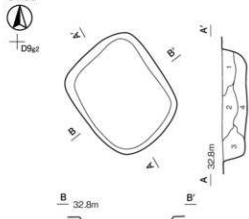
SK88



土層解説

1. 75YR3/4 砂層
2. 75YR3/3 砂層
3. 75YR4/3 粘
4. 75YR4/4 粘
5. 75YR3/1 赤層
6. 75YR4/4 粘
7. 75YR4/6 粘

SK90



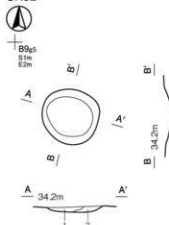
土層解説

1. 75YR4/3 粘
2. 75YR4/3 粘
3. 75YR4/4 粘
4. 75YR4/4 粘

0 (1:50) 2m

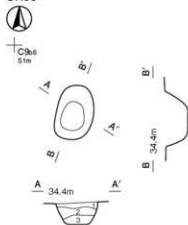
第 139 図 時期不明土坑実測図(7)

SK92



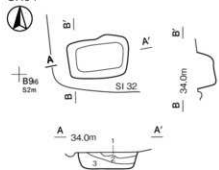
土層解説  
 1 75YR3/3 暗褐色 ローム小-C-粒C/粘B、礫B  
 2 75YR3/2 赤褐色 ローム粒D/粘B、礫B

SK93



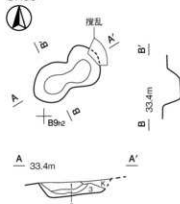
土層解説  
 1 75YR3/3 暗褐色 ローム粒C/粘B、礫B  
 2 75YR4/2 灰褐色 ローム小-C-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR3/4 暗褐色 ローム粒D、粘B、礫B

SK94



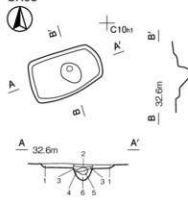
土層解説  
 1 75YR3/4 暗褐色 ローム小-B-粒B/粘B、礫B  
 2 75YR3/3 暗褐色 ローム小-C-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR4/3 暗褐色 ローム小-B/粘B、礫B

SK95



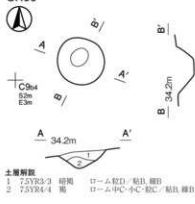
土層解説  
 1 75YR3/3 暗褐色 ローム粒C/粘B、礫B  
 2 75YR4/2 灰褐色 ローム小-C-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR3/4 暗褐色 ローム粒D/粘B、礫B

SK98



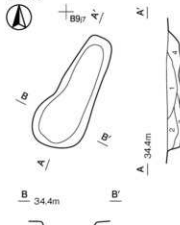
土層解説  
 1 10YR3/2 赤褐色 ローム小-C、炭化物C、粘土中C/粘B、礫B  
 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小-C、粘土小C/粘B、礫B  
 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小-C、粘土小C/粘B、礫B  
 4 10YR2/2 灰青褐色 ローム小-C、粘土小C、粘B、礫B  
 5 10YR4/2 灰青褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化物粒A、粘土小C/粘B、礫B  
 6 10YR3/4 暗褐色 ローム粒C、粘土大B/粘B、礫B

SK99



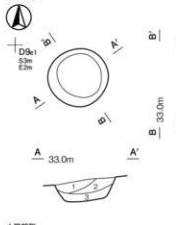
土層解説  
 1 75YR3/3 暗褐色 ローム粒D/粘B、礫B  
 2 75YR4/4 暗褐色 ローム中-C-粒C/粘B、礫B

SK100



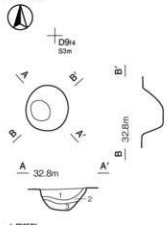
土層解説  
 1 75YR3/3 暗褐色 ローム小-C-粒C/粘B、礫B  
 2 75YR3/4 暗褐色 ローム粒B/粘B、礫B  
 3 75YR3/3 暗褐色 ローム小-C-粒C/粘B、礫B  
 4 75YR3/3 暗褐色 ローム中-B-粘B、礫B

SK101



土層解説  
 1 75YR3/3 暗褐色 ローム中-C-粒C、炭化物粒D/粘B、礫B  
 2 75YR3/3 暗褐色 ローム中-D-小D-粒C、炭化物粒D/粘B、礫B  
 3 75YR3/4 暗褐色 ローム中-C-粒C、炭化物粒D/粘B、礫B

SK102



土層解説  
 1 75YR4/6 暗褐色 ローム大D-中C-小C-粒C/粘B、礫B  
 2 75YR5/8 暗褐色 ローム中-C-小C-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR5/8 暗褐色 ローム中-B-小C-粒C、粘土小C/粘B、礫B

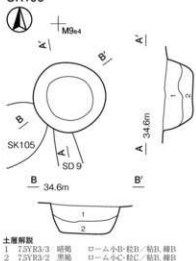
第140図 時期不明土坑突函図(8)

SK104



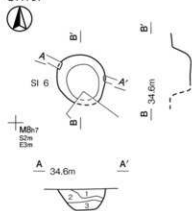
土層解説  
 1 75YR3-3 暗褐色 ローム小D-粒C/粘B、礫B  
 2 75YR3-4 暗褐色 ローム小C-粒C、地上粒D、粘B、礫B  
 3 75YR4-3 暗褐色 ローム中C-小B/粘B、礫B  
 4 75YR3-4 暗褐色 ローム小D-粒D/粘B、礫B

SK106



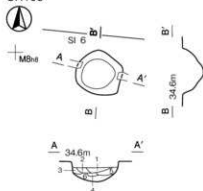
土層解説  
 1 75YR3-3 暗褐色 ローム小D-粒B/粘B、礫B  
 2 75YR3-2 深褐色 ローム小C-粒C/粘B、礫B

SK107



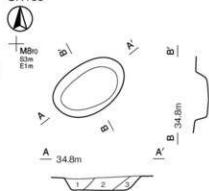
土層解説  
 1 75YR3-2 深褐色 ローム小C-粒B、炭化粒D、粘B、礫B  
 2 75YR3-1 深褐色 ローム中D-小D-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR3-2 深褐色 ローム大D-小D-粒C/粘B、礫B

SK108



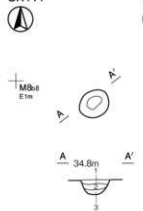
土層解説  
 1 75YR4-3 暗褐色 ローム粒C/粘B、礫B  
 2 75YR4-3 暗褐色 ローム小C-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR3-4 暗褐色 ローム粒C/粘B、礫B  
 4 75YR3-4 暗褐色 ローム粒B/粘B、礫B  
 5 75YR3-4 暗褐色 ローム中C-粒C/粘B、礫B  
 6 75YR4-6 暗褐色 ローム大B-中C-小C-粒C/粘B、礫A

SK109



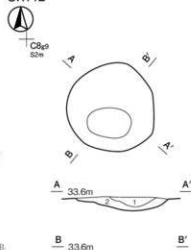
土層解説  
 1 75YR4-3 暗褐色 ローム粒C/粘B、礫B  
 2 75YR4-4 暗褐色 ローム小D-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR4-4 暗褐色 ローム小C-粒C/粘B、礫B

SK111



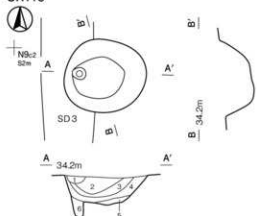
土層解説  
 1 75YR4-6 暗褐色 ローム粒C/粘B、礫B  
 2 75YR4-4 暗褐色 ローム小D-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR4-3 暗褐色 ローム小C-粒C/粘B、礫B

SK112



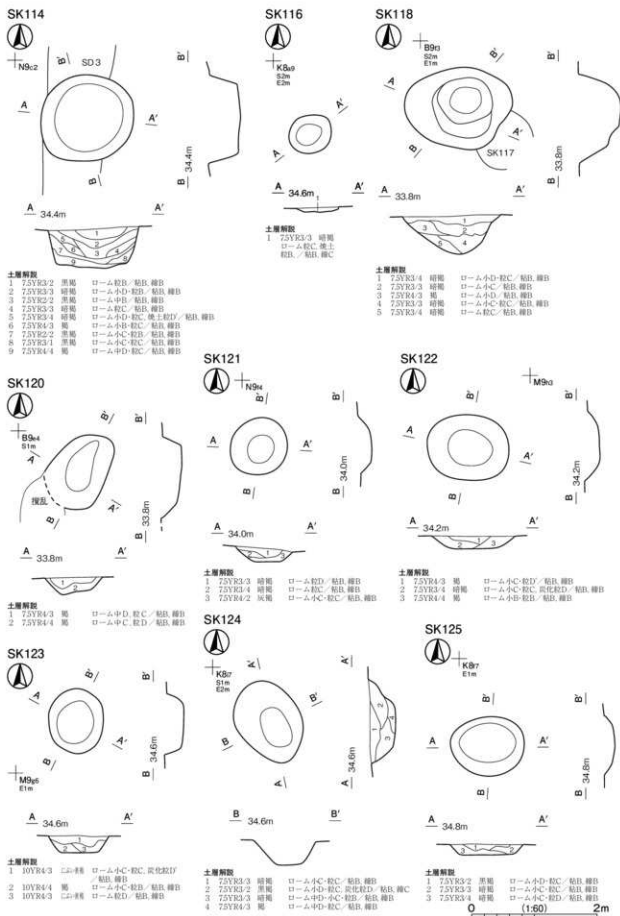
土層解説  
 1 75YR3-4 暗褐色 ローム小D-粒B/粘B、礫B  
 2 75YR4-4 暗褐色 ローム小C-粒C/粘B、礫B

SK113



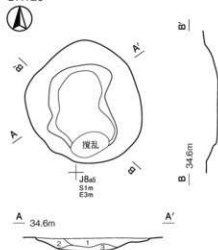
土層解説  
 1 75YR4-6 暗褐色 ローム粒C/粘B、礫B  
 2 75YR3-3 暗褐色 ローム小D-粒C/粘B、礫B  
 3 75YR4-3 暗褐色 ローム小C-粒C/粘B、礫B  
 4 75YR4-4 暗褐色 ローム中D-小C-粒C/粘B、礫B  
 5 75YR3-4 暗褐色 ローム小B-粒B/粘B、礫B  
 6 75YR3-3 暗褐色 ローム小C-粒B/粘B、礫B

第 141 図 時期不明土坑実測図 (9)



第142図 時期不明土坑実測図(10)

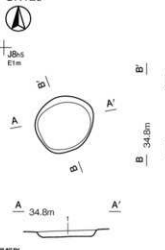
SK126



## 土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D、粘丸、雜B
- 2 75YR4/3 暗褐色 ローム小C粒D、炭化粒D、粘丸、雜B
- 3 75YR3/4 暗褐色 ローム小C粒C、粘丸、雜B

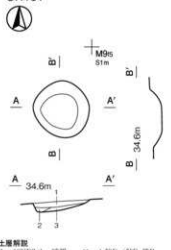
SK129



## 土層解説

- 1 75YR3/4 暗褐色 ローム小C粒C、粘丸、雜B

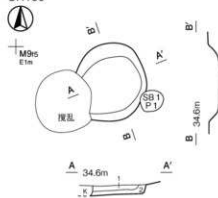
SK131



## 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム粒D、粘丸、雜B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム粒C、粘丸、雜B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小D粒C、粘丸、雜B

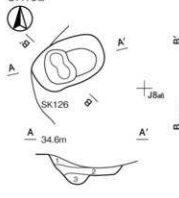
SK130



## 土層解説

- 1 10YR4/3 暗褐色 ローム小D粒D、粘丸、雜B
- 2 10YR4/4 暗褐色 ローム小C粒C、粘丸、雜B

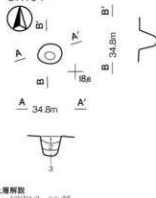
SK132



## 土層解説

- 1 10YR4/3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D、粘丸、雜B
- 2 10YR4/3 暗褐色 ローム小C粒C、粘丸、雜B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小C粒C、粘丸、雜B

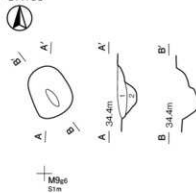
SK134



## 土層解説

- 1 10YR4/3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D、粘丸、雜B
- 2 10YR4/3 暗褐色 ローム粒D、粘丸、雜B
- 3 10YR4/3 暗褐色 ローム小D粒C、粘丸、雜B

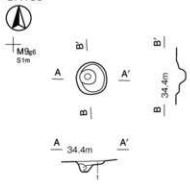
SK138



## 土層解説

- 1 75YR4/3 暗褐色 ローム粒B、粘丸、雜B
- 2 75YR4/3 暗褐色 ローム粒B、炭化粒D、粘丸、雜B

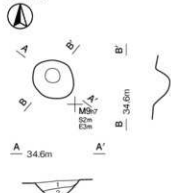
SK139



## 土層解説

- 1 75YR4/3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D、粘丸、雜B
- 2 75YR3/3 暗褐色 ローム粒D、粘丸、雜B

SK140



## 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小C粒C、炭化粒D、粘丸、雜B
- 2 10YR4/3 暗褐色 ローム小D粒C、粘丸、雜B

第 143 図 時期不明土坑裏面図 (11)

0 (1:60) 2m

第60表 時期不明土坑一覽

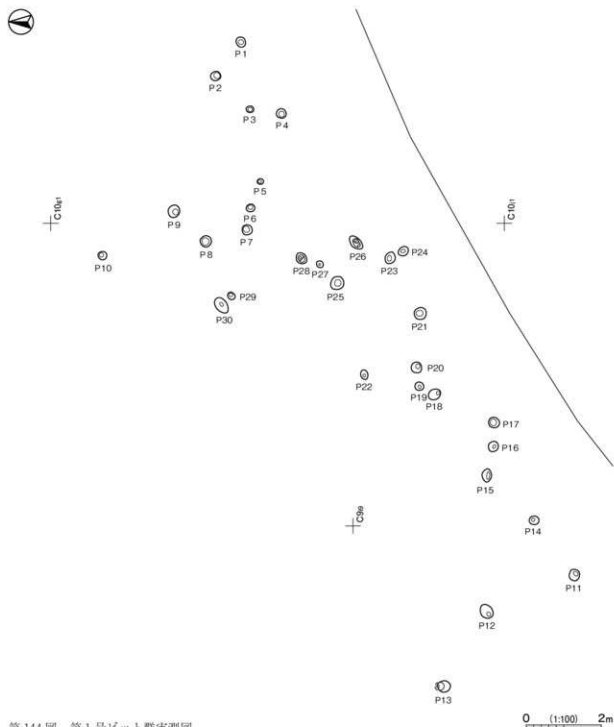
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
2	C 90j1	-	円形	1.56 × 1.46	31	平坦	外傾	自然		
3	B 98	N-89°-W	楕円形	1.03 × 0.78	44	凹凸	外傾	自然		
5	C 99	N-60°-E	楕円形	0.96 × 0.56	16	平坦	外傾	人為	焼成粘土塊2	
6	B 97	-	円形	0.73 × 0.70	42	U字状	外傾	自然	縄文土器2, 土師器1, 須恵器2	
7	B 97	-	円形	0.41 × 0.29	70	U字状	直立	自然		
9	M 91	N-27°-W	楕円形	1.87 × 1.47	16	平坦	外傾	自然		
10	M 92	N-0°	楕円形	1.72 × 1.29	18	平坦	外傾	自然		
12	M 87	N-71°-W	楕円形	1.35 × 0.97	39	平坦	外傾	人為		
14	N 87	N-71°-W	不整楕円形	1.46 × 1.28	51	有段	外傾	自然	縄文土器2, 土師器2	
17	K 88	N-22°-W	楕円形	0.86 × 0.63	24	平坦	外傾	自然		
18	K 88	-	円形	0.62 × 0.60	22	U字状	外傾	自然		
19	K 88	N-26°-W	楕円形	0.74 × 0.60	45	U字状	外傾	自然		
20	K 88	-	円形	0.92 × 0.86	20	平坦	外傾	自然		
21	K 87	N-32°-E	楕円形	1.38 × 1.24	30	U字状	外傾	自然		
22	K 89	N-15°-E	楕円形	0.74 × 0.66	26	U字状	外傾	自然		
23	K 87	-	円形	0.74 × 0.70	20	平坦	外傾	自然		
24	K 87	N-45°-E	楕円形	0.78 × 0.70	16	平坦	外傾	自然		
25	K 88	N-16°-E	楕円形	1.90 × 1.58	30	平坦	外傾	不明		
27	K 88	-	円形	1.16 × 1.07	26	平坦	外傾	自然		
28	J 87	-	円形	1.33 × 1.23	50	U字状	外傾	自然		SK77→本跡
30	K 89	-	円形	0.93 × 0.89	29	平坦	外傾	自然		
31	J 87	N-23°-W	楕円形	2.40 × 1.33	41	凹凸	外傾	自然		
37	J 84	-	円形	0.49 × 0.45	32	U字状	外傾	自然		
38	J 83	-	円形	0.76 × 0.73	13	平坦	外傾	自然		
39	J 82	-	円形	1.05 × 1.03	26	U字状	外傾	自然		
40	J 83	-	円形	0.66 × 0.62	26	平坦	外傾	自然		
41	J 83	N-85°-W	楕円形	0.74 × 0.58	26	平坦	外傾	自然		
42	J 84	-	円形	0.92 × 0.84	46	有段	外傾	自然		
45	K 80	N-58°-W	楕円形	1.88 × 1.10	23	有段	外傾	自然		
46	I 88	N-61°-W	楕円形	1.04 × 0.77	20	平坦	外傾	自然		
47	K 92	-	円形	0.90 × 0.85	38	U字状	外傾	自然		
49	K 86	-	円形	1.40 × 1.37	30	U字状	外傾	不明		SK62→本跡
50	I 89	-	円形	1.32 × 1.26	103	有段	直立・古壁	自然		
51	J 89	N-28°-E	楕円形	1.18 × 0.86	34	有段	外傾	自然		
52	J 96	N-24°-W	不整楕円形	2.50 × 1.42	46	凹凸	直立	不明		
53	J 96	N-90°	楕円形	2.23 × 1.22	38	U字状	外傾	自然		
58	J 80	N-50°-W	楕円形	1.18 × 0.75	30	U字状	外傾	自然		SK50→本跡
61	I 89	-	円形	1.33 × 1.28	52	U字状	外傾	自然		
63	J 86	N-58°-W	楕円形	1.74 × 1.49	33	平坦	外傾	不明		
64	J 91	N-70°-W	楕円形	1.17 × 0.93	48	U字状	外傾	自然		
65	J 89	-	円形	0.91 × 0.83	24	平坦	外傾	人為		
66	B 94	-	円形	0.42 × 0.40	30	U字状	外傾	自然		本跡→SK30
70	J 91	-	円形	0.84 × 0.81	28	平坦	外傾	自然		
74	K 92	N-76°-E	楕円形	1.34 × 1.12	42	平坦	外傾	自然		
76	J 87	N-28°-W	[楕円形]	[0.68] × 0.73	21	平坦	外傾	自然		本跡→SK77
77	J 87	N-63°-W	楕円形	1.53 × 1.10	35	凹凸	外傾	自然		SK76→本跡→SK28
78	J 84	N-85°-W	不整楕円形	1.56 × (1.05)	18	平坦	外傾	自然		

番号	位置	長短方向	平面形	縦横		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
79	J 8d4	N-56°-E	楕円形	1.60 × 1.31	17	凹凸	外組	自然		
80	I 8b6	N-48°-E	楕円形	1.22 × 0.74	20	平組	外組	自然		
82	N 10d1	N-47°-E	楕円形	1.80 × 1.56	38	平組	外組	人為		
87	N 10c3	N-14°-W	楕円形	0.77 × 0.63	60	U字状	法障成立	自然		SK7 → 本跡
88	N 9d6	N-80°-E	楕円形	2.24 × 1.88	44	平組	外組	自然		
89	N 9a8	N-21°-E	楕円形	1.17 × 1.05	57	平組	法障成立	自然		
90	D 9d2	N-38°-W	隅丸長方形	1.75 × 1.44	37	平組	法障成立	人為		
92	B 9d5	-	円形	0.92 × 0.86	16	平組	外組	自然		
93	C 9b6	N-15°-E	楕円形	0.90 × 0.58	35	平組	外組	自然	土師器 1、模成粘土甕 1、鉄序 1	
94	B 9b6	N-84°-E	長方形	0.97 × 0.67	28	平組	法障成立	自然		本跡 → SK2
95	B 9d2	N-60°-E	不定形	1.18 × 0.66	27	平組	外組	自然		
98	C 9b0	N-70°-E	長方形	1.17 × 0.73	26	U字状	外組	自然		
99	C 9b5	-	円形	0.76 × 0.76	30	U字状	外組	自然		
100	B 9f7	N-27°-E	不整形円形	1.92 × 0.66	34	平組	外組	不明		
101	D 9e1	-	円形	0.95 × 0.95	36	平組	外組	自然		
102	D 9d3	-	円形	0.74 × 0.71	32	平組	外組	自然		
104	D 8f9	-	円形・楕円形	1.72 × (1.15)	65	U字状	外組	自然		本跡 → SD13
106	M 9e4	-	円形	1.13 × 1.13	45	平組	法障成立	自然		SK105、SD 9 → 本跡
107	M 8b8	N-36°-W	楕円形	0.86 × 0.75	32	平組	外組	自然		本跡 → SI 6
108	M 8b8	N-0°	不整形円形	0.72 × 0.68	32	平組	外組	自然	土師器 1	SI 6 → 本跡
109	M 8f0	N-58°-E	楕円形	1.21 × 0.78	22	平組	外組	自然		
111	M 8b8	N-52°-E	楕円形	0.56 × 0.42	25	U字状	外組	自然		
112	C 8d9	-	円形	1.46 × 1.42	20	U字状	外組	自然		
113	N 9c2	-	円形	1.32 × 1.22	50	U字状	外組	自然		SD 3 → 本跡
114	N 9c2	N-58°-E	楕円形	1.54 × 1.40	52	平組	法障成立	人為		SD 3 → 本跡
116	K 8a9	N-53°-E	楕円形	0.70 × 0.63	7	平組	外組	自然		
118	B 9c5	N-84°-E	不整形円形	1.72 × 1.32	78	U字状	外組	自然		SK117 → 本跡
120	B 9e4	N-35°-E	楕円形	1.30 × 0.92	30	U字状	外組	自然	磁石 1	
121	N 9f1	-	円形	0.94 × 0.90	22	平組	外組	自然		
122	M 9h2	N-78°-W	楕円形	1.31 × 1.04	20	平組	外組	人為		
123	M 9b6	N-0°	楕円形	1.03 × 0.86	28	平組	法障成立	自然		
124	K 8f7	N-25°-W	楕円形	1.36 × 1.01	42	平組	外組	自然		
125	K 8f7	N-90°	楕円形	1.15 × 0.92	17	平組	外組	自然		
126	I 8j5	-	円形	1.96 × 1.82	22	U字状	外組	自然		SK132 → 本跡
129	J 8b5	N-55°-E	楕円形	0.95 × 0.84	10	平組	外組	自然		
130	M 9c5	N-14°-E	楕円形	1.26 × 1.13	17	平組	外組	自然		本跡 → SB 1 P 1
131	M 9f1	-	円形	0.83 × 0.81	14	平組	外組	自然		
132	I 8j5	N-65°-E	楕円形	1.16 × 0.74	36	有段	法障成立	自然		本跡 → SK126
134	I 8j5	N-0°	楕円形	0.40 × 0.32	30	平組	法障成立	自然		
138	M 1066	N-38°-W	楕円形	0.80 × 0.65	33	U字状	外組	自然	土師器 2	
139	M 9d6	-	円形	0.50 × 0.49	15	U字状	外組	自然		
140	M 9b7	N-60°-W	楕円形	0.70 × 0.60	34	U字状	外組	自然	縄文土器 1	SD 2 上重複



## (4) ビット群

## 第1号ビット群 (第144図 PL12)



第144図 第1号ビット群実測図

第61表 第1号ビット群一覧 (第144図)

番号	位置	形状	規模		備考	番号	位置	形状	規模		備考
			長径 × 短径 (cm)	深さ (cm)					長径 × 短径 (cm)	深さ (cm)	
1	C 10a2	楕円形	27 × 24	31		3	C 10a1	楕円形	30 × 18	24	
2	C 10a1	楕円形	25 × 22	28		4	C 10a1	円形	26 × 25	16	

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	備考
			長さ×幅径 (cm)		
5	C 10h1	楕円形	17 × 15	22	
6	C 10h1	楕円形	23 × 20	10	
7	C 9h0	円形	28 × 26	24	
8	C 9h0	円形	29 × 28	20	
9	C 10g1	楕円形	33 × 30	29	
10	C 9g0	円形	23 × 21	60	
11	C 9j8	楕円形	31 × 27	32	
12	C 9j8	楕円形	40 × 32	64	
13	C 9i7	円形	33 × 31	52	
14	C 9j9	円形	25 × 23	29	
15	C 9i9	楕円形	35 × 24	15	縄文土器2
16	C 9i9	楕円形	29 × 24	28	
17	C 9i9	円形	29 × 27	12	

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	備考
			長さ×幅径 (cm)		
18	C 9i9	楕円形	33 × 27	39	
19	C 9i9	円形	34 × 22	17	
20	C 9i0	円形	28 × 26	35	
21	C 9i0	円形	33 × 32	34	
22	C 9i9	楕円形	25 × 20	10	
23	C 9i0	楕円形	33 × 26	16	
24	C 9i0	楕円形	30 × 23	8	
25	C 9i0	円形	37 × 34	18	
26	C 9i0	楕円形	43 × 25	18	
27	C 9i0	円形	18 × 18	35	
28	C 9i0	楕円形	31 × 26	34	
29	C 9i0	楕円形	21 × 17	8	
30	C 9i0	楕円形	47 × 30	18	

第2号ピット群 (第145・146図)



⊙  
P3

┆  
M9s

┆  
M9r

⊙  
P6

⊙  
P7

K  
⊙  
P1

⊙  
P4

⊙  
P5

┆  
M9s

⊙  
P2

┆  
M9r

0 (1:100) 2m

第145図 第2号ピット群実測図

第62表 第2号ピット群一覧(第145図)

番号	位置	形状	規模		深さ (cm)	備考
			長径×短径 (cm)			
1	M9a5	楕円形	27 × 21		80	縄文土器1
2	M9a5	楕円形	31 × 27		66	
3	M9e4	円形	21 × 20		20	縄文土器3
4	M9b6	楕円形	33 × 29		23	縄文土器1
5	M9b6	円形	47 × 47		33	
6	M9a5	楕円形	30 × 24		75	
7	M9a5	楕円形	28 × 21		60	



0 (1:3) 5cm

第146図 第2号ピット群出土物実測図

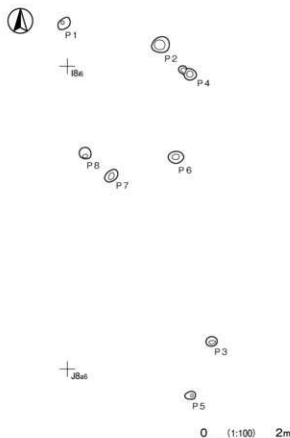
第63表 第2号ピット群出土物一覧(第146図)

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	灰石・石英	紅褐色	普通	斜線縄文を縦位に施文	P.4	

第3号ピット群(第147図)

第64表 第3号ピット群一覧(第147図)

番号	位置	形状	規模		深さ (cm)	備考
			長径×短径 (cm)			
1	I 8a5	楕円形	40 × 27		90	
2	I 8b6	楕円形	49 × 43		98	
3	I 8j6	楕円形	31 × 27		37	
4	I 8k6	楕円形	49 × 31		86	
5	J 8a6	楕円形	28 × 22		49	
6	I 8k6	楕円形	43 × 33		21	
7	I 8k6	楕円形	40 × 28		23	
8	I 8k6	円形	32 × 31		29	



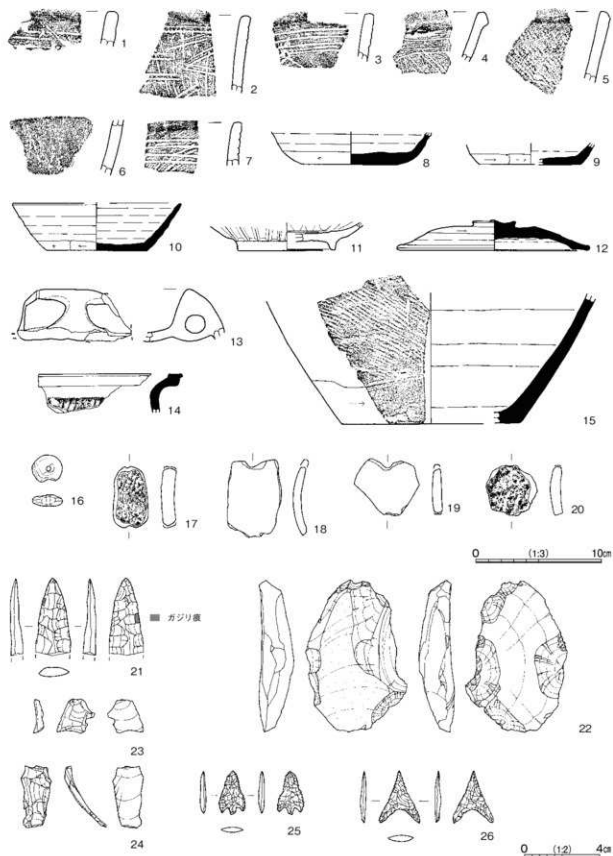
第147図 第3号ピット群実測図

第65表 時期不明ピット群一覧

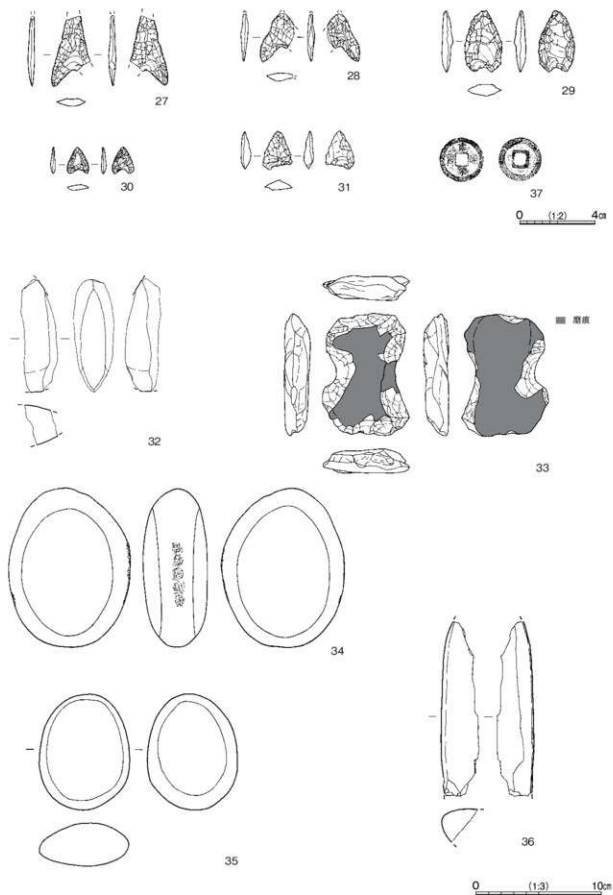
番号	位置	柱穴数	柱穴			主な出土遺物	備考
			平面形	長径(cm)	短径(cm)		
1	C 9a7~C10a1	30	円形・楕円形	17~47	15~34	8~64	SK1-97-98
2	M9e4~M9a6	7	円形・楕円形	21~47	20~47	20~80	縄文土器 SB1, F.5
3	I 8a5~J 8a6	8	円形・楕円形	28~49	22~43	21~98	F.6-7-17-18, SK43

(5) 遺構外出土遺物 (第 148・149 図)

遺構に帰属しない遺物について、実測図と一覧表を示す。



第 148 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第149図 遺構外出土遺物実測図(2)

第66表 遺構外出土遺物一覧(第148・149図)

番号	種 別	部 種	口径	部高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	-	(28)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	燃糸文化、平載竹管による平行沈線	表土中	
2	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	燃糸文化、平載竹管による木書文	S107	
3	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	燃糸文化、平載竹管による平行沈線	S107	
4	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	燃糸文化、平載竹管による平行沈線	S108	
5	縄文土器	深鉢	-	(57)	-	長石・石英・繊維	灰黄褐色 にぶい黄褐色	普通	羽状縄文	S107	
6	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	燃糸文化	S107	
7	縄文土器	深鉢	-	(34)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	燃糸文化、平載竹管による平行沈線	S107	
8	須恵器	杯	-	(26)	7.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面下縁回転ヘウ張り 底面回転ヘウ張り	S112	30% 新治産
9	須恵器	杯	-	(18)	[8.0]	長石・石英・雲母・繊維	黄灰	普通	体部外面下縁手持ちヘウ張り 底面一方向ヘウ張り	S135	30% 新治産
10	須恵器	杯	[132]	3.8	8.0	長石・石英	黄灰	普通	体部外面下縁手持ちヘウ張り 底面回転ヘウ張り	S135	20%
11	陶器	甕	-	(22)	[7.6]	長石	灰黄褐色 黄白	普通	型作り 遺け掛け	S137	10%
12	須恵器	蓋	[15.0]	2.4	-	長石・石英	灰白	普通	頂部回転ヘウ張り	SK12	50%
13	土師器土器	土釜	-	(42)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面に保付着	SK91	10%
14	須恵器	甕	-	(31)	-	長石・石英	灰黄	普通	外面斜位の平行叩き	S135	5%
15	須恵器	甕	-	(103)	[14.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面斜位の平行叩き 体部下縁手持ちヘウ張り	S135	10% 新治産

番号	種 別	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
16	土玉	2.4	0.9	0.4	4.9	長石・石英	赤褐色	片側から穿孔	表土中	PL23

番号	種 別	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
17	土器片鉢	4.8	2.7	1.1	22	長石・石英	にぶい黄褐色	周縁部研ぎ 両端に割み目	S127	PL24
18	土器片鉢	6.1	4.3	0.6	27	長石・石英	黄	周縁一部研ぎ 片側に割み目	S110	PL24
19	土器片鉢	4.5	5.1	0.7	16	長石・石英	黄	周縁一部研ぎ 片側に割み目	表土中	PL24
20	土器片鉢	4.0	4.0	0.8	13	長石・石英	黄	周縁部研ぎ	S110	PL24

番号	種 別	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
21	尖頭器	(4.1)	1.9	0.6	(4.68)	デイサイト	両面押圧潤滑 基部欠損 風化激しい	表土中	PL25
22	割片	8.1	5.4	1.8	62.95	デイサイト	尖頭器のブランク 表面二重パティナ 両面潤滑調整	表土中	PL25
23	割片	1.8	2.0	0.5	0.9	頁岩	縦長割片	S135	PL25
24	割片	3.6	1.6	2.2	2.37	頁岩	短形割片	S135	PL25
25	石鏝	2.3	1.4	0.3	0.91	チャート	右基 基部彎入	S130	PL25
26	石鏝	2.8	2.2	0.3	0.92	チャート	基部深く彎入	S114	PL25
27	石鏝	(3.7)	(1.9)	0.4	(2.90)	チャート	基部彎入	S17	PL25
28	石鏝	(2.5)	(1.8)	0.4	(1.67)	チャート	基部彎入	表土中	PL25
29	石鏝	3.3	2.0	0.6	4.15	チャート	基部浅く彎入	S17	PL25
30	石鏝	1.4	1.2	0.3	0.37	雲母石	基部浅く彎入	表土中	PL25
31	石鏝	2.0	1.5	0.5	1.27	デイサイト	基部浅く彎入	表土中	PL25
32	磨製石斧	(9.0)	(2.9)	(3.2)	(99.85)	蛇紋岩	輪刃 刃部両面から研ぎだす	S114	PL24
33	打製石斧	9.7	6.9	2.0	185.80	角閃石	分銅型 両面潤滑調整	S133	PL25
34	磨石	12.6	9.8	5.1	915.86	流紋岩	側面に磨打直	S121	PL24
35	磨石	9.3	7.2	3.5	346.13	デイサイト	全面に磨打	S114	PL24
36	石棒	(13.8)	(3.0)	(2.7)	(138.09)	蛇紋岩	両端部欠損	S121	PL24

番号	種 別	径	孔径	厚さ	重量	材 質	初周年	特 徴	出土位置	備 考
37	瓦水滲管	2.3	0.6	0.1	1.95	陶	1698	瓦管水	表土中	PL26

## 第4節 総括

## 1 はじめに

今回の調査で、熊ノ平古墳群は縄文時代前期、古墳時代後期から平安時代にわたって営まれた集落であることが判明した。特に古墳時代から平安時代にかけての土器が一定量出土しており、行方地域における良好な資料となり得る。以下に土器の時期区分と集落の変遷を述べ、総括としたい。

## 2 出土土器の時期区分

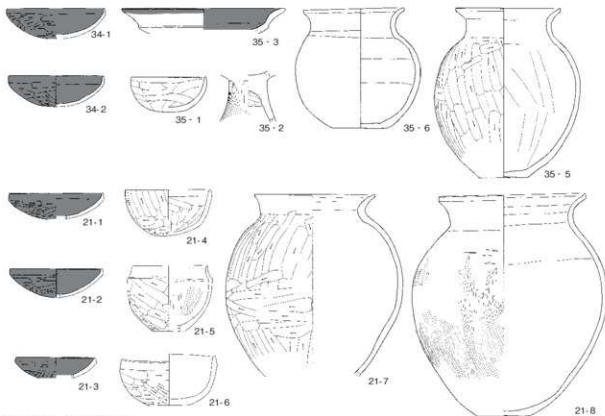
## 第1期

当期は第15・16・20号竪穴建物跡出土の土器が該当する。縄文時代前期の黒浜式、浮島式、諸磯a式が出土している。いずれも破片資料であり、残存状況は良くないが、出土状況を見ると、全ての竪穴建物跡で上記の3型式の土器が同一遺構から出土している。前期前葉と後葉の過渡期であると言えるが、遺物の混入が起きている可能性も否定できない。

後続する時期としては、縄文中期初頭の五領ヶ台式土器が出土しているが、第11号土坑出土の2点を除けば破片資料であり、出土量も少ないため、詳細な様相は不明である。

## 第2期（第150図）

当期は第21・34・35号竪穴建物跡出土の土器が該当する。土師器坯は深い椀形のもの（35-1）と、須恵器蓋模倣の坯（21-1・2, 34-1・2）がある。椀形の坯は少量のみ存在し、当期以降消滅する。蓋模倣坯は体部が直線的で、計測値は口径122～154cm、平均値は144cmと比較的大きい。高坯は内面を黒

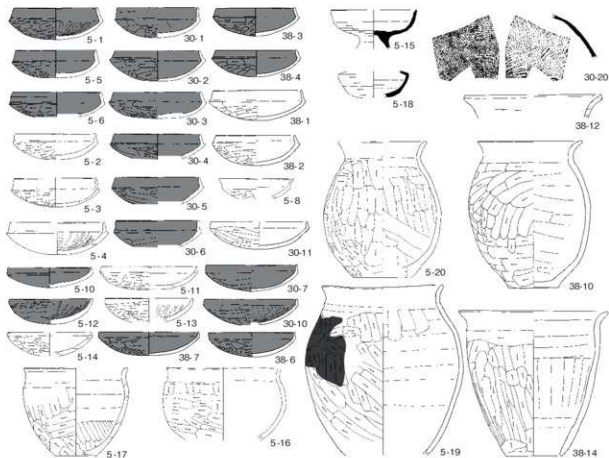


第150図 第2期の土器

色処理するもの(35-3)としないもの(35-2)が1点ずつ出土している。鉢は口縁部に段を持つもの(21-5)と、口径から底まであまり変化せずに立ち上がるもの(21-6)がある。土師器甕の主体を占めるのは在地甕であり、常総型甕は客体的である。在地甕は、肩部から口縁部に向かって垂直に立ち上がってからの字状に開き胴部が倒卵形を呈するもの(35-5)、口縁部がくの字状で胴が張るもの(21-7)がある。その他、小形甕が少量出土している(35-6)。常総型甕(21-8)は1点のみの出土で、口唇部を緩やかにつまみ上げ、体部のやや上の方から密な磨きを施す。胎土が上記の在地産の甕とは異なり、白色の細礫が多く混じり黄白色を呈する。県南部からの搬入品であると考えられる。

### 第3期(第151図)

第5・30・38号竪穴建物跡出土の土器が該当する。当期から須恵器が出土するが、出土量は少なく、器種も限定的である。土師器環は前期と同様に須恵器模倣杯が主体である。蓋模倣杯は口径11.8～15.4cm、平均値は14.0cmであり、第2期よりも小形化する。模倣杯の比率は身模倣58%、蓋模倣42%で、身模倣がやや主体的である。両者とも、少数ながら内面に放射状磨きが施されているもの(5-1・4・12・13、30-10)がある。また、杯の約6割は外・内面に黒色処理されている。鉢は前期に引き続き、平底で口縁部に段を持つ。甕も前期と同様、在地甕が主体であり、常総型甕は客体的である。ただし、常総型甕(38-12)の胎土に在地甕と同様のものが用いられており、在地での生産が行われ始めた可能性がある。



第151図 第3期の土器

### 第4期(第152図)

第11号竪穴建物跡出土の土器が該当する。土師器環は須恵器模倣杯と、平底化したもの(11-2)が出



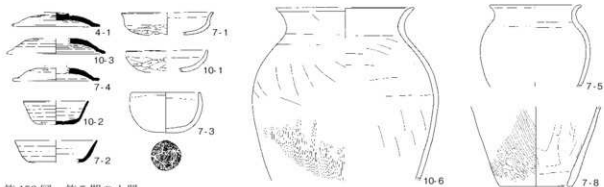
土している。模倣杯は稜線の境目が不明瞭になり、蓋模倣の坏(11-1)には内面に放射状ミガキが施されている。甕の出土数は少ないが、常総型甕であり(11-4・5)、甕も体部下半の磨きは無いもの、口縁部が緩やかにつまみ上げられており(11-7)、常総型甕の影響が顕著にあらわれている。



第152図 第4期の土器

## 第5期(第153図)

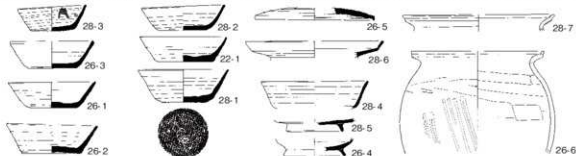
第4・7・10号竪穴建物跡出土の土器が該当する。当期から本格的に須恵器が供給され始める。須恵器坏は回転ヘラ削りによって2次底面をつくる(10-2)。また、出土数が少なく詳細は不明であるが、大・小に法量分化が認められる。須恵器蓋は頂部に扁平なボタン状のつまみが付き、やや退化したかえりが付く。土師器坏はそれぞれ蓋模倣(7-1)、身模倣の系譜を引き、口縁部に弱い稜をもつ。鉢は、口縁部の段が無くなり、口縁部のナデ調整に名残が残る。甕は、甕とともに常総型のものが主体となる。常総型甕は前期に比べて口唇部の突出が強いものが主体となるが、口縁部外側を沿うようにナデ調整を施すもの(10-6)もあり、やや口縁部調整の個体差が大きい。ほかに在地産の小形甕(7-5)が客体的に出土する。



第153図 第5期の土器

## 第6期(第154図)

第22・26・28号竪穴建物跡出土の土器が該当する。土師器供膳具はほとんど出土しておらず、様相は不明である。須恵器坏は大・小に法量分化する。口径は大形が13.0～14.6 cm、小形が10.8 cmであり、当期はほとんどが大形で、小形は1点のみ(28-3)である。須恵器高台付坏は約17 cmと大形のものもある(28



第154図 第6期の土器

ー4)が、完形に復元できるものが無く量量分化は判然としない。須恵器蓋は、端部を折り返してかえりとするようになる。土師器甕は常総型甕が主体で、図示できたものは全て常総型甕であった。口唇部のつまみ上げは更に強くなり、突出部をやや外側に引き出している。須恵器甕も出土しているが、小片で図示できなかった。

#### 第7期 (第155図)

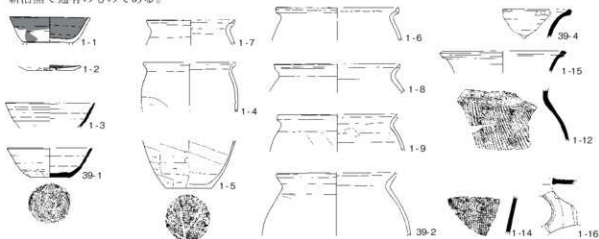
第24号竪穴建物跡出土の土器が該当する。当期は遺構数、遺物量ともに少ない。須恵器環は第6期に比べ、口径と高さは変わらず、底径が小さくなる。土師器甕は常総型甕で、口唇部はやや内傾して突出している。



第155図 第7期の土器

#### 第8期 (第156図)

第1・23・39号竪穴建物跡出土の土器が該当する。土師器環はロク口整形され、内面に黒色処理されるもので、磨きを施すものもある。器形は箱形で、体部は直線的に立ち上がる。須恵器環は前期と比べて底径が小さくなる一方、口径や器高はほとんど変化がない。土師器甕は引き続き常総型甕が主体的である。在地の甕はほとんど見られず、小形甕も常総型甕に代わる。口径は、大形のものが18.4～19.7cm、小形のものが13.4～14.4cmである。また、体部下半を磨きではなく、削りで調整するものが現れる(1-5)。小形甕には肩の張りが弱くなるもの(1-4)もあるが、他に全体が分かるものは少なく詳細は不明である。須恵器甕も少量ながら出土する。口縁部は上側に折り曲げており、胴部外面の叩きは、斜位平行叩き(1-12)と格子目叩き(1-14)がある。須恵器瓶(1-16)は底部中央に凹形、周囲に扇状の孔が空く五孔式で、新治窯で通有のものである。

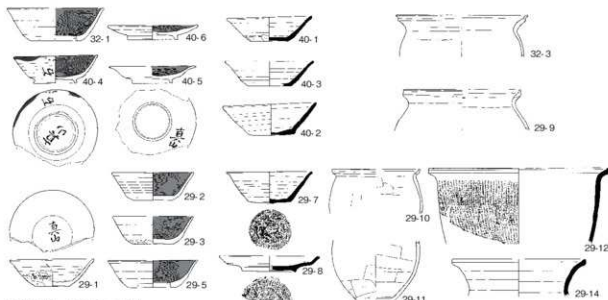


第156図 第8期の土器

#### 第9期 (第157図)

第29・32・40号竪穴建物跡が該当する。土師器環は前期と同様に、内面に黒色処理と磨きを施す。口縁部は直線的なものと、やや外反するものがあるが、いずれも体部は直線的に立ち上がる。土師器高台付環も見られるが、無台の環と同様の調整である。当期には土師器高台付皿が器種構成に加わり、土師器環と同様、内面に黒色処理と磨きを施している。口縁部は外反するものと、体部から直線的に立ち上がるものがある。また、当期には黒書土器が散見される。須恵器環は口径が底径の2倍以上となり、逆台形を呈す。底部切り離しや調整技法は産地によって異なる。木葉下窯産のもの(29-7)は底部回転ヘラ切り後無調整であり、腰部の調整も行わない。新治窯産のもの(40-1)は底部一方ヘラ削り調整で、切り離し技法は不明であり、腰部に複数回手持ちヘラ削り調整を施す。土師器甕は、前期とほぼ同様の様相であるが、口唇部の突出がさ

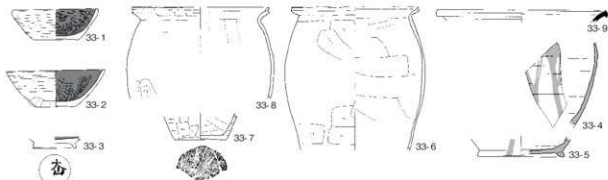
らに伸び、大きく外反するようになる。須恵器甕は頸部がくの字形になる甕（29-14）がある。また、頸部がバケツ形の鉢（29-12）があり、叩きは縦位平行叩きである



第157図 第9期の土器

#### 第10期（第158図）

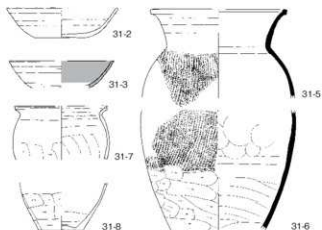
第33号竪穴建物跡の土器が該当する。須恵器甕がわずかに出土しており、口縁部を下に折り曲げるもの（33-9）が1点出土する。土師器坏は前期と同様であるが、内面の磨き調整を全面に施さないもの（33-2）が現れる。土師器甕は肩部まで削り調整を入れるもの（33-6）が見られ、粗雑化する傾向にある。また、小片ではあるが灰釉陶器の瓶類（33-4・5）が出土している。



第158図 第10期の土器

#### 第11期（第159図）

第31号竪穴建物跡の土器が該当する。須恵器甕は、頸部がくの字状で、口縁部を折り曲げるもの（31-5・6）が出土する。土師器坏は黒色処理と磨きを施していない（31-2）。土師器甕は小形の常総型甕が出土し（31-7・8）、体部下半の調整は削りに置き換わっている。また、小片ではあるが灰釉陶器の椀（31-3）が出土している。



第159図 第11期の土器

以上、熊ノ平古墳群の土器は11期の変遷が認められる。各期の年代的な位置づけについては、土器器環や須恵器の年代観、当地域の編年研究を考慮すると、第1期は縄文時代前期、第2期は6世紀後葉、第3期は7世紀前葉、第4期は7世紀後葉、第5期は8世紀前葉、第6期は8世紀中葉、第7期は8世紀後葉、第8期は9世紀前葉、第9期は9世紀中葉、第10期は9世紀後葉、第11期は10世紀前葉に比定できる。

### 3 熊ノ平古墳群の集落について（第160図）

前節の時期区分を元に、熊ノ平古墳群における竪穴建物跡の変遷を概観する。

#### 第1期（第161図）

縄文時代前期の竪穴建物跡4棟が該当する。1区北部に第15・16・20号竪穴建物跡が集中し、1区南東部の調査区東側に第37号竪穴建物跡が離れて位置する。いずれの竪穴建物跡も方形を呈している。また、竪穴建物跡の周辺には屋外炉が確認できた。縄文時代中期初頭になると、第11号土坑などから土器が出土しているものの竪穴建物跡は確認できない。

#### 第2期（第162図）

第21・34・35号竪穴建物跡が、この時期に建てられている。第21号竪穴建物跡は約16㎡、第35号竪穴建物跡は約35㎡である。面積に倍以上の開きはあがるが、いずれも主柱穴を4本持つと想定されるほか、竪穴前にピットをもつ。また、第34・35号竪穴建物跡の配置は近接し過ぎており、同時に存在したとは考えられず、新旧関係があったものと考えられる。

#### 第3期（第162図）

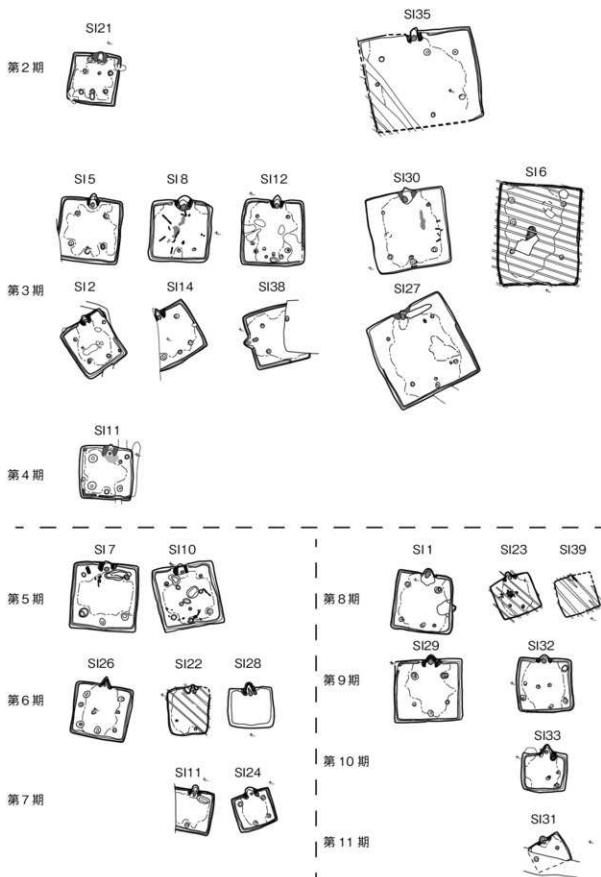
7世紀に入ると、2区から約600m南に離れた1区にも集落が広がりを見せる。竪穴建物跡の棟数も増え、集落の最盛期となる。主軸方向は、近接する遺構ではほぼ軸を同じくする傾向にある。1区の南部に位置する第5・6・8・12号竪穴建物跡は東に0～10度、1区西部の調査区間に位置する第9・13号竪穴建物跡は西に5～6度、2区北部から中央部に位置する第2・27・30・38号竪穴建物跡は西に10～33度と大きく3つに分けられる。そのなかで、1区の竪穴建物跡の中で最も北に位置する第14号竪穴建物跡の主軸が西に27度であり、2区の竪穴建物跡と共通する主軸を持つのは興味深い。1区の西部には台地平坦部が続いており、未調査区にかけて集落が広がりを見せる可能性がある。面積をみると、40㎡以上の大形（SI27・30）、24～26㎡の中形（SI5・8・12）、20㎡以下の小形（SI2・14・38）に大別される。第8号竪穴建物を除き、主柱穴を4本と出入口施設を持つ。また、2区の北部に位置する第30・38号竪穴建物跡は、出土土器から見るとほぼ同時期の遺構であり、新旧関係があるものと考えられる。

#### 第4期（第162図）

7世紀後葉には第11号竪穴建物跡のみとなる。第11号竪穴建物跡は東に3度振れており、第5・6・8・12号竪穴建物跡と同一の軸であるが、面積は約18㎡であり、それらと比べてやや小形である。

#### 第5期（第163図）

8世紀に入ると1区、2区共に再び集落が形成され始める。8世紀前葉には、1区南部に第4・7・10号竪穴建物跡が建てられる。主柱穴と出入口施設を持ち、面積は26～28㎡と中形である。また、竪穴建物跡の東部に掘立柱建物跡が2棟建てられる。遺構の併存や新旧関係が不明であるため、竪穴建物跡と掘立柱建物跡の関係性を考察するのは難しいが、集落の倉庫として機能していたと考えられる。2区南部には第41号竪穴建物跡が建てられる。



第160図 古墳時代から平安時代の堅穴建物跡

#### 第6期 (第163図)

8世紀中葉になると、1区は堅穴建物跡がなくなり空隙地となる。2区には第22・26・28号堅穴建物跡が建てられる。第22・26号堅穴建物跡は8世紀前葉の第41号堅穴建物跡と、規模や主軸に共通性がある。また、この時期から15㎡以下の、更に小型化した主柱穴の確認できない堅穴建物が増える。

#### 第7期 (第163図)

8世紀後葉は1区に第3号堅穴建物跡、2区に第24号堅穴建物跡があるのみで、各区に1棟と遺構数が減少している。堅穴建物跡の規模は一辺が約3m前後、面積は9～11㎡となり、さらに小型化している。

#### 第8期 (第164図)

9世紀に入ると、2区に遺構が集中する。9世紀前葉は第1・23・39号堅穴建物跡が建てられる。第23・39号堅穴建物跡は、2区中央から南部に建てられ、8世紀後葉と同様に規模が一辺3m前後で、主軸は西に振れる。一方、第1号堅穴建物跡は2区北部に建てられる。規模は一辺5m弱であり、前時期よりも大形である。主軸は東に8度振れている。

#### 第9期 (第164図)

9世紀中葉になると2区北部に第29・32・40号堅穴建物跡が建てられる。いずれも規模は一辺約5mである。主軸方向は真北から東に3度と、より正方位に近くなっている。主柱穴を見ると第29号堅穴建物跡は定型的な4本柱であるが、第32・40号堅穴建物跡は配置が一定せず、面積20㎡付近の堅穴建物跡の多くに主柱穴が4本あった状況に変化がある。

#### 第10期 (第164図)

9世紀後葉は第33号堅穴建物跡の1棟のみで、一辺3m前後で小形である。主軸方向はほぼ正方位である。

#### 第11期 (第164図)

10世紀前葉は第31号堅穴建物跡の1棟のみで、一辺3m以下と推測され小形である。主軸は西に29度振れている。第31号堅穴建物跡を最後に、当遺跡から集落の遺構は無くなる。

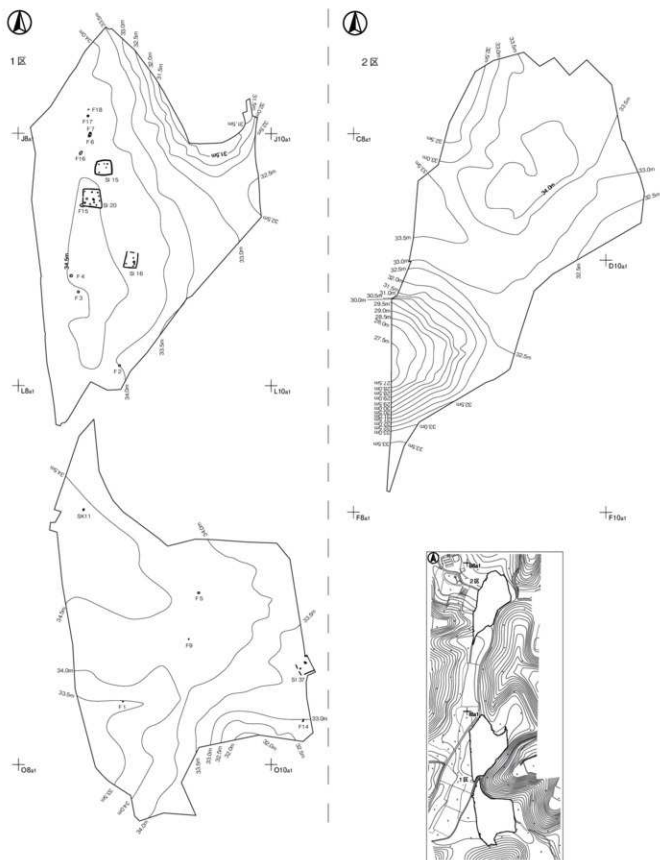
## 4 おわりに

当遺跡の集落は、縄文時代前期や6世紀後葉から7世紀前葉まで短期的に営まれた集落で、奈良・平安時代にあっても比較的小規模なものであった。行方台地の中でも、当遺跡のように河川に面した場所は、小支谷が入り込み複雑な地形を形成している。『常陸国風土記』には「郡より東北十五里に当麻の里あり」「車駕の経る道狭く、地に深浅ありき」「二つの神子の社あり。其の周の山野は、(中略)往々に林を成し、猪、狼、狼、多に住めり」とあり、細長い台地の間に数多くの谷津が入り込み、台地上は未開の森林であったことを物語っている。当遺跡もそのような環境を切り拓いて形成された集落であったと考えられる。

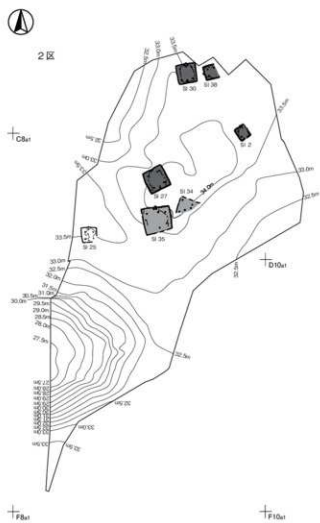
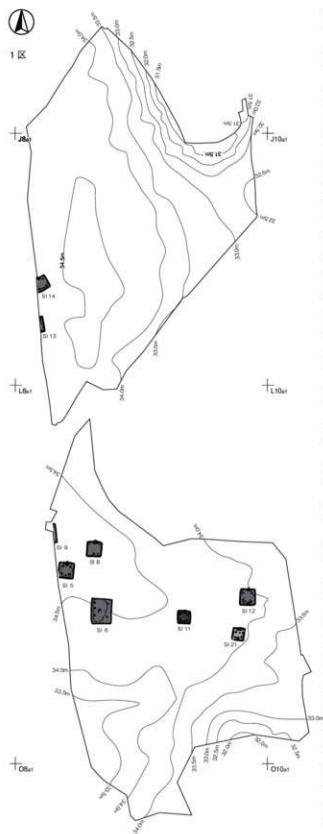
熊ノ平古墳群の調査区は舌状台地上にあるが、調査区全体の南西部にあたる1区南西部に向かって、ある程度の平坦面が開けている。熊ノ平古墳群でみられた集落の短期的な形成と断絶の繰り返しは、調査区外の区域に拠点となる集落が存在していたのか、それとも周辺の集落からの移住や移転の結果であるのか、現時点では判断材料に乏しい。今後の調査の進展に期待したい。

#### 参考文献

- 赤井博之「古代常陸国新治原跡群の基礎的研究1」『要良奇考古』第20号 1998年 要良奇考古同人会
- 源美賢吾「常陸における七世紀の土器」『考古研究』第45号 2013年4月 考古研究会
- 沖森卓也ほか「風土記-常陸国・出雲国・播磨国・豊後国・肥前国」2016年1月 山川出版社
- 櫻村宣哉「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 1993年1月 茨城県教育財団
- 佐々木義則「木葉下原跡群壙杯A Iの変化について」『要良奇考古』第17号 1995年5月 要良奇考古同人会

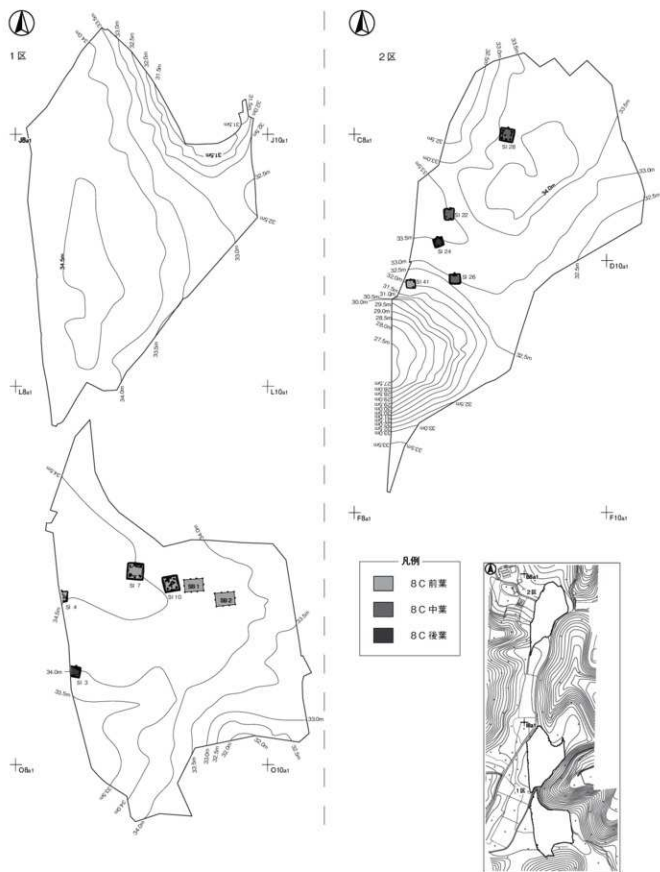


第 161 図 縄文時代遺構配置図



第 162 図 古墳時代遺構配置図





第163図 奈良時代遺構配置図



## 第4章 一本椎遺跡

### 第1節 調査の概要

一本椎遺跡は、潮来市の中央部に位置し、東西を夜越川と田中川に開析された台地上の、標高約38mの縁辺部に位置している。調査面積は136㎡で、調査前の現況は宅地、畑地である。

調査の結果、塚3基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に2箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師質土器（小皿、鉢、焙烙）、陶器（蓋、大皿、小皿、鉢、播鉢、壺、急須）、磁器（碗）、石器（磨製石斧、磨石、砥石）、石造物3基、金属製品（銭貨）、樹脂製品（櫛）などである。

### 第2節 基本層序

調査区北部（B 6g1区）の台地上平坦面にテストピットを設定し、基本土層（第165図）の観察を行った。

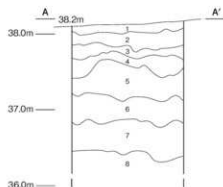
第1層は、ロームブロック・粒子を含む暗褐色を呈する表土で、耕作土である。粘性・締まりともに普通で、層厚は6～12cmである。

第2層は、黄褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を微量、白色粒子をごく微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は12～26cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を少量含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は5～20cmである。

第4層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層への漸移層である。黒色粒子を少量、赤色粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は7～27cmである。第2黒色帯に比定される。

第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子と赤色粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりは非常に強い。層厚は19～46cmである。



第6層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量、白色粒子をごく微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は23～38cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強い。層厚は31～48cmである。

第8層は、暗褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量、白色粒子をごく微量含み、粘性・締まりともに強い。第8層の下層は未掘のため、層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。

第165図 一本椎遺跡基本土層図

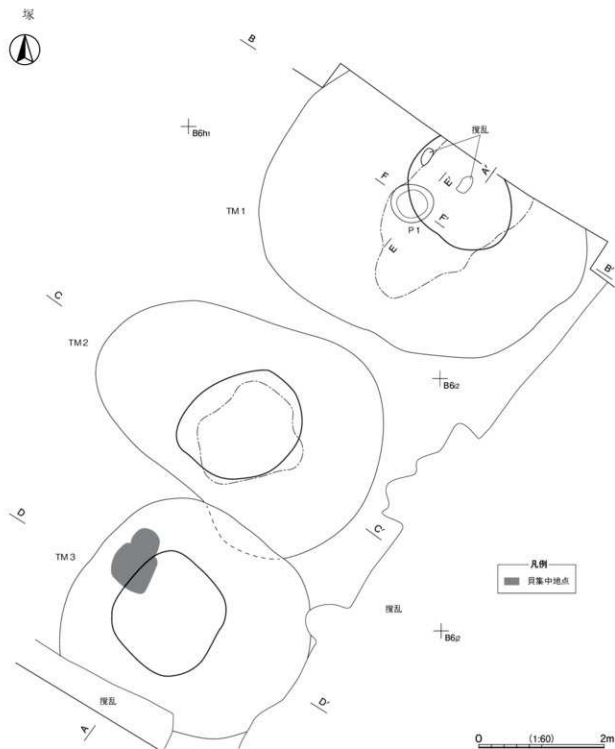




### 第3節 遺構と遺物

#### 1 近世・近代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、塚3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。



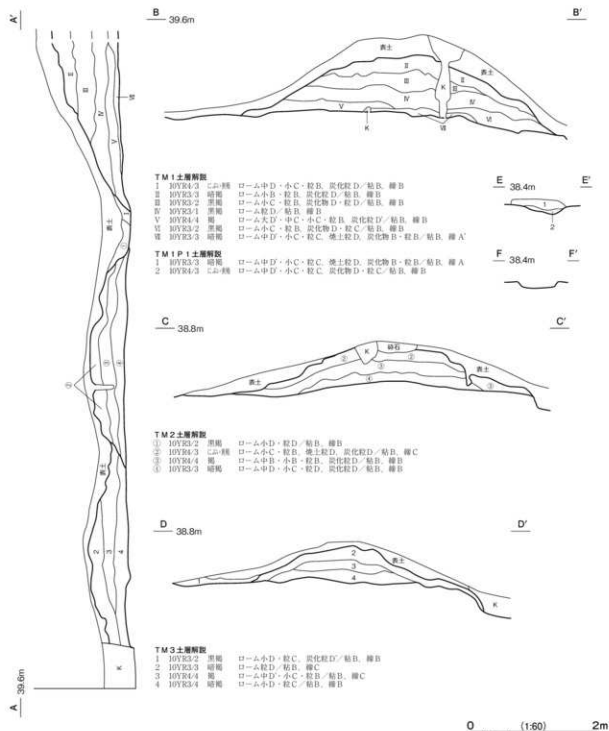
第168図 第1～3号塚実測図(1)

## 第1号塚 (第168～171図 PL27・28)

位置 調査区北部のB 6g1～B 6h2区の標高38mほどの台地縁辺部に位置している。

確認状況 調査前の段階で、塚頂部に石造物が1基祀られていた。石造物については、調査開始前に500mほど北東に所在する三熊神社境内に移設されている。

重複関係 第2号塚と直接の重複関係はないが、第1号塚からの流土である第1層の上に、第2号塚からの流土である第①層が堆積していることから、第1号塚の方が先に構築されている。



第169図 第1～3号塚実測図(2)

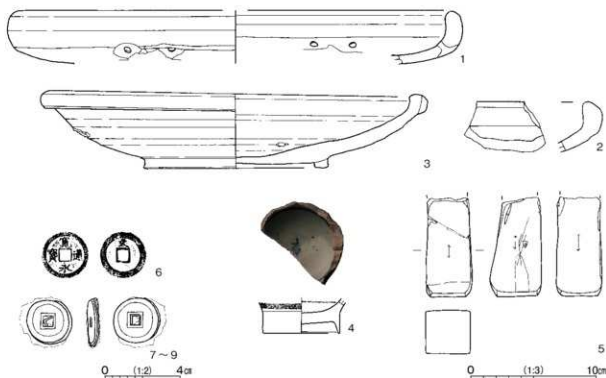
**規模と形状** 北部が調査区外に延びるため、塚部は東西軸 5.20m、南北軸 3.25m しか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向は N-55°-W と推定できる。基部から表土までの盛土高は 1.30m である。底面に硬化面を確認した。

**塚盛土** 7層に分層できる。盛土第Ⅱ～Ⅵ層の締まりは普通で、第Ⅶ層は非常に締まりがある。傾斜地側の塚の基部を突き固めた後、その上に土を積み上げたと考えられる。また、第Ⅴ～Ⅶ層に炭化物が多く混じるため、構築前に草木を焼いている可能性がある。第Ⅰ層は盛土からの流土である。

**ピット** P1 は径 33cm、深さ 13cm の円形で、性格は不明である。

**遺物出土状況** 土師質土器片 6 点（小皿 1、焙烙 5）、陶器片 2 点（蓋、大皿）、磁器片 1 点（碗）、石器 1 点（砥石）、石造物 1 基、金属製品 4 点（銭貨）、鉄滓 1 点（114g）が出土している。

**所見** 時期は、石造物の紀年銘から 1800 年とみられる。祀られていた石造物に背面金剛や三猿が刻まれていることから、庚申塚と考えられる。



第 170 図 第 1 号塚出土遺物実測図

第 67 表 第 1 号塚出土遺物一覧 (第 170 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師質土器	焙烙	34.0	4.2	-	長石・石英	表土原色 裏土赤褐色	普通	体部に種物孔 外面保付着	表土中	5%	
2	土師質土器	焙烙	-	4.0	-	長石・石英・ 赤色鉄子	靑灰	普通	外・内面ナデ 外面保付着	表土中	5%	
3	陶器	大皿	27.8	6.2	14.3	黄地・にがい黄陶			口ノラ未焼き成形 体部底縁、口縁部 長石軸を掛け付け	長石軸 瀬戸・美濃系	第 1 層中	60% PL30 TME 表土直上遺 物と連行
4	磁器	碗	-	2.8	6.2	緑青・灰白			広東焼 染付 見込扉内開文・内側に (寿)	透明釉 肥前系	表土中	40%
5	砥石	長 5	幅 3.8	厚 4.1	重量 169.8	材質 凝灰岩			砥石面 縁削状の砥痕		第 6 層中	PL30





第171図 第1号塚出土石造物実測図 (PL29)

番号	鉄種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	埋没年	特徴	出土位置	備考
6	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.27	鋼	1668	背字「文」	第3層中	PL30
7	寛永通寶	2.2	0.6	0.7	5.25	鉄	1739	新寛永	第3層中	8と接着 PL30
8	寛永通寶	2.2	0.6			鉄	1739	新寛永	第3層中	7・9と接着 PL30
9	寛永通寶	2.3	0.6			鉄	1739	新寛永	第3層中	8と接着 PL30

## 第2号塚 (第168・169・172・173区 PL27・28)

**位置** 調査区北部のB5h0～B6il区の標高38mほどの台地縁辺部に位置している。

**確認状況** 調査前の段階で、塚頂部に石造物が1基祀られていた。石造物については、調査開始前に500mほど北東に所在する三熊神社境内に移設されている。

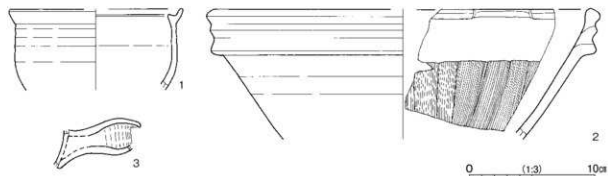
**重複関係** 第3号塚の盛土が、第2号塚の盛土上に構築されているため、第2号塚の方が先に構築されている。第1号塚と直接の重複関係はないが、第2号塚の方が後に構築されている。

**規模と形状** 塚部は長径4.80m、短径3.60m、平面形は楕円形で、長径方向はN-60°-Wである。基部から表土までの盛土高は0.65mである。底面に硬化面を確認した。

**塚盛土** 4層に分層できる。盛土上層は締まりがなく、下層の締まりは普通であるため、土を突き固めずに積み上げたと考えられる。第①層は盛土からの流土である。

**遺物出土状況** 陶器片3点(鉢、鉢鉢、急須)、石器1点(磨石)、石造物1基が出土している。

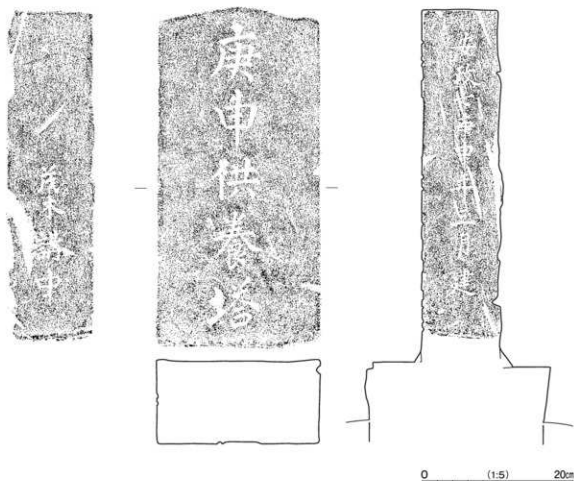
**所見** 時期は、石造物の紀年銘から1860年とみられる。石造物の銘文から、庚申塚と考えられる。また、塚頂部に、石造物を据え付けるため砕石で地固めした跡が確認できた。砕石は新しいものであり、第2号塚の構築後に改変を受けたと推定できる。



第172図 第2号塚出土遺物実測図

第68表 第2号塚出土遺物一覧 (第172図)

番号	種別	図種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪索	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢	(136)	(6.4)	-	長石・鉄釉・黒陶 灰釉：灰ナリ 裏地に白い層	ロクワ成彩 外面鉄軸・内面灰釉を流し掛け	鉄軸 灰釉	瀬戸・美濃系	表土中	10%
2	陶器	鉢鉢	(296)	(10.3)	-	長石・石英 釉：黒赤陶 裏地に灰	ロクワ成彩 磨目12本1単位	鉄軸	瀬戸・美濃系	第3層中	10%
3	陶器	急須	-	(3.9)	-	黒赤 長石釉：白 鉄釉・流黄	ロクワナデ 把手部分	長石釉 灰釉	瀬戸・美濃系	表土中	5%



第173図 第2号塚出土石造物実測図 (PL29・30)

**第3号塚** (第168・169・174・175図 PL27・28)

**位置** 調査区北部のB5i0～B6j1区の標高38mほどの台地縁辺部に位置している。

**確認状況** 調査前の段階で、塚頂部に石造物が1基祀られていた。石造物については、調査開始前に500mほど北東に所在する三熊神社境内に移設されている。

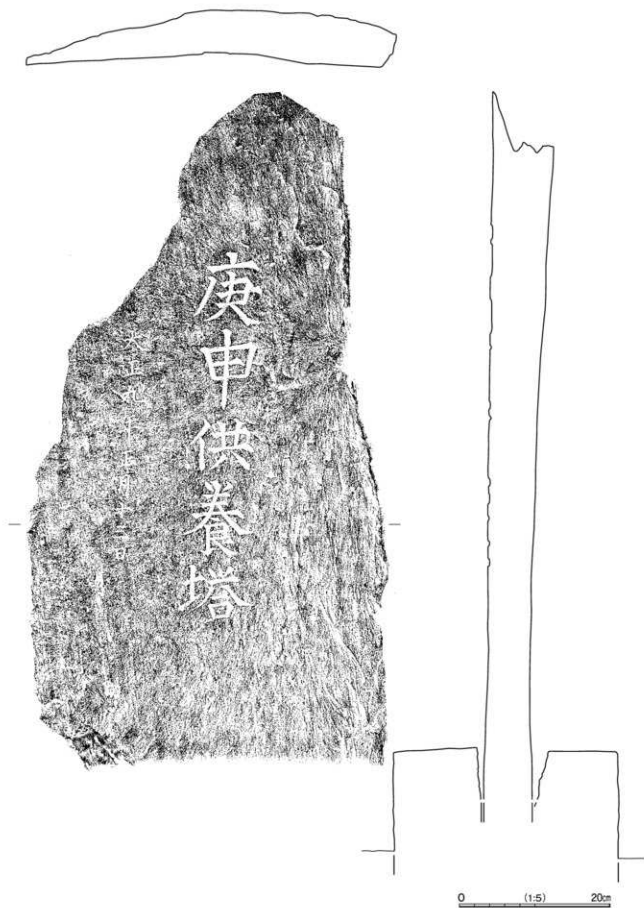
**重複関係** 第2号塚の盛土上に第3号塚の盛土が堆積していることから、第3号塚の方が後に構築されている。

**規模と形状** 南部に攪乱を受けているため、塚部は長径3.80m、短径3.25mしか確認できなかった。平面形は円形である。基部から表土までの盛土高は0.70mである。

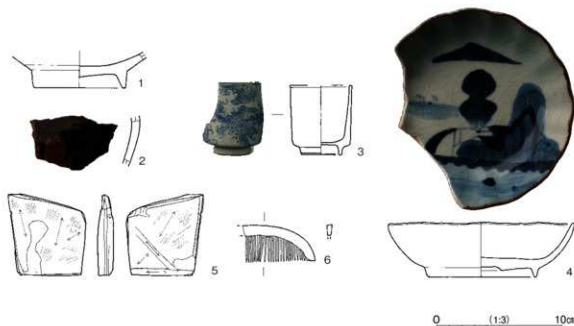
**塚盛土** 4層に分層できる。盛土は締まっておらず、土を突き固めずに積み上げたと考えられる。第1層は盛土からの流土である。

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(鉢)、陶器片2点(碗、甕)、磁器片3点(碗2、皿1)、石器2点(砥石)、石造物1基、樹脂製品1点(櫛)が出土している。また、第3層の中央部から貝(シジミ)がまとまって出土している。

**所見** 時期は、石造物の紀年銘から1920年とみられる。石造物の銘文から、庚申塚と考えられる。



第 174 图 第 3 号塚出土石造物実測図 (PL29・30)



第175図 第3号塚出土遺物実測図

第69表 第3号塚出土遺物一覧(第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪率	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	-	(28)	[7.2]	長石 胎:灰白 表面に白い濃黄	ロケロ成形	長石釉	瀬戸・光濃系	第1層中	10%
2	陶器	羹	-	(4.0)	-	長石・石美 胎:暗赤褐色 表面に黄	ロケロ成形 鉄釉成し掛け	鉄釉	瀬戸・光濃系	第1層中	5%
3	磁器	碗	[5.0]	5.5	[3.0]	細密 灰白	ロケロ成形 染付 型紙刷り	透明釉	瀬戸・光濃系	第2層中	40%
4	磁器	皿	14.6	5.2	8.4	細密 灰白	型押 染付 見立部山水文	透明釉	瀬戸・光濃系	第2層中	60% PL30
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	砥石	6.4	6.2	1.2	64.15	粘板岩	結晶6面 織刺状の砥痕		第1層中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
6	駒	(5.7)	(2.9)	0.3	(3.68)	セロロイド	一部欠損		第2層中		

第70表 第1～3号塚出土土造物一覧(第171・173・174図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	特徴	出土位置	備考
TM 1	石造物	61.8	27.0	19.4	板状駒形 窟鬼を踏まえた背面金剛と三葉を組み合わせ 記録「寛政十二庚申三月廿日」	TM 1上	PL29
TM 2	石造物	44.6	21.4	11.6	駒形 記録「庚申供養塔」『茂木講中』「安政七年庚申年三月號」	TM 2上	PL29・30
TM 3	石造物	68.8	47.0	8.2	自然石形 記録「庚申供養塔」『大正九年正月十三日』	TM 3上	PL29・30

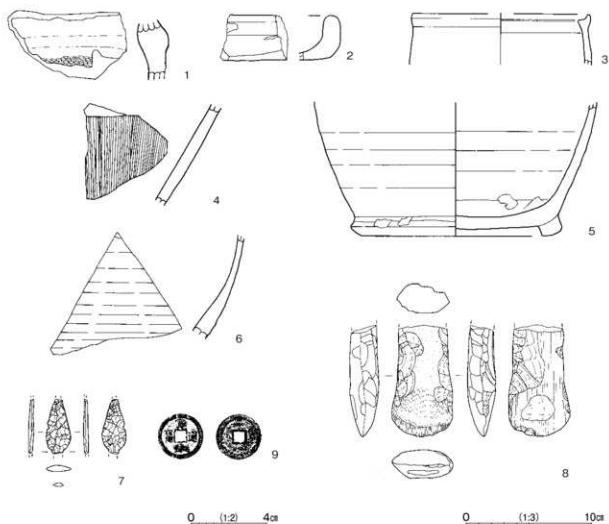
\* 計測値は台座を除いた数値

第71表 近世・近代の塚一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	高さ (m)		
1	B 6g1 ~ B 6h2	[N - 50° - W]	[楕円形]	5.20 × (3.25)	1.30	土師質土器、陶器、磁器、石器、石造物、金属製品	
2	B 5ho ~ B 6d	N - 60° - W	楕円形	4.80 × 3.60	0.65	陶器、石器、石造物	
3	B 5d0 ~ B 6j1	-	円形	3.80 × (3.25)	0.70	土師質土器、陶器、磁器、石器、石造物、金属製品	

## 2 遺構外出土遺物

遺構に帰属しない遺物について、実測図と一覧表を示す。



第176図 遺構外出土遺物実測図

第72表 遺構外出土遺物一覧(第176図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	手法の特徴はか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英	にび・粗	普通 縄文Ⅱ上	表土中	5%		
2	上御貢土器	笠形	-	(35)	-	長石・石英	灰黒	普通 外面に保付着	表土中	5%		
3	陶器	碗	[140]	(40)	-	長石	ロクロ成形	長石軸成し磨け	長石軸	瀬戸・美濃系	表土中	5%
4	陶器	深鉢	-	(80)	-	長石・石英	ロクロ成形	輪目12本1単位	鉄軸	瀬戸・美濃系	表土中	5%
5	陶器	甕	-	(106)	150	長石・石英	ロクロ成形	内面トナシ取残る	鉄軸	瀬戸・美濃系	表土中	30% PL30
6	陶器	甕	-	(84)	-	長石	ロクロ成形		鉄軸	瀬戸・美濃系	表土中	5%
7	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考		
7	尖頭器	(29)	14	0.3	(1.30)	チャート	有青尖頭器 両面押し潤滑		表土中	PL30		
8	磨製石斧	(89)	49	2.3	(131.69)	蛇紋岩	磨製 刃部両面から研ぎだす		表土中	PL30		
9	鏡	径	孔径	厚さ	重量	材質	初铸年	特徴		出土位置	備考	
9	寛永通寶	2.4	0.5	0.1	2.88	銅	1668	新寛永		表土中	PL30	

## 第4節 総 括

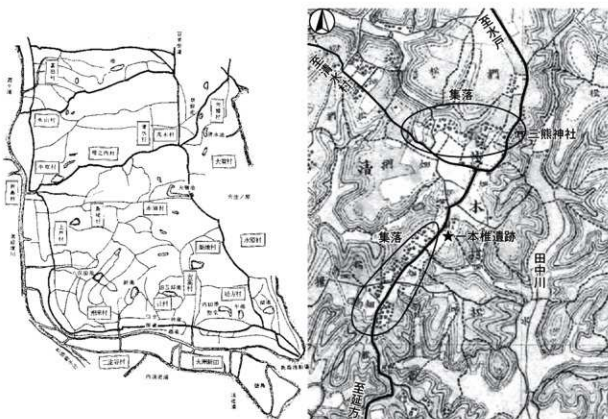
当遺跡では3基の塚を調査し、全て近世以降に築かれた庚申塚であることが判明した。以下、当遺跡の立地と環境の特徴と、塚に伴う石造物について述べる。

### 1 塚が築かれた立地と環境（第177図）

第1号塚の築造当時、当遺跡周辺の地域は水戸藩南部の潮来領の茂木村に属していた。弘化3年（1846）に水戸藩南部の潮来領を描いた「潮来御領十六ヶ村絵図」には、当時の潮来領を構成していた村やそれをつなぐ道が記されている。行方台地を通り水戸から鹿島神宮・香取神宮へ向かう道は、大きくわけて行方台地の中央を通る東側の街道と、霞ヶ浦西岸を通る西側の街道の2本があるが、地図からは茂木村を東側の街道が通ることや、茂木村から西側の街道へ道が延びていることが分かる。

「潮来御領十六ヶ村絵図」では、残念ながら茂木村内部での寺社や集落の配置など詳細は分からない。しかし、明治18年（1885年）に作成された迅速測図では線の太さによって道幅の違いを書き分けている他、当時の建造物、農地や植生が文字や記号、色分けを用いて記されており、茂木村周辺の様相が明らかである。迅速測図を見ると当遺跡は集落の中央を南北に通る、江戸時代の百里街道に相当する道（現在の県道185号繁昌潮来線）から一本南に外れた三叉路の辻に立地している。また、西の清水村へ向かう道が本跡の北から延びていることが分かる。当遺跡の庚申塚は、街道筋の辻に築造されたものと言える。

また、当遺跡の北側には畑地が広がっており、建物は少ない。対して、南西側に伸びる街道沿いには建物



第177図 一本椎遺跡周辺地図（左：潮来御領十六ヶ村絵図 右：迅速測図）

が集中しており、1885年当時、当遺跡は集落の北端に位置していたことが分かる。また、当遺跡の西側と南側は谷津になっており、地形が田中川に向かって急激に落ち込む。植生を見ると、ちょうど当遺跡の西側と南側から緑色に塗り分けられており、谷津の周辺は松などの山林になっている。このように、当遺跡は地形や自然環境から見ても、集落の境界付近に立地していると言えるだろう。

## 2 庚申塔について

庚申塔は、庚申講によって建てられる供養塔である。庚申講とは人間の体内にいる「三尸」と呼ばれる邪鬼が、十干十二支での庚申の日になると、天帝に人間の罪科を告げるのを防ぐため徹夜で行を行う、一種の日待講である。通常数年間にわたり行を続け、それが成就した際に、現世利益や三尸の供養を祈って庚申塔を建てる。第1～3号塚の石造物は、それぞれの記念銘と、塚からの出土遺物の年代がほぼ同一であることから、塚に伴って造られた庚申塔であることは間違いないだろう。いずれの石造物の紀年銘も庚申の年にあたることから、数年間の行というよりも、庚申の年に合わせて造られたものと言える。

次に、当遺跡の石造物を周辺地区の石造物と比較する。当遺跡の位置する旧牛堀町域では、牛堀町郷土文化研究会によって集成が行われ、その成果の一部が公開されている<sup>1)</sup>。そこには当遺跡から南西約3kmの三熊野神社に所在する庚申塔が紹介されており、前面に青面金剛と「元文五歳 惣村○○○○結衆」の銘文が刻まれるもので、第1号塚の石造物に先行するものであることが分かる。

また、旧潮来町域は石塔・石仏が網羅的に集成されており、当遺跡の東側に隣接する大生原地区では、庚申塔は23基確認されている<sup>2)</sup>。銘文から年代が分かるものは22基あり、時期別にみると1740～1799年に3基、1800～1859年に5基、1860～1919年に6基、1920～1979年に5基、1980年に3基と、近世中期から現代に至るまで継続的に造立されている。造立された石造物の内容を一本推遺跡と比較してみると、1800年以前は6基中3基に青面金剛像が刻まれ、その数は半数を占めるが、1860年に造られた庚申塔では5基中1基に減少、以後は「庚申塔」「庚申供養塔」や「猿田彦大神」の銘文のみが刻まれた文字塔となり、一本推遺跡の石造物と同様の様相を示す。

このような像物の傾向は、同時代の江戸地域とほぼ同様の様相<sup>3)</sup>であり、他にも造立主体に、個人よりも講中が多数を占めるなど、共通点が認められる。ただし、石造物造立の盛期については江戸地域では特に近世前期に盛期があり、その後減少傾向にあることが指摘されている<sup>4)</sup>が、潮来地域では庚申塔をはじめとする石造物の造立が盛んになるのは近世中期以降であり<sup>5)</sup>、地域による時期差が認められる。

潮来市周辺では庚申塔に限らず、石造物に用いる石材の産出がない。石材流通も含めた他地域との交流について、今後の研究が期待される。

### 註

- 1) ふるさと牛堀刊行委員会編『ふるさと牛堀』牛堀町 2001年3月
- 2) 潮来町史編纂委員会編『潮来の石仏石塔』1991年3月
- 3) 石神祐之『近世庚申塔の考古学』慶應義塾大学出版 2013年4月
- 4) 註3に同じ
- 5) 志田謙一編『潮来町史』潮来町史編さん委員会 1996年3月

なお、第177図に用いた潮来町第十六ヶ村絵図は、潮来町郷土史研究会編『ふるさと潮来』第七輯 49pから、迅速測図は、農研機構農業環境変動研究センターの提供する、歴史的農業環境閲覧システム (URL: <https://habsdc.affrc.go.jp/compare.html>) から引用し、加筆を行った。



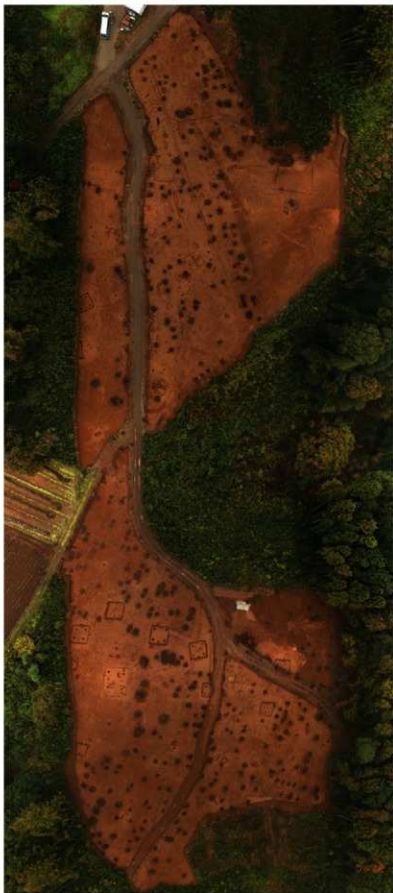
写 真 图 版



熊ノ平古墳群 第5号竖穴建物跡出土土器



PL1



1区全景

PL2



2区全景



遺跡全景



第1号石器集中地点遺物出土状況



第1号石器集中地点



第15号竪穴建物跡



第16号竪穴建物跡



第20号竪穴建物跡



第11号土坑遺物出土状況



第11号土坑



第57号土坑

PL4



第68号土坑



第69号土坑



第72号土坑



第73号土坑



第1号炉跡



第2号炉跡



第3号炉跡



第4号炉跡



第5号炉跡



第14号炉跡



第15号炉跡



第43号土坑 (陥し穴)



第84号土坑 (陥し穴)



第2号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡遺物出土状況①



第5号竖穴建物跡遺物出土状況②



第5号豎穴建物跡



第6号豎穴建物跡遺物出土状況①



第6号豎穴建物跡遺物出土状況②



第6号豎穴建物跡



第8号豎穴建物跡遺物出土状況



第8号豎穴建物跡



第11号豎穴建物跡



第12号豎穴建物跡遺物出土状況





第12号竖穴建物跡



第14号竖穴建物跡



第21号竖穴建物跡遺物出土状況



第21号竖穴建物跡遺物出土状況(鉢)



第21号竖穴建物跡



第25号竖穴建物跡



第27号竖穴建物跡



第30号竖穴建物跡



第35号竖穴建物跡



第38号竖穴建物跡遺物出土状況



第38号竖穴建物跡



第3号竖穴建物跡電



第3号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡



第7号竖穴建物跡遺物出土状況



第7号竖穴建物跡遺物出土状況 (刀子)



第7号竖穴建物跡竈



第7号竖穴建物跡



第10号竖穴建物跡遺物出土状況



第10号竖穴建物跡



第22号竖穴建物跡



第22・23号竖穴建物跡



第24号竖穴建物跡



第26号竖穴建物跡



第28号竖穴建物跡遺物出土状況 (坏)



第28号竖穴建物跡



第41号竖穴建物跡



第1号竖穴建物跡



第23号竖穴建物跡



第29号竖穴建物跡



第31号竖穴建物跡



第32号竖穴建物跡竈



第32号竖穴建物跡



第33号竖穴建物跡



第36号竖穴建物跡



第39号竖穴建物跡



第40号竖穴建物跡遺物出土状況（鎌）



第40号竖穴建物跡



第1号据立柱建物跡



第2号据立柱建物跡

PL12



第4号溝跡



第12号溝跡



第13号溝跡①



第13号溝跡②



第14号溝跡



第15号溝跡



第1号井戸跡



第1号ビット群





第5号竪穴建物跡，第11号土坑出土土器



第5·8号竖穴建物跡出土土器



PL15



第11・12・21号竖穴建物跡出土土器



第27·30·34·35·38号竖穴建物跡出土土器



第4・7・10・22・38号竪穴建物跡出土土器



第1・24・26・28・29・32号竪穴建物跡，第1号掘立柱建物跡出土土器



第31・33・39・40号竖穴建物跡，第119号土坑，第13号溝跡出土土器

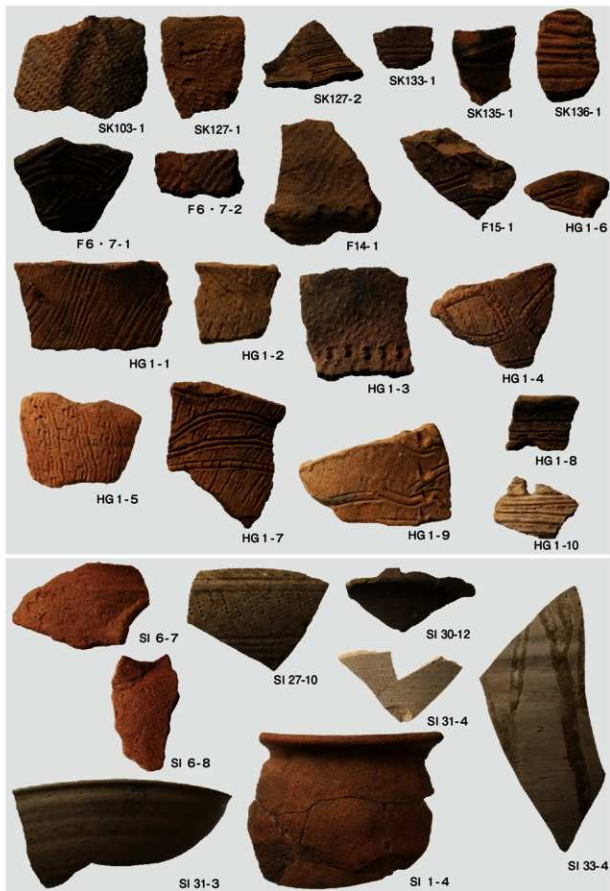


第15·16·20·37号竖穴建物跡，第8·13·15·16·29·32号土坑出土土器



第32・36・44・48・54~56・60・71・83・85・86・96・97・105・110・117号土坑出土土器





第1·6·27·30·31·33号竖穴建物跡, 第103·127·133·135·136号土坑, 第6·7·14·15号炉跡, 第1号遺物包含層出土土器



PL23



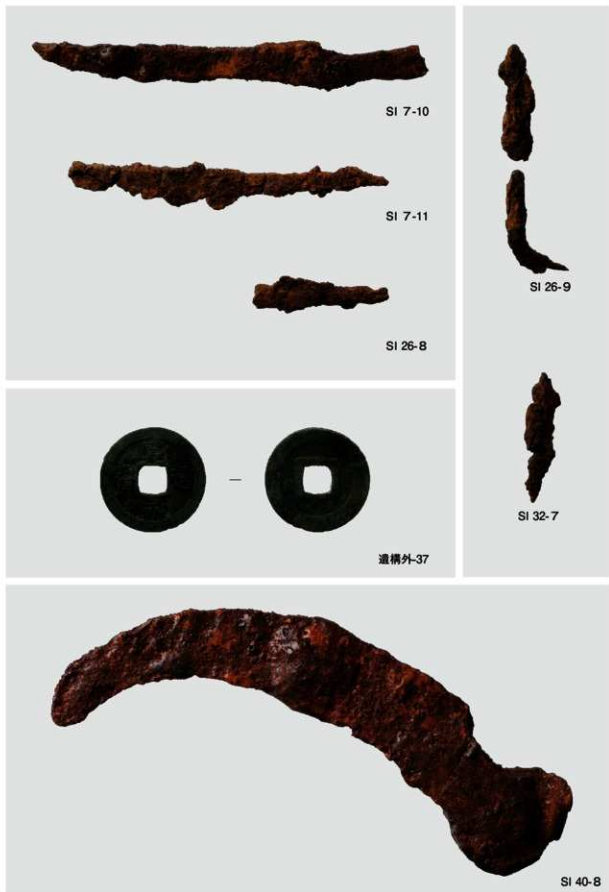
第4・7・8・10・21・27・29・30・35・38号竪穴建物跡，遺構外出土製品



第5・12・33号竪穴建物跡, 第97号土坑, 遺構外出土土製品 第26・30~33・38号竪穴建物跡, 第4・103号土坑, 第4号溝跡, 遺構外出土石器



第1号石器集中地点, 第33・62号土坑, 第1号遺物包含層, 遺構外出土石器



第7・26・32・40号竖穴建物跡，遺構外出土金属製品

PL27



遺跡全景



第1～3号塚確認状況



第1号塚確認状況



第2号塚確認状況



第3号塚確認状況



第1～3号塚断面状況



第1号塚断面状況（南から）



第1号塚断面状況（南西から）



第2号塚断面状況



第3号塚断面状況



第1～3号塚石造物移設状況



第1号塚石造物



第1号塚石造物紀年銘



第2号塚石造物



第2号塚石造物造立者銘





第2号塚石遺物紀年銘



第3号塚石遺物



TM1-3



遺構外-5



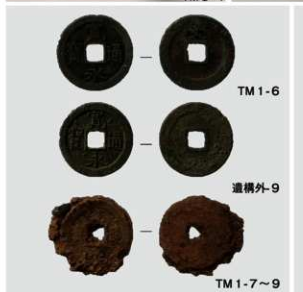
TM3-4



TM1-5



遺構外-7



TM1-6

遺構外-9

TM1-7~9



遺構外-8

第1・3号塚, 遺構外出土遺物



## 抄 録

ふりがな	くまのだいらこふんぐん いっぽんしいいせき							
書 名	熊ノ平古墳群 一本推遺跡							
副 書 名	東関東自動車道水戸線(潮来～鉾田)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第448集							
著 者 名	根本 佑							
編 集 機 関	公益財団法人茨城県教育財団							
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発 行 日	2021(令和3)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
熊ノ平 古墳群	茨城県行方市 大字宿字猫平 517番地ほか	08424 - 079	36度 5分 54秒	140度 29分 30秒	31 ～ 35m	20180601 ～ 20181130 20190601 ～ 20190731	16,575 m <sup>2</sup>  960 m <sup>2</sup>	東関東自動車 道水戸線(潮 来～鉾田)建 設事業に伴う 事前調査
一本推遺跡	茨城県潮来市一本 推地先	08223 - 130	35度 59分 8秒	140度 31分 42秒	37 ～ 38m	20190401 ～ 20190531	136 m <sup>2</sup>	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
熊ノ平 古墳群	散布地 集落跡	旧石器	石器集中地点	1か所	石器(搔器・剥片)			
			縄文	竪穴建物跡	4棟	縄文土器(深鉢)、土製品(土 器片・土器片円盤)、石器(石 鏃・磨製石斧・打製石斧・石匙・ 磨石・凹石)		
	古墳	奈良	竪穴建物跡	9棟	土師器(坏・高坏・鉢・甕・甗・ 手握土器・円窓土器)、須恵 器(坏・高坏・短頸甕・甕)、 土製品(土玉・土錘・紡錘車・ 勾玉・支脚)、石器(砥石)			
			掘立柱建物跡	2棟	土師器(坏・高台付坏・蓋・高台 付盤・甗)、土製品(支脚)、 石器(砥石)、金属製品(刀子)			
	平安	竪穴建物跡	9棟	土師器(坏・高台付坏・高台 付皿・甕)、須恵器(坏・鉢・ 灰口甕・甕・甗)、灰釉陶器(甗・ 甗)土製品(紡錘車)、石器(砥 石)、金属製品(鎌・釘)				
土坑	4基							
その他	時期不明	溝跡	15条	土師器(坏・高台付坏)、須 恵器(坏・高台付坏・鉢)、 土師質土器(小皿)				
井戸跡	1基							
土坑	89基							
ピット群	3か所							
一本推遺跡	塚	近 近 代	塚	3基	土師質土器(焙烙)、陶器(大 皿・鉢・搔鉢・甕)、磁器(碗・皿)			
要 約	熊ノ平古墳群では、縄文時代前期と古墳時代後期から平安時代までの集落跡を確認した。出土した古墳・古代の土器は、木工台遺跡や山田遺跡群と共に当地域の土器様相を示す好資料である。一本推遺跡では、江戸時代から大正まで、継続的に築かれた庚申塚3基を確認した。							

## 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リユウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿

### 茨城県教育財団文化財調査報告第448集

行方市  
潮来市

## 熊ノ平古墳群 一本椎遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和3（2021）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 山三印刷株式会社

〒311-4153 水戸市河和田町4433-33  
TEL 029-252-8481